

香川県農業試験場移転事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告  
第5冊

## 西末則遺跡 V

—第1分冊—

2015.3

香川県教育委員会



調査地より東を望む（上が東）



C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真1（上が東）



C・D調査区 丘陵斜面部空中写真2（上が北）



C・D調査区 丘陵斜面部空中写真3（上が南）



C・D調査区 丘稜斜面部空中写真4（上が東）



C調査区 丘稜斜面部・B17区周辺写真（上が東）



C 調査区 B16・17区調査状況 (北から)



C 調査区 B17区調査状況 (西から)



D 調査区 E14・13・10・F12区周辺空中写真（上が西）



D 調査区 E14・13・F12区周辺空中写真（上が西）



D 調査区 柱穴出土遺物



D 調査区 SXe07・08 出土遺物

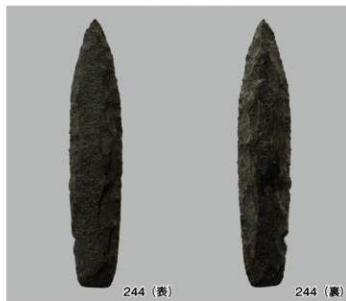


D 調査区 SDe45 出土遺物



D 調査区 SKe04・06 出土遺物





D 調査区 SDe01 出土槍先形石器



D 調査区 包含層出土大型蛤刃石斧



E 調査区 包含層出土陶印



D・E 調査区出土中国銭集合

## 序 文

西末則遺跡は香川県綾歌郡綾川町北及び山田下に所在する、縄文時代から中世までの遺跡です。発掘調査は香川県農業試験場移転事業に伴い、平成13年から平成17年度までの期間で実施しました。

調査対象となる範囲は広く、注目される調査成果としては、縄文時代の石器製作跡、弥生時代の大規模灌漑水路、古代～中世後半の集落跡などがあげられます。古代集落周辺からは埋没した自然河川を複数条確認しました。河川からは集落から廃棄されたと考えられる多量の遺物が出土し、貴重な調査成果になりました。

本書は平成14年度から平成17年度にかけて発掘調査した遺跡の中央部分を中心とした箇所の報告です。今回報告する調査成果の中で注目されるのは、弥生時代後期・古代～中世にいたる当時の灌漑水路網の変遷がたどれる溝群を、古代・中世～近世にいたる集落跡とともに確認した点です。

この報告書を刊行することで、西末則遺跡の報告が終了することになりました。西末則遺跡の調査成果が、本県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまでの長期間、関係諸機関並びに、地元関係者各位に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月20日

香川県埋蔵文化財センター

所長 真鍋昌宏

## 例 言

1. 本報告書は、香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告の第5冊で、香川県綾歌郡綾川町に所在する西末期遺跡（にしすえのりいせき）の調査成果を収録した。
2. 発掘調査は、香川県農林水産部（当時）から依頼を受けて、香川県教育委員会事務局文化行政課（現在 生涯学習・文化財課）が調査主体となり、現地調査は平成14・15年度は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが、平成16・17年度は香川県埋蔵文化財センターが調査担当者として実施した。
3. 発掘調査の担当は以下のとおりである。

平成14年度担当 C調査区：木下晴一、石原徹也、武井美和

D調査区：西村尋文、川原和生、角田三保

E調査区：柏 徹哉、小野秀幸、飯間俊行

平成15年度担当 F調査区：蔵本晋司、柏 徹哉、武井美和

平成16年度担当 E調査区：北山健一郎、佐々木和裕、武井美和

J調査区：蔵本晋司、松井和久、平尾勝洋

平成17年度担当E調査区：福家正人、長井博志、森 麻子

4. 調査にあたっては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同、敬称略）。  
香川県農政水産部農業経営課、地元自治会、地元水利組合
5. 本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
6. 本書の整理作業及び執筆は以下の分担で実施した。  
C調査区：木下晴一 D・E調査区：西村尋文 J・F調査区：小野秀幸  
編集は森格也・西村尋文が担当した。  
なお、第Ⅷ章第3節では、元香川県埋蔵文化財センターの調査担当で、現在高松市立川添小学校教諭、柏徹哉氏に寄稿していただいた。
7. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標第VI系（世界測地系）の北であり、標高は東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。

8. 本書で用いている遺構記号は次のとおりである。

SH：竪穴建物 SB：掘立柱建物 SA：横列 SP：柱穴 SK：土坑 SF：窯跡 ST：墓 SD：溝状遺構 SX：不整形遺構 SR：自然河川

9. 報告遺構名は、以下の方法で再整理を行った。

発掘調査時は「調査区」単位で、遺構の種類ごとに「01」からはじまる通し番号を付した。報告の際には同じ番号が重複するため、調査区や整理年度で異なる小文字のアルファベットの「整理区画記号」を、遺構記号と遺構番号の中間に付すことで、固有の報告遺構名を表すことにした。

例 ●区検出のSB01（検出時遺構名）→SB01（報告遺構名）

10. 挿図の一部に国土交通省国土地理院作成の1/25,000地形図を使用した。
11. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修『新版標準土色帖1997年度版』による。
12. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関に土器実測と写真撮影を委託した。  
土器実測・デジタルトレース……………（株）アコード  
遺物写真撮影…………… 岡村印刷工業株式会社

# 本文目次

## 第1分冊

### 第I章 調査の経緯と経過

- 第1節 発掘調査の経過……………(西村) 1
- 第2節 整理作業の経過……………(西村) 4

### 第II章 調査の方法

- 第1節 発掘調査の方法……………(西村) 6
- 第2節 整理作業の方法……………(西村) 9

### 第III章 C調査区の調査

- 第1節 C調査区の概要・基本層位……………(木下) 11
- 第2節 C調査区の遺構・遺物……………(木下) 15

### 第IV章 D調査区の調査

- 第1節 D調査区の概要・基本層位……………(西村) 49
- 第2節 D調査区の遺構・遺物……………(西村) 55

### 第V章 E調査区の調査

- 第1節 E調査区の概要・基本層位……………(西村) 150
- 第2節 E調査区の遺構・遺物……………(西村) 152

## 第2分冊

### 第VI章 J調査区の調査

- 第1節 概要・基本層位……………(小野) 1
- 第2節 J調査区の遺構・遺物……………(小野) 13

### 第VII章 F調査区の調査

- 第1節 概要・基本層位……………(小野) 169
- 第2節 F調査区の遺構・遺物……………(小野) 169

### 第VIII章 まとめ

- 第1節 C調査区の歴史の変遷……………(木下) 197
- 第2節 D・E調査区からみた西末副遺跡……………(西村) 200
- 第3節 周辺水利調査と西末副遺跡検出中世居館について……………(柏) 211

# 挿図目次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	調査地区割図	3
第3図	グリッド割図	7
第4図	年度別調査区割図	8
第5図	b地区土層断面図の取得位置・堆積状況模式図	12
第6図	土層断面図(1)(B17調査区)	13
第7図	土層断面図(2)(C17調査区)	14
第8図	土層断面図(3)(D15n調査区)	15
第9図	SB601断面図, 出土遺物	16
第10図	遺構配置図	17-18
第11図	SH601平・断面図	19
第12図	SB602平・断面図	20
第13図	SH601・SB602出土遺物	20
第14図	SH602平・断面図, 出土遺物	21
第15図	SH602付近土層断面	22
第16図	SH603平・断面図, 出土遺物	23
第17図	SB601平・断面図	23
第18図	SB602平・断面図	24
第19図	SB602出土遺物	25
第20図	SB603平・断面図, 出土遺物	27
第21図	SB604平・断面図, 出土遺物	27
第22図	SB605平・断面図, 出土遺物	28
第23図	SB606平・断面図	29
第24図	その他の古代の柱穴断面図, 出土遺物	29
第25図	SB606断面図	30
第26図	SB606出土遺物(1)	31
第27図	SB606出土遺物(2)	32
第28図	SB607・SD608断面図, 出土遺物	32
第29図	SD609断面図, 出土遺物	33
第30図	その他の溝状遺構断面図, 出土遺物	34
第31図	SXb01平・断面図, 出土遺物	35
第32図	SXb02断面図	36
第33図	SKb01平・断面図, 出土遺物	36
第34図	SB607・SB608平・断面図	37
第35図	SB609・SB610平・断面図	38
第36図	SBb11～SBb13平・断面図	39
第37図	SDb10断面図, 出土遺物	40
第38図	SDb11平・断面図, 出土遺物	41
第39図	その他の溝状遺構断面図, 出土遺物	42
第40図	SDb29断面図, 出土遺物	42
第41図	SDb30～38断面図, 出土遺物	43
第42図	焼成遺構平・断面図	45
第43図	包含層出土遺物(1)	46
第44図	包含層出土遺物(2)	47
第45図	包含層出土遺物(3)	47
第46図	そのほかの遺物	48
第47図	基本層位柱状図	50
第48図	基本層位C13区	51-52
第49図	B16・C13・D15a・D12区 遺構配置図	53-54
第50図	SDe01・02断面図, 出土遺物	56
第51図	SDe01出土遺物	57
第52図	SDe02～04断面図, 出土遺物	58
第53図	SDe06断面図, 出土遺物	59
第54図	SDe11断面図, 出土遺物	61
第55図	SXe03出土遺物	61
第56図	SFe00平・断面図, 出土遺物	62

第57図	SFe01・02平・断面図, 出土遺物	63
第58図	SDe07～10断面図, 出土遺物	65
第59図	SDe12～15断面図, 出土遺物	67
第60図	SDe16～18断面図, 出土遺物	68
第61図	SXe01・04断面図, 出土遺物	69
第62図	S Ae01平・断面図	70
第63図	SXe02平・断面図, 出土遺物	71
第64図	D12区柱穴・C13・D15a・D12区包含層出土遺物	72
第65図	E15・E14・E13・F12区 遺構配置図	73-74
第66図	D12区包含層出土遺物	75
第67図	SDe19・20・39・40断面図, 出土遺物	76
第68図	SRe01・02断面図, 出土遺物	78
第69図	SDe01平・断面図	79
第70図	SBe02・SAe02・03平・断面図, 出土遺物	80
第71図	SBe03・SAe04～06平・断面図, 出土遺物	81
第72図	SDe04平・断面図, 出土遺物	82
第73図	SBSDe05平・断面図	85
第74図	SBe06平・断面図	86
第75図	SBe06出土遺物	87
第76図	SBe07平・断面図	88
第77図	SBe08平・断面図, 出土遺物	88
第78図	SBe09・10平・断面図	89
第79図	SEe01出土遺物	92
第80図	SKe02～05平・断面図, 出土遺物	93
第81図	SKe06～09平・断面図, 出土遺物	94
第82図	SKe10～13平・断面図, 出土遺物	96
第83図	SKe14・15平・断面図, 出土遺物	97
第84図	SKe16・17平・断面図, 出土遺物	98
第85図	SYe01平・断面図, 出土遺物	99
第86図	SFe03・04平・断面図, 出土遺物	100
第87図	SFe05・06平・断面図, 出土遺物	101
第88図	SFe07平・断面図	102
第89図	SDe23断面図, 出土遺物	103
第90図	SDe24断面図, 出土遺物	104
第91図	SDe24出土遺物	105
第92図	SDe24・25断面図, 出土遺物	106
第93図	SDe26a断面図, 出土遺物	108
第94図	SDe26a出土遺物	109
第95図	SDe26b断面図, 出土遺物	110
第96図	SDe26b出土遺物	111
第97図	SDe27～33・35断面図, 出土遺物	112
第98図	SDe38・41・50断面図, 出土遺物	115
第99図	SDe51断面図, 出土遺物	116
第100図	SDe51・52断面図, 出土遺物	117
第101図	SDe42～44断面図, 出土遺物	118
第102図	SDe45断面図, 出土遺物	121
第103図	SDe46～49断面図, 出土遺物	122
第104図	SXe06～08平・断面図, 出土遺物	124
第105図	SXe07・08出土遺物(1)	125
第106図	SXe07・08出土遺物(2)	126
第107図	SXe07・08出土遺物(3)	127
第108図	SXe07・08出土遺物(4)	128
第109図	SXe07・08出土遺物(5)	129
第110図	SXe09・10平・断面図, 出土遺物	131
第111図	SXe05・11平・断面図, 出土遺物	132
第112図	SXe12平・断面図	133

第113回	SXe12 出土遺物	134
第114回	SDe37・53 断面図、出土遺物	136
第115回	E13・F12 区遺構配置図	137-138
第116回	E13 区柱穴出土遺物	139
第117回	E13・F12 区柱穴出土遺物	140
第118回	F12 区柱穴出土遺物1)	141
第119回	F12 区柱穴出土遺物2)	142
第120回	F12 区柱穴出土遺物3)	143
第121回	E15・E14 区包含層出土遺物	144
第122回	E14・E13 区包含層出土遺物	145
第123回	F12 区包含層出土遺物1)	146
第124回	F12 区包含層出土遺物2)	147
第125回	F7・E6・D7 区遺構配置図	151
第126回	C9・E10・E9e・E9w 区遺構配置図	153-154
第127回	SKo06 平・断面図、出土遺物	155
第128回	SDo00・01 断面図、出土遺物	156
第129回	SDo02・03・14・28 断面図、出土遺物	157
第130回	SDo29 断面図、出土遺物	159
第131回	SRo01 断面図、出土遺物	160
第132回	SRo03 断面図、出土遺物	161
第133回	SRo03 出土遺物 (1)	162
第134回	SRo03 出土遺物 (2)	163
第135回	SRo03 出土遺物 (3)	164
第136回	SBo13・14 平・断面図	165
第137回	SKo02 平・断面図、出土遺物	165
第138回	SDo15 断面図、出土遺物	166
第139回	SBo01 ~ SBo04 平・断面図	167
第140回	SBo05・06 平・断面図、出土遺物	168
第141回	SBo07・08 平・断面図、出土遺物	171
第142回	SBo09 平・断面図、出土遺物	172
第143回	SBo10・11・12・SAo00 平・断面図、出土遺物	173
第144回	SAo01 ~ 05 平・断面図、出土遺物	174
第145回	SEo01 平・断面図、出土遺物	176
第146回	SKo01・03 平・断面図、出土遺物	177
第147回	SKo04・05 平・断面図	178
第148回	SDo04・05・06・07 断面図、出土遺物	180
第149回	SDo08・09・10・11 断面図、出土遺物	181
第150回	SDo12・17・18・20・22 断面図、出土遺物	183
第151回	SDo23 断面図、出土遺物	185
第152回	SDo23 ~ 25 断面図、出土遺物	186
第153回	SDo24 ~ 27・30 ~ 32 断面図、出土遺物	188
第154回	SKo02 ~ 04 平・断面図、出土遺物	190
第155回	SKo05・07 平・断面図、出土遺物	191
第156回	SRo04 出土遺物	192
第157回	C9・E10・E9w 区柱穴出土遺物	192

第158回	C9・E10・E9 区包含層出土遺物	193
第159回	SXo09 平・断面図、出土遺物	194
第160回	F7・E6 区 遺構配置図	195-196
第161回	F6・B5 区 遺構配置図	197-198
第162回	SRo05 断面図、出土遺物	200
第163回	SRo05 出土遺物	201
第164回	SRo07・08 出土遺物	202
第165回	F6・F7・E6・D7 河川配置図	203
第166回	F6・B5 区南壁断面図	205-206
第167回	F6・B5 区南壁・西壁断面図	207
第168回	F6・B5 区断面図	208
第169回	SRo09 出土遺物 (1)	209
第170回	SRo09 出土遺物 (2)	210
第171回	SRo09 出土遺物 (3)	211
第172回	SRo09 出土遺物 (4)	212
第173回	SXo13 土器出土状況	213
第174回	SXo14 土器出土状況	214
第175回	SRo10 出土遺物	215
第176回	SBo15 平・断面図	216
第177回	SKo07・14 平・断面図、出土遺物	217
第178回	SDo33・34・36 断面図、出土遺物	218
第179回	SDo37・38・39・41 断面図、出土遺物	220
第180回	SXo10 平・断面図、出土遺物	221
第181回	SBo16 平・断面図	221
第182回	SBo17 ~ 20 平・断面図、出土遺物	222
第183回	SBo21・22 平・断面図、出土遺物	224
第184回	SBo22、SP05 平・断面図、出土遺物	225
第185回	SBo23 平・断面図、出土遺物	225
第186回	SBo24・SAo07 平・断面図、出土遺物	227
第187回	SBo25・26 平・断面図	228
第188回	SAo06・08・09・10 平・断面図	229
第189回	SKo13・15 平・断面図、出土遺物	231
第190回	SKo16 平・断面図、出土遺物	232
第191回	SKo17・18 平・断面図、出土遺物	233
第192回	SKo19 平・断面図、出土遺物	234
第193回	SDo40・42 平・断面図、出土遺物	235
第194回	SXo11・12 平・断面図	236
第195回	SXo11・12 出土遺物	237
第196回	SKo08・09 平・断面図	238
第197回	F7・E6 区柱穴出土遺物	239
第198回	F6 区柱穴出土遺物	240
第199回	F7 区包含層出土遺物	241
第200回	F7・E6 区包含層出土遺物	242
第201回	E6・F6 区包含層出土遺物	243
第202回	F6・B5 区包含層出土遺物	244

## 表目次

第1表	西末開道跡調査工程表	2
第2表	年度別免掘調査担当一覧	2
第3表	平成24・25・26年度組織表	4
第4表	報告遺構名整理記号一覧	9

第5表	西末開道跡V出土土器観察表 (1) ~ (58)	
第6表	西末開道跡V出土土器観察表 (1) ~ (7)	
第7表	西末開道跡V出土金属観察表	
第8表	西末開道跡V出土鉄観察表	
第9表	西末開道跡V出土瓦観察表 (1) ~ (2)	

## 付図目次

付図1	西末開道跡遺構配置図 (B17・B16・C17・D15n・D15e・C13・D12・E15・E14・E13・F12 区)
付図2	西末開道跡遺構配置図 (B5・C9・E10・E9w・E9e・E6・F7・F6 区)

# 図版目次

## 巻頭図版 1

- 調査地より東を望む (上が東)
- C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 1 (上が東)

## 巻頭図版 2

- C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 2 (上が北)
- C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 3 (上が南)

## 巻頭図版 3

- C・D 調査区 丘陵斜面部空中写真 4 (上が東)
- C 調査区 丘陵斜面部・B17 区周辺写真 (上が東)

## 巻頭図版 4

- C 調査区 B16・17 区調査状況 (北から)
- C 調査区 B17 区調査状況 (西から)

## 巻頭図版 5

- D 調査区 E14・13・10・F12 区周辺空中写真 (上が西)
- D 調査区 E14・13・F12 区周辺空中写真 (上が西)

## 巻頭図版 6

- D 調査区 柱穴出土遺物
- D 調査区 SXe07・08 出土遺物

## 巻頭図版 7

- D 調査区 SDe45 出土遺物
- D 調査区 SKe04・06 出土遺物

## 巻頭図版 8

- D 調査区 SDe01 出土槍先形石器
- D 調査区 包含層出土大型蛤刃石斧
- E 調査区 包含層出土陶印
- D・E 調査区出土中国銭集合

## 図版 1

- B16 調査区 調査状況 (西南から)
- B17 調査区 東壁断面
- SDb01 遺物 (I) 出土状況 (南から)
- SDb01 遺物 (2) 出土状況 (南から)
- SHb01 調査状況 (南から)
- SHb01 かまど断面 (南から)
- SHb01 断面 (北から)
- SDb02 遺物出土状況 (東から)

## 図版 2

- SHb02 調査状況 (西から)
- SHb03 断面 (北から)
- SBb01・SBd15 調査状況 (東から)
- SBb02 調査状況 (西北から)
- SBb01\_SP06・SBd15\_SP 切り合い関係 (南から)
- SBd02\_SP11 断面 (西から)
- SBb02\_SPO1 遺物出土状況 (西から)
- SBb04 検出状況 (南から)

## 図版 3

- SBb05・SBb02 調査状況 (南から)
- SBb06 検出状況 (南から)
- SXb02 検出状況 (南から)
- SXb02 調査状況 (北から)
- SDb11 調査状況 (西から)
- SDb25 等 調査状況 (東から)
- SDb30 等 調査状況 (東から)
- SDb32 等 断面 (西から)

## 図版 4

- C13 区南半部全景 (I) (南から)
- C13 区南半部全景 (2) (南から)

- C13 区南端部全景 (I) (南から)
- C13 区南端部全景 (2) (東から)
- C13 区 SFe00 全景 (南西から)
- C13 区 SFe01・02 全景 (南から)
- C13 区 SFe01 遺物出土状況 (南から)
- C13 区 SFe01 土層断面 (I) (北から)

## 図版 5

- C13 区 SFe01 土層断面 (2) (北西から)
- C13 区 SFe02 高壁詳細 (南西から)
- C13 区 SFe02 土層断面 (北から)
- C13 区 SDe01・02 全景 (北から)
- C13 区 SDe01 北端部土層断面 (南から)
- D12・15 区調査区全景 (北から)
- D12 区南半部全景 (東から)
- D15s 区 SDe13 土層断面 (南から)

## 図版 6

- E14・15 区調査区全景 (北から)
- E14 区調査区全景 (東から)
- E15 区 SFe03 全景 (西から)
- E15 区 SFe04・05 全景 (東から)
- E15 区 SFe04 土層断面 (北から)
- E15 区 SFe05 全景 (東から)
- E15 区 SFe05 構造部詳細 (東から)

## 図版 7

- E14 区 SDe19～23 全景 (北東から)
- E14 区 SDe19・20 全景 (南東から)
- E14・15 区 SDe24・SFe03～05 全景 (北から)
- E14・15 区 SDe24 全景 (南から)
- E14・15 区 SDe24 土層断面 (南から)
- E14 区 SDe25 全景 (西から)
- E14 区 SDe26a 全景 (東から)
- E14 区 SDe26a 土層断面 (西から)

## 図版 8

- E13 区調査区全景 (東から)
- E13 区西半部全景 (東から)
- E13 区東半部全景 (東から)
- E13 区東半部全景 (南から)
- F12 区調査区全景 (I) (東から)

## 図版 9

- F12 区調査区全景 (2) (東から)
- F12 区西半部全景 (I) (東から)
- F12 区西半部全景 (2) (東から)
- F12 区東半部全景 (I) (東から)
- F12 区東半部全景 (2) (東から)

## 図版 10

- F12 区中央部全景 (北から)
- F12 区 SBe06 全景 (北から)
- F12 区 SBc06\_SP19 (東から)
- F12 区 12FSP71 遺物出土状況 (南西から)
- F12 区 12ESP170 遺物出土状況 (南から)
- F12 区 12FSP392 遺物出土状況 (東から)
- F12 区 12FSP557 全景 (北から)
- F12 区 12FSP687 柱材 (南から)

## 図版 11

- F12 区 12FSP704 根石 (西から)
- F12 区 12FSP768 上面鏡出土状況 (北から)

- E13区SKe03 全景 (西から)  
 E13区SKe03 焼土検出状況 (西から)  
 E13区SKe04 遺物出土状況 (東から)  
 E13区SKe06 遺物出土状況 (北から)  
 E13区STe01 全景 (西から)  
 F12区SFe06・07 検出状況 (東から)
- 図版 12  
 F12区SFe06・07 全景 (東から)  
 F12区SFe06 検出状況 (東から)  
 F12区SFe06 遺物出土状況 (北から)  
 F12区SFe06 全景 (東から)  
 F12区SFe07 全景 (東から)  
 F12区SFe07 土層断面 (1) (北から)  
 F12区SFe07 土層断面 (2) (北から)  
 F12区SFe07 土層断面 (3) (北から)
- 図版 13  
 F12区SFe07 完掘状況 (東から)  
 E13・F12区SDe26b・51 全景 (南から)  
 E14区SDe26a 土層断面 (西から)  
 E13区SDe26b 土層断面 (北から)  
 E13区SDe26b 北端土層断面 (南から)  
 F12区SDe45～47 周辺全景 (北から)  
 F12区SDe45 土層断面 (西から)  
 F12区SXe07 土層断面 (西から)
- 図版 14  
 F12区SRe01 土層断面 (1) (北西から)  
 F12区SRe01 土層断面 (2) (北から)  
 C9区北半部全景 (南から)  
 C9区南半部全景 (北から)  
 C9区SBo01 全景 (南から)  
 C9区SBo02 全景 (南から)  
 C9区SBo03 全景 (南から)  
 C9区SBo04 全景 (南から)
- 図版 15  
 C9区SKo01 全景 (南から)  
 C9区SKo03 全景 (東から)  
 C9区SDo00 全景 (南東から)  
 C9区SDo01・02 全景 (南東から)  
 C9区SDo02～04 全景 (北西から)  
 C9区SDo12 遺物出土状況 (北から)  
 C9区SXo02 全景 (南から)  
 C9区SRo01 全景 (北東から)
- 図版 16  
 E10区調査区全景 (南から)  
 E10区SBo10・11 全景 (南から)  
 E10区SBo10・11 全景 (北から)  
 E10区SDo14・23・24 等全景 (南から)  
 E10区SDo23 全景 (南から)
- 図版 17  
 E10区SDo24 全景 (東から)  
 E10区SDo24 土層断面 (西から)  
 E10区SDo25 全景 (南から)  
 E9e区調査区全景 (1) (南から)  
 E9e区調査区全景 (2) (東から)  
 E9e区SKo06 遺物出土状況 (北から)  
 E9e区SKo06 全景 (北から)  
 E9e区SDo29 土層断面 (1) (南東から)
- 図版 18  
 E9e区SDo29 土層断面 (2) (南東から)  
 E9e区SRo03 土層断面 (北東から)
- E9w区調査区全景 (南から)  
 E9w区SBo13 全景 (南から)  
 E9w区SEo01 全景 (南から)  
 E9w区SEo01 断面 (東から)  
 E9w区SDo30～32 全景 (西から)
- 図版 19  
 F7区調査区全景 (南から)  
 F7区SBo15 周辺 (東から)  
 F7区SRo05 土層断面 (北から)  
 F6区第1面調査区全景 (西から)
- 図版 20  
 F6区第1面調査区東部全景 (1) (北から)  
 F6区第1面調査区東部全景 (2) (北から)  
 F6区第1面調査区西部全景 (北から)  
 F6区SBo20 全景 (北から)  
 F6区SBo22 全景 (北から)  
 F6区SBo22\_SP05 遺物出土状況 (南から)  
 F6区SKo16 遺物出土状況 (南から)  
 F6区SKo16 全景 (南から)
- 図版 21  
 F6区SP6R2 遺物出土状況 (南から)  
 F6区SP492 遺物出土状況 (東から)  
 F6区SKo19 遺物出土状況 (西から)  
 F6区SXo13 遺物出土状況 (北から)
- 図版 22  
 1・5・15・19・20
- 図版 23  
 21・26・68・68 (底部)・78・79・81・206
- 図版 24  
 258・278・287・481・485・480・505・506・592・594
- 図版 25  
 SDe24 出土瓦集合
- 図版 26  
 597・637・638・644・643・642・641・756・766・803・805・806
- 図版 27  
 820・821・822・837・SXe12 出土石英片・1074・1075・1077・1112・1131・1132・1130・1134・1143
- 図版 28  
 1137・1145・1142・1141・1181・1176・1182・1183・1245・1249・1312・1329・1343・1375
- 図版 29  
 1384・1719・1390・1503・1406・1409・1422・1428・1435・1450・1441
- 図版 30  
 1485・1487・1490・1499・1510・1512・1513・1519・1520・1516・1514・1517
- 図版 31  
 1525・1526・1527・1529・1669・1571・1573・1576・1670・1598・1575・1577・1572・1580・1583・1587・1579・1585・1586・1588・1582・1584・1581・1578・1608・1609・1671・1675・1711・1712・1713・1709・1710・1707・1714・1708
- 図版 32  
 276・290・273・245・328・994・864・907・993
- 図版 33  
 1157・1159・1158・268・259・327・346・313・344・343・325・341・345・332・300・342・253・312・243・261・267・299・1056・1057・1020・1019・1004・537・1059・355・788・651・538・958・539・540・1060・



1003 · 1062 · 1061 · 1320 · 1148 · 1251 · 1289 · 1160 ·  
1167 · 1201 · 1762 · 1124 · 1122 · 1559 · 1305 · 1126 ·  
1127 · 1790 · 1220 · 1172 · 1097 · 1149

图版 34

D · E 調査区出土中国銭集合

## 第1章 調査の経緯と経過

### 第1節 発掘調査の経過

西末則遺跡の発掘調査は香川県農業試験場の移転事業に伴う調査である。予定地は約18haを測る広大な用地で、平成12年度から試掘調査を適宜行い、保護措置の必要範囲は75,857㎡を測ることで確定した。

発掘調査は平成13年度の10月から開始し、平成17年度の6月で終了した。現地調査を担当したのは平成13年度～15年度までの期間を(財)香川県埋蔵文化財調査センターが、15年度末に財団法人が解散し、県直営の香川県埋蔵文化財センターに引き継がれ、16年度から調査が完了する17年度までは香川県埋蔵文化財センターが担当した。

詳細な調査の経緯と経過の詳細は平成17年度に刊行した、最初の調査報告書にあたる『西末則遺跡Ⅰ』に収録しているので参照していただきたい。なお、平成13年度から17年度までの大まかな調査工程については第1表に記載し、また本書に収録している調査区の調査担当については第2表にまとめた。



第1図 遺跡位置図

第1表 西末則遺跡調査工程表

調査年度	調査区	調査担当	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
13	A	柏、木下、大塚							■	■	■			
	B	川原、小野、武井										■	■	■
14	C	木下、石原、武井	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	D	西村、川原、角田	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	E	柏、小野、飯間	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
15	D	川原、小野、角田	■	■										
	F	柏、藏本、武井	■	■	■	■								
	G	川原、小野、角田			■	■								
	H	川原、小野、角田					■	■	■	■	■	■	■	■
	I	柏、北山、武井					■	■	■	■	■	■	■	■
K	川原、小野												■	
16	B	藏本、松井、平尾	■	■										
	E	北山、佐々木、武井									■	■	■	■
	J	藏本、松井			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	K	北山、佐々木、武井	■	■										
17	E	福家、長井、森	■	■	■									

第2表 年度別発掘調査担当一覧

調査年度	調査区	担 当
平成14年度担当	C調査区	木下 皓一、石原 徹也、武井 美和
	D調査区	西村 尊文、川原 和生、角田 三保
	E調査区	柏 徹哉、小野 秀幸、飯間 俊行
平成15年度担当	F調査区	藏本 晋司、柏 徹哉、武井 美和
平成16年度担当	E調査区	北山 健一郎、佐々木 和裕、武井 美和
	J調査区	藏本 晋司、松井 和久、平尾 勝洋
平成17年度担当	E調査区	福家 正人、長井 博志、森 麻子



第 2 図 調査地区割図

## 第2節 整理作業の経過

西末則遺跡の整理作業は平成16年度から開始し、現在までに「西末則遺跡Ⅰ～Ⅳ」の4冊の調査報告書を刊行している。本整理作業は最後の調査報告にあたる「西末則遺跡Ⅴ」作成のための整理作業である。本書の整理作業は平成25年と26年の2カ年に分けて実施した。平成25年度は4月から翌年3月までの12ヶ月間、平成26年度は4～6月までの3ヶ月間の合計15ヶ月間で整理を実施した。

平成25年度は、遺構から出土した土器の接合と抽出作業を先行した。その結果、抽出された実測予定の遺物は当初予定していた数量を超え、土器1,498点、石器263点、金属器33点、木製品1点 合計1,795点を数える。実測作業は遺物点数が多い事から、出土遺物を業務委託と直営業務に区分し実施した。また、実測作業は6月から土器実測から開始し翌年1月までの8ヶ月間を要した。

遺構図面の整理は遺物の整理と並行し順次進めた。まず、原因のチェックと、図面のスキヤニングを行い、原因をデジタル化した後に全体図作りから開始した。その後、個別の遺構挿図作りに移行した。なお、遺構の整理に際しては、整理担当が発掘担当と異なるため、残された資料から個別の遺構の状況を把握する際には苦慮する局面が多々あった。

出土遺物の写真撮影に際しては、基本的には直営で実施したが、難易度の高い遺物については平成25年度に民間業者に委託して撮影を実施した。また、本遺跡から中国銭の良品が多数出土したため、平成25年度に保存処理を委託した。

平成26年度の整理は昨年度からの継続で4月から開始し6月まで実施した。平成26年度の主な業務は遺構挿図と遺物図面を統合し報告書の編集作業である。順次作業を進め報告遺構名や遺物番号が整った段階で、原稿の執筆作業を並行して実施した。各種作業が完了した段階で、遺物や図面類の収納作業を行い遺物の整理作業を終了した。

なお、平成24年度に整理作業を実施したF調査区とJ調査区の調査成果については、本書に収録して刊行した。

平成24～26年度の整理作業に係わる調査体制は以下のとおりである。

第3表 平成24・25・26年度組織表

平成24年度			香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	炭井 宏秋	総括	所長	藤好 史郎	総務課	次長	真鍋 正彦
総務・生涯学習	副課長	木虎 淳		総務課長(兼務)	真鍋 正彦		主任	宮武 ふみ代
推進グループ	副主任	松下 由美子		主任	中川 美江		主任	高本 秀哉
文化財グループ	主任主事	白川 弘二		主任	森 悟也		課長	小野 秀幸
	課長補佐	西岡 達哉		文化財専門員	大林 真沙代		顧問	岡崎 江伊子
	主任文化財専門員	葛下 英治			北濱 敦子			加藤 恵子
	文化財専門員	松本 和彦	資料普及課					

## 平成 25 年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	増田 宏	総括	所長	真鍋 昌宏
	副課長	木虎 淳		次長	前田 和也
総務・生涯学習	副主幹	松下 由美子	総務課	総務課長（兼務）	前田 和也
推進グループ	主任主事	白川 弘二		主任	俣野 英二
	主任主事	丸山 千晶		主任	宮武 ふみ代
文化財グループ	課長補佐	片桐 孝浩		主任	中川 美江
	主任文化財専門員	山下 平重		主任	高木 秀哉
	文化財専門員	松本 和彦	資料普及課	課長	森 悟也
				主任文化財専門員	西村 尋文
				嘱託	大林 真沙代
					岡崎 江伊子
					北濱 教子
					合田 和子

## 平成 26 年度

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	増田 宏	総括	所長	真鍋 昌宏
	副課長	川上 泰		次長	前田 和也
総務・生涯学習	副主幹	松下 由美子	総務課	総務課長（兼務）	前田 和也
推進グループ	主任	白川 弘二		主任	俣野 英二
	主事	和木 麻佳		主任	寺岡 仁美
文化財グループ	課長補佐	片桐 孝浩		主任	中川 美江
	主任文化財専門員	山下 平重		主任	高木 秀哉
	文化財専門員	松本 和彦	資料普及課	課長	森 悟也
				主任文化財専門員	西村 尋文
				嘱託	市川 孝子
					中野 優美
					牧野 香織
					青屋 真理
					原 節子

## (参考文獻)

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2002 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末開道跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2003 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末開道跡』
- 香川県教育委員会 2005 『西末開道跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成15年度』
- 香川県教育委員会 2005 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末開道跡Ⅰ』
- 香川県教育委員会 2005 『西末開道跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』
- 香川県教育委員会 2006 『西末開道跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成17年度』
- 香川県教育委員会 2007 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西末開道跡Ⅱ』
- 香川県教育委員会 2012 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 西末開道跡Ⅲ』
- 香川県教育委員会 2014 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 西末開道跡Ⅳ』

## 第Ⅱ章 調査の方法

### 第1節 発掘調査の方法

#### 1. グリッドの設定

対象地を調査するにあたり、まず事業予定地全体に南東隅を基点とする20mメッシュのグリッドを設定した。グリッド基点A1は国土座標第Ⅳ系の $X = 135,820$ 、 $Y = 40,520$ で、座標北の方向に1、2、3・・・、西の方向にA、B、C・・・と付し、各交点をB2、D2等のように呼称することにした。また、20mメッシュのグリッドの呼称は南東隅の交点名によっている。

調査区全体の図化は、遺構密度の高い地域に限り業者に委託して航空測量を実施し、1/100・1/50の縮尺で図化した。また、航空測量の対象外の区域と主要な遺構については、トータルステーションによる測量及び手描きの実測等により対応した。対象地内に設置する基準点については、対象地内の数地点に限り測量業者に委託し設置した。

#### 2. 調査区の設定

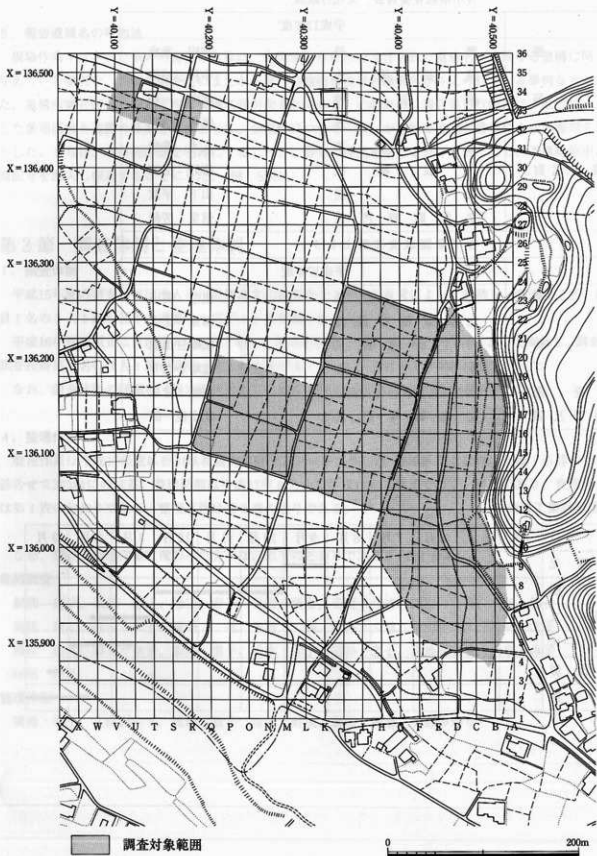
事業予定地は綾川町（旧綾上町）山田下、綾川町（旧綾南町）北の旧二町に及び綾川の北岸の段丘面上に位置する。県道278号線を北限とし、南限は綾川の氾濫原まで、東限は東辺に所在する南北丘陵（末則丘陵）まで、南北約450m、東西約400mを測り、面積は約18haを測る。調査対象地は、予定地の南東部、綾上町側に所在する南北丘陵（末則丘陵）の西斜面から綾南町に広がる地域と、予定地の北西部、県道278号線の南に広がる飛び地状の地域とに分かれる。

調査区の設定としては、調査対象地の面積がかなり広いため、まず、対象地をA～K地区までの8地区に区分した。また、調査を進める都合上、大区画内をさらに小区分した地区を設定した。地区名の付け方は、地区内の最も代表的なグリッド名称を採用して、B2区・A6区等と呼称することにした。これは、農業試験場用地内の発掘調査が複数年次にまたがり、調査区も全面ではなく局所的に、設定される可能性もあり、調査区名によって大まかな位置が把握できることを目的にしたものである。

#### 3. 仮設工事・重機・測量等について

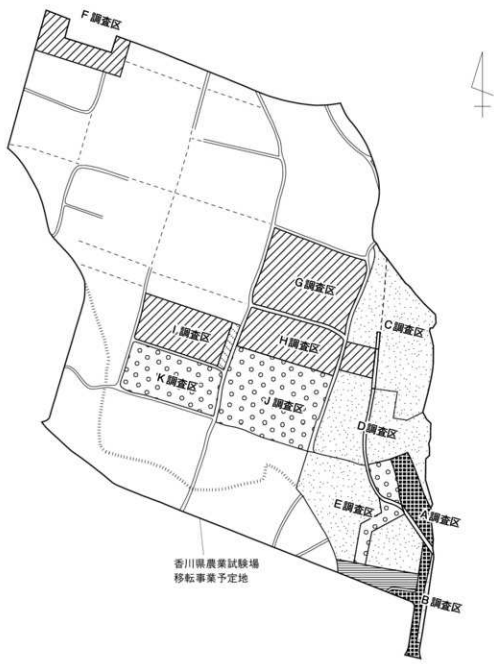
機械掘削は土木業者と契約して行なった。調査事務所や仮設電力及び主要な調査用具はリース契約を結び調査に用いた。現場作業員はセンターが直接雇用し作業に従事した。

測量等で用いる基準点については、測量業者に委託して設置した。検出した遺構の平面測量については、平成13・14年度までは航空測量業者に委託して、ヘリコプターによる航空測量で1/100・1/50等の平面図を作成していたが、平成15年以降は調査担当が分担して、光波測量機器を用いたデジタル測量による平面測量を実施した。また、現場の個別写真撮影や遺物出土状況・土層断面図等の個別の記録作業については、適宜担当職員が分担して実施した。



第3図 グリッド割図





- 平成13年度調査区
- 平成14年度調査区
- 平成15年度調査区
- 平成16年度調査区
- 平成17年度調査区

第4図 年度別調査区割図

## 第2節 整理作業の方法

### 1. 整理作業の計画

本遺跡は、広大な調査対象地を数カ年にわたり、複数パーティーで調査を実施してきている関係上、相当数の職員が調査に関与し、全体像を把握しにくい状況になっている。整理作業に際しては、発掘調査時での区画割のとおり整理の範囲が確定できない問題と、発掘調査の担当者が必ずしも整理まで担当できるとは限らない人事上の問題等があり、整理作業を順調に進めるための課題となっている。そのため、これらの問題点を解消し、計画的に整理作業を進めるため、後年度に及ぶ整理計画を作成し作業を進めることにした。

### 2. 整理区画と遺構名の整理

西末田遺跡の発掘調査は対象地が広いため複数の調査班により複数年度で実施した。調査区は細分され、遺構名は年度単位ないしは調査区単位で01番から付されているため、報告の都合上再整理を必要とした。遺構名を付す方法としては、整理区画や整理年度を考慮した小文字のアルファベット記号を「整理区画記号」として、遺構名と番号との間に付けて分別するのが混乱を防ぐ得策と考え、遺構名と番号との間にアルファベットの記号を付すことにしたが整理年度が長期にわたり、整理記号が多様化し解り難くなった点があるため、以下に一覧化しておく。なお、本書に収録している調査区と整理区画記号についても下表に記載しているので参照していただきたい。

第4表 報告遺構名整理記号一覧

報告書名	整理年度	調査区	地区	整理記号	報告遺構名例示
西末田遺跡Ⅰ	平成16年度	A調査区	A8・B9・B10	a	SBa01
		B調査区	A6・B1・B2・B3	a	—
		E調査区	B6・D7	a	—
西末田遺跡Ⅱ	平成17年度	I調査区	P18・N17・M17	f	SBf01
		K調査区	K1・K2・K3	f	—
西末田遺跡Ⅲ	平成18年度	C調査区	A19・B18・B17・B16・C20・C19w・C18・C17・D15n・D20・D19・E17n	d	SBd01
		G調査区	I21・H19・F19	d	—
		H調査区	J18・I18・I17・F17	d	—
西末田遺跡Ⅳ	平成24年度	E調査区	G10・G8	c	SBc01
		F調査区	R32	r	SBr01
西末田遺跡Ⅴ	平成24年度	J調査区	J5・J6・J7・J8・J1・J2・J3・J4	j	SBj01
		C調査区	B17・B16・C17・D15n	b	SBb01
	平成25・26年度	D調査区	A12・B11・C13・D15s・D12・E15・E14・E13・F12	e	SBe01
		E調査区	B5・C9・E10・E9w・E9e・E6・F7・F6	o	SBo01

### 3. 遺構の整理

遺構図面の整理は遺物の整理と並行し順次進めた。まず、原因のチェックと、図面のスキヤニングを行い、原因をデジタル化した後に全体図作りから開始した。その後、個別の遺構挿図を作成した。また、掘立柱建物は設定しきれていないものや、柱穴の組み合わせ等を含め再整理をおこなった。その結果、多数の建物跡の追加と、調査時に推定していた建物構造等の細部修正を行った。

### 4. 遺物の整理

遺物実測については、出土遺物の中で図化可能な遺物については極力図化した。なお、本整理作業の報告遺物は数が多く、土器 1,498 点、石器 263 点、金属器 33 点、木製品 1 点 合計 1,795 点を数える。遺物点数が多い事から、実測とトレースに関しては整理期間との関係で効率化を計る必要が出てきた。そのため、土器実測とトレース作業の一部を民間業者に委託した。遺物写真撮影については、極力担当者で実施したが、難易度の高い出土遺物については専門業者に撮影を委託した。

なお、本遺跡からは中国銭等の保存対象の遺物が多数出土している。これらの出土遺物の中で良品については保存処理作業を民間業者に委託した。

(参考文献)

- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2002 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2003 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』
- 香川県教育委員会 2005 『西末則遺跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 15 年度』
- 香川県教育委員会 2005 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 1 冊 西末則遺跡Ⅰ』
- 香川県教育委員会 2005 『西末則遺跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 16 年度』
- 香川県教育委員会 2006 『西末則遺跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成 17 年度』
- 香川県教育委員会 2007 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 2 冊 西末則遺跡Ⅱ』
- 香川県教育委員会 2012 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 3 冊 西末則遺跡Ⅲ』
- 香川県教育委員会 2014 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 4 冊 西末則遺跡Ⅳ』

### 第三章 C調査区の調査

#### 第1節 C調査区の概要・基本層位

##### 1. 概要

C調査区は、平成14年度に発掘調査を実施した、調査対象地の北端にあたる調査区である。末則丘陵の西側斜面部裾部から段丘面に至る地域で、西はG・H調査区、南はD調査区に接する調査区である。南北約180m、東西約100m程の調査区である。整理作業は平成18年度にC調査区北半部を実施し「西末則遺跡Ⅲ」で報告している。そのため、今回の整理作業ではC調査区南半部の整理作業を実施し報告する。

報告対象の調査区内の地区はA19、B17・B16、C20・C17、D15n区に分かれる。C調査区からは斜面の等高線に沿うように、南北方向の弥生時代後期後半～末、古代、中等等の多数の溝状遺構を確認した。弥生時代の溝跡の中には総延長約300mを測る大型の灌漑水路を検出した。また、斜面部からは、7世紀前半の方形竪穴建物や8世紀代の複数の建物を検出した。7～8世紀の住居はC調査区以外では確認できないことから、これらの住居の中には比較的大型の住居跡を含む点や、建物相互の関係で規格性を見出せる点などの特徴があり、貴重な成果になった。

##### 2. 基本層位

調査地は、末則丘陵の西側裾部とその西側の平坦面（段丘面）にあたり、調査着手前の土地利用は水田である。丘陵裾部は53mほどの標高の平坦面から、54.4m、56.0m、56.8mの3段の水田に造成されている。地山上面は、調査区東端の55.3mから西へ19mで1.7m下る9%の傾斜面となっている。

古代の掘立柱建物は、柱穴の底を地表面の傾斜の方向に合わせてつなげると、地山面の傾斜よりも緩やかに下っている。斜面上側ほど残りがよく、下側で残りが悪い。また、3段の水田のうち上段で残りがよく、中段は悪い。また、下段では柱穴は検出されなかった。以上のことから、古代においては盛り土によって階段状の造成がなされていたか、あるいは、上段は古代においては今よりも緩い斜面で、後に西側が削平を受けたと考えられる。また、この部分に堆積する「赤茶」と調査時に呼称していた包含層は、奈良時代以降に形成されたものと考えられる。中段は、古代以降に古代の掘立柱建物の柱穴が消失する程の削平を受けたと考えられ、削平された土は下段を中心に堆積する「奈良包含層」と調査時に呼称していた堆積層に当たると考えられる。この包含層も奈良時代以降に形成されたものということになる。

第6図上段は、B17調査区の東壁の断面図である。地表面から遺構面まで50～120cmを測る。上部の1～4層は水田耕土、旧耕土である。団粒状構造をなさない痩せた土壌という印象を受ける。8層は、調査時に「包含層赤茶」と呼称していたものである。おもに奈良時代以前の遺物を包含する。なお、この断面図にはSdb09、15、Sxb01などがかかっている。

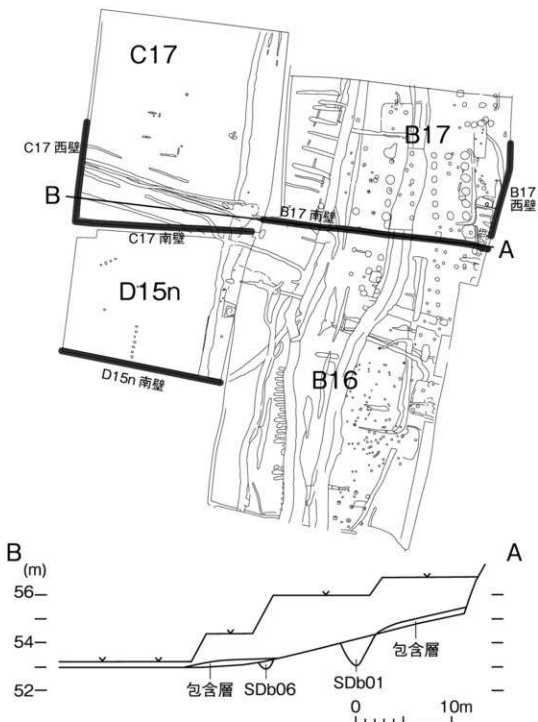
第6図下段は、B17調査区の南壁の断面図である。ここでは遺構面と直上の包含層までを図化している。緩やかに西側を下る斜面にSdb01が掘削されている。さらに西側にSdb06が掘削されるが、これより西側は地山面がほぼ水平となっている。なお、地山は粘性の強い明黄褐色粘質土である。また、

SDb06の上面および西側に調査時には「奈良包含層」と略称していた包含層が堆積している。

第7図はC17調査区の南壁および西壁の断面図である。C17調査区では地山は水平に検出され、その上面に極細砂、細砂を主体とする淘汰された砂層が堆積している。地山面には凹凸が見られ耕作痕の可能性が考えられたが、平面的に検証することはできなかった。

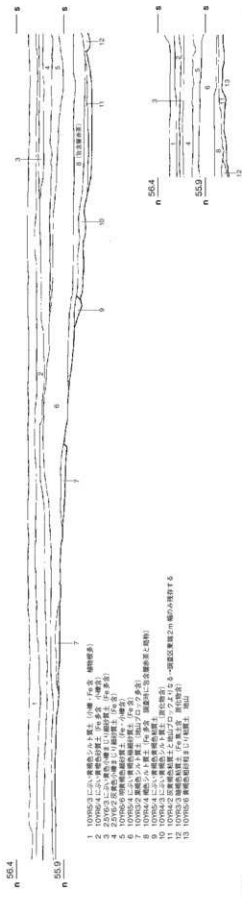
C17調査区で検出された中世に属する溝状遺構は、地山上面に堆積する砂層の上面から掘り込まれている。

第8図はD15n調査区の南壁の断面図である。堆積状況および遺構との関係はC17調査区と同一である。

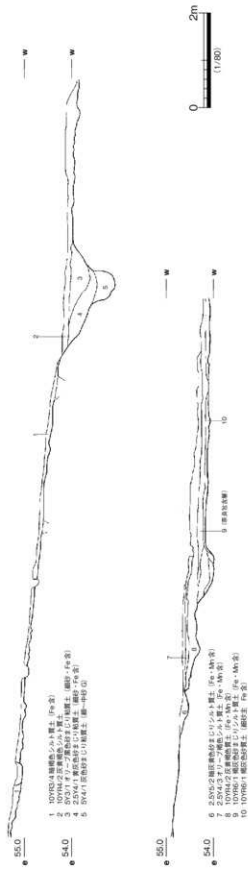


第5図 b地区土層断面図の取得位置・堆積状況模式図

東壁



南壁



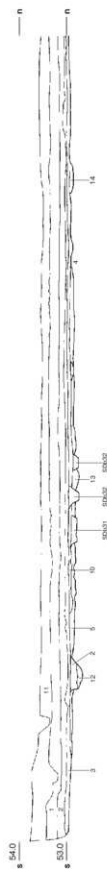
第6図土層断面図(1)(B17調査区)

南壁



- C17層
- 1 2.296.4に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe・Mn(赤)
  - 2 2.296.4に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe・Mn(赤)
  - 3 10.194.2に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe・Mn(赤)
  - 4 10.194.6に多い黄砂状砂土、Fe(赤、黒)
  - 5 10.194.6に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe・Mn(赤)
  - 6 2.295.3に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe・Mn(赤)
  - 7 2.295.2に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe・Mn(赤)
  - 8 2.295.2に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe・Mn(赤)
  - 9 2.295.2に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe(赤、黒)

西壁



- 10 2.295.2に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe(赤)
- 11 2.295.2に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe(赤)
- 12 2.295.3に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe(赤)
- 13 2.295.2に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe(赤)
- 14 2.295.2に多い黄砂状砂土、腐・砂状土、Fe(赤)



第7図 土層断面図(2) (C17調査区)

## 第2節 C 調査区の遺構・遺物

### 1. 弥生時代の遺構・遺物

#### 溝状遺構

#### SDb01 (第6図・9図)

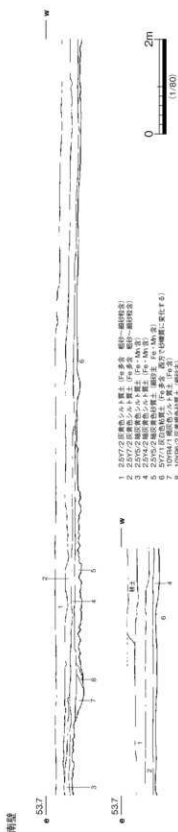
末則丘陵の西側斜面の縁辺に沿って北に流れる大規模な溝状遺構である。南はA8調査区で検出され(「西末則遺跡Ⅰ」SDa06)、北はC20調査区に至る(「西末則遺跡Ⅲ」SDd083)、総延長300mに及ぶものである。これまでの整理作業の過程で、埋土中に弥生時代中期後半から後期前半の遺物片が含まれるものの、最下層から出土した完形の遺物から弥生時代後期末の掘削と判断されること、また、上層には古墳時代後期の遺物を包含することが指摘されている。

本調査区における検出長は、延長60mを測るが、本調査区がもっとも遺存状況が良好なところである。断面形は東岸側では犬走り状の平坦面(もしくは緩斜面)を有し、2段の急斜面からなり、西岸側は急角度で掘り込まれている。溝幅は2.0~3.0m、深さ0.9mを測る。第9図の1、2層は上層として把握する層で、黒褐色系の色調を呈し、小礫の混じるシルト質土、4、5層は下層として把握する層で、灰褐色系の色調を呈する砂質土で埋積されている。4、5層の砂は淘汰され、緩化層理が認められる。5層ではラミナも観察された。

出土遺物は細片が多く、溝底に貼り付くように出土するなど、遺構の年代を推定し得るような出土状況のものは無かった。また、掘削土量の割には遺物量は僅少である。第9図の1~7は、SDb01下層出土の遺物、8~11は上層出土の遺物実測図である。

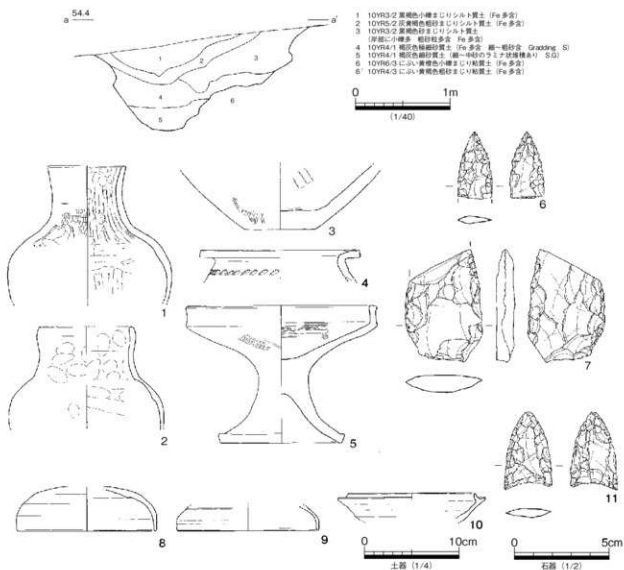
1、2は弥生土器長頸壺である。頸部に凹線文は見られず弥生時代後期前半に属する。1には体部上半に焼成時に土器表面が剥離した部分が見られる。3は明瞭な平底をもつ弥生土器壺の底部、4は弥生土器甕である。口縁端部に拡張は見られず、面取りしている。頸部に刻み目の列点文を巡らせている。5は弥生土器高杯である。直線状に傾斜する杯部から垂直に立ち上がる口縁部で、端部を面取りしている。脚部の上半は中空にはならない。1~5は土器表面が摩滅している。6はサヌカイト製石鏃、7はサヌカイト製の槍先形石器と考えられる。

8は須恵器蓋、天井部の回転ヘラケズリの範囲は狭く、天井部から口縁部になだらかに移行する。口縁端部は丸くおさめる。



第8図 土層断面図(3) (D15m調査区)





第9図 SDb01 断面図、出土遺物

9も須恵器蓋、口縁端部は丸くおさめている。口縁部と天井部の境界付近に1条のヘラ描き沈線を巡らしている。10は須恵器杯、立ち上がりは内傾し短い。受け部にはヘラによる凹線が1条巡っている。8、10の様相からTK209型式期に併行する時期である。11はサヌカイト製の平基式の石鏃である。

SDb01の下層は弥生時代後期前半、上層はTK209型式併行期の遺物が出土しているが、過年度報告済の調査区での様相は、弥生後期前半の遺物の出土が目立つものそれに混じて弥生時代後期末の遺物が出土していることが知られている。このことから、SDb01の下層の年代も弥生時代後期末と考えるべきである。なお、土層断面から、上層は新たに掘り直されたと観察される。下層埋没後に微凹地として残存する部分を利用したものと考えられる。

SDb01以後、古代、中世を経て現在に至るまで、末則丘陵の西斜面の裾部を北上する水路が設置され、西末則遺跡およびその西側の沖積平野の灌漑水路として機能している。このことから、SDb01も灌漑用の水路として掘削されたと判断できる。



第10図 遺構配置図

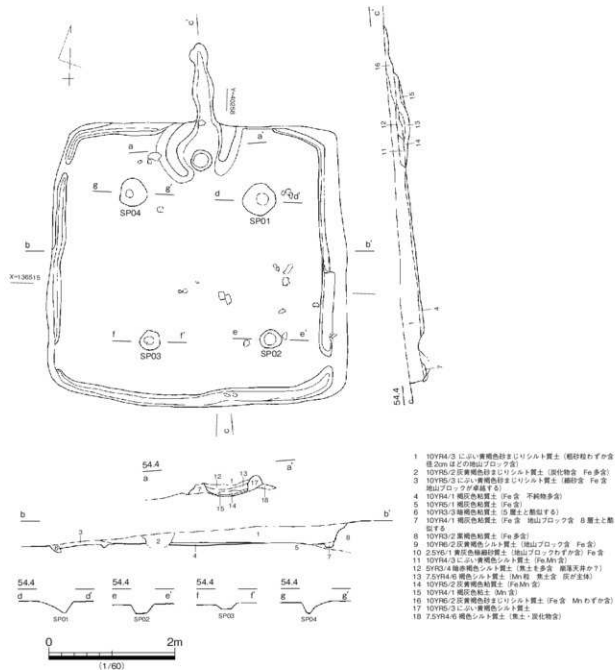
## 2. 古墳時代の遺構・遺物

### 竪穴建物

#### SHb01 (第11・13図)

B17調査区で検出した方形の竪穴住居跡である。一辺4.4～4.8mで真北の方向に合わせたほぼ正方形の平面形である。四周に壁溝が廻り、4本の支柱穴からなる。北辺に造りつけの竈が設置されている。なお、南辺には壁溝の下に排水溝と考えられる溝状遺構(SDb02)が掘られている。

検出面から掘り方底面までの深度は34cm(最大)を測り、6cm内外の厚さの貼床層が見られる。壁溝は幅0.1～0.25m、深さ0.05～0.1mの規模である。支柱穴は径0.3～0.5m、深さは0.2m以下と浅い。柱間寸法は1.9～2.3mで、ほぼ方形に配置される。造りつけの竈には、径30、深さ2cmほどの焚き口があり、住居北辺から1.3mの煙道が設けられている。

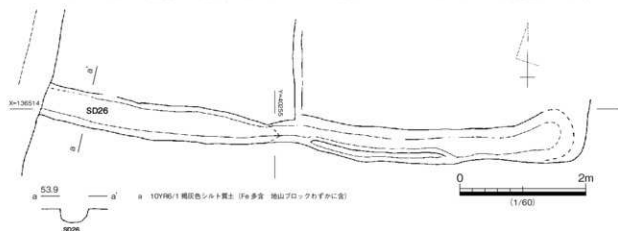


第11図 SHb01 平・断面図

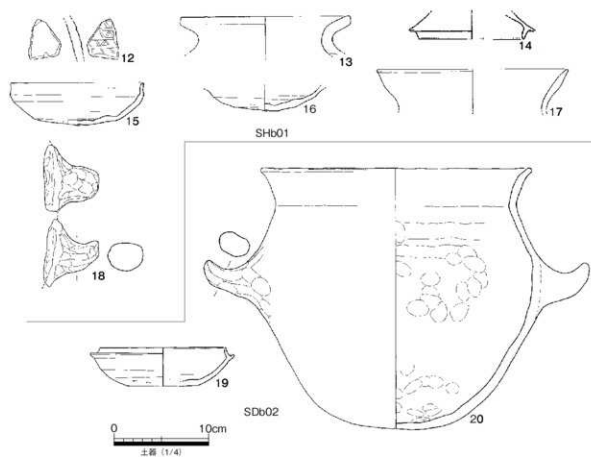
住居南辺には排水溝と考えられる溝が掘られている。住居の西に溝が延びているが、遺構検出時には、溝は住居手前で途切れて検出され、住居の貼床をはずす段階まで両者を一体のものとして認識できなかった。途切れる部分は0.3mほどであり、この部分が暗渠となっていたものと考えられるが、検証することはできなかった。なお、この溝(SDb02)は、幅0.55m、深さ0.2mの規模である。

28リットル入りコンテナ2分の1程度の遺物細片が出土している。第13図の12～18はSHb01出土、19、20はSDb02出土の遺物実測図である。

12は弥生土器壺と考えられる細片である。表面にヘラ状工具による水平方向の沈線と斜格子文を施している。13は弥生土器甕の口縁部である。12、13は混入したものである。14は須恵器蓋、回転ヘラ



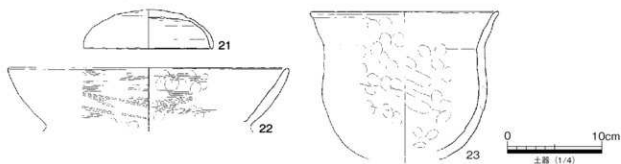
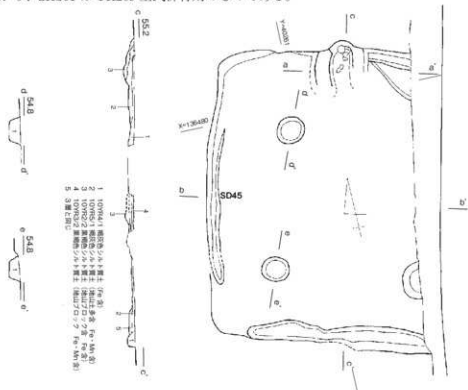
第12図 SDb02 平・断面図



第13図 SHb01・SDb02 出土遺物

ケズリを施す底部から斜めに上がり、垂直方向の口縁部をもつ。口縁端部は丸くおさめている。15は須恵器杯、10cmほどの口径と受部上面にヘラによる1条の凹線を施している。14、15はTK209型式併行期のものである。16は須恵器杯の底部、17は土師器甕、18は土師器の甕か甗の把手部分である。

19は須恵器杯、TK209型式併行期のものである。20は土師器甕、8分の5程度が遺存していた。出土遺物の様相から、SHb01はTK209型式併行期のものである。



第14図 SHb02平・断面図, 出土遺物

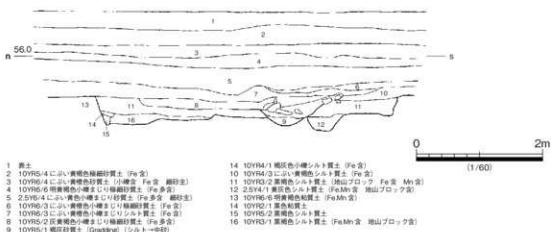
### SHb02 (第14・15図)

B16調査区で検出した方形の竪穴住居跡である。住居の西半を検出し、東半は調査区外に延びる。一辺4.5mで座標北から14°ほど東に振った方向をもつ。西および南辺の一部で壁溝を検出し、主柱穴は3穴を検出し4穴に復原される。北辺に造りつけの竈が設置されている。

検出面から掘り方底面までの深さは10cm以下、一部に貼床が認められた。主柱穴は径0.45～0.6m、深さは0.2m以下である。柱間寸法のわかる西辺の長さは2.25mを測る。造りつけ竈の遺存状況は良好であるが、煙道は上面が削平されているため検出できなかった。

遺物は30点ほどの土器片と1点スラグが出土したのみである。21は須恵器蓋。竈内から出土した。天井部と口縁部の境界に浅いくぼみがあり、端部は丸くおさめている。22、23は土師器甕である。22は壁溝、23は竈内部から出土した。23は指オサエとナデで整形し、わずかに屈曲させて口縁を作る粗雑なものである。

SHb02は、21の須恵器蓋がTK209型式の特徴を示すことからTK209型式併行期のものと判断される。なお、第15図は調査区東壁の断面図である。SHb02のほかSdb11(土層番号14、9)が確認できる。ここでは「包含層赤茶」と仮称した包含層は見られない。



第15図 SHb02 付近土層断面図

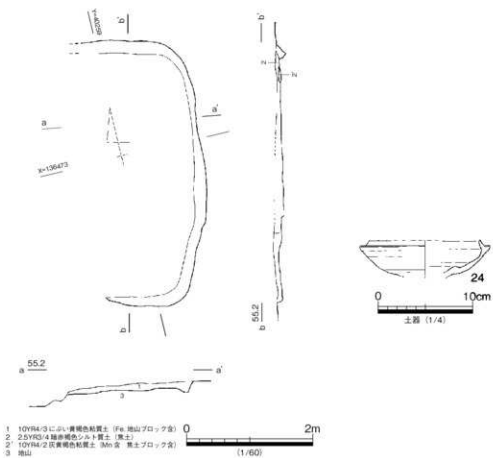
### SHb03 (第16図)

SHb02の南側で検出した方形を呈すると考えられる落ち込みである。東辺のみ検出し、西側は後世の掘削によって消滅している。本遺構からは壁溝、柱穴等の竪穴住居を示す遺構が検出されなかったが、SHb02と同じ方向のN-14°-Eの方向を向き、一辺の長さが4.2mであることから竪穴住居跡と判断する。

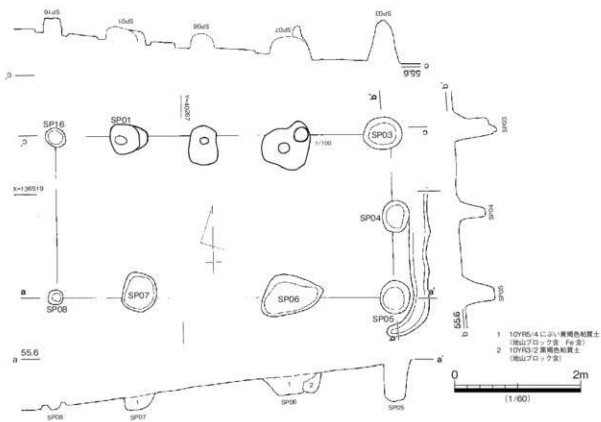
遺物は30点あまりの土器細片が出土した。24は須恵器杯である。口径13.6cmを測り、TK209型式の特徴を備えている。このことからSHb03もTK209型式併行期のものと判断できる。

### 3. 古代の遺構・遺物

B16、17調査区からは、過年度報告のSBd15(「西末期遺跡Ⅲ」)を含めて古代の掘立柱建物7棟、基幹用水路と考えられる溝状遺構、道路に係わる波板状凹凸面を検出した。このうち掘立柱建物は、相互



第16図 SHb03 平・断面図, 出土遺物



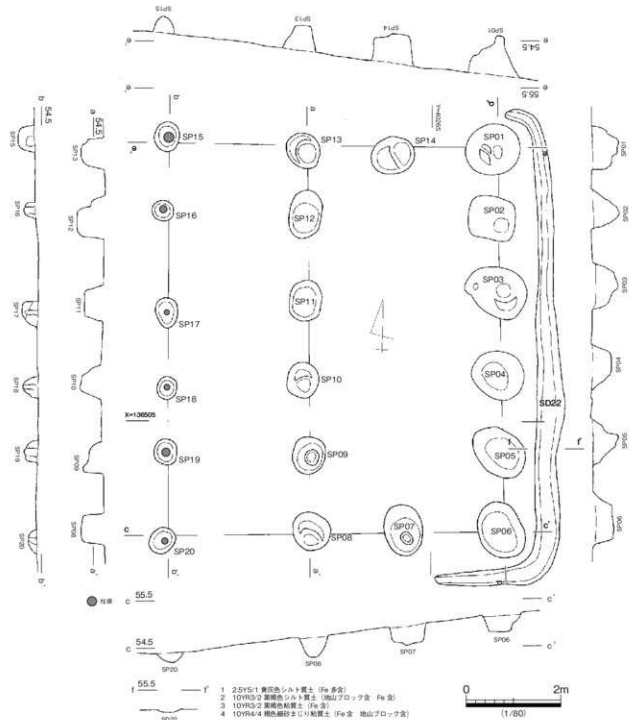
第17図 SBb01 平・断面図

に計画的に配置されていることが窺われ、大半を同一時期のものと考えられる。

### 掘立柱建物

#### SBb01 (第17図)

梁行2間、桁行3間の東西方向の側柱建物である。北辺の2柱穴が北側のSBd15と重複し、切り合い関係よりSBd15よりも古い。SBd15の西辺を南に延長すると後述のSBb02の東辺に連続することから両者を同一時期の構築と考える。



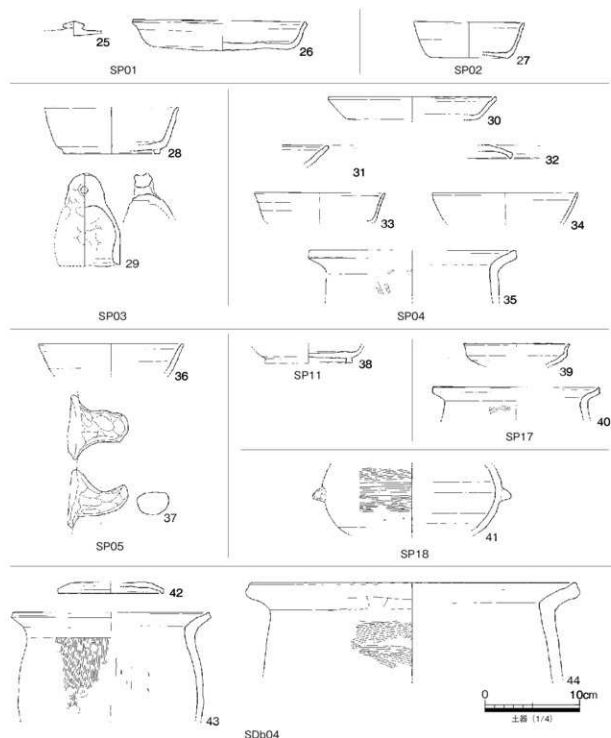
第18図 SBb02 平・断面図



SBb01 は、梁行 2.6、桁行 5.4 m の長方形で、主軸方位は座標北に直交する方向である。東辺に幅 30、深さ数 cm の雨落ち溝が柱穴に接する位置で検出されている。柱穴からの出土遺物は無かったが、他建築物との位置関係から 8 世紀代の建物と考えられる。

#### SBb02 (第 18・19 図)

B16、17 調査区の掘立柱建物群のなかで中心となる建物である。梁行 2、桁行 5 間の側柱建物で西側に庇をもつ。また、東辺には雨落ち溝 (SDb04) が遺存していた。東辺の延長線が SDD15 に連続する



SDb04  
第 19 図 SBb02 出土遺物

ことは既述したが、身舎の西辺の南延長線はSBb05に連続する。また庇南端の柱穴はSBb03の南辺の延長線と交わる。

建物の主軸は座標北から2度西に振る真北方向を向き、身舎は梁行4.0m、桁行8.0mで、東西幅3.0mの庇がつく。また、東辺には幅0.3～0.6m、深さ0.05mほどの規模の雨落ち溝が遺存している。残りのよい東側桁行の柱穴は、径0.9～1.2mの円形または楕円形を呈し、深さは0.4～0.5mを測る。なお、底部分の柱穴においては平面において柱痕を検出できたが、身舎部分の柱穴では柱痕を検出することができなかった。柱穴を掘りあげた段階で底面に柱痕の存在を確認できたものが2穴あったが、それ以外の状況は不明である。

第19図はSBb02関連の遺構から出土した遺物実測図である。

25はSBb02 SP01から出土した宝珠形つまみをもつ須恵器蓋である。摩滅している。26は須恵器皿、8分の4遺存して出土した。歪みが大い。口縁端部に1条の沈線、端部内面に凹線状の窪みがある。27は須恵器杯、SBb02 SP02から出土した。28、29はSBb02 SP03から出土したもので、28は土師器杯である。29は飯蛸壺、表面の一部が剥落するが、ほぼ完形で出土している。30～35はSBb02 SP04から出土した。30、31は土師器皿、口縁端部内面に沈線が1条巡る。32は須恵器蓋、33、34は須恵器杯、35は土師器甕である。36、37はSBb02 SP05から出土した須恵器杯(36)、土師器の甕か甕の把手部分(37)である。37はSBb02 SP05とSP03出土の破片が接合した。38はSBb02 SP11から出土した須恵器杯である。39、40は底部分の柱穴であるSBb02 SP17から出土したものである。39は須恵器杯、外反する口縁部をもち、ほかの遺物よりも古い様相を示す。混入と考えられる。40は土師器甕の細片である。41はSBb02 SP18から出土した須恵器壺、体部に形骸化した把手が付される。42～44はSBb02の雨落ち溝であるSdb04から出土したものである。42は須恵器蓋、43、44は土師器甕である。

以上の出土土器は8世紀中ごろの様相を示すと見られ、SBb02の年代を示している。

### SBb03 (第20図)

SBb02の西に位置する掘立柱建物である。南側の梁行を東に延長するとSBb02の西南の柱穴と交わる。また、南側に位置するSBb04と近似する規模で桁行が同一線上にある。なお、SBb04の北側梁行の延長線が後述するSBb05の西北隅の柱穴と交わることから、計画的な配置をとっていると判断される。

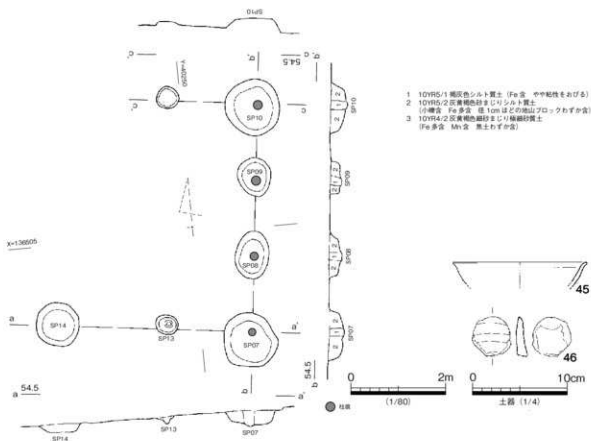
SBb03は、東側桁行の柱穴の遺存は良好であるが、それ以外は良くない。規模は、梁行2間(4.0m)、桁行3間(4.9m)で、SBb03では確認されないが、SBb04と同規模であることから東柱を伴っていた可能性が高い。建物方位は座標北から8度東に振る方向である。

15点ほどの土器細片が出土している。45はSBb03 SP10から出土した須恵器杯である。外反する口縁部を失い気味におさめている。46は須恵器の壺か甕の体部破片の周囲を打ち欠いて円形に整形したものである。

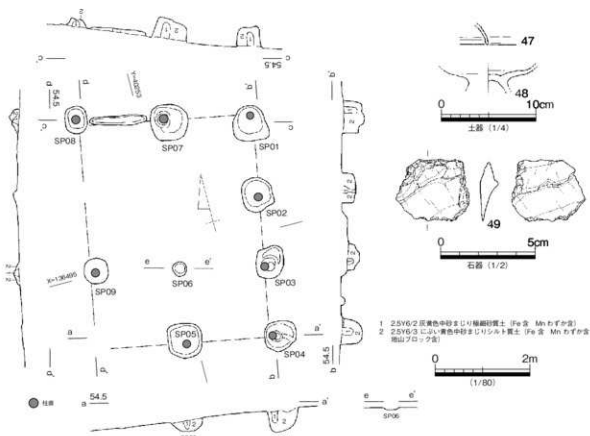
### SBb04 (第21図)

SBb03の南に並列する掘立柱建物である。梁行2間(3.7m)、桁行3間(4.7m)で、東柱を伴うものと推定される。建物方位はSBb03と同一である。

20点余りの土器細片が出土している。47は須恵器蓋と考えた。口縁端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線が見られる。48は須恵器高杯である。このほかサヌカイトの2次加工のある剥片が出土している。



第 20 図 SBb03 平・断面図, 出土遺物

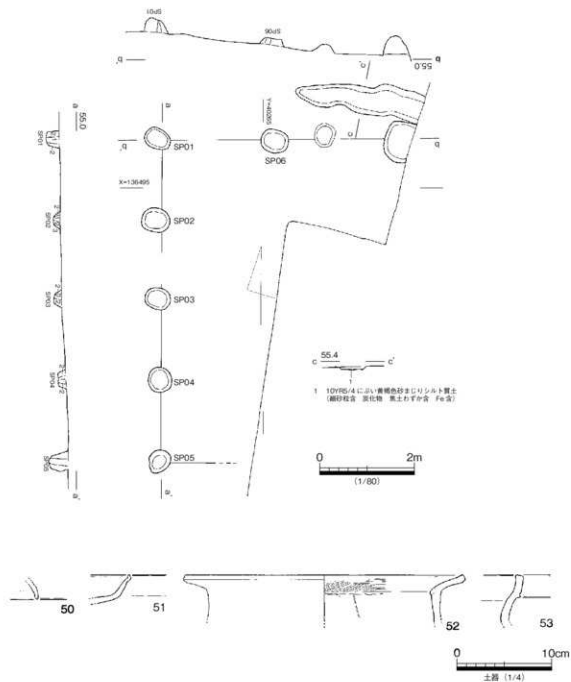


第 21 図 SBb04 平・断面図, 出土遺物

SBb05 (第22図)

SBb02の身舎の西桁の延長線と合わせて建てられた側柱の掘立柱建物である。建物方位はほぼ真北方向に向く。東側は調査区外になるため、正確な平面規模は不明とせざるを得ないが、梁行2間(5.2m)、桁行4間(6.8m)と推定される。柱穴は径0.5mほどの円形もしくは楕円形のもので大半である。北辺に沿うSDB05(幅0.6m、深さ0.8m)は雨落ち溝と考えられる。

出土遺物は僅少で、10点ほどの土器細片が出土したのみである。50は細片である。須恵器蓋としたが杯である可能性もある。51の須恵器杯の口縁部はわずかに外反し端部は内側に丸くおさめている。



第22図 SBb05平・断面図, 出土遺物

52は土師器甕、53は口縁部の外側を肥厚させる須恵器甕の細片である。

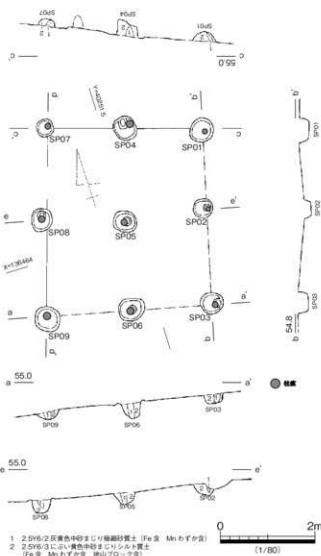
### SBb06 (第23図)

2×2間の総柱の掘立柱建物である。建物方位は座標北から19度東に振る方向で、東西3.4m、南北4.0mを測る。柱穴は径0.5mほどの円形もしくは不整形円形を呈する。なお、建物の方向は西側に広がる条里地割の方向に近似する。

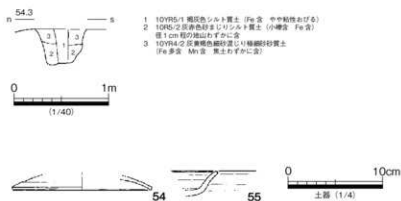
SBb06はほぼ正方形の平面形をもつ総柱建物であることから倉と考えられる。柱穴から出土した遺物は僅少で時期を推定することはできないが、北側の掘立柱建物群と柱穴の埋土の様相が共通していることから同一時期のものだと判断する。なお、SBb06はSBb05から約25m離れているが、延暦10年2月12日の太政官符(『類聚三代格』卷十二所収)に類焼を防ぐために倉を十丈以上離すことと規定したものが注意される。期的には前後するが、以前から屋と倉を意図的に離して建てる習慣があったのかもしれない。

### その他の古代の柱穴 (第24図)

第24図のSPb01は建物に復原できなかったが柱痕をもつ柱穴である。須恵器の蓋および杯が出土している。



第23図 SBb06 平・断面図



第24図 その他の古代の柱穴断面図, 出土遺物

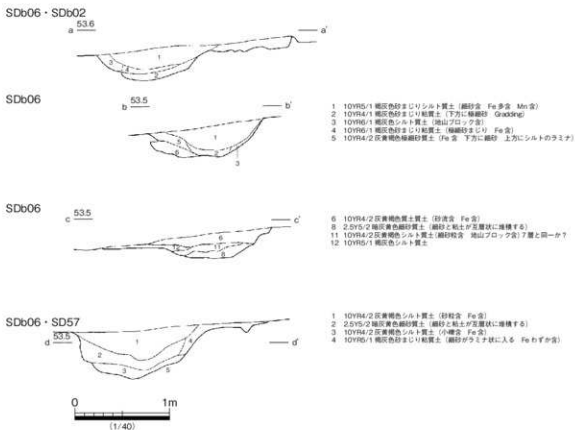
溝状遺構

SDb06 (第25～27図)

SDb02の西側に平行して流れる溝状遺構である。流路から西側直角方向に数条の溝が分岐している。溝幅は1.2～2.0m、深さ0.5mほどの規模で、断面形は椀状と呈する。堆積状況から1回以上の掘り直しがあったと観察される。断面図1の1、4、2層を上層、それ以外を下層として遺物を採集した。第26図の56～63は下層、64～71は上層出土の遺物実測図である。また、第27図の72～85はSDb06出土として遺物を取り上げたものであるが、SDb06を埋める土の大半が上層に相当する部分が多かったことから、上層から出土したものが大半を占める。

下層からは、須恵器杯(56)、須恵器壺(57、58)、土師器の甕か甔の把手部分(59)が出土している。いずれも細片である。また、サヌカイト製の石包丁(60)、同製の削器(61、62)、安山岩の石核(63)が出土している。

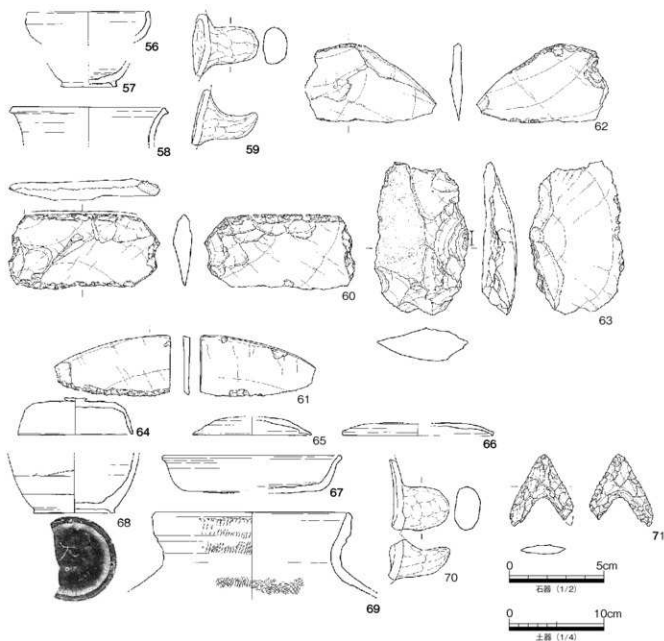
64は須恵器蓋である。回転ヘラケズリした平らな天井部と高い口縁部をもち、天井部と口縁部の境に浅い窪みがあり、天井頂部に扁平な宝珠形つまみがつく。口縁端部は丸くおさめている。壺類の蓋である。65も須恵器蓋、口縁部以下に突出しないかえりがつく。TK217型式に併行する時期のものである。66は須恵器蓋、67は須恵器杯である。67の口縁部内面には浅い沈線が巡っている。68は須恵器壺である。底部外面にヘラ状工具による刻書が認められる。第3画が上にはねているが「大」と判読できる。69は須恵器甕、70は土師器の甕か甔の把手である。このほかにサヌカイト製の凹基式の石鏃(71)が出土している。



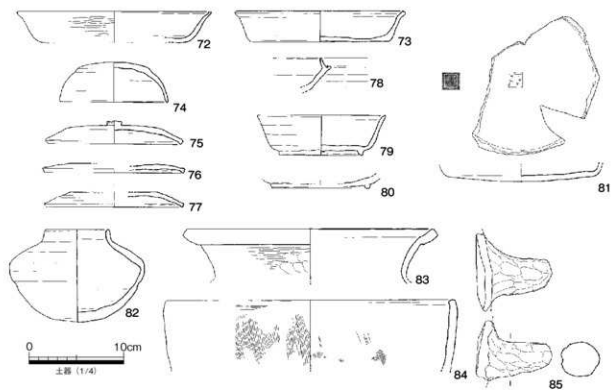
第25図 SDb06 断面図

72, 73 は土師器杯である。本調査区出土の土師器は表面が摩滅しているものが多いが、72 の外面には水平方向のヘラミガキが見られる。74～77 は須恵器蓋。74 は天井部と口縁部の境界に浅く広い窪みがあり、TK217 併行である。75～77 は径 14.0～14.7cm に復原され、口縁端部は下方にわずかに突出させている。稜は甘い。78 は立ち上がりをもつ須恵器杯。受け部にヘラ状工具による凹線が見られる。79, 80 は須恵器杯、81 は須恵器皿である。81 の見込み中央付近には、一辺 1.5cm の四角形の枠内部に人偏の一字からなる刻字が認められる。文字は判読できない。82 は須恵器壺、83 は須恵器甕、84 は土師器甌、85 は土師器の甕か甌の把手部分である。

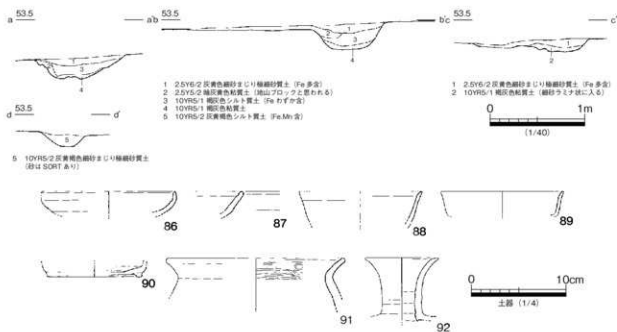
SDb06 出土の遺物は、TK209 型式から 8 世紀後半にかけての時期幅をもったものである。下層の年代については特定できないが、上層については 8 世紀後半に埋没したものと考える。



第 26 図 SDb06 出土遺物 (1)



第27図 SDb06 出土遺物 (2)



第28図 SDb07・SDb08 断面図, 出土遺物



### SDb07・08 (第28図)

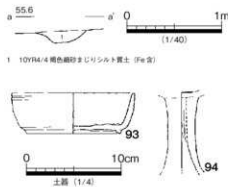
SDb06の西側に併行して流れる溝状遺構である。SDb07は本報告対象地域の南側に位置するC13調査区で発現し、B16調査区で消滅する。SDb06との前後関係は不明である。溝幅0.7～0.9m、深さ0.25mほどの規模で、西側にオーバーフローした堆積物が薄く溜まっている。断面形は碗状である。SDb08はSDb07の左岸から分岐し、さらに西方と北方に分岐する溝状遺構である。溝幅は0.4m、深さ0.1mほどの規模である。両溝から90点余りの土器細片が出土しているが、遺構の年代を明示するような出土状況のものはない。

第28図86～92はSDb07(86、87、92)、SDb08(88～91)から出土した遺物実測図である。いずれも細片である。86～90は須恵器杯と考える。91は土師器甕、92は須恵器壺である。出土遺物から遺構の時期を特定することは困難であるが、SDb06の埋土と類似することも合わせて8世紀代の溝状遺構と考える。

### SDb09 (第29図)

B17調査区のSBb02の東側で検出した溝状遺構である。SXb01と切り合いがありSXb01より新しい。掘立柱建物の雨落ち溝と同様に斜面下部に向かう途中で消滅している。溝幅0.5m、深さ0.1mほどの規模で、断面形は碗状を呈する。

30点弱の遺物細片が出土しているが、年代を特定できるような出土状況のものはない。93は須恵器杯、94は焼成不良で土師質の焼き上がりの須恵器高杯である。94は断面円形で回転でが認められる。



第29図 SDb09 断面図、出土遺物

### その他の溝状遺構 (第30図)

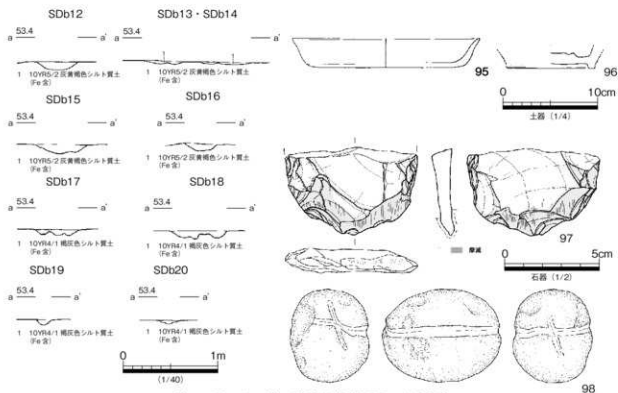
B17調査区のSDb06からは、西側に直交する方向で派生する小溝多数が検出されている。検出段階ではSDb06と切り合い関係が見られなかった。また、SDb06と交わらない小溝についても、埋土が共通することから同時期と考えられる。溝幅は0.15～0.5m、深さ0.05～0.1mを測る。溝と溝の間隔については、数グループに分類すると規格性があるようであるが詳細不明である。なお、後述の道路関連の波板状凹凸面(SXb02)の溝間よりも溝幅は広いが、共通する性格のものかもしれない。

第30図の95は須恵器杯である。重ね焼きの痕跡がある。96は須恵器壺、97はサヌカイト製の石鉢、98は砂岩製の石錘である。図化できない遺物片の知見や切り合い関係からSDb06と同時期の遺構と考えられる。

### 不整形遺構

#### SXb01 (第31図)

B17調査区の調査区東壁付近で検出した凹地である。遺構の性格はよくわからない。99は混入と考えられる須恵器蓋、100、101は須恵器杯、102は土師器甕、103は形態から土師器鍋と考える。



第 30 図 その他の溝状遺構断面図, 出土遺物

#### SXb02 (第 32 図)

B16 調査区の SDb06 の西側に接して検出した波板状凹凸面である。幅 0.4 m、深さ 0.05 ~ 0.1 m ほどの小溝が 0.25 ~ 0.3 m の間隔で並列する。溝長は最大で 1.4 m を測る。土器細片数点を検出したが時期を特定することはできない。SDb06 の最終埋没の埋土に切られるが、SDb06 の流路の湾曲に合致するように敷設されることから SDb06 と同じ時期の遺構と考える。このように小溝が並列する状況は道路の下部構造として把握されており、本例も道路遺構に係わるものと把握できる。しかし、道路幅や道路の経路については不明である。

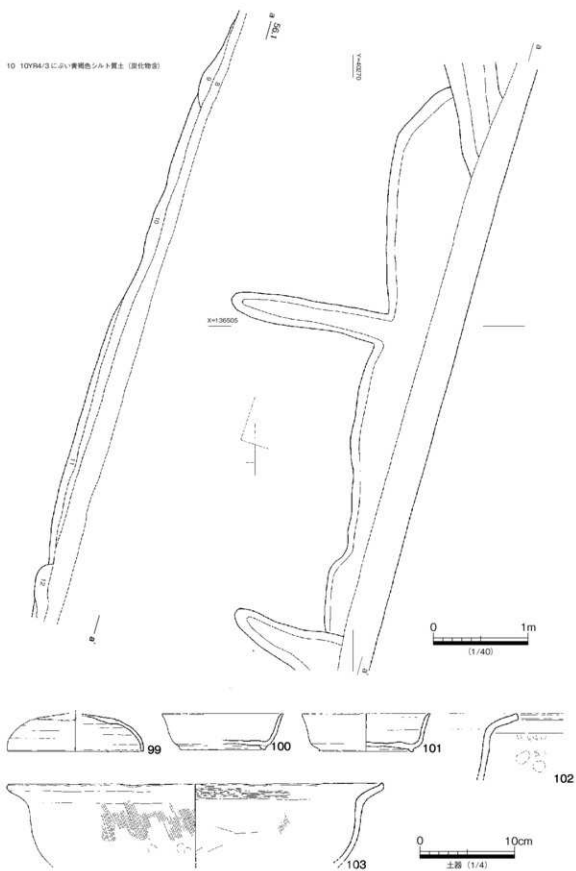
#### SKb01 (第 33 図)

SK の遺構番号を振ったが、南北幅 1.5 m、深さ 0.15 m ほどの平面および断面形ともに不定形の落ち込みである。規模の 20 点あまりの土器細片が出土している。104 は土師器杯の細片、105 は宝珠形のつまみを付した須恵器蓋、106 はサヌカイト製の凹基無茎盃である。

#### 4. 中世の遺構・遺物

B16 調査区の SDb01 の東側を中心とする範囲に 0.2 m ほどの直径の柱穴が多数検出されている。遺物が出土した柱穴は少ないが、中世の土師質土器の細片が含まれており、埋土の共通性から中世の柱穴と考える。このうち長方形の柱穴配置になるものを掘立柱建物として報告する。

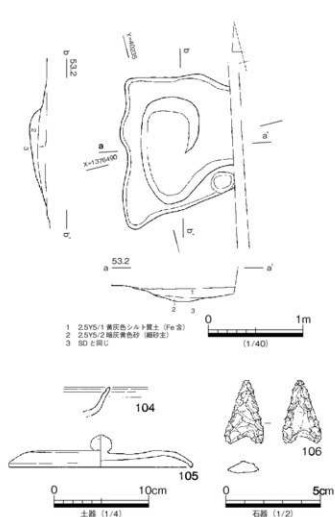
10 10YR4/3に近い黄褐色シルト質土 (出土物表)



第31図 SXb01平・断面図, 出土遺物



第32図 SXb02断面図



第33図 SKb01平・断面図, 出土遺物

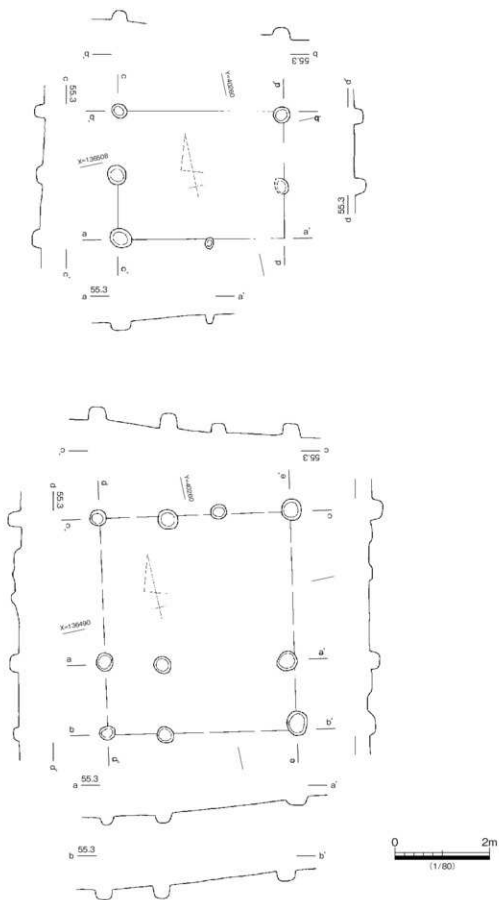
掘立柱建物

SBb07 (第34図)

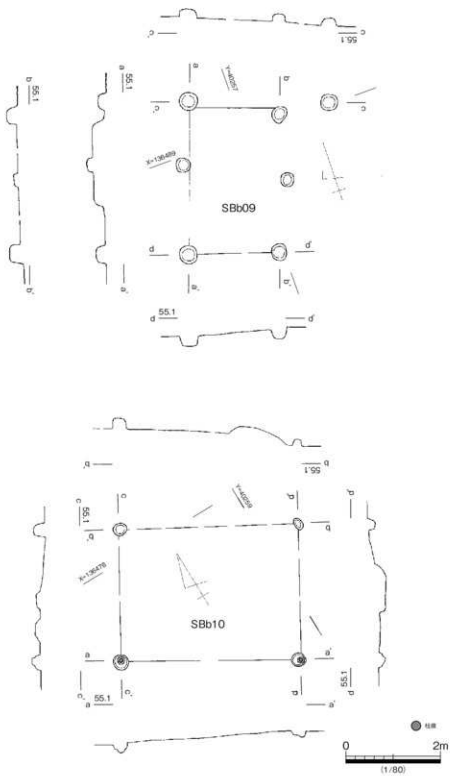
SBb02と重複する位置に検出された掘立柱建物である。梁行2間(2.7m)、桁行1間(3.5m)で梁行の方向は座標北から12度東に振る。柱穴から時期を特定し得る遺物は出土していない。

SBb08 (第34図)

SBb02とSBb05の間で検出された掘立柱建物である。梁行1間(3.0m)、桁行3間(4.0m)で南辺に庇(長さ1.5m)が付される。梁行は座標北から11度東に振った方向で、北側のSBb07とはほぼ同一方向を向く。遺物は出土していない。



第 34 图 SBb07 · SBb08 平 · 断面图



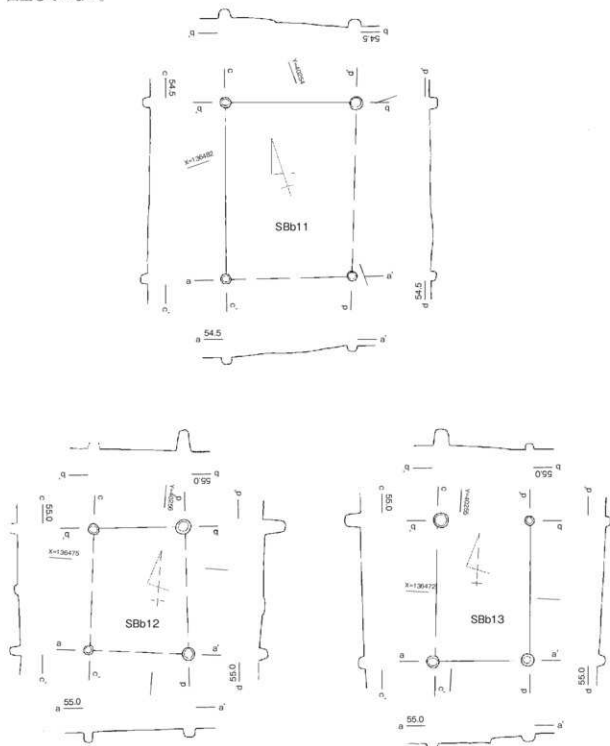
第35図 SBb09・SBb10平・断面図

### SBb09 (第35図)

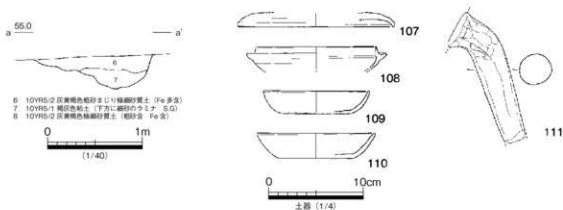
2間(3.0 m) × 2間以上(3.0 m)の束柱をもつ掘立柱建物である。東半は調査区外になる。建物方位は座標北から18度東に振る。遺物は出土していない。

### SBb10 (第35図)

1間(2.8 m) × 1間(3.3 m)の掘立柱建物である。建物方位は座標北から60度西に振る。遺物は出土していない。



第36図 SBb11 ~ SBb13 平・断面図



第 37 図 SDb10 断面図, 出土遺物

#### SBb11 (第 36 図)

1 間 (2.7 m) × 1 間 (3.7 m) の掘立柱建物である。建物方位は座標北から 19 度東に振る。遺物は出土していない。

#### SBb12 (第 36 図)

1 間 (2.0 m) × 1 間 (2.5 m) の掘立柱建物である。建物方位は座標北から 3 度西に振る。遺物は出土していない。

#### SBb13 (第 36 図)

1 間 (1.9 m) × 1 間 (2.9 m) の掘立柱建物である。建物方位は座標北から 2 度西に振る。遺物は出土していない。なお、SBb12、13 付近は柱穴が集中しており、別の建物の復原案もあることを付記する。

#### 溝状遺構

##### SDb10 (第 37 図)

B16、C17、D15n 調査区で中世の溝状遺構を検出している。SDb10 は B16 調査区で検出した直線の流路の溝で、検出長 11 m、SDb27 に壊される。西側に小溝が分岐する。溝の流向は座標北から 9 度東に振った方向で、溝幅 1.2、深さ 0.35 m ほどの規模である。

第 37 図 107 は須恵器蓋の細片、108 は須恵器杯の細片である。109、110 は土師質土器足釜、111 は土師質土器足釜の脚部片である。

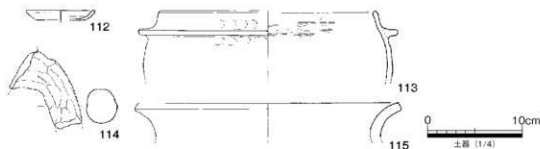
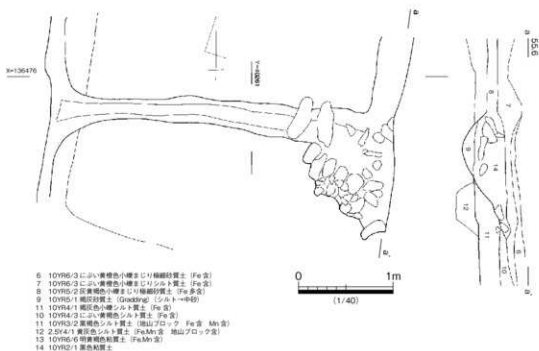
SDb10 は出土遺物から中世前半のものと考えられる。

##### SDb11 (第 38 図)

B16 調査区で検出した東西方向に流れる溝状遺構である。SHb02 を壊す。調査区東端付近では拳大から一抱えほどの大きさの自然石が多数出土しているが、積まれたような形跡は無く性格不明である。西側で SDb27 に合流する。溝幅は 0.3 m、深さ 0.3 m で、礫集中部で幅広となる。

おもに礫間から遺物が出土している。112 は土師質土器小皿、113、114 は土師質土器足釜、115 は亀山焼と考えられる甕小片である。





第38図 SDb11 平・断面図, 出土遺物

### その他の溝状遺構 (第39図)

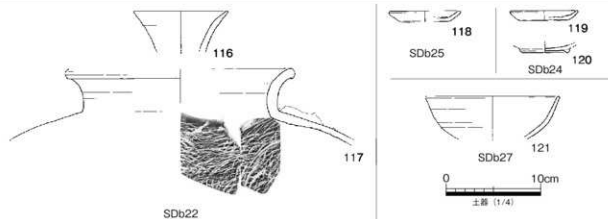
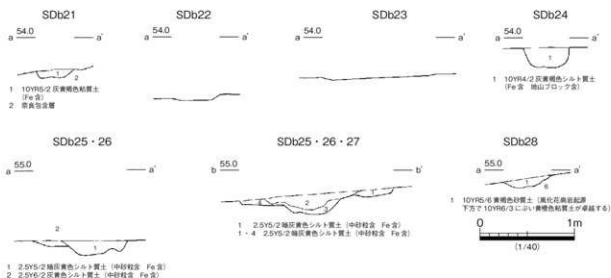
B16、17調査区からは、上記のほかにも中世に属する溝状遺構が検出されている。

SDb21は、SDb06とSBb03の間で検出された斜面の傾斜に直交する方向の溝状遺構である。溝幅0.4m、深さ0.07mで断面形はU字状を呈する。直線状の流路で、座標北から9度東に振る方向に流れる。これは既述のSDb10や後述のSDb29などと同一の方向である。図化可能な遺物はないが、中世土師質土器の破片が出土している。

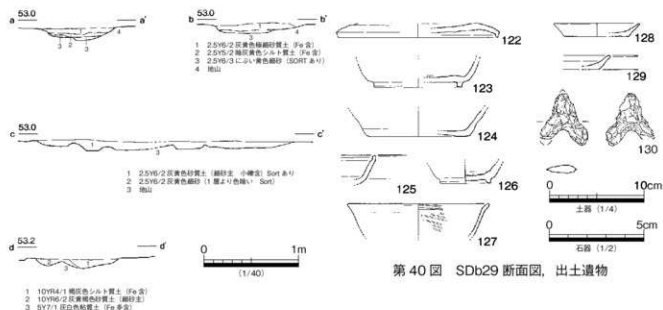
SDb22は、SDb21の西を流れる溝状遺構である。SDb06と切り合い関係がありSDb06よりも新しい。116の須恵器壺、117の須恵器甕が出土しているが混入と考えられ、埋土の共通性などから中世の遺構と考えられる。

SDb23は、最大幅1.1mのさやえんどうのような平面形の溝状遺構である。図化可能な遺物はないが、中世土師質土器片が出土している。

SDb24は斜面の傾斜方向に流れる溝状遺構である。溝幅0.5m、深さ0.2mでU字状の断面形を呈する。検出長は3mである。119、120の土師質土器小皿、椀片が出土している。



第 39 図 その他の溝状遺構断面図, 出土遺物



第 40 図 SDb29 断面図, 出土遺物

SDb25は、SHb02付近から北流し、緩やかに傾斜方向に屈曲し、西側に広がる条里地割と同じ方向で西に流れる。溝幅は0.7 m、深さ0.15 mを測る。118の土師質土器小皿が遺構の年代を示す。

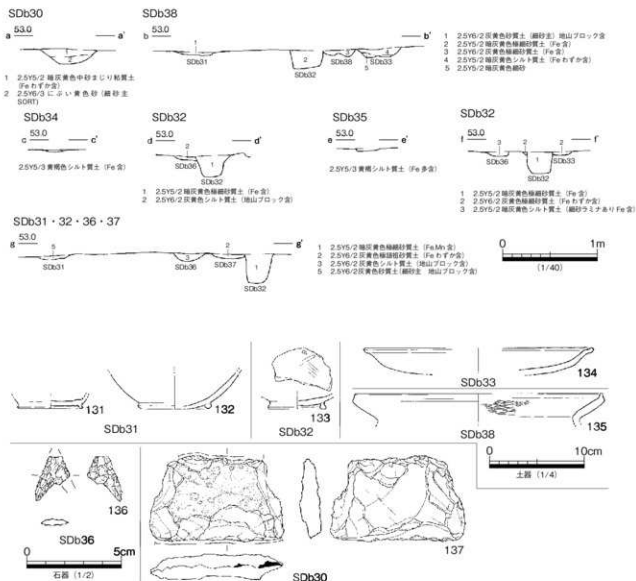
SDb26はSDb25の北側に平行して流れる溝状遺構である。SDb25と切り合いがありSDb25より古い。図化遺物はないが埋土の共通性などから中世の遺構と考えられる。

SDb27はSDb10の南延長線上にあり、「コ」字状の平面形をもつ溝状遺構である。東寄りに深さ0.2 mの椀状の断面形の溝があり、西側にオーバーフローした堆積物が浅く堆積する。溝幅は最大1.3 mを測る。121の須恵器椀の小片が出土しているが、切り合い関係などから中世に下る溝である。

SDb28はSDb27の南延長線上に位置する。溝幅0.5 m、深さ0.1 mほどの規模である。図化遺物はないが、出土遺物に中世土師質土器小皿の小片が含まれる。

### SDb29 (第40図)

C17、D15n調査区で検出した溝状遺構である。東西方向に流れる後述の溝群(SDb30～38)との交差付近で平面形が不明瞭となるが、座標北から9度東に振った方向に直線に流れる。北側のC18、C19調査区(「西末則遺跡Ⅲ」SDd082)、南側のC15s、D12調査区の溝状遺構に連続する。溝幅0.8 m、深さ0.15



第41図 SDb30～38 断面図、出土遺物

mで、浅い碗状の断面形を呈する。

遺物は時期幅をもった細片が出土している。第40図の122～126は須恵器の蓋、杯、壺、127は内面黒色の黒色土器碗の小片、128、129は土師質土器小皿である。128、129がSdb29の年代を示すと判断される。

#### Sdb30～38 (第41図)

C17調査区の南半では複数の溝が6mほどの幅のなかで同じ方向で切り合いながら検出された。座標北から73度西に振る方向は、西側に広がる条里地割の方向と一致する。溝の規模は、幅0.35m、深さ0.3mでU字形の断面のSdb32から、溝幅0.25m、深さ0.03mのSdb35まで多様である。

時期幅をもった遺物細片が出土している。131は須恵器杯、132は土師質土器碗、133は両面黒色の黒色土器碗である。134は土師器高杯とした。内外面に暗文やヘラミガキは認められない。135は土師器甕、136はサヌカイト製石鏃、137は楔形石器と考える。図化遺物の年代の上限は10世紀代と考えられるが、Sdb29との切り合い関係を考慮するとSdb30～38は中世に所属すると考える。

#### 5. 中世以降の遺構・遺物 (第42図)

B16、17調査区(丘陵斜面)で複数の焼成遺構を検出している。底面が赤変し、埋土に炭化物を多く含む点で共通する。切り合い関係から中世より新しいことは明確であるが、正確な年代は不明である。

#### 6. 遺構に伴わない遺物 (第43・44・45・46図)

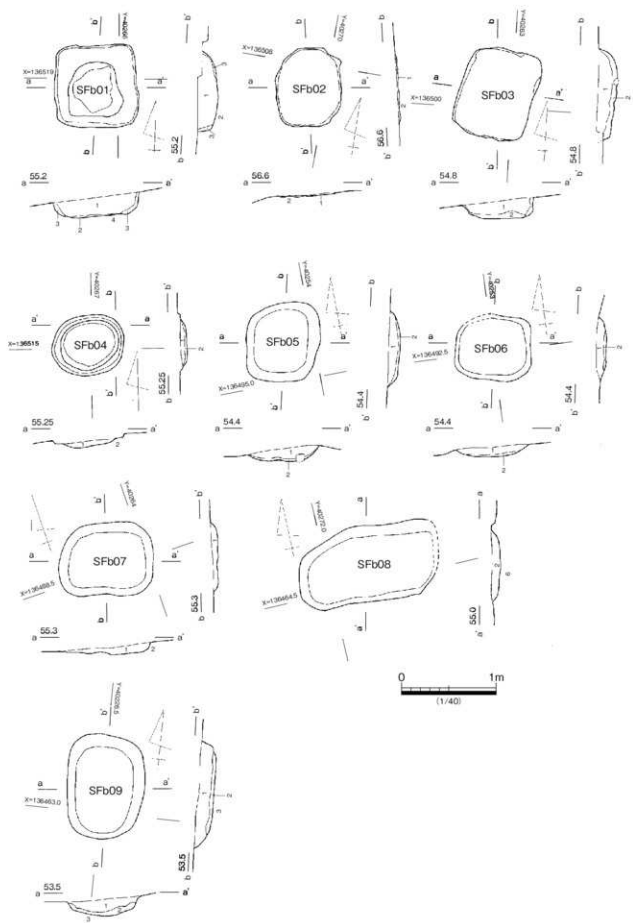
第43図は、調査時に包含層「赤茶」と仮称していた包含層出土の遺物である。包含層の層位や範囲は「第1節 層序」で述べたとおりである。この包含層を除去すると複数の掘立柱建物が出されることは調査の早い段階で分かったため、遺物の出土位置と掘立柱建物の関係が検討できるように、2mグリッドの方眼を設けて遺物を取り上げた。しかし、中心となるSbb02の柱穴からは遺構の年代を検討しうる遺物が出しているため、結果としてグリッドによる遺物取り上げは大きな意味を持たなかった。

出土遺物は弥生時代から古代までのもので、若干がTK209型式に併行する時期の堅穴住居と同時期のもの、大半が掘立柱建物群と同時期のもの、若干が掘立柱建物群より後出する時期のものからなる。古代の土器は、焼成不良であったり、形が大きく歪んでいるものが目立つ点の特徴である。なお、177は砂岩製の大型蛤刃石斧の先端部の破片である。

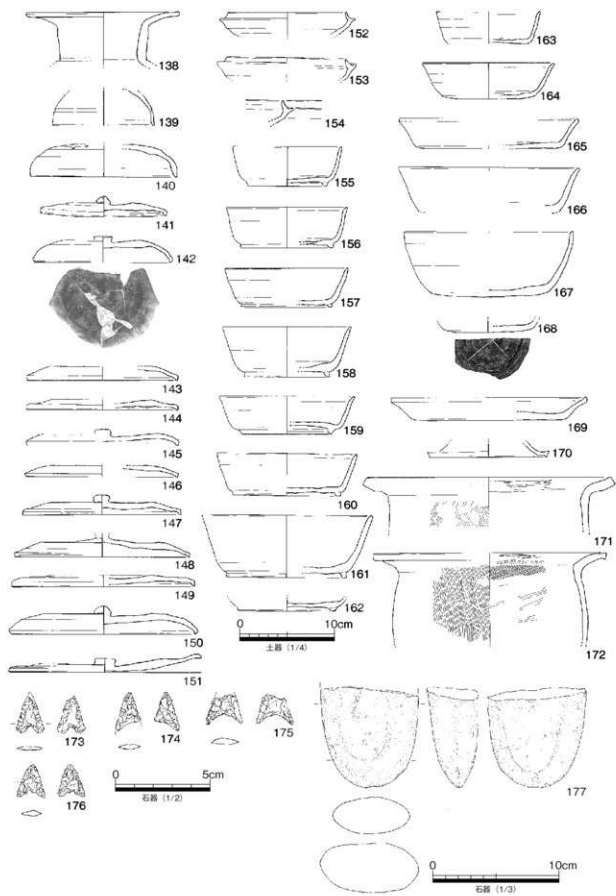
第44図は調査時に「奈良包含層」と仮称していた包含層である。層位や範囲は第1節に述べたとおりである。192は強いて径を復原すると24cmほどになり、須恵器盤と考える。

第45図は「包含層」として取り上げた遺物の実測図である。199は口径41.8cmを測る大型の甕で、口縁外面をヘラ描き沈線により水平方向に4分割し、上部3区画にヘラ描きによる縦方向の沈線を施している。また、最上部の区画にはさらに斜め方向の沈線を加えている。200は亀山焼の甕、202はサヌカイト製の槍先形石器の未製品と考える。

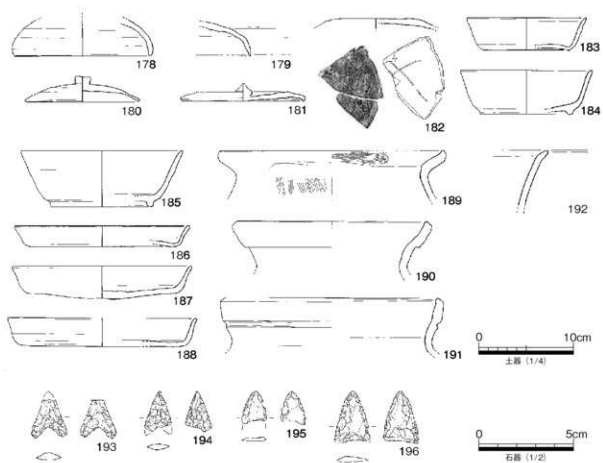
第46図は機械掘削や調査区外周の壁切り、遺構検出作業中に採集した遺物実測図である。209は小型の土錘である。



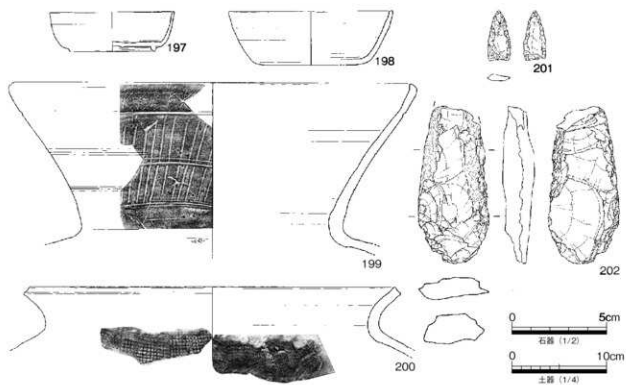
第42図 焼成遺構平・断面図



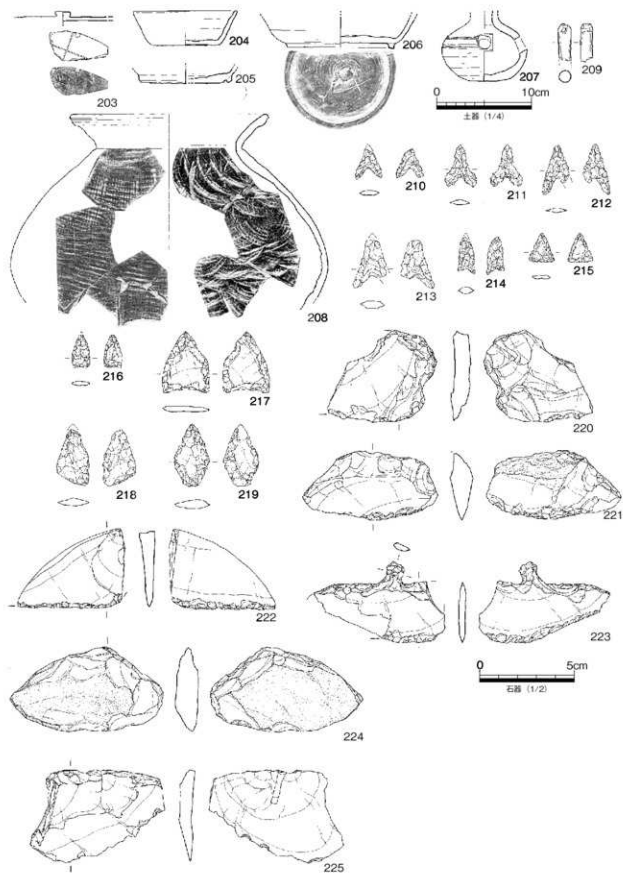
第 43 図 包含層出土遺物 (1)



第44図 包含層出土遺物 (2)



第45図 包含層出土遺物 (3)



第46図 そのほかの遺物



## 第Ⅳ章 D調査区の調査

### 第1節 D調査区の概要・基本層位

#### 1. 概要

D調査区は、平成14年度に調査を実施した調査区である。末則丘陵の西側斜面裾部から段丘面上に至る地域で、北はC調査区、南はA・E調査区に挟まれた調査区である。南北約120m、東西約100m、を測る調査区である。調査区内を地区で分ければ、末則丘陵の西斜面部はA12・B11・C13区、丘陵裾部はD15s・D12区、丘陵裾部から北村用水までの段丘面上はE15・E14・E13・F12区に分かれる。報告の際には地形の状況を考慮して、丘陵斜面部から裾部のA12・B11・C13・D15s・D12の区域と、裾部から段丘面上のE15・E14・E13・F12区の区域の二つの区域に分けて報告する。

丘陵斜面部から裾部のA12・B11・C13・D15s・D12の区域からは、先述したC調査区同様、斜面の等高線に沿うように、弥生時代後期後半～末・古代・中世の多数の溝状遺構を確認した。また、丘陵裾部から段丘面上のE15・E14・E13・F12区からは中世～近世を中心にした遺構を検出した。特にE14区以南のE13・F12区からは、中世後半～近世初頭頃の堀で画された居住域を検出した。この地域は周辺状況から、当地周辺で勢力をもつ中心的階層の屋敷地と考えられる。

屋敷地北限と東限は堀とも呼べる、L字形に屈曲した大溝SDe26と、南限と西限は東西方向と南北方向に二股に分かれた北村用水にあたるため、南北約48m、東西約53mの段丘面上の条里地割に向きを揃えた土地区画に立地する。この土地区画内には中世後半以降の柱穴が約2,537基検出した。

なお、この地域は、条里地割の坪境にも相当する東西方向と南北方向の北村用水が分離する交点にあたり、この交点を挟んだ南のE10区や西のJ4区にも柱穴群が広がるため、別単位の屋敷地が展開しているものと考えられる。E14・E13・F12区の屋敷地内には、柱穴が多数所在するため建物を復元するには注意を要したが、整理作業の際に大型建物を含む建物10棟を復元した。これらの建物は、先述したように規模的な点で、おそらく西末則集落の中心的階層の居住域と考えられる。

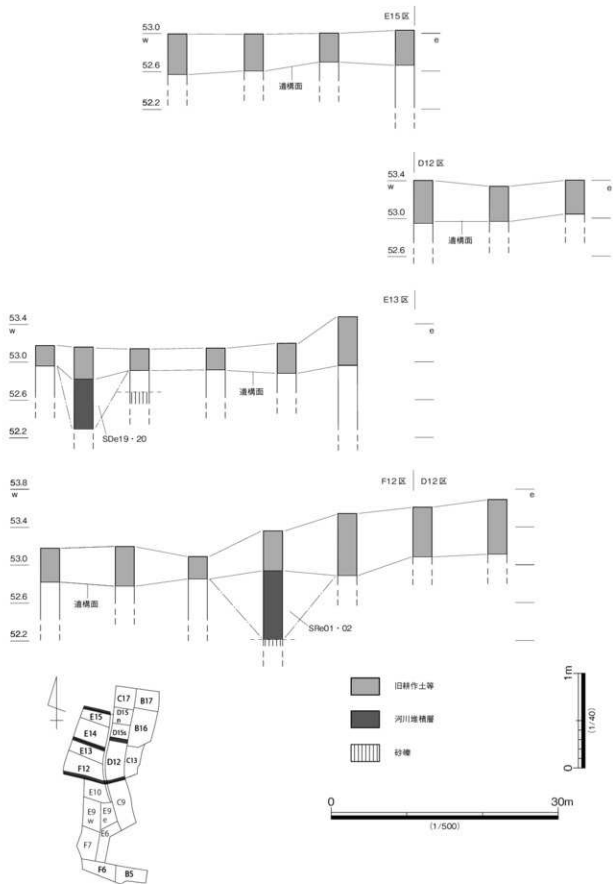
#### 2. 基本層位

##### C13・D12区

末則丘陵の西斜面裾部から段丘の平坦地に至る傾斜変換地にあたる地域である。調査前の旧状は全面農地で、C13区の壁面の堆積層をみる限り、中世以降の数時期の農地造成が窺える地形である。C13区の最頂部の標高は約57.2m、D12区の段丘平坦地の地表面の標高は約53.4mを測る。ベースは丘陵裾部の頂部付近は花崗岩バイラン土を多量に含んだ暗茶褐色粘土、平坦地付近は淡黄褐色シルトからなる。遺構面はベース面のほぼ上面に位置し、C13区の丘陵裾部では53.5～57.0m、D12区の平坦地付近は約53.0mを測り西方へ顕著に傾斜している事が解る。

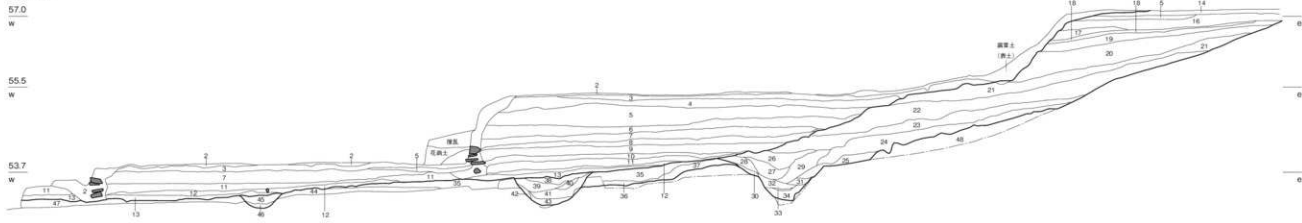
##### E15・E14・E13区、F12区

段丘の平坦地にあたる地域である。調査前の旧状は前面農地で、地表面の標高は北端のE15区で約53.0m、南端のF12区で約53.3mを測り、北へ僅かに傾斜していることが解る。ベースは堆積するレベルの違いにより3種類のベースを確認した。上位に黄灰色粘土、下位には淡黄緑色粘土、更にその下位には砂礫層が堆積する。遺構面はベース面のほぼ上面に位置し、北端のE15区では約52.6m、南端

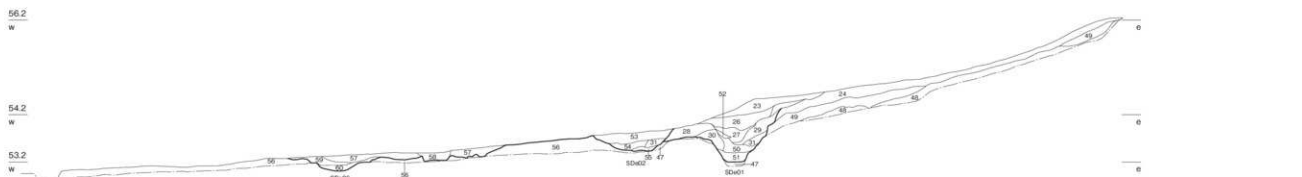


第 47 図 基本層位柱状図

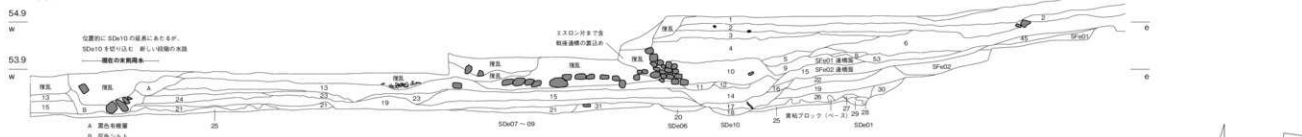
C13 北壁



C13 中央壁



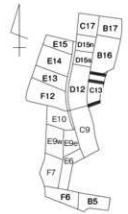
C13 南壁



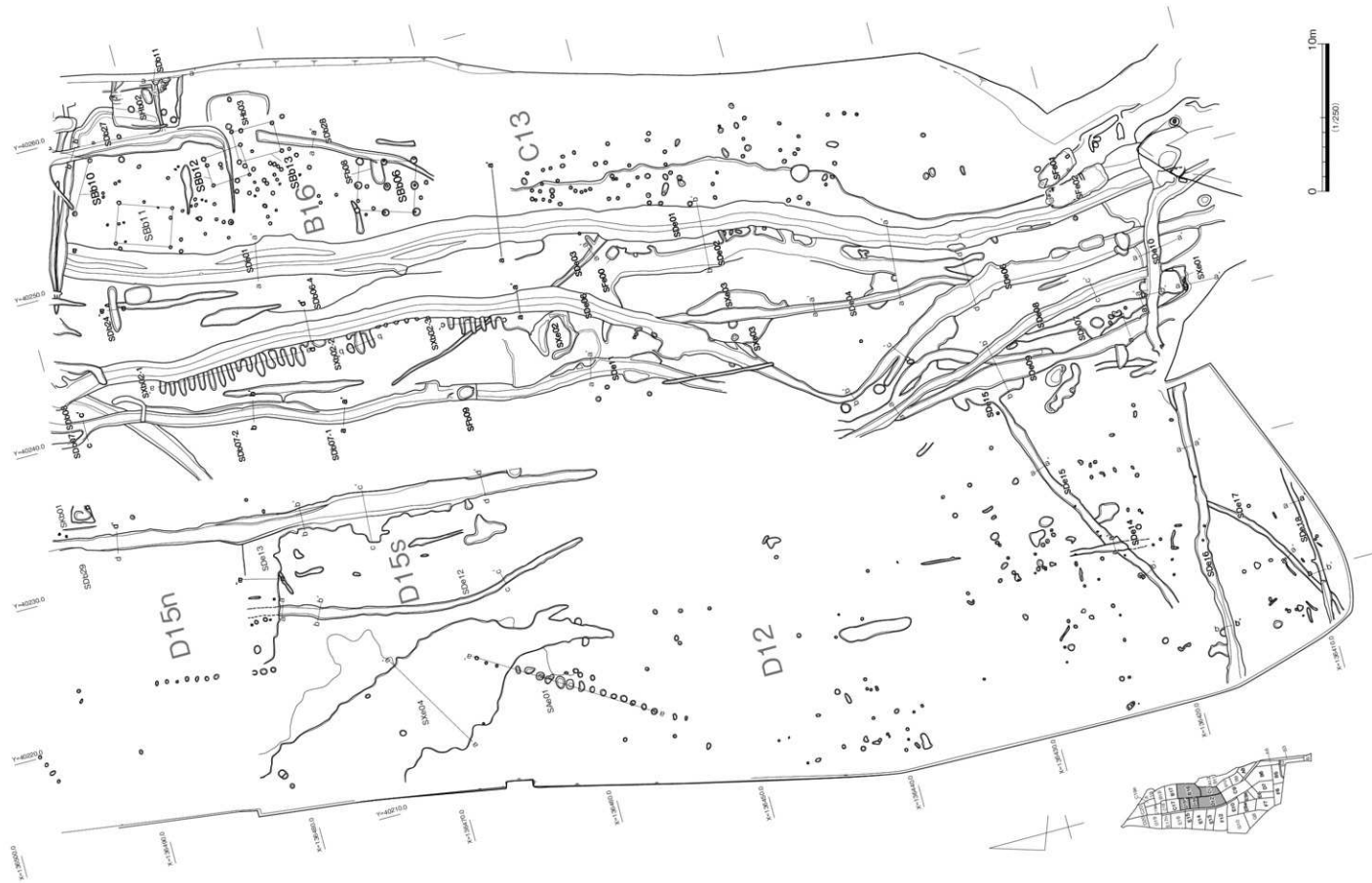
- 1 砂状粘土
- 2 砂状土混じり灰色砂状粘土 (砂中に粘付 保土層)
- 3 淡黄色砂状粘土 (花崗岩がタテ状に露出 砂中に粘付 保土層)
- 4 淡黄色砂状粘土 (花崗岩がタテ状に露出 砂中に粘付 砂層に粘付 砂状粘土)
- 5 淡黄色砂状粘土 (花崗岩がタテ状に露出 砂中に粘付 砂層より褐色砂)
- 6 褐色砂状粘土 (Mn 多量 砂層 - 砂層に粘付)
- 7 淡黄色砂状粘土 (Mn 多量 砂層に粘付)
- 8 淡黄色砂状粘土 (Mn 多量 砂層)
- 9 淡黄色砂状粘土 (Mn 多量 砂層)
- 10 淡黄色砂状粘土 (Mn 多量 花崗岩のバイラン土を多量に含 砂層に粘付 砂層より粘り)
- 11 淡黄色砂状粘土 (Mn 多量 花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 12 淡黄色砂状粘土 (Mn 多量 花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 13 淡黄色砂状粘土 (Mn 多量 砂層)
- 14 淡黄色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含 黄土)
- 15 淡黄色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含 黄土)
- 16 淡黄色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含 黄土)
- 17 淡黄色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 18 淡黄色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 19 淡黄色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 20 淡黄色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含 黄土)

- 21 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 22 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 23 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 24 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含 砂層に粘付 砂層より粘り)
- 25 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 26 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 27 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 28 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 29 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 30 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 31 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 32 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 33 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 34 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 35 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 36 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 37 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 38 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 39 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)
- 40 褐色砂状粘土 (花崗岩のバイラン土を多量に含)

- 41 褐色砂状粘土 (シルト層)
- 42 褐色砂状粘土 (シルト層)
- 43 褐色砂状粘土 (シルト層)
- 44 褐色砂状シルト (シルト層)
- 45 褐色砂状シルト (シルト層)
- 46 褐色砂状シルト (シルト層)
- 47 褐色砂状シルト (シルト層)
- 48 褐色砂状シルト (シルト層)
- 49 褐色砂状シルト (シルト層)
- 50 褐色砂状シルト (シルト層)
- 51 褐色砂状シルト (シルト層)
- 52 褐色砂状シルト (シルト層)
- 53 褐色砂状シルト (シルト層)
- 54 褐色砂状シルト (シルト層)
- 55 褐色砂状シルト (シルト層)
- 56 褐色砂状シルト (シルト層)
- 57 褐色砂状シルト (シルト層)
- 58 褐色砂状シルト (シルト層)
- 59 褐色砂状シルト (シルト層)
- 60 褐色砂状シルト (シルト層)



第 48 図 基本層位 C13 区



第49図 B16・C13・D15s・D12区 遺構配置図

のF12区では52.8～53.1mを測り、地表面同様北へ僅かに傾斜している事が解る。

## 第2節 D調査区の遺構・遺物

### 1. C13・D15s・D12区

#### (1) 弥生時代の遺構・遺物

##### 溝状遺構

#### SDe01 (第50・51図)

末則丘陵西斜面部のC13区の東半部で検出した、大型の灌漑用の溝と考えられる溝状遺構である。この溝跡は標高54m前後の等高線に沿うように斜面部を南北方向に延びており、南端はA調査区からD調査区を経てC調査区へ至る総延長約300mを測る大型溝である。複数の調査区を重複しているため、調査区や報告書単位で名称が異なる。南からA調査区ではSDa05、D調査区ではSDe01、C調査区南半部ではSdb01、C調査区北半部ではSdb83に相当する溝状遺構である。SDe01はSxa03・Sfe02・Sde02・03等と重複し、これらの遺構との前後関係では、Sdb01はSde03より後出し、Sxa03・Sfe02・Sde02より先行する。D調査区での検出長は約44.0m、幅1.3～1.9m、深さ1.0～1.1mを測る。断面は「V」字状に近い隅丸逆台形状を呈し底面は幅が狭い。断面の堆積状況から推定して4期程度の改修がなされたものと考えられる。埋土中にはベースとなる花崗岩パイラン土を多量に含んだ堆積層が多い。下層は花崗岩パイラン土を多量に含んだ暗灰色系粘土～淡灰褐色系のシルトが主体になる。上層は花崗岩パイラン土を多量に含んだ暗茶灰褐色粘質土～暗黒茶褐色粘質土が主体となる。

埋土からは弥生土器・須恵器・石器類等が少量出土した。238・239・241・242は上層出土の古代前半の須恵器で、SDe01の最終埋没時期を示す土器である。238は7世紀中葉の杯蓋、239は杯、241は壺口縁部、242は甕である。226～228・233は上層出土の弥生時代後期前半頃の土器である。226・227は口縁端部に凹線文を施した壺の口頸部で、228は長頸壺の頸部である。229・230・232・234・237は下層出土の弥生時代後期後半頃の土器で、この溝跡の掘削時期を示す資料になる。229は壺底部、230は甕上半部である。232・234は甕の底部片、237は高杯脚部片である。

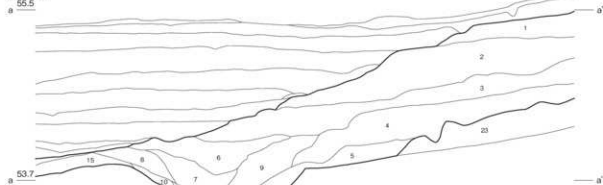
243～250はサヌカイト製の石器である。243は平基式の石鏃、244は槍先形石器である。欠損箇所がない希少な優品である。器面中央に素材面を残しており、肉厚な横長状の剥片を素材にしていることが解る。下半部のエッジには、装着痕と考えられる潰れ痕が認められる。245は直刃状の刃部をもつ石庖丁である。器面中央に素材面を多く残しており、肉厚な横長状の剥片を素材にしていることが解る。246～249は楔形石器の資料である。246は形状から楔形石器の素材段階の資料と考えられる。250は形状から石鏃に分類した。251は縦長状の大型剥片である。

#### SDe02 (第52図)

C13区東半部のSDe01の西側で検出した大型の溝状遺構である。削平を受けたものか、場所により残存状況の差があり、中央では溝状を呈しているが、北半部と南半部では落ち込み状を呈し浅い。SDe01に沿うように南北方向に延びており、SDe01との前後関係を断面でみれば、SDe02はSDe01より後出する。なお、SDe01とSDe02間では一部繋がっている区域もあり両者は有機的な関係が推定される。検出長約25.0m、幅0.9～1.7m、深さ約0.4mを測る。断面は幅広な椀底状を呈し、埋土上層

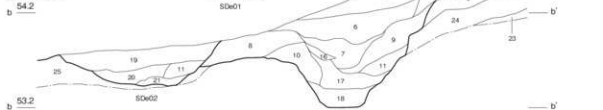
C13 北壁

55.5

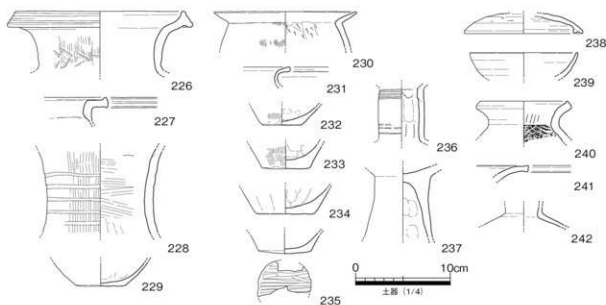


C13 中央畦

54.2



- |  |   |
|--|---|
| <p>1 雑草茶色粘質土 (花崗岩・バイラン土を多量に含)</p> <p>2 雑草灰褐色粘土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>3 雑草灰褐色粘土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>4 雑草灰褐色粘土 (花崗岩・バイラン土を多) 3層に類似 3層より細い</p> <p>5 淡茶色シルト質土+雑草灰褐色粘土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>6 雑草灰褐色粘土 褐色粘質土・淡茶色シルト (花崗岩・バイラン土を多) 小ブロック状 (6層~14層=SDe01)</p> <p>7 雑草茶褐色粘質土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>8 雑草灰褐色粘質土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>9 雑草灰褐色粘質土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>10 淡茶灰褐色粘質土 淡茶灰色シルト+ベース中に茶褐色粘質土を多)</p> <p>11 雑草灰褐色粘質土 (ベースに類似 ベースブロックの下がり)</p> <p>12 雑草灰褐色粘質土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>13 雑草褐色粘</p> | <p>14 淡灰褐色シルト (花崗岩・バイラン土を多量に含)</p> <p>15 雑草灰褐色粘質土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>16 粗砂質シルト+雑草茶褐色粘土 (7層に類似)</p> <p>17 雑草灰褐色粘土 (花崗岩・バイラン土を多量に含)</p> <p>ベースに類似 (17層~19層=SDe01)</p> <p>18 ベースブロック状+雑草灰褐色粘土 (花崗岩・バイラン土を多量に含)</p> <p>19 雑草茶褐色粘土 6層に類似 (19~21層=SDe02)</p> <p>20 ベース状+雑草灰褐色粘土 (粗砂・花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>21 雑草灰褐色粘土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>22 雑草灰褐色粘土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>23 雑草灰褐色粘土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>24 雑草茶褐色粘土 (花崗岩・バイラン土を多)</p> <p>25 黄褐色粘土 (Mn 点・粗砂含 (ベース))</p> |
|--|---|

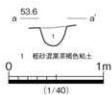
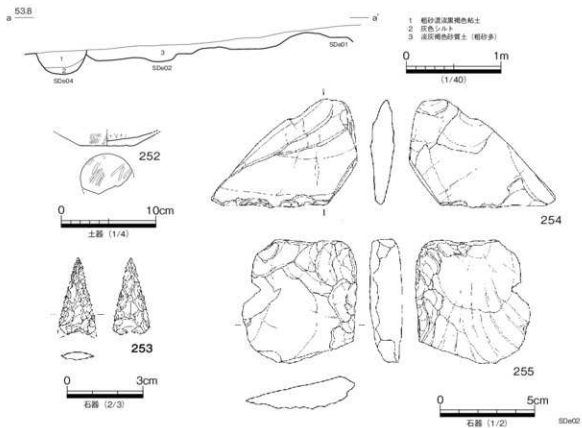


226, 227, 228, 233, 236, 239, 241, 242 上層  
 229, 230, 232, 234, 237 下層  
 231, 235 SDe01・39f)

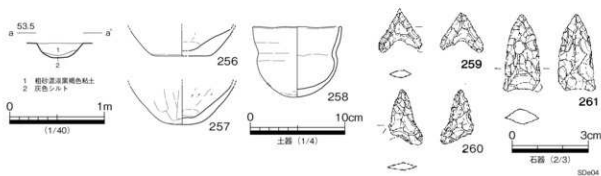
第50図 SDe01・02断面図, 出土遺物



第 51 図 SDe01 出土遺物

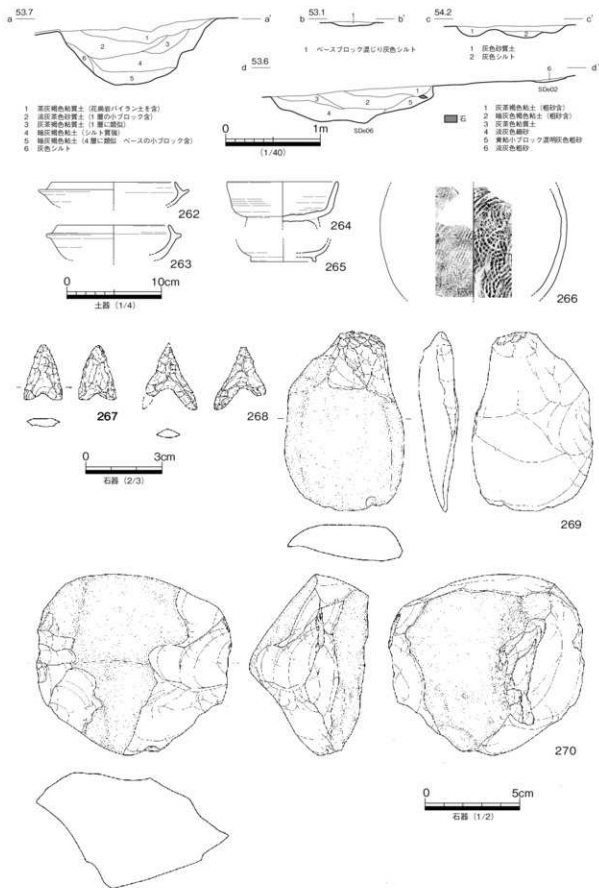


SDe03



第 52 図 SDe02～04 断面図, 出土遺物





第 53 図 SDe06 断面図, 出土遺物

は暗黒茶褐色系の粘土、下層はベース（花崗岩パイラン土）混じりの暗茶褐色系の粘土が主体となる。埋土からは弥生土器・石器等が少数出土した。252は弥生時代後期後半新相頃の壺の底部片である。253はサヌカイト製の凹釜式の石鏃である。254は横長状の剥片を素材にした刮器で、255は側縁部に調整を加えた二次加工ある剥片である。出土遺物からSDe02は弥生時代後期後半新相以降に埋没を開始した溝跡と考えられる。

#### SDe03 (第52図)

C13区北東半部のSDe01の西側で検出した北西方向に直線状に延びる溝状遺構である。この溝跡はSDe01・06と重複し、それらの溝より先行する。なお、途中未検出であるが、C区SD40に繋がるものと考えられる。検出長約5.0m、幅約0.3m、深さ約0.2mを測る。断面は「U」字状を呈し、埋土は粗砂混じり黒茶褐色粘土からなる。SDe03の埋土からは遺物が出していないため、SDe03の詳細な時期判断には無理があるが、SDe01・06と重複し、それらの溝より先行することから弥生時代に含まれる可能性が高い。

#### SDe04 (第52図)

C13区中央部で検出した南北方向に直線状に延びる溝状遺構である。この溝跡はSDe05・SXe03と重複しSDe05より先行する。検出長約8.5m、幅約0.5m、深さ約0.15mを測る。断面は幅広い碗底状を呈し、埋土上層は粗砂混じり淡黒褐色粘土、下層は灰色シルトからなる。

埋土からは弥生土器・石器等が少数出土した。256・257は弥生時代後期後半新相頃の甕底部片である。258は小型丸底壺である。259～261はサヌカイト製の石鏃である。SDe04は出土遺物と検出状況より、弥生時代後期後半新相以降に埋没した溝跡と考えられる。

### (2) 古代の遺構・遺物

#### 溝状遺構

#### SDe06 (第53図)

C13区中央部を南北方向に延びるが、途中西方へ「ク」の字状に屈曲している溝状遺構である。なお、この溝跡はC調査区Sdb06に相当する溝状遺構である。この溝跡はSDe02・03・04・10と重複し、前後関係ではSDe06はSDe10より先行し、SDe02・03・04より後出する。C13区内の検出長は約51.0m、幅0.4～1.7m、深さ約0.05～0.6mを測る。断面は幅広い碗底状を呈し、埋土上層は灰茶褐色系の粘質土、下層は暗灰褐色系の粘土からなる。

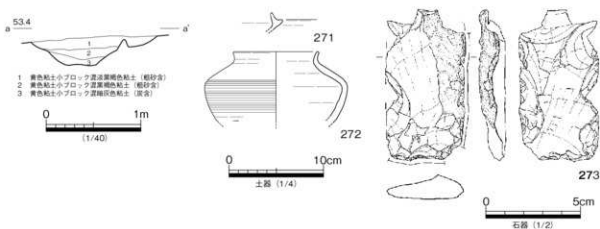
埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・石器等が少量出土した。262～266は須恵器の資料である。262・263は6世紀末頃の杯身、264・265は7世紀末～8世紀前半頃の杯である。267～270は石器類である。267・268はサヌカイトの石鏃である。268は形状より縄文時代の石鏃の可能性が高い。269は大型の縦長気味の剥片である。270は礫の側縁部に打面調整を行い、剥片剥離開始して間もない石核である。出土遺物からSDe06は8世紀前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDe11 (第54図)

C13区北半部、SDe05の西側に位置し南北方向に延びる溝跡で、B16区のSdb07に続く溝跡である。

C13区内の検出長約14.0m、幅約0.9～1.3m、深さ約0.3mを測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土はベースの黄色粘土小ブロック混じり黒褐色粘土が主体を占める。埋土からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土している。

271は須恵器杯身口縁部片である。272は底部を欠く須恵器短頸壺である。273はサヌカイト製の大型剥片を素材にした石庖丁である。出土遺物からSDe11は7世紀初頭以降に埋没した溝跡と考えられる。

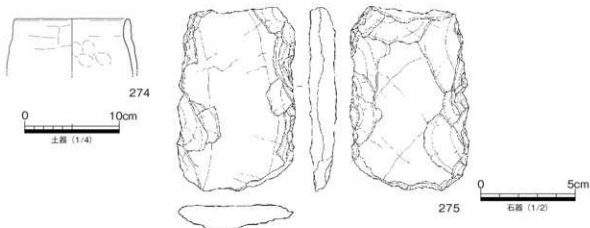


第54図 SDe11 断面図, 出土遺物

#### 不整形遺構

#### SXe03 (第55図)

C13区中央、SDe04の左右両岸部で検出した不整形な浅い落ち込み状の遺構で、SDe04の一部がオーバーフローした後の最終堆積層の可能性ある。検出長約7.0m、幅約3.7m、深さ約0.2～0.3mを測る。埋土からは弥生土器・土師器、石器等が数点出土した。274は6世紀頃の製塩土器の上半部である。275はサヌカイトの石鉞である。肉厚で大型の横長剥片を素材に用い、側縁から調整剥離を加えている。出土遺物からSXe03は6世紀以降に埋没した遺構と考えられる。



第55図 SXe03 出土遺物

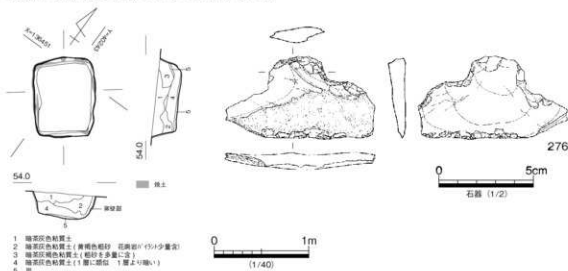
### (3) 中世の遺構・遺物

#### 焼成土坑・窯跡

##### SFe00 (第56図)

C13区北半部で検出した土坑である。SDe02と重複しSDe02を切り込んでいる。掘方周囲の壁面は焼土化が著しく、土坑最下層には炭が薄く堆積しており、内部で長期間火を焚いた痕跡と考えられる。平面は隅丸長方形形状、断面は逆台形状を呈する。長径1.70m、短径1.35m、深さ0.50m、主軸方位N36.5°Wを測る。埋土は暗茶灰色粘質土が主で、最下層に灰が薄く堆積している。検出状況からSKe01は近世以降の焼成土坑と考えられるが、何を目的とした土坑か詳細な点は今後の課題になる。

埋土からは石器が数点出土したが、出土状況から混入品と考えられる。276はサヌカイトの石匙である。横長状の剥片を素材に用いた横型の石匙で、側縁部には表裏両面からの調整剥離痕が認められ、素材剥片の打点周辺を摘みとして整形している。

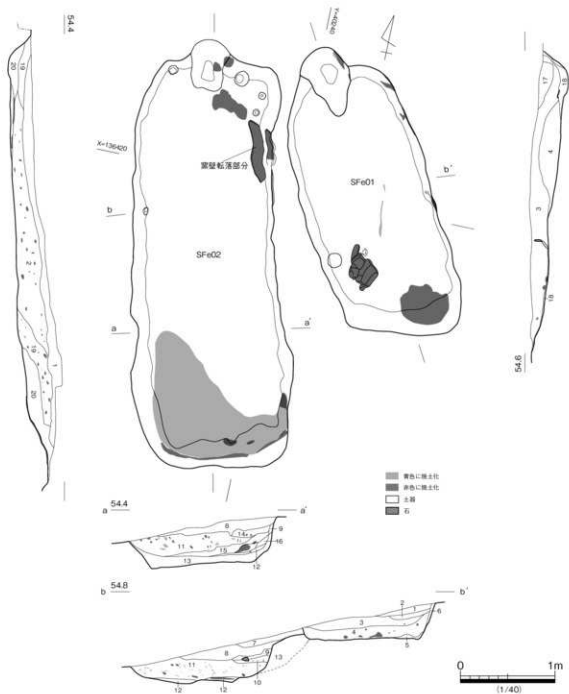


第56図 SFe00平・断面図, 出土遺物

##### SFe01 (第57図)

C13区南端部で検出した木炭窯である。西側にはSFe02が隣接しており、堆積状況から前後関係をみれば、SFe02が先行しSFe01が後出することが解る。削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は長楕円形状を呈し、煙道と考えられるピット状の窪みが北端の短辺部に確認できる。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は平坦で煙道部に向けて緩やかに傾斜している。長径3.3m、短径1.35m、深さ0.1～0.3m、主軸方位N31°Wを測る。埋土は褐色焼土や炭片、花崗岩バイラン土等を多量に含んだ淡茶褐色ブロック層が主体を占め、壁面及び焚口附近は赤褐色に焼土化している箇所がある。

埋土の上層からは土師器、須恵器片が少量出土した。277は土師器小皿である。278は12世紀頃の須恵器椀である。なお、この土器はSXe02出土の土器と接合関係にある。出土遺物からSFe01は12世紀後半頃に廃絶した木炭窯と考えられる。



- |   |  |
|---|--|
| <p>1 淡茶褐色砂質土（黄土色）</p> <p>2 淡茶褐色</p> <p>3 淡茶褐色砂質土（褐色土の隅の茶褐色粘土の花崗岩・バイラン土等の小ブロックを多量に含（1層より多い））</p> <p>4 淡茶褐色ブロック層（褐色土の隅・茶褐色粘土の花崗岩・バイラン土等のブロックを多量に含（3層より多い））</p> <p>5 褐色粘土、並が多量に含まれた淡茶褐色層（4層に類似）</p> <p>6 赤土層褐色土（灰層部）</p> <p>7 淡茶褐色粘質土（灰好を含）</p> <p>8 淡茶褐色粘質土（部分的に灰を含む、土層）</p> <p>9 茶褐色粘土（灰砂土、灰土ブロック）</p> <p>10 褐色粘土・灰・茶褐色粘土等のブロック層（壁体が転落したものでか？）</p> | <p>11 褐色粘土・灰褐色粘土・灰等が混じるブロック層（灰の比率が多く、全体の色調は茶褐色を呈する）</p> <p>12 褐色粘土・灰層が互層で入っている（灰層部）</p> <p>13 粗砂混じり褐色粘土（中世生活層、多量に類似）</p> <p>14 粗砂混じり淡茶褐色粘質土（粘土ブロック・灰片を含む）</p> <p>15 粗砂混じり雑質茶褐色粘質土（粘土ブロック・灰片を含む）</p> <p>16 粗砂混じり雑質茶褐色粘質土（15層とほぼ同様、層中に多い）</p> <p>17 淡茶褐色砂質土・褐色土の隅の茶褐色粘土・花崗岩・バイラン土等の小ブロックを多量に含）</p> <p>18 灰・花崗岩・バイラン土ブロックを含む（類似）</p> <p>19 褐色粘土・灰褐色粘土・灰等が混じるブロック層（3に比べ灰の比率は低い）</p> <p>20 灰化物質</p> |
|---|--|



第57図 SFe01・02平・断面図, 出土遺物

#### SFe02 (第57図)

C13区南端部で検出した木炭窯である。東側にはSFe01が隣接しており、断面トレンチの堆積状況からみて、SFe02が先行しSFe01が後出することが解る。削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は長楕円形状を呈し、煙道と考えられるピット状の窪みが北端の短辺部に確認できる。断面形状は船底状を呈し、床面は平坦で煙道部に向けて緩やかに傾斜している。煙道付近の床面では4基の小ピットを検出した。長径9.0m、短径3.1m、深さ0.5～0.8m、主軸方位N12°Wを測る。埋土上層は淡灰褐色粘質土、中層は褐色粘土・灰茶色粘土・多量の炭等が混じるブロック層、下層では褐色焼土・炭層が互層で入る堆積層等が認められる。

埋土の上層からは中世の土師器片が少量出土した。279は底部を欠く土師器杯である。出土遺物や検出状況からSFe02はSFe01より古い窯跡と考えられるが、大きな時期差があるものとは考えられない。

#### 溝状遺構

#### SDe07 (第58図)

C13区南半部のSDe08・09間で検出した南北に直線気味に延びる溝状遺構である。削平を受けたものと考えられ残りが悪い。SDe07はSDe08・10と重複し、前後関係では両溝より先行する。検出長約11.5m、幅約0.5m、深さ約0.05～0.1m、主軸方位はN20°Wを測る。断面は凹凸のあるレンズ状を呈し、埋土は淡灰茶色粘質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。280須恵器碗の底部、281は土師器甕の口縁部片である。出土遺物が少なく、SDe07の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世以降に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDe08 (第58図)

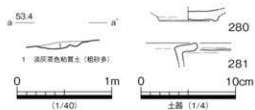
C13区南半部SDe05の西側で検出した北西方向へ直線気味に延びる溝状遺構である。削平を受けたものと考えられ残りが悪い。SDe07・09・10と重複し、前後関係ではSDe10より先行し、SDe07・09より後出する。検出長約26.0m、幅約1.0m、深さ約0.1mを測る。断面は凹凸のある皿状を呈し、埋土上層は暗灰色砂、下層は灰色シルトからなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器片等が少量出土した。282は須恵器杯の底部、283は須恵器甕の体部片である。284はサヌカイト製石鏝である。出土遺物及び検出状況からSDe08は12世紀以降に埋没した溝跡と考えられる。

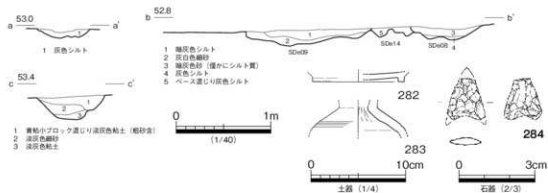
#### SDe09 (第58図)

C13区南半部SDe07の西側で検出した北西方向へ直線気味に延びる溝状遺構である。削平を受けたものと考えられ残りが悪い。SDe09はSDe08・10と重複し、前後関係ではSDe08・10より先行する。検出長約20.5m、幅約1.0m、深さ約0.1mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土上層は暗灰褐色粘土、下層は淡灰色粗砂からなる。

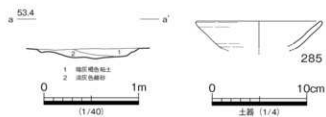
埋土からは土師器・須恵器等が少量出土した。285は底部を欠く土師器杯である。出土遺物が少なく、SDe09の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世以降に埋没した溝跡と考えられる。



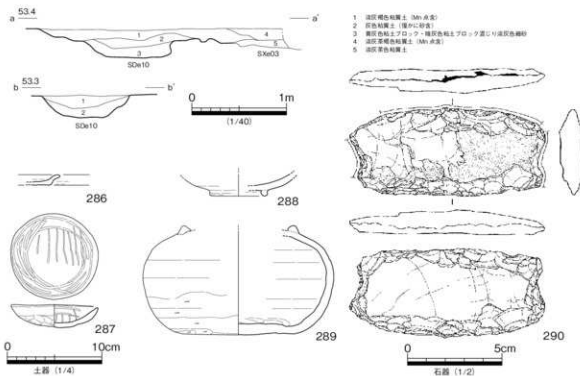
SDe07



SDe08



SDe09



SDe10

第 58 図 SDe07～10 断面図，出土遺物

#### SDe10 (第58図)

C13区南端部、C13区とB10区の境界付近に所在するSXa03の西側縁から、西方のD12区方向に向けて延びる溝跡である。SXa03は中世の水溜状の遺構であり、検出状況からSDe10はSXa03の排水溝の可能性が高い。検出長約14.5m、幅約1.0m、深さ約0.25mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は灰色系の粘質土からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器片等が少量出土した。286は土師器小皿片である。287は12世紀以降の和泉型の瓦器小皿である。外面下半部にはオサエ、内面には並行する直線状の暗文が顕著に施している。288は須恵器椀の底部である。289は須恵器の提瓶に類似した異形土器である。形状はヤカン状を呈する土器である。底部は平底、外面には回転ヘラケズリ、体部肩部には小さな突起が付く。290はサヌカイト製の石応丁である。表裏面伴に素材面を大きく残し、素材が大型の横長剥片であることが解る。出土遺物や検出状況からSDe10は12～13世紀以降に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDe12 (第59図)

D15s区中央に位置し僅かに東に湾曲し南北方向に延びる溝状遺構である。SDe13と重複し、この溝はSDe13より先行する。検出長約23.5m、幅約0.7m、深さ約0.1mを測る。断面は凹凸のある皿状を呈し、埋土上層は暗灰色系の粘質土、下層は淡灰色系砂質土からなる。

SDe12の埋土からは遺物が出土していないため時期判断には問題を残すが、検出状況等から中世以降に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDe13 (第59図)

北端はC20区に位置し調査区外に延びる。C19w・C18・C17・D15n区を経由し、南端はD15s区に至る。延長143mを測る長い溝状遺構である。SDe13の北半部では、『西末則遺跡Ⅲ』で報告しているSDd082及び前章のC調査区Sdb29にあたる溝跡である。

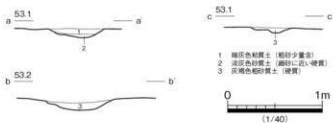
D15s区では、調査区際を南北方向に延びる溝状遺構である。調査区北端部では東西方向の幅広で浅い落ち込みが合流しているが、SDe13と切り合いが認められないため、SDe13と一連で同時期の遺構と考えられる。この落ち込みとSDe12は重複し、SDe12はこの溝より先行する。D15s区の検出長約25.0m、幅1.4～3.4m、深さ0.1～0.25m、主軸方位はN6°Eを測る。断面は凹凸のある不整形な形状を呈し、埋土上層は灰色系の砂質土、下層は灰色系シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器、石器等が少量出土した。291～294は須恵器である。291・292は杯で、291は高台杯の底部である。293は高杯脚部、295は瓶の底部に分類した。294は類例が乏しいが瓶の上半部と推定される。296はサヌカイトの二次加工ある剥片、297は片岩製の二次加工を施した剥片である。出土遺物では古代後半頃の遺物が主体を占めるが、SDe13の北半部にあたるC調査区Sdb29では中世前半頃の遺物を少量含むため、埋没期は中世前半以降の可能性はあるが、開削期については古代後半期の可能性が高い。

#### SDe15 (第59図)

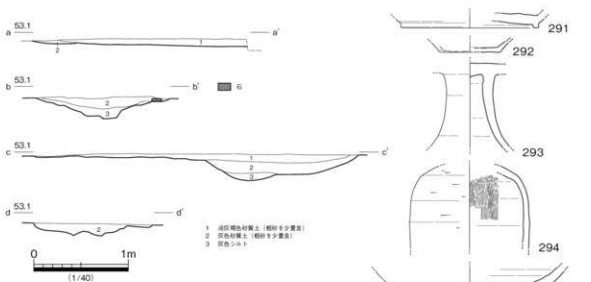
D12区南半部で検出した北西方向から南西方向へ延びる直線状の溝跡である。東端部でSDe09と重複し、この溝跡はSDe09より先行する。検出長約19.0m、幅約0.55m、深さ約0.1m、主軸方位は



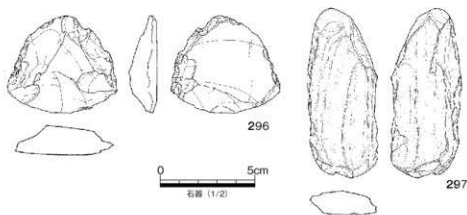


- 1 緑灰色粘質土 (細砂少量混)
- 2 淡灰色粘質土 (細砂に花い硬質)
- 3 灰褐色粘質土 (硬質)

SDe12

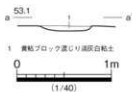


- 1 淡灰色粘質土 (細砂少量混)
- 2 灰褐色粘質土 (細砂少量混)
- 3 原形ノコト



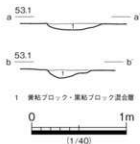
0 10cm  
土器 (1/4)

SDe13



- 1 黄粘ブロック盛り淡灰白粘土

SDe14



- 1 黄粘ブロック・黄粘ブロック混合層

SDe15

第59図 SDe12～15断面図・出土遺物

N63° Eを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は黄色・黒色粘土のブロック層からなる。埋土からは中世小皿片や須恵器片が少量出土したため、出土遺物から SDe15 は中世以降に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDe16 (第60図)

D12区南端部で検出した東西方向に延びる直線状の溝跡である。途中未検出の部分もあるが検出状況より、C13区の SDe10 に連続する溝跡と考えられる。検出長約 21.0 m、幅約 0.6 m、深さ約 0.15 m、主軸方位は N87° W (N3° E) を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は灰色系シルトが主体となる。

埋土からは土師器・須恵器、石器が少量出土した。298 は土師器杯である。299・300 はサヌカイトの石鏃である。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、SDe16 と SDe10 との連続性から考えて、SDe16 は SDe10 同様の 12～13 世紀以降に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDe17 (第60図)

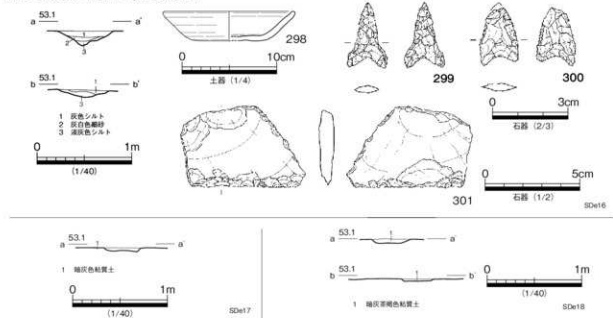
D12区南端部で検出した湾曲気味に北東方向に延びる直線状の溝跡である。SDe16・18 と重複し、この溝跡は SDe16・18 より後出している。検出長約 12.3 m、幅約 0.4 m、深さ約 0.05 m を測る。断面は浅い逆台形状を呈し、埋土は暗灰色粘質土からなる。

埋土からは遺物が出土していないため時期判断には問題を残すが、検出状況等から SDe17 は中世以降に埋没した溝跡と考えられる。

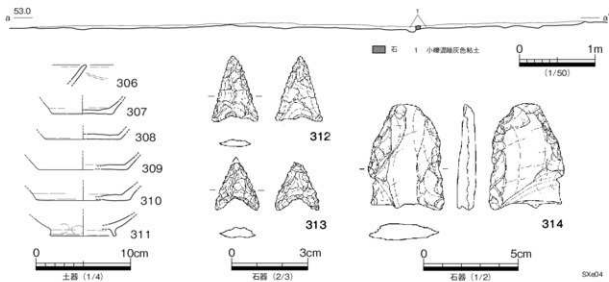
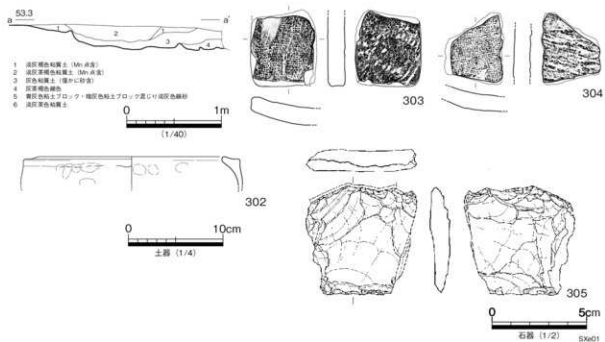
#### SDe18 (第60図)

D12区南端部で検出した湾曲気味に東西方向に延びる直線状の溝跡である。SDe17 と重複し、この溝跡は SDe17 より後出している。検出長約 12.0 m、幅約 0.4 m、深さ約 0.05 m を測る。断面は浅い逆台形状を呈し、埋土は暗灰色粘質土からなる。

埋土からは遺物が出土していないため時期判断には問題を残すが、検出状況等から SDe18 は中世以降に埋没した溝跡と考えられる。



第60図 SDe16～18 断面図，出土遺物



第 61 図 SXe01・04 断面図、出土遺物

不整形遺構

#### SXe01 (第 61 図)

C13 区南端の SDe07～09 合流部の落ち込み状の遺構を指す。本来 3 条の溝の切り合いを平面上で確認後、順次掘り分けて調査を進める予定であったが、検出段階では切り合いが不明瞭で、掘り分けができなかった。幅 2.0 m 以上、深さ約 0.2 m を測る。埋土は灰色系の粘質土からなる。

埋土からは土師器、瓦、石器等が少量出土した。302 は土師器足釜の口縁部である。303・304 は平瓦片である。305 はサヌカイトの石庵丁未製品である。出土遺物が少なく、SXe01 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世以降に埋没した遺構と考えられる。

#### SXe04 (第61図)

D15s 区の北半部で検出した不整形で浅い谷状の遺構で、自然地形の浅い窪みに包含層が堆積したものと考えられる。北西方向に向け「ハ」字状に開き、南端部は尖り気味に収束している。中間幅約 7.3 m、深さ約 0.05 m を測る。断面は凹凸のある浅いレンズ状を呈し、埋土は小礫混灰色粘土からなる。

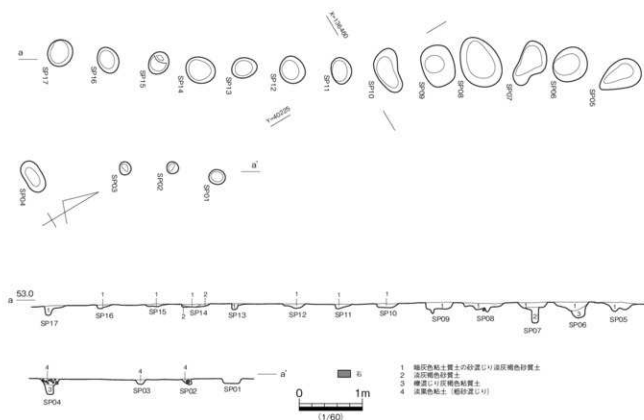
埋土から土師器・須恵器・黒色土器、石器等が少量出土した。306～310 は須恵器杯である。311 は黒色土器碗の底部である。312・313 はササカイトの凹基式の石鏃である。314 はササカイトの槍先形石器の未製品に分類したが、石斧ないし石鏃の可能性もある。出土遺物が少なく、SXe04 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から古代末～中世前半以降に埋没した遺構と考えられる。

#### (4) 時期不明の遺構

##### 柵列

#### SAe01 (第62図)

C15s 区南半部で検出した柵列である。約 15.0 m の直線上に円～不整形形のピットが計 19 基確認した。ピットは削平を受けて残りが悪く不揃いである。径 0.2～0.8 m、深さ 0.1～0.3 m、主軸方位は N32° E を測る。埋土は灰色系の砂質土と黒色系の粘土からなる。形状から推定して、柵列とみるより、底面の凹凸が著しい溝跡が削平により底部の窪み部分が残存した可能性が高い。遺物が出土していないため、時期判断には問題を残す。

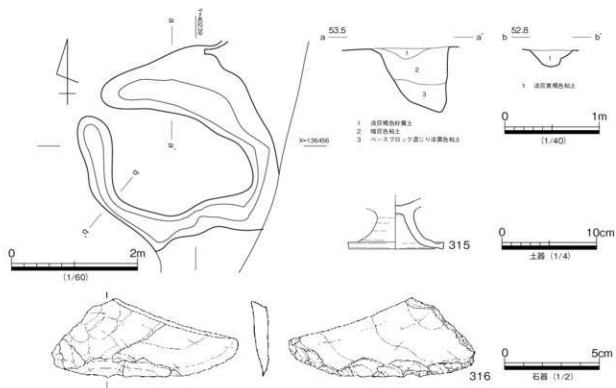


第62図 SAe01 平・断面図

## SXe02 (第63図)

C13区の北端部SDe06の西側で検出した不整形遺構である。馬蹄形状の形状を呈する溝状の遺構であるが、溝底の凹凸が著しく人為的な遺構とは考えられない。おそらく、古代以降の風倒木の跡と考えられる。

埋土からは土師器・須恵器、石器等の遺物が出土した。315は7世紀頃の須恵器高杯の杯部である。316はサヌカイト製の横長剥片を素材とした削器で混入品であろう。



第63図 SXe02 平・断面図, 出土遺物

## (5) 柱穴・包含層出土遺物 (第64・66図)

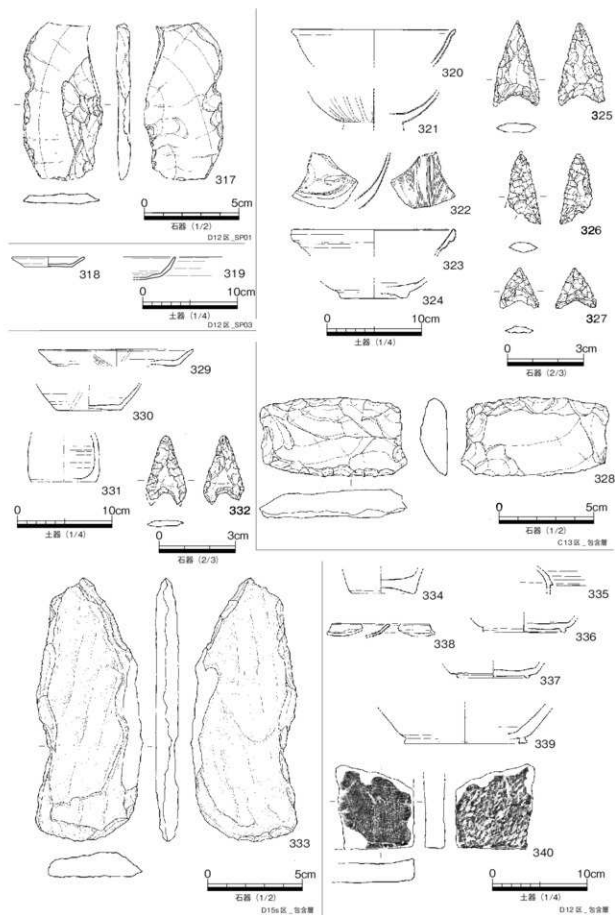
C13・D15s・D12区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物と包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

317～319はD12区の柱穴から出土した遺物である。317はSP01から出土したサヌカイトの横長剥片のエッジに調整を加えた削器である。318・319はSP03から出土した土師器杯である。

320～328はC13区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。320～324は青白磁の資料で、320～322は青磁碗、323・324は白磁碗である。325～327はサヌカイトの石鏝、328は安山岩製の石庖丁である。安山岩製のものは非常に稀な資料である。

329～333はD15s区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。329・330・331は須恵器の資料である。329は皿、330は杯、331は瓶である。332はサヌカイトの石鏝、333は片岩製の比較的大型の剥片で、おそらく石庖丁等の磨製石器の素材であろう。

334～340はD12区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。334は弥生時代前期頃の甕底部片、

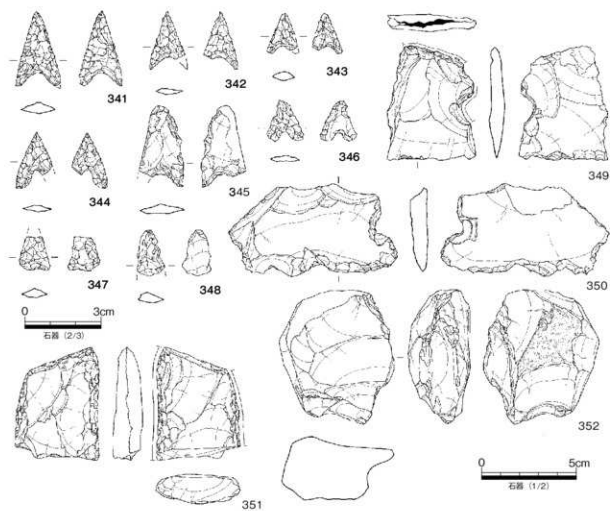


第 64 图 D12 区柱穴・C13・D15s・D12 区包含層出土遺物



第 65 図 E15・E14・E13・F12 区 遺構配置図

335～337・339は須恵器の資料である。335は杯蓋でTK47並行期頃の時期が考えられる。336・337は高台付杯の底部で8世紀中頃以降の土器である。339は壺の底部にしたが、瓶に分類すべき遺物かもしれない。338は緑釉陶器の皿である。340は布目と縄目を施した平瓦片である。341～352はサヌカイト製の石器類である。341～348は石鏃、349・350は形状から打製石砲丁の未製品に分類した。351はエッジの潰れ痕が顕著なため楔形石器にしたが、小型の石斧ないし石鋸の可能性もある。352は肉厚な剥片を素材にし、横長状の剥片を剥ぎ取った石核である。



第66図 D12区包含層出土遺物

## 2. E15・E14・E13・F12区

### (1) 弥生時代の遺構・遺物

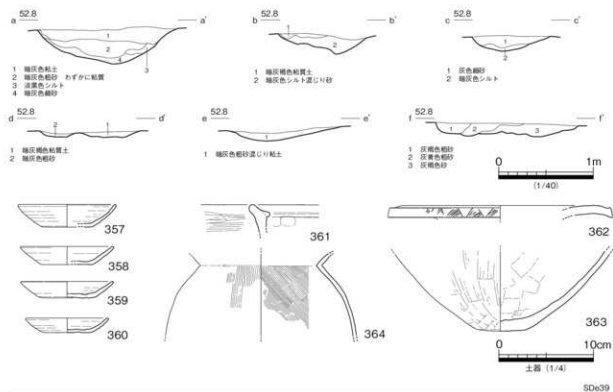
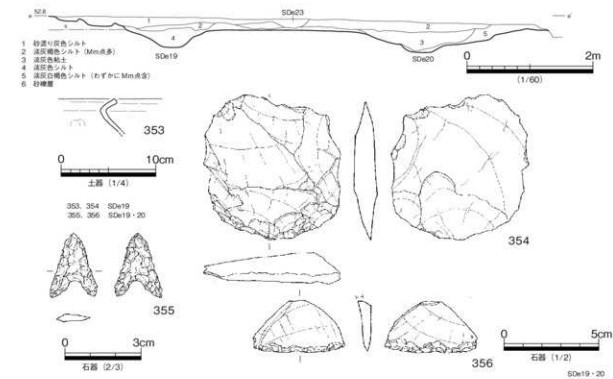
#### 溝状遺構

#### SDe19 (第67図)

E14区南西端部で検出した東西方向に延びる溝跡である。SDe21やSDe19等により大部分が壊されており、残りが悪く遺構の実態は不明瞭である。検出長約5.0m、幅約20m、深さ約0.2mを測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土は淡灰色シルトからなる。

埋土からは弥生土器、石器等が少量出土している。353は弥生土器甕口縁部片である。354は横長剥片を素材にしたサヌカイトの搔器である。355・356は出土地点が不明瞭ではあるが、SDe20ないし





第 67 図 SDe19・20・39・40 断面図, 出土遺物

SDe21 から出土したサヌカイトの石鏃及び削器である。出土遺物より SDe19 は弥生時代後期後半以降の溝跡と考えられる。

#### SDe20 (第 67 図)

E14 区南東端部で検出した北西方向に延びる溝跡である。SDe21 や SDe19 等により大部分が壊されており、残りが悪く遺構の実態は不明瞭である。検出長約 12.5 m、幅 1.3 ～ 2.0 m、深さ約 0.2 m を測る。断面は凹凸のある隅丸逆台形状を呈し、埋土は淡灰色粘土からなる。

埋土からは弥生土器、石器等が少量出土している。出土遺物より SDe20 は、SDe19 同様の弥生時代後期後半以降の溝跡と考えられる。

#### SDe39 (第 67 図)

F12 区南東辺から北西方向に向けて直線気味に延びる弥生時代の溝状遺構である。この溝跡は F12 区の多数の柱穴や溝跡に切り込まれ、全ての遺構に対して先行する。検出長約 31.5 m、幅約 0.8 ～ 1.55 m、深さ 0.1 ～ 0.4 m、直線気味の南半部の主軸方位は N30° W を測る。断面は場所により形状は異なるが、浅い皿～幅広な U 字状を呈し、埋土は主に灰色系の粘土～砂からなる。

埋土の上位層からは中世土器が混じるが、下位層からは弥生時代後期後半頃の土器が出土している。357 ～ 360 は土師器杯、361 は土師器足釜口縁部片であるが、おそらく混入品であろう。362 ～ 364 は弥生時代後期後半新相頃の資料で、362 は広口壺の口縁部で、口唇部には鋸歯文を施している 363 は壺体部の下半部である。364 は甕の上半部片である。SDe39 は上位層に中世土器が混入しているが、下位層の遺物より弥生時代後期後半新相以降に埋没した溝跡と考えられる。

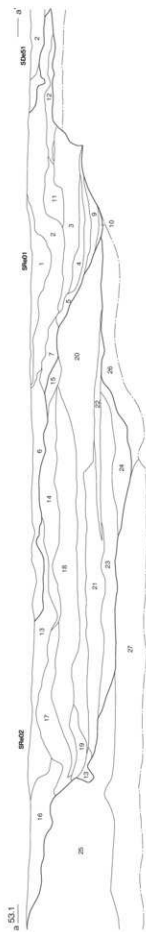
#### SDe40 (第 67 図)

F12 区南東辺から北西方向に向けて SDe39 と並行に短く直線気味に延びる溝状遺構である。検出長約 3.0 m、幅約 0.5 ～ 0.9 m、深さ約 0.2 m、南半部の主軸方位は N38° W を測る。埋土から遺物が出土していないため SDe40 の詳細な時期判断には無理があるが、配置等より SDe39 に類似した時期が考えられる。

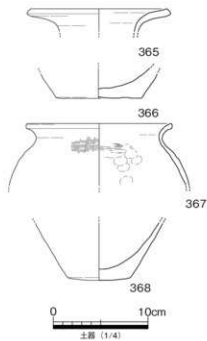
#### 自然河川

#### SRe01・02 (第 68 図)

F12 区南東端部で確認した弥生時代後期後半以降の自然河川である。トレンチ調査で確認した河川のため、詳細な内容については不明瞭な点が多い。遺構面上面の検出状況からルートをとれば、F12 区南東端から E13 区の SDe29・30・32 周辺、E14 区の SDe20・21 周辺に延びて、北村用水を越え J・H 調査区の SRj01 に至る。また、南方では E 調査区の E10 区 SDe23 あたりに連続する可能性がある。F12・E13・E14 区を合わせた検出長約 70.0 m、幅 SRe01 約 9.7 m 以上、SRe02 約 11.0 m、深さ SRe01 約 1.2 m、SRe02 約 1.8 m を測る。SRe01 の断面形状は幅広 V 字状、SRe02 の断面は幅広逆台形状を呈する。トレンチの堆積層中からは、弥生時代後期後半以降の土器が数点出土した。365 は広口壺の口頸部で、366 は壺の底部片である。367 は甕の上半部、368 は甕の底部片である。



- SRe01
- 1 遺構の中心部
  - 2 遺構の側面 (壁の基部)
  - 3 遺構の側面
  - 4 遺構の側面
  - 5 遺構の側面
  - 6 遺構の側面
  - 7 遺構の側面
  - 8 遺構の側面
  - 9 遺構の側面
  - 10 遺構の側面
  - 11 遺構の側面
  - 12 遺構の側面
- SRe02
- 13 遺構の側面
  - 14 遺構の側面
  - 15 遺構の側面
  - 16 遺構の側面
  - 17 遺構の側面
  - 18 遺構の側面
  - 19 遺構の側面
  - 20 遺構の側面
  - 21 遺構の側面
  - 22 遺構の側面
  - 23 遺構の側面
  - 24 遺構の側面
  - 25 遺構の側面
  - 26 遺構の側面
  - 27 遺構の側面



第 68 図 SRe01・02 断面図, 出土遺物

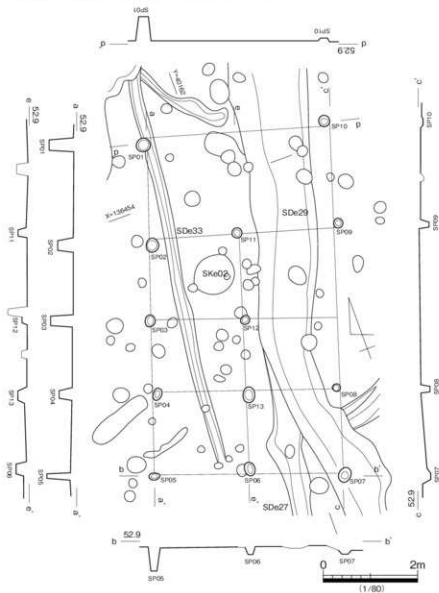
(2) 中世～近世初頭の遺構・遺物

掘立柱建物

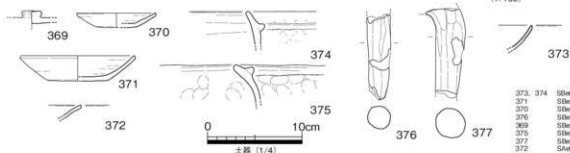
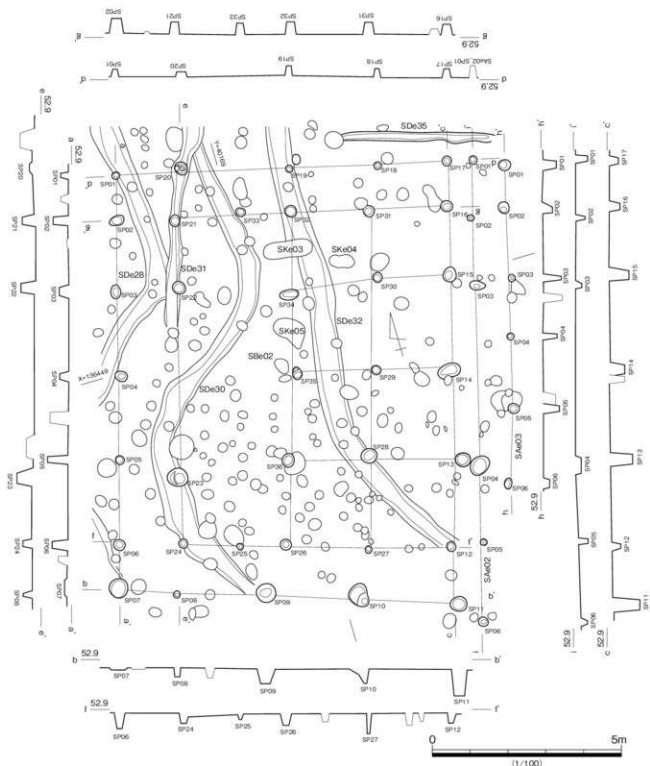
SBe01 (第69図)

E13区西端部に検出した梁間2間・桁行4間の南北棟の総柱建物である。西側にはSBe02が向きを揃えて隣接する事から、SBe02は関連する建物と考えられる。SBe01はSDe29と重複し、前後関係では、この建物はSDe29より後出する。(2間 4.0 m) × 4間 (7.5 m)、面積30.0㎡、主軸方位N18° Eを測る。柱間は梁間2.0 m、桁行1.5～2.2 mを測る。柱穴掘方は円形～楕円形状を呈し、柱穴径は0.05～0.5 m、深さ0.1～0.35 mを測り、かなり不揃いである。

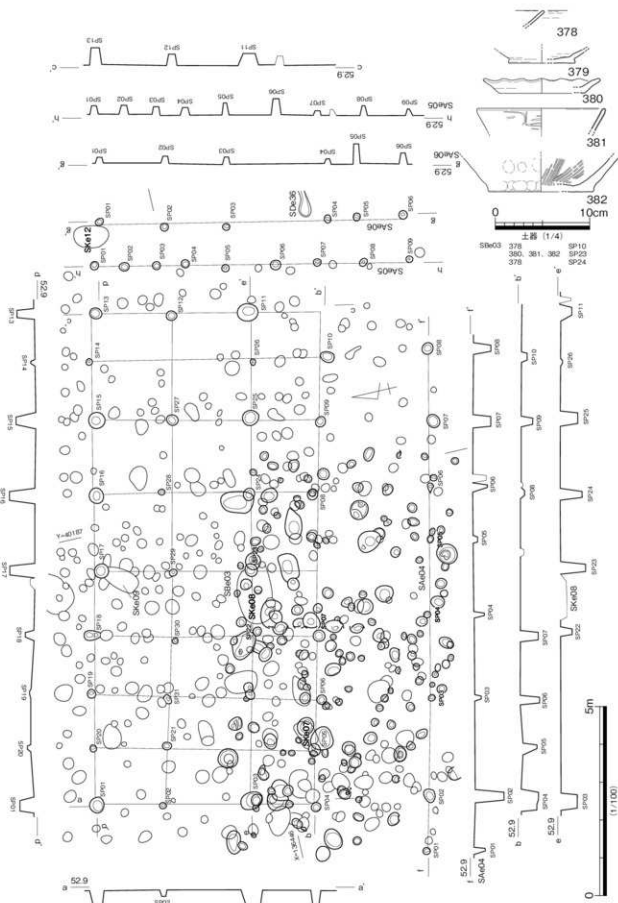
柱穴からは土師器細片が少量出土した。出土遺物が少なくSBe01の詳細な時期判断には無理があるが、SBe02との関係から概ね中世末以降の建物と考えられる。



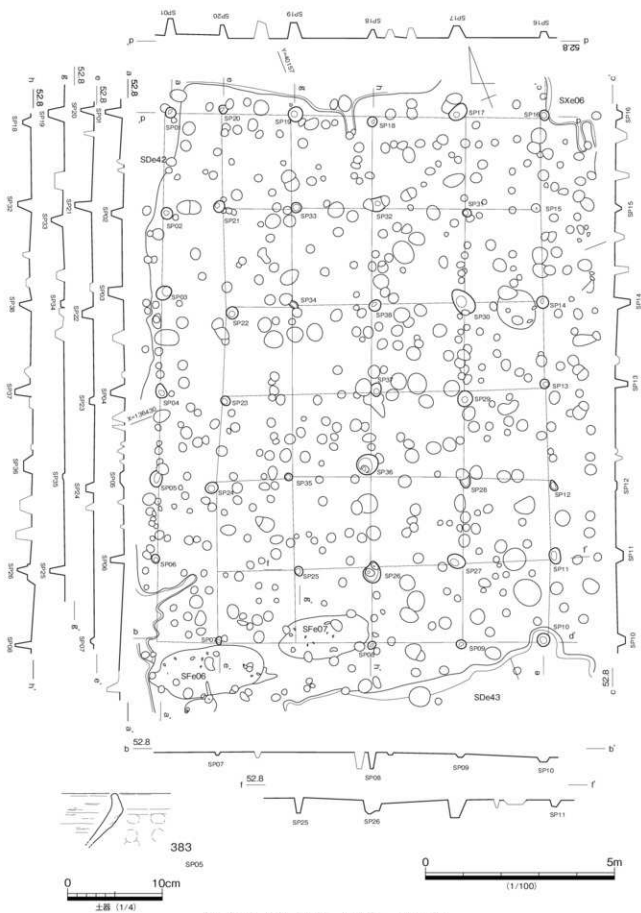
第69図 SBe01 平・断面図



第70図 SBe02 · SAe02 · 03平・断面図，出土遺物



第71図 SB03・SAe04～06平・断面図、出土遺物



第72図 SBe04平・断面図，出土遺物

#### SBe02 (第70図)

E 13区西半部で検出した西をSBe01、東をSBe03に挟まれた中間に配置する建物で、密集する柱穴群の中からの南北棟の大型建物跡を整理作業の段階で確認した。E 13区のSBe02を含めたSBe01～03の3棟の建物は北辺を直線状に揃えていることで、配置の規格的性がみられることから、同時期に営まれた建物の可能性が高い。SBe02はSDe28～32と重複し、前後関係ではSBe02はこれらの溝跡より後出する。なお、北辺に隣接するSDe35はSBe02の雨落溝と考えられる。身舎は梁間4間・桁行4間、南・北・西面の3面には廂ないしは回廊が1間分付設するものと考えられる。身舎の東半部の床には東柱が備わることから、一部高床構造の建物と考えられる。

身舎は4間(7.3m)×4間(8.9m)、面積64.7㎡、主軸方位N140°Eを測る。柱間は梁間1.4～2.1m、桁行1.8～2.5mを測る。柱穴掘方は円形～不整形形状を呈し、柱穴径は0.2～0.5m、深さ0.3～0.6mを測り、かなり不揃いである。廂ないし回廊部分を含めた構造では、5間(8.8m)×6間(11.5m)、面積101.2㎡、主軸方位N14°Eを測る。

柱穴からは須恵器・土師器・陶器等が少量出土した。369は8～9世紀頃の須恵器杯蓋である。370・371は土師器杯、374・375は土師器足釜口縁部、376・377は土師器足釜脚部片、373はSP14から出土した陶器碗の口縁部片である。SBe02は出土遺物や検出状況等から、中世末以降の建物と考えられる。

#### SBe03 (第71図)

E 13区東半部で検出した。SBe01・02の東側に位置し、密集する柱穴群の中からの梁間3間・桁行8間の東西棟で大型建物跡を確認した。先述したように、SBe03を含めたSBe01～03の3棟の建物は北辺を直線状に揃えていることで、配置の規格的性がみられることから、同時期に営まれた建物の可能性が高い。SBe03はSKe07・08・13等と重複し、前後関係ではSBe03はこれらの土坑より後出する。床面には一部未検出ではあるが、東柱がほぼ全面に認められることから、高床構造の建物と考えられる。3間(6.0m)×8間(13.0m)、面積78.0㎡、主軸方位N76°W(N14°E)を測る。柱間は梁間1.9～2.2m、桁行1.4～2.0mを測る。柱穴掘方は円形～不整形形状を呈し、柱穴径は0.1～0.5m、深さ0.05～0.6mを測り、かなり不揃いである。

柱穴からは土師器・須恵器・陶磁器等が少量出土した。378は土師器杯でSP10、379は須恵器杯でSP24から出土した。380～382はSP23から出土した資料で、380は近世初頭頃の陶器皿、381は青磁碗、382は土師器搦鉢である。SBe03は出土遺物や検出状況等から、17世紀前半の近世初頭頃の建物と考えられる。

#### SBe04 (第72図)

F12区西半部で検出した西面に廂を備えた大型の南北棟である。床面には東柱が全面に認められることから、高床構造の建物と考えられる。建物の周囲にはSDe42・43・45・46等の雨落溝が囲っている。SBe04はSFe06・07等と重複し、前後関係では不明瞭な点があるが、出土遺物からSBe04はこれらの窟跡より後出する。身舎は4間(8.6m)×6間(14.0m)、面積120.4㎡を測る。主軸方位N205°Eを測る。柱間は梁間1.8～2.5m、桁行2.0～2.3mを測る。西面の廂は身舎の西側柱列から1.5m程隔てた位置に配され、雨落溝SDe42に接している。廂を含めた構造は、5間(10.1m)×6間(14.0m)、面積141.4㎡を測る。柱穴掘方は円形～不整形形状を呈し、柱穴径は0.1～0.6m、深さ0.1～0.4mを



測り不揃いである。

柱穴からは土師器・須恵器・青磁片が少量出土した。出土遺物が少なくSBe04の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世末以降の建物であろう。

#### SBe05 (第73図)

F12区中央で検出した西面と南面に廂を備えた南北棟の総柱建物である。東辺を除く三辺には建物の周囲を囲うSDe46・47、SXe07・08等の雨落溝や雨落溝に係わる水溜状遺構が配されている。東西両側にはSBe04・06が存在する。なお、F12区のSBe05を含めたSBe04～06の3棟の建物は南北棟の構造で、向きを揃え配置に規格性が認められることや雨落溝を共有する点など、同時期に営まれた建物の可能性が高い。また、SBe05はSXe11・12等と重複するが切り合い関係では不明瞭な点がある。身舎は2間(3.5m)×4間(10.2m)、面積35.7㎡を測る。主軸方位N25°Eを測る。柱間は梁間1.5～2.0m、桁行2.5～2.7mを測る。柱穴掘方は円形～不整形形状を呈し、柱穴径は0.1～0.4m、深さ0.1～0.6mを測り不揃いである。西面・南面の廂は身舎から1.0～1.5m程隔てた位置に配されている。廂を含めた構造は、3間(4.8m)×5間(11.5m)、面積55.2㎡を測る。

柱穴からは土師器・瓦質土器・磁器等が出土した。384～391は柱穴から出土した土師器杯の資料である。387はSP03、388・386・390・391はSP12、389はSP14、385はSP16、384はSP17から出土した。392はSP09から出土した青磁碗の底部、393はSP16から出土した瓦質の亀山焼の甍片である。SBe05は出土遺物や検出状況等から、14～15世紀頃の建物と考えられる。

#### SBe06 (第74・75図)

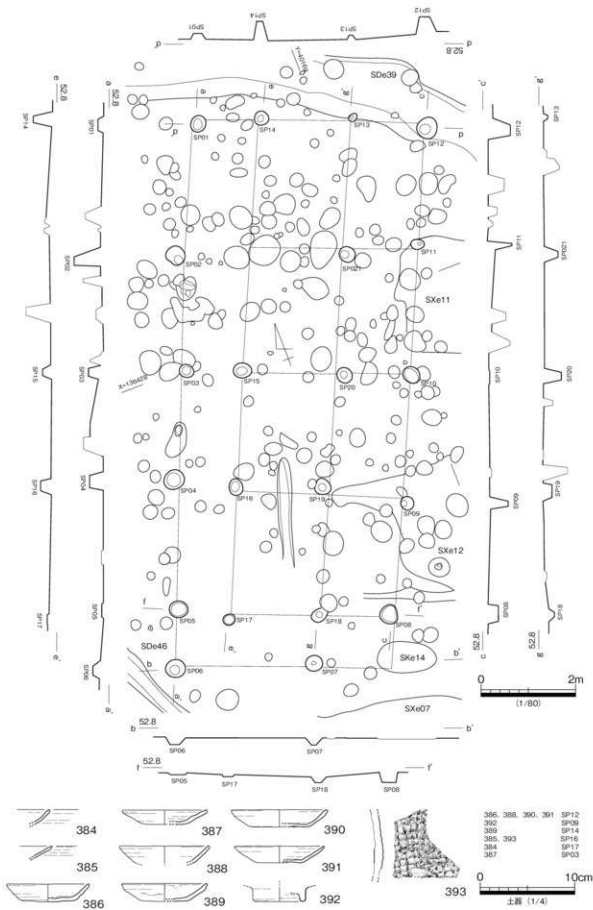
F12区中央で検出した西面に廂を備えた南北棟の建物である。床面には東柱が全面に認められることから、高床構造の建物と考えられる。西辺を除く三辺には建物の周囲を囲うSDe48・49、SXe10等の雨落溝や雨落溝に係わる水溜状遺構が配されており、西側にはSBe04・05が存在する。なお、先述したようにSBe06を含めたSBe04～06の3棟の建物は南北棟の構造で、向きを揃え配置に規格性がみられることや雨落溝を共有する点など、同時期に営まれた建物の可能性が高い。また、SBe06は、SDe39、SXe12等と重複する。前後関係ではSDe39より後出し、SXe12より先行する。

身舎は2間(5.2m)×5間(11.0m)、面積57.2㎡を測る。主軸方位N22°Eを測る。柱間は梁間2.5～2.7m、桁行2.0～2.4mを測る。柱穴掘方は円形～不整形形状を呈し、柱穴径は0.2～0.6m、深さ0.4～0.8mを測り不揃いである。西面の廂は身舎から1.0m程隔てた位置に配されている。廂を含めた構造は、3間(6.2m)×5間(11.0m)、面積68.2㎡を測る。

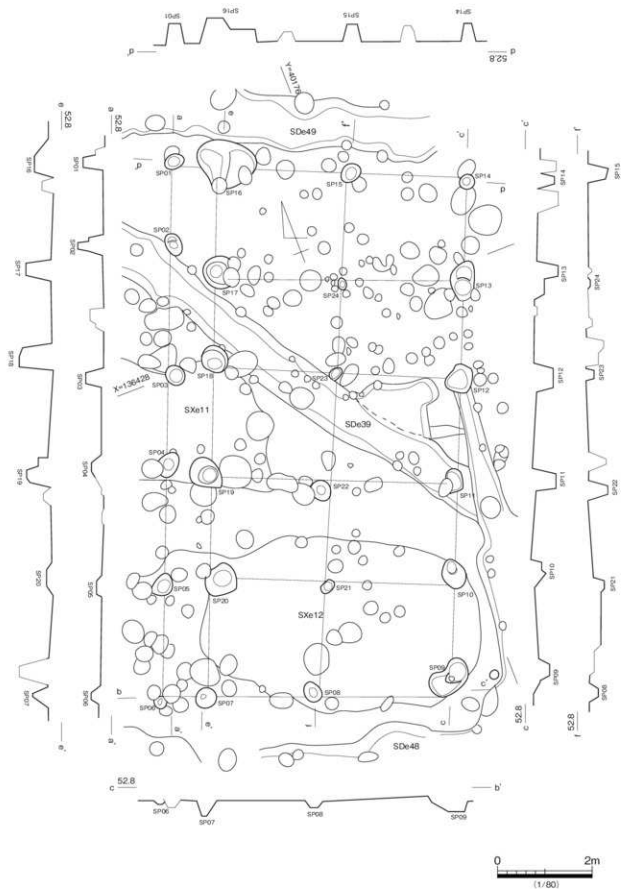
柱穴からは土師器・瓦質土器・磁器等が出土した。394～411は柱穴から出土した土師器杯の資料である。412は須恵器杯、413は須恵器甍口縁部である。414・415は土師器搦鉢片で、414は片口搦鉢片である。416は円盤状の川原石の一端に敲打を加えた敲石である。417は棒状の敲石で、先端の敲打痕は失われている。418は石英製の火打石である。SBe06は出土遺物や検出状況等から、14世紀後半～15世紀前半頃の建物と考えられる。

#### SBe07 (第76図)

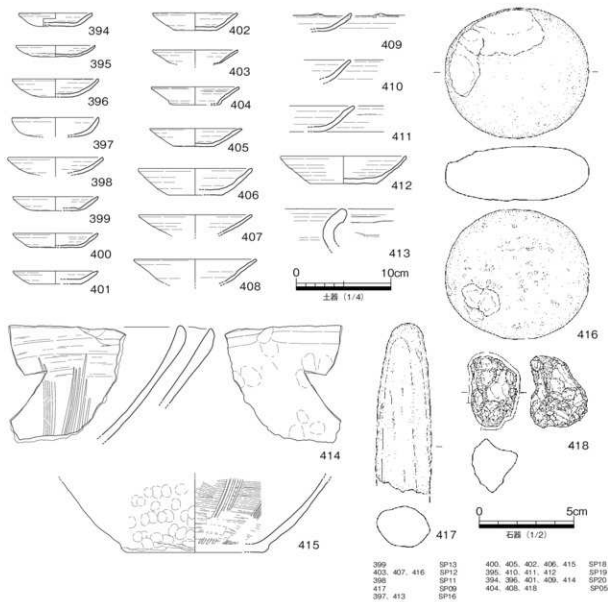
E13区南東端部で検出した梁間1間、桁行3間の南北棟である。東にSDe19b、南にSBe08～10等



第 73 図 SBe05 平・断面図



第 74 図 SBe06 平・断面図



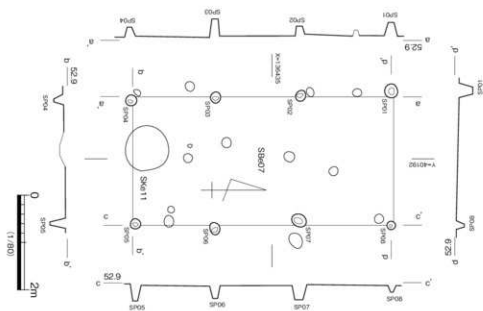
第 75 図 SBe06 出土遺物

が隣接し、SBe07はこれらの建物と向きを揃えており、類似した时期的が考えられる。また、SBe07はSKe11と重複するが、柱穴と切り合わないため、前後関係は不明である。1間(27m)×3間(5.7m)、面積15.39㎡、主軸方位N05°Wを測る。柱間は梁間2.7m、桁行1.7~2.0mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は0.2~0.4m、深さ0.2~0.4mを測る。

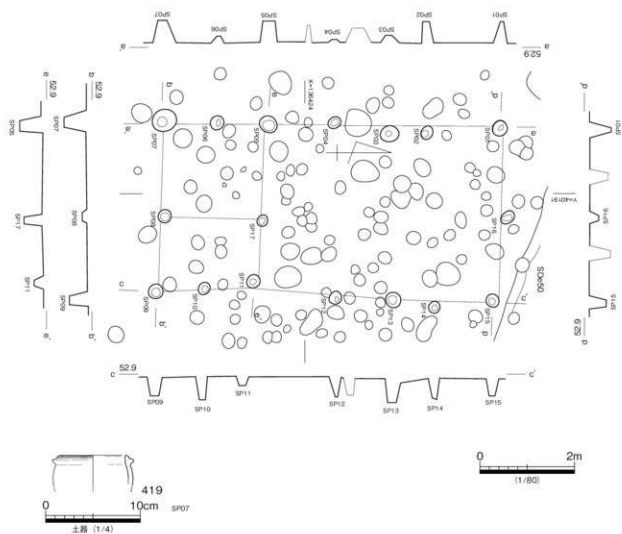
柱穴からは土師器の小片が数点出土した。出土遺物が少なくSBe07の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世末以降の建物と考えられる。

#### SBe08 (第77図)

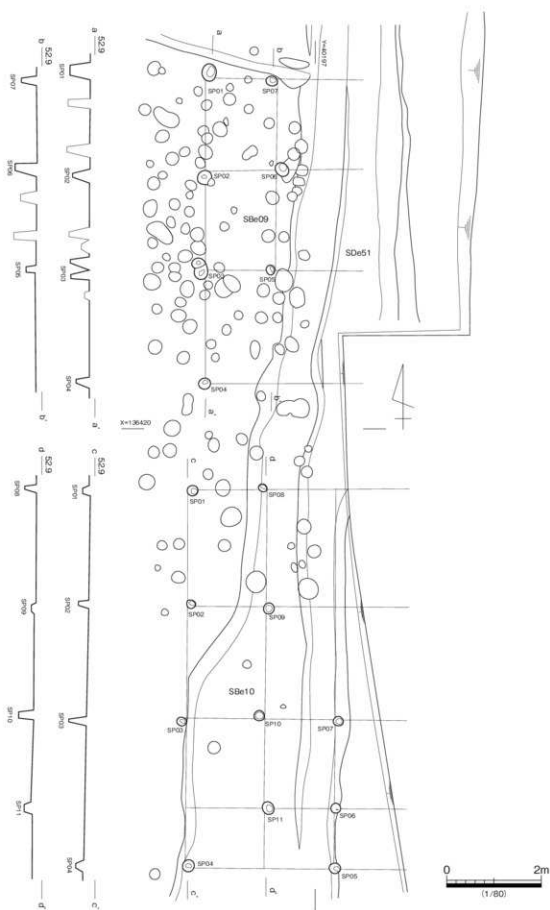
F12区北東端部で検出した梁間2間、桁行6間の南北棟である。東にSBe09、南にSBe10等が隣接し、SBe08はこれらの建物と向きを揃えており、類似した时期的が考えられる。2間(3.7m)×6間(7.1m)、面積26.27㎡、主軸方位N10°Eを測る。柱間は梁間1.4~2.0m、桁行1.0~1.6mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は0.2~0.5m、深さ0.2~0.5mを測る。



第76図 SBe07平・断面図



第77図 SBe08平・断面図，出土遺物



第78图 SBe09・10平・断面图

柱穴からは土師器小皿・杯・土鍋・足釜、須恵器杯等が数点出土した。419はSP07から出土した土師器の鉢である。出土遺物が少なくSBe08の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世末以降の建物と考えられる。

#### SBe09 (第78図)

F12区北東端部で検出した梁間1間以上、桁行3間の南北棟である。東半部はSDe51により削平されたためか、失われている。南と西には向きを揃えたSBe08・10、北にはSBe07等が隣接しており、類似した時期が考えられる。床面には一部未検出ではあるが東柱がほぼ全面に認められることから、高床構造の建物と考えられる。1間以上(1.4m以上)×3間(6.5m)、面積9.1㎡以上を測る。主軸方位N10°Eを測る。柱間は梁間1.4m、桁行2.0～2.4mを測る。柱穴掘方は円形～不整形円形を呈し、柱穴径は0.2～0.3m、深さ0.3～0.4mを測る。

柱穴からは須恵器壺、瓦質土器播鉢・捏鉢及び土師器片等が少量出土した。出土遺物が少なくSBe09の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世末以降の建物と考えられる。

#### SBe10 (第78図)

F12区南東端部で検出した梁間2間以上、桁行4間の南北棟である。この建物は東端部に位置するSDe51が埋没した後の堆積層上面から切り込んでおり、前後関係としては、SBe10はSDe51に対し後出する。北と西には向きを揃えたSBe08・09が隣接しており、関係が目される。床面には一部未検出ではあるが、東柱がほぼ全面に認められることから、高床構造の建物と考えられる。2間以上(3.2m以上)×4間(8.0m)、面積25.6㎡以上を測る。主軸方位N10°Eを測る。柱間は梁間1.4～1.8m、桁行1.3～2.3mを測る。柱穴掘方は円形を呈し、柱穴径は0.2～0.3m、深さ0.2～0.4mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少なくSBe10の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世末以降の建物と考えられる。

#### 欄列

#### SAe02 (第70図)

E13区中央部、SBe02の東側柱列から東へ約0.7m離れ、柱列に並行して配された欄列である。南北方向の欄列で、柱間は1.5～4.8mを測り、かなり不揃いであるが、未検出の柱穴が中間に所在する公算が高い。SBe02の東側柱列に隣接し並行して配されていることより、当初SBe02の廂と考えたが、距離的に近すぎるため別遺構と考えた。南北5間、検出長12.3m、柱間は1.1～2.0mを測り不揃いである。柱穴径約0.2m、深さ0.1～0.2m、主軸方位N140°Eを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少なく、SAe02の詳細な時期判断には無理があるが、他遺構との係わりや検出状況等から概ね中世末以降の欄列と考えられる。

#### SAe03 (第70図)

E13区中央部、SAe02の柱穴列から東へ約0.9m、SBe02の東側柱列から東へ約1.5m離れ、柱列に並行して配された欄列である。南北方向の欄列であるが、一穴を欠き本来は6間分の欄列と考えられる。SBe02の東側柱列に隣接し並行して配されていることより、当初SBe02の廂の可能性も考えたが、東

側柱列の中間までしか確認できない点から別遺構と考えた。なお、この柵列より東約4.0mに位置するSBe03周辺には、SBe03を中心にしてSAe03～06の4条の柵列が建物の北辺を除く三辺を画しており、SAe03はSBe03を中心とした居住域の西辺を区画する柵列と考えられる。南北5間、検出長12.2m、柱間は1.1～2.0mを測り不揃いである。柱穴径約0.2m、深さ0.1～0.2m、主軸方位N140°Eを測る。

柱穴からは中世後半の土師器小皿・鍋片等が少量出土した。372はSP03から出土した土師器杯口縁部片である。出土遺物が少なくSAe03の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世末以降の柵列と考えられる。

#### SAe04 (第71図)

E13区東半部、SBe03の南側柱列から南へ約3.0m離れ、SBe03の側柱列に並行に配された柵列である。先述したようにSBe03周辺のSAe03～06はSBe03を区画する柵列と考えられる。SAe04は南辺を画する東西延長7間の柵列で、検出長14.0m、柱間は1.5～2.5mを測り不揃いである。柱穴径0.2～0.3m、深さ0.2～0.7m、主軸方位N77.0°W(N13.0°E)を測る。

柱穴からは中世後半の土師器片等が少量出土した。出土遺物が少なくSAe04の時期判断には無理があるが、概ねSBe03と類似する時期と考えられる。

#### SAe05 (第71図)

E13区東端部、SBe03の東辺梁間から東へ約1.3m離れ、梁間の柱列に並行して配された柵列である。位置的な点から当初SBe03の廂とも考えたが、柱間が揃っていないため別遺構と考えた。なお、先述したようにSAe03～06はSBe03を区画する柵列と考えられ、SAe05はSBe03を中心とした居住域の東辺を区画する柵列と考えられる。南北8間、検出長8.2m、柱間0.9～1.2mを測り比較的短い。柱穴径約0.2m、深さ0.1～0.2m、主軸方位N120°Eを測る。

柱穴からは中世後半の土師器が少量出土した。出土遺物が少なくSAe05の詳細な時期判断には無理があるが、概ねSBe03と類似する時期と考えられる。

#### SAe06 (第71図)

E13区東端部、SBe03の東辺梁間に隣接する柵列SAe05より更に東に約1.1m隔てた位置に梁間の柱列に並行して配された柵列である。なお、先述したようにSAe03～06はSBe03を区画する柵列と考えられ、SAe06はSAe05同様SBe03を中心とした居住域の東辺を区画する柵列と考えられるが、おそらく、SAe06とSAe05は時期差が表れているものと考えられる。南北8間、検出長8.2m、柱間0.9～2.5mを測り比較的揃いである。おそらく、未検出の柱穴が存在していたものと考えられる。柱穴径約0.2m、深さ0.1～0.2m、主軸方位N120°Eを測る。

柱穴からは中世後半の土師器が少量出土した。出土遺物が少なくSAe06の詳細な時期判断には無理があるが、概ねSBe03と類似する時期と考えられる。

#### 井戸・土坑・墓跡

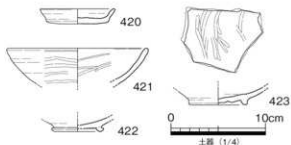
#### SEe01 (第79図)

E13区とF12区の境界の西端部に位置する井戸であるが、調査途上で崩落し精緻な調査ができてい



ない。平面は円形状を呈し径約 1.6 m、深さ約 1.0 m 以上を測る。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器等が数点出土した。420 は土師器の小皿、421・423 須恵器碗、422 は黒色土器碗の底部である。出土遺物から SKe01 は 12 世紀以降に埋没した遺構と考えられる。



第 79 図 SKe01 出土遺物

#### SKe02 (第 80 図)

E13 区西端部で検出した小型土坑である。平面は円形状、断面は不整形で浅い逆台形状を呈する。径約 0.8～0.9 m、深さ約 0.2 m を測る。埋土上層は淡灰褐色砂質土、下層は灰褐色砂質土からなる。埋土からは遺物が出土していないため時期判断には問題を残すが、検出状況等から SKe02 は中世後半以降の土坑と考えられる。

#### SKe03 (第 80 図)

E13 区西半部で検出した小型土坑である。SDe32 と重複し、SKe03 は SDe32 より後出する。平面は長楕円形状、断面は浅い逆台形状を呈する。長径約 1.3 m、短径約 0.45 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N78° W (N12° E) を測る。埋土下層には暗灰色砂質土が堆積し、西半部には焼土・炭ブロック混じり暗灰色粘質土が、その上位に堆積している。

埋土からは土師器・磁器等が数点出土した。424 は 15 世紀頃の中世の土師器の杯、425 は 12 世紀以降の青磁碗の口縁部片である。出土遺物から SKe03 は 15 世紀以降の中世後半頃の土坑と考えられる。

#### SKe04 (第 80 図)

E13 区西半部、SKe03 の東側で検出した小型土坑である。削平を受け残りが悪い。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は浅いレンズ状を呈する。長径約 0.7 m、短径約 0.35 m、深さ約 0.05 m、主軸方位 N74° W (N16° E) を測る。

床面からは土師器、銭の一括資料が出土した。426～434 は 14～15 世紀頃の土師器杯、436～438 は中国銭である。436 は元豊通宝 (1078～1085 年)、437 は聖宋元宝 (1101 年)、438 は聖宋元宝 (1101 年) である。435 は不明鉄製品である。出土遺物から SKe04 は 14～15 世紀の中世後半以降に埋没した土坑と考えられる。

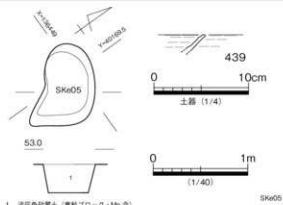
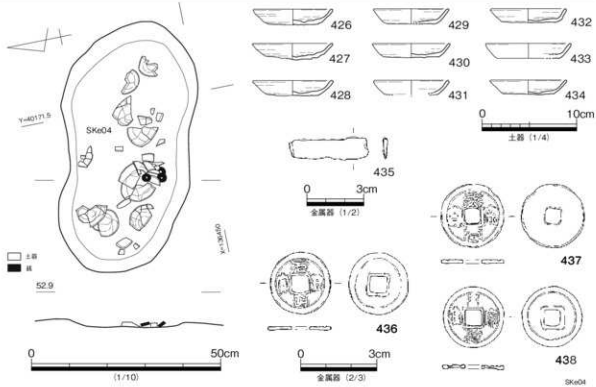
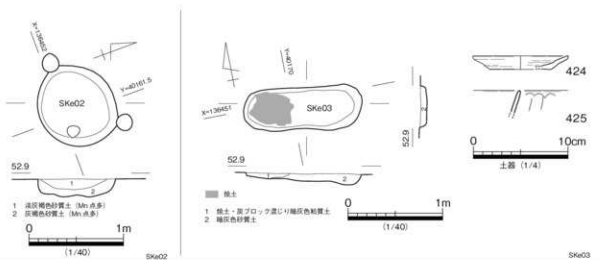
#### SKe05 (第 80 図)

E13 区西半部、SKe03 の南側、SDe32 の西側で検出した土坑である。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は比較的深い。長径約 0.85 m、短径約 0.55 m、深さ約 0.3 m を測る。埋土は淡灰色砂質土からなる。

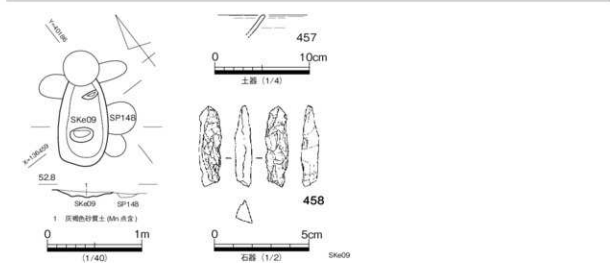
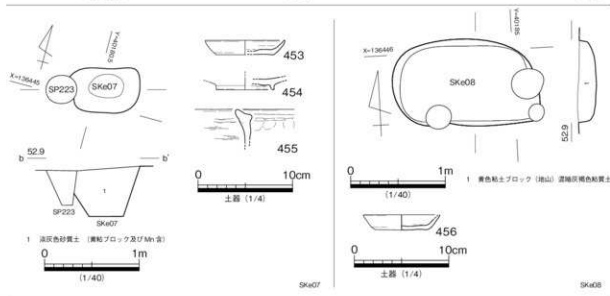
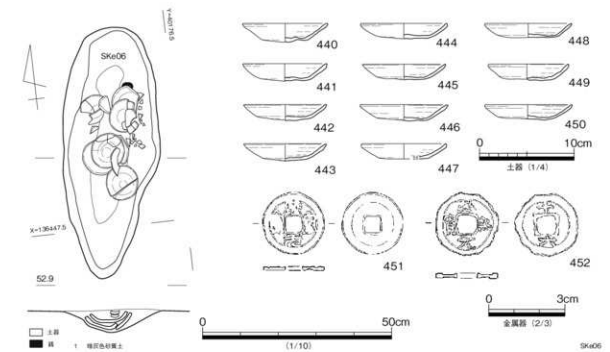
埋土からは土師器細片が数点出土した。439 は土師器杯の口縁部片である。出土遺物が少なく SKe05 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降に埋没した土坑と考えられる。

#### SKe06 (第 81 図)

E13 区中央で検出した土坑である。削平を受け残りが悪い。平面は不整形な長楕円形状を呈し、断面



第 80 図 Ske02 ~ 05 平・断面図, 出土遺物



第81図 Ske06～09平・断面図，出土遺物

は浅い椀底状を呈する。長径約 0.65 m、短径約 0.25 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N9° E を測る。床面からは土師器、銭の一括資料が出土した。

440～450 は 14 世紀後半～15 世紀初頭頃の土師器杯、451・452 は中国銭で、451 は聖宋元宝(1101 年)、452 は淳熙元宝(1174～1189 年)である。出土遺物から SKe06 は 14 世紀後半～15 世紀初頭以降の土坑と考えられる。

#### SKe07 (第 81 図)

E13 区東半部中央で検出した小型土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は逆台形状を呈する。長径約 1.5 m、短径約 0.9 m、深さ約 1.1 m、主軸方位 N76° E (N14° W) を測る。埋土は淡灰色砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。453 は土師器杯、454 は須恵器碗の底部片である。455 は土師器足釜の口縁部片である。出土遺物から SKe07 は 15～16 世紀頃に埋没した土坑と考えられる。

#### SKe08 (第 81 図)

E13 区東半部中央の地点で検出した小型土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広な U 字状を呈する。長径約 1.1 m、短径約 0.85 m、深さ約 0.2 m、主軸方位 N90° E (N0°) を測る。埋土は黄粘ブロック混じり暗灰色粘質土からなる。

埋土からは土師器片が少量出土した。456 は土師器杯である。出土遺物が少なく SKe08 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね 11～12 世紀の中世前半に埋没した土坑と考えられる。

#### SKe09 (第 81 図)

E13 区東半部北寄りの地点で検出した土坑である。平面は長楕円形状を呈し、断面は幅広な U 字状を呈する。長径約 0.9 m 以上、短径約 0.55 m、深さ約 0.05 m、主軸方位 N37° E を測る。埋土は灰褐色砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器、石器等が少量出土した。457 は須恵器杯口縁部片である。458 はスポール状のサスカイト楔形石器削片に分類した。優品ではあるが混入品であろう。出土遺物が少なく SKe09 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世以降の土坑と考えられる。

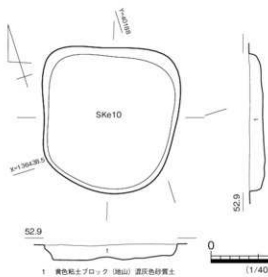
#### SKe10 (第 82 図)

E13 区東半部南寄りの地点で検出した小型土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広な隅丸逆台形状を呈する。長径約 1.55 m、短径約 1.4 m、深さ約 0.15 m、主軸方位 N20° W を測る。埋土は黄色粘土ブロック混灰色砂質土からなる。

埋土からは土師器片が少量出土した。459 は土師器足釜の上半部である。出土遺物が少なく SKe10 の詳細な時期判断には無理があるが、13 世紀以降の土坑の可能性が高い。

#### SKe11 (第 82 図)

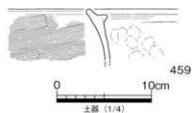
13 区東半部南東寄りの地点で検出した小型土坑である。平面は円形状を呈し、断面は幅広な U 字状を呈する。径約 1.0 m、深さ約 0.1 m を測る。埋土は淡灰色砂質土からなる。



1 黄色粘土ブロック (陶山) 濃灰色砂質土

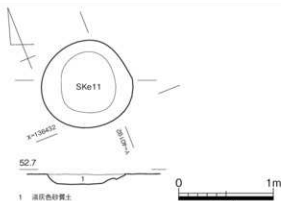
(1/40)

Ske10



459

0 10cm  
土器 (1/4)



1 濃灰色砂質土

0 1m  
(1/40)

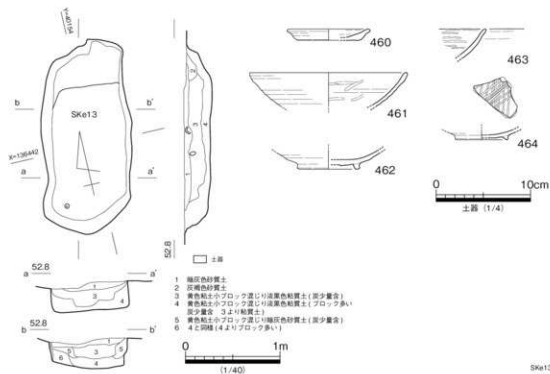
Ske11



1 濃灰色砂質土 (黄色粘土の小ブロックを主)

0 1m  
(1/40)

Ske12



1 濃灰色砂質土

2 淡褐色砂質土

3 黄色粘土小ブロック混じり濃灰色粘質土 (灰少量)

4 黄色粘土小ブロック混じり濃灰色粘質土 (ブロック多い)

5 黄色粘土小ブロック混じり濃灰色砂質土 (灰少量)

6 4と同種 (4よりブロック多い)

0 1m  
(1/40)

Ske13

第82図 Ske10～13平・断面図, 出土遺物

埋土からは中世の土師器片等が少量出土した。出土遺物が少なく SKe11 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世以降に埋没した土坑と考えられる。

#### SKe12 (第 82 図)

13 区東半部北東寄りの地点で検出した小型土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広い椀底状を呈する。長径約 0.95 m、短径約 0.6 m、深さ約 0.1 m を測る。埋土は淡灰色砂質土からなる。

埋土からは中世の土師器片等が少量出土した。出土遺物が少ないため SKe12 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降に埋没した土坑と考えられる。

#### SKe13 (第 82 図)

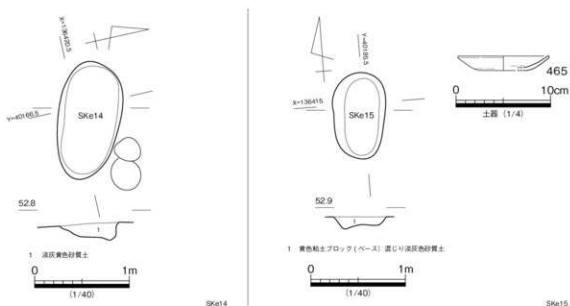
F12 区西半部北西地点で検出した土坑である。平面は不整形な長方形形状を呈し、断面は幅広い隅丸逆台形状を呈する。長径約 2.1 m、短径 0.8 ~ 1.0 m、深さ約 0.3 m、主軸方位 N13° E を測る。埋土はベースの黄色粘土ブロックを多量に含んだ黒色粘質土や灰色砂質土などが主で、その状況からこの土坑の埋土は、埋め戻し土が主体を占めているものと考えられる。

埋土からは土師器片が少量出土した。460 は土師器小皿、461・462 は須恵器碗、463・464 は瓦器碗片である。出土遺物から SKe13 は 13 世紀前半頃に埋没した土坑と考えられる。

#### SKe14 (第 83 図)

F12 区南半部中央、SKe07 の北側で検出した土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は不整形な逆台形状を呈する。長径約 1.3 m、短径 0.65 m、深さ約 0.2 m、主軸方位 N70° W (N20° E) を測る。埋土は淡灰黄色砂質土からなる。

埋土からは中世土師器片が少量出土した。出土遺物が少ないため SKe14 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降に埋没した土坑と考えられる。



第 83 図 SKe14・15 平・断面図、出土遺物

### SKe15 (第83図)

F12区東半部南東地点で検出した小型土坑である。SDe38と重複し、SKe15は溝跡より後出する。平面は不整形な楕円形状を呈し、断面は不整形な隅丸逆台形状を呈する。長径約0.95m、短径0.55m、深さ約0.1m、主軸方位N4°Eを測る。埋土はベースの黄色粘土ブロックを多量に含んだ淡灰色砂質土などが主で、その状況からこの土坑は埋め戻されたものと考えられる。

埋土からは土師器片が少量出土した。465は中世後半頃の土師器杯である。出土遺物が少ないため、SKe15の詳細な時期判断には無理があるが、14世紀後半～15世紀前半頃に埋没した土坑の可能性が高い。

### SKe16 (第84図)

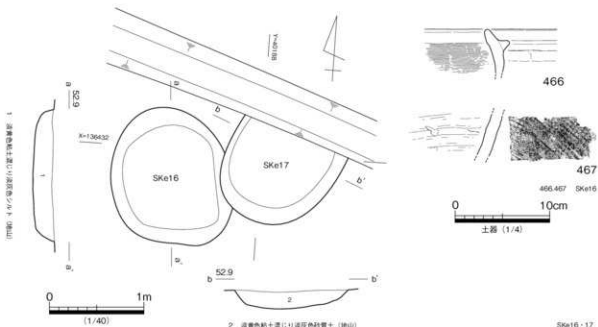
F12区東半部E13区との境界付近で検出した土坑である。同規模のSKe17と重複し、この土坑はSKe17より先行する。平面は円形状を呈し、断面は幅広U字状を呈する。長径約1.4m、短径1.3m、深さ約0.2mを測る。埋土はベースの淡黄色粘土ブロックを含んだ淡灰色シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。466は土師器足釜片で、467は外面に格子タタキを施しており、十瓶焼壺の底部片と考えられる。出土遺物が少ないためSKe16の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世後半以降と考えられる。

### SKe17 (第84図)

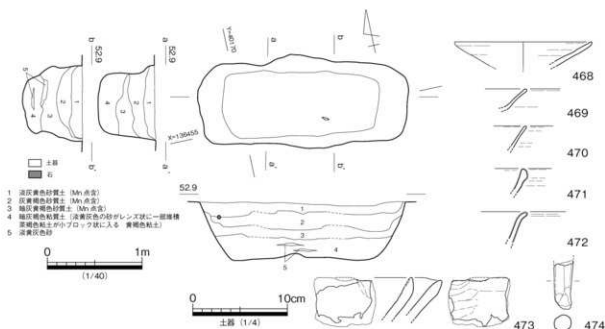
F12区東半部E13区との境界付近で検出した土坑である。先述したSKe16と重複し、この土坑はSKe16より後出する。北半部が調査区より外れるため約1/2検出した。平面は円形状を呈し、断面は幅広U字状を呈する。長径1.1m以上、短径1.2m、深さ約0.15mを測る。埋土はベースの淡黄色粘土ブロックを含んだ淡灰色シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少ないためSKe17の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世後半以降と考えられる。



第84図 SKe16・17 平・断面図, 出土遺物

SKe16・17



第 85 図 STe01 平・断面図, 出土遺物

#### STe01 (第 85 図)

E13 区西半部の北寄りで検出した形状から墓の可能性を有する土坑である。SDe32 と重複し、この溝跡より後出する。平面は不整形な隅丸長方形形状を呈し、断面は隅丸逆台形状を呈する。長径約 2.2 m、短径約 0.25 m、深さ約 1.0 m、主軸方位 N77.5° W (N12.5° E) を測る。埋土は数層に分かれるが、木棺痕跡などは確認できなかった。また、遺物の出土状況においても墓特有の状況も認められないため、墓跡の確認が掴めなかった。

埋土からは土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・磁器等が少量出土した。468～470 は土師器杯、471 は白磁碗である。473 は瓦質土器の片口鉢、474 は土師器足釜の脚部である。STe01 は出土遺物より中世後半の 14 世紀後半～15 世紀頃に埋没した遺構と考えられる。

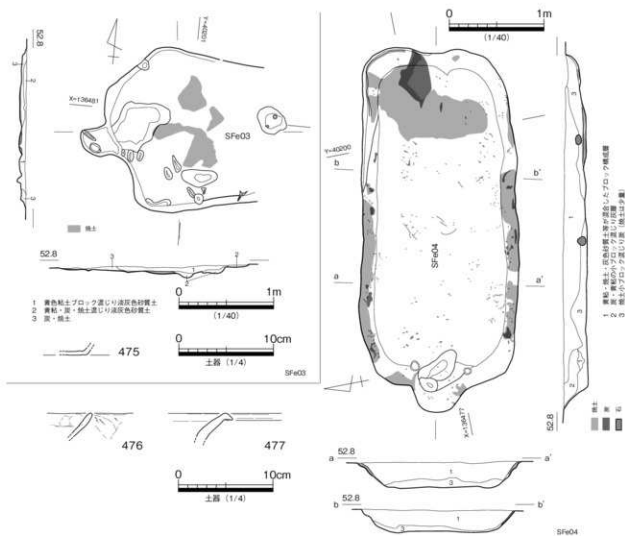
#### 窯跡

#### SFe03 (第 86 図)

E15 区東半部の SDe25 の西肩部付近で検出した木炭窯で、位置的にみて SDe25 と重複しているが、検出状況から前後関係は導き出せない。なお、南には SF04・05 が隣接している。削平を受け天井部は全て失われ下半部の西半部のみを残している。平面形状は長楕円形状を呈し、煙道と考えられるピット状の窪みが西端の短辺部に確認できる。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は部分的に凹凸があるが比較的平坦である。長径 2.0 m 以上、短径 1.65 m、深さ約 0.1 m、主軸方位 N84° E (N6° W) を測る。埋土は黄色粘土ブロックが混じった淡灰色砂質土、炭・焼土混じり淡灰色砂質土等からなり、床面及び焚口付近は赤褐色に焼土化している箇所がある。

埋土からは土師器、須恵器片が少量出土した。475 は中世の須恵器杯片である。出土遺物が少なく SFe03 の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世前半以降に埋没した窯跡と考えられる。





第 86 図 SFe03・04 平・断面図，出土遺物

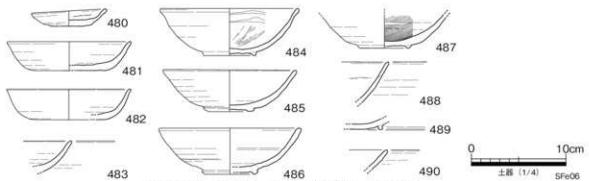
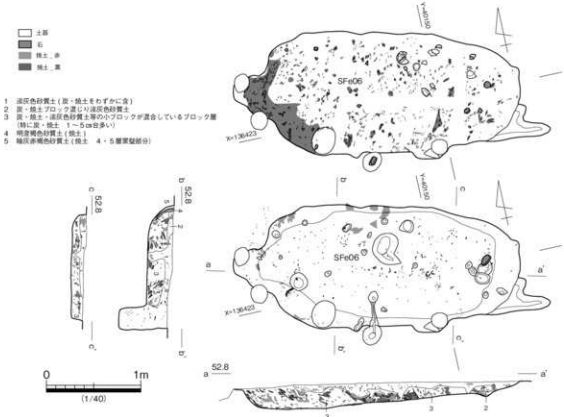
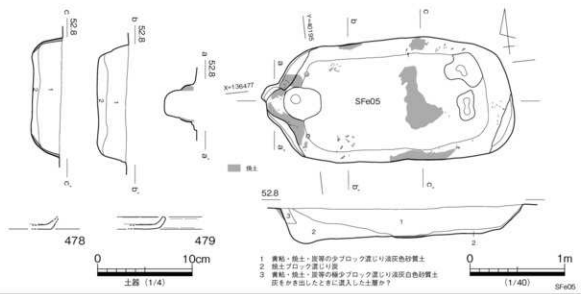
#### SFe04 (第 86 図)

E15 区南東端部の SDe25 の西肩部付近で検出した木炭窯である。なお、西には SF05 が隣接しており、前後関係が考えられるが、切りあわなない為検出状況から前後関係は導き出せない。削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は長楕円形状を呈し、煙道と考えられるビット状の窪みが西端の短辺部に確認できる。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は平坦で煙道部に向けて緩やかに傾斜している。煙道を挟んだ南北の床面では 2 基の小ビットを検出した。長径 3.8 m、短径約 1.7 m、深さ 0.2 ~ 0.25 m、主軸方位 N79° W (N11° E) を測る。埋土は黄色粘土・灰色砂質土・焼土・炭等のブロックが混ざった混合層が主体を占める。壁面及び焚口付近の床面は赤褐色に焼土化している箇所がある。

埋土からは土師器、須恵器片が少量出土した。476 は土師器鉢の口縁部片、477 は須恵器の大型壺の口縁部片である。出土遺物が少なく SFe04 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世前半以降に埋没した窯跡の可能性はある。

#### SFe05 (第 87 図)

E15 区南東端部の SDe25 の西肩部付近で検出した木炭窯である。なお、東には SF04 が隣接しており、前後関係が考えられるが、切りあわなない為検出状況から前後関係は導き出せない。



第87図 SFe05・06平・断面図, 出土遺物

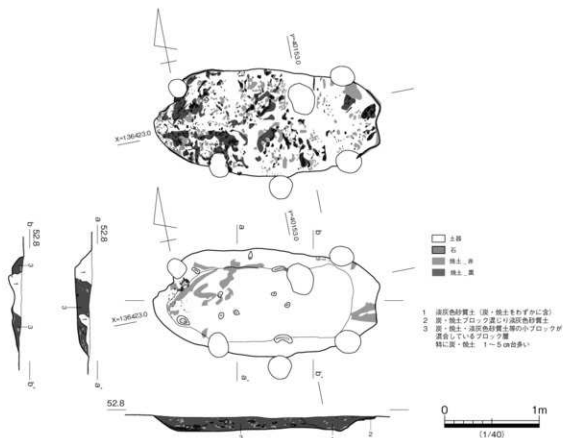
削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は長楕円形状を呈し、煙道と考えられるピット状の窪みが西端の短辺部に確認できる。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は平坦で煙道部に向けて緩やかに傾斜している。煙道を挟んだ南北の床面では2基の小ピットを検出した。長径約2.6m、短径約1.3m、深さ0.3～0.35m、主軸方位N84°W (N6°E)を測る。

埋土は黄色粘土・灰色砂質土・焼土・炭等のブロックが多量に混ざった淡灰色砂質土が主体を占める。壁面及び煙道、焚口付近の床面は赤褐色に焼土化している箇所がある。

埋土からは土師器、須恵器片が少量出土した。478は土師器杯、479は須恵器皿片である。SFe05は出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から中世前半以降に埋没した窯跡の可能性がある。

### SFe06 (第87図)

F12区南西端部のSDe42・43に隣接し、SFe07と直列気味に並んだ状態で検出した木炭窯である。削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は不整形な長楕円形状を呈し、煙道と考えられる突出部が西端の短辺部に確認できる。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は平坦で煙道部に向けて緩やかに傾斜している。底面には側面に沿って径数cmの小ピットを数基検出した。長径約3.1m、短径約1.3m、深さ0.1～0.25m、主軸方位N77°W (N13°E)を測る。埋土上層は炭・焼土を含む淡灰色砂質土、下層は多量の炭化材・焼土や上層の淡灰色砂質土等のブロックが混在しているブロック層からなる。また、西半部の窯壁を中心に赤褐色に焼土化している箇所がある。



検出面上からは土師器杯、須恵器杯・椀等の一括資料が出土した。480～483は土師器杯、484～488は須恵器椀である。489は黒色土師器椀の底部片、490は瓦器椀の口縁部片である。出土遺物からSFe06は12世紀後半以降に埋没した窯跡と考えられる。

#### SFe07 (第88図)

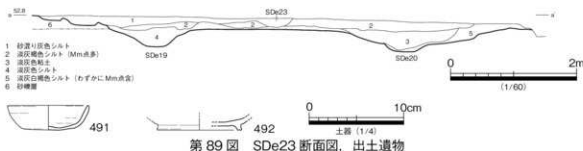
F12区南西端部のSDe42・43に隣接し、SFe06と直列気味に並んだ状態で検出した木炭窯である。削平を受け天井部は全て失われ下半部を残している。平面形状は不整形な長楕円形状を呈し、煙道が西端の短辺部に付くものと考えられるが不明瞭である。断面形状は隅丸逆台形状を呈し、床面は西方に向けて緩やかに傾斜している。底面には径数cmの小ピットを数基検出した。長径約2.9m、短径約1.1m、深さ約0.15m、主軸方位N78°W(N12°E)を測る。埋土は淡灰色砂質土をベースにして、多量の炭化材・焼土のブロックが混在しているブロック層からなる。また、壁面の窯壁を中心に赤褐色に焼土化している箇所がある。

埋土からは遺物が出土していないのでSFe07の時期判断には課題を残すが、おそらく隣接するSFe06と類似する時期が考えられる。

#### 溝状遺構

##### SDe23 (第89図)

E14区南西端部で検出した北西方向に延びる小溝跡である。SDe21とSDe19の中間に位置する。検出長約7.0m、幅約0.5m、深さ約0.1mを測る。断面は椀底状を呈し、埋土は灰色シルトからなる。埋土からは須恵器が少量出土している。491は土師器杯、492は8世紀後半頃の須恵器杯であり、この溝跡の時期を示す遺物になる可能性もあるが、周辺に同時期の遺構が見当たらないことから今後の課題にしたい。

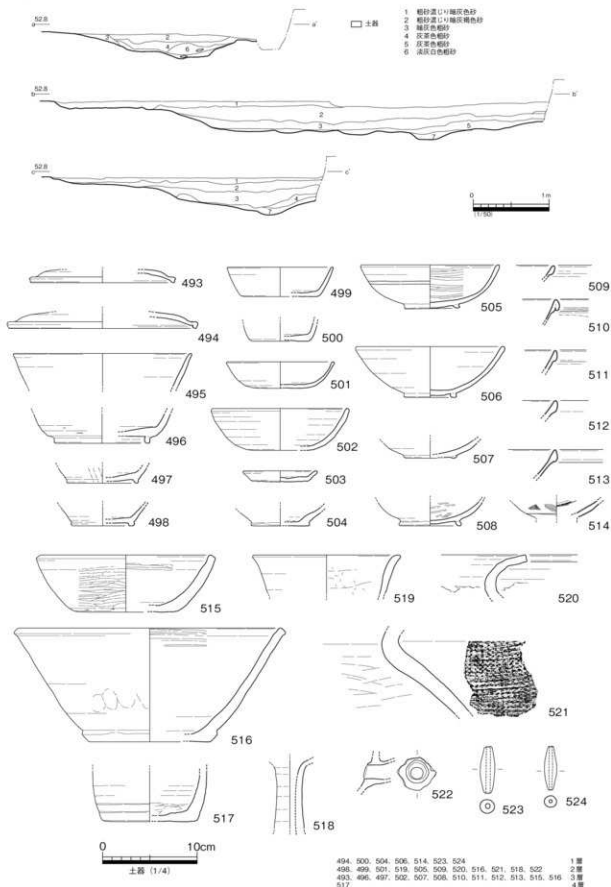


第89図 SDe23断面図、出土遺物

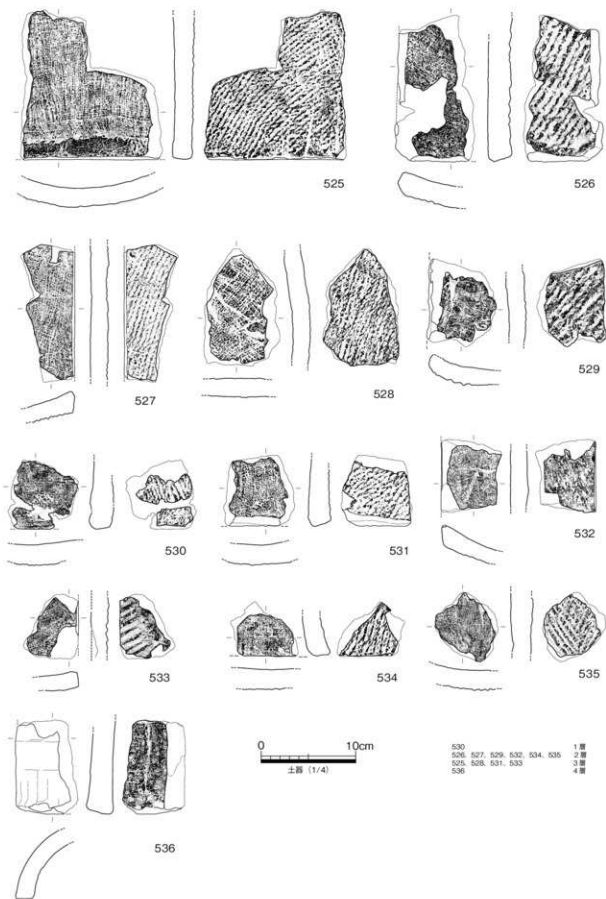
##### SDe24 (第90～92図)

E14・15区東壁沿を南北方向に延びる長い水路で、北北部のC調査区ではSD46、D調査区のE14区ではSDe25、F12区では途中SDe19に切られるが、南半部のSDe51に繋がる溝状遺構と考えられる。南北方向に延びる北村用水が東西方向に曲がる屈曲地点から、現在の南北用水に沿いに、現状の地割りに沿う形で、南北約110m連続する水路であり、北端では調査区外へ更に延びる。平面は不整形で凹凸が著しく、南半部では東西溝のSDe26が分岐している。E14区検出長約41.0m、幅約2.0～6.2m、深さは北端で約0.3m、南端で約0.5mを測り南半部で深さが増す。主軸方位はN9°Eを測る。断面は幅広く不整形な逆台形状を呈し、底面は比較的平坦である。埋土上層は主に暗灰色系砂、下層は灰茶色系

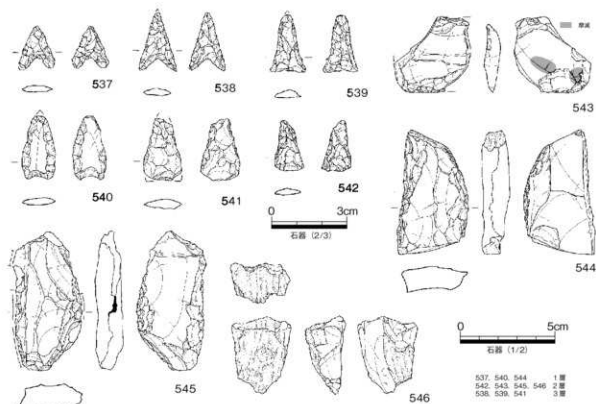
粗砂が主体を占める。



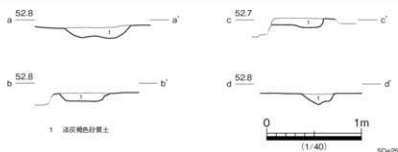
第90図 SDe24断面図, 出土遺物



第 91 図 SDe24 出土遺物



SDe24



SDe25

第92図 SDe24・25 断面図，出土遺物

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・磁器、石器等が出土した。特に注目できる遺物としては平瓦が一定量出土しており、周辺に瓦葺きの建物が想定される。

493～500は須恵器杯である。493・494は杯蓋、495～498は高台付の杯である。503は土師器小皿、501・502は土師器杯、504～507は須恵器椀、508は上半部を欠く黒色土器の椀である。509～513は貿易陶磁器の白磁椀、514は青磁椀底部で、11世紀後半～12世紀前半頃の遺物であろう。517は備前焼瓶の底部、518は須恵器水瓶の頸部片と考えられる。515・516は須恵器鉢、520・521は須恵器甕、523・524は土師質土錘である。525～536は瓦の資料である。平瓦が主であるが、少量丸瓦を含む。内外面の調整痕は、縄目タタキ及び布目圧痕を残す。

537～546はサスカイトの石器資料で混入遺物と考えられる。537～542は石鏃である。543は裁断面が認められる点から楔形石器に分類した。544・545は未製品ないし石核であろう。546は小型石器を目的とした石核である。

SDe24 の出土遺物を概観すれば、8 世紀後半～9 世紀頃の遺物と 12～13 世紀前半頃の遺物とに大別できる。これらの状況からこの溝跡の開削時期は、古代まで遡る可能性もあるが、埋没時期は 12～13 世紀以降に埋没したものと考えられる。

#### SDe25 (第 92 図)

E14 区の南半部から東西方向へ分岐する小規模な溝跡である。検出長約 33.0 m、幅 0.4～0.7 m、深さは約 0.1 m、主軸方位は N72.5° W (N17.5° E) を測る。断面は幅広く不整形な逆台形状を呈し、埋土は SDe24 と類似する淡灰褐色砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土しただけで SDe25 の時期判断には問題を残すが、検出状況から推定して SDe24 と同時期の溝状遺構と考えられる。

#### SDe26a (第 93・94 図)

E14・13 区の末則用水と北村用水の分岐点で確認された、中世後半の屋敷地北辺と東辺を「L」字状に画する堀状の大型溝で、北辺の東西方向の溝跡を SDe26a、東辺の南北方向の溝跡を SDe26b と仮称し報告する。SDe26a は E14 の南辺に沿うように直線状に東西方向に延びる溝跡である。西端部では未検出であるが、北村用水に合流し、東端部では末則用水に沿う様に南北方向に屈曲し止まる。西端部で SDe19～23、東端部で SDe24 と重複し、これらの溝跡より後出する。検出長 41.5 m、幅約 3.8 m、深さ約 0.6 m、主軸方位 N71° W (N19° E) を測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土は概ね 3 層に分かれ、上層は淡灰褐色砂質土、中層は淡灰褐色シルト、下層は淡灰褐色粘土からなる。

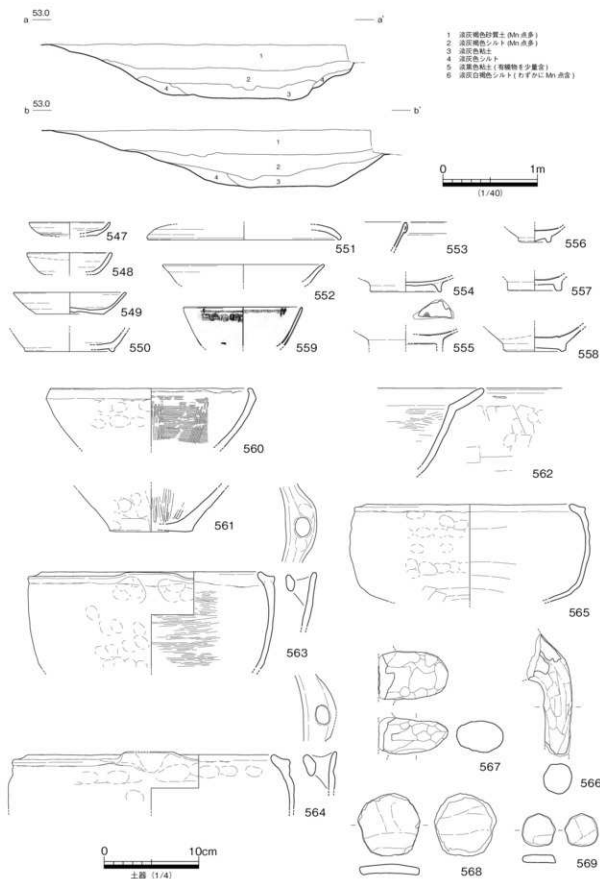
埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・陶磁器、瓦、石器等の 15～16 世紀を中心とした遺物と、少量の 8～9.12～13 世紀頃の土器が出土している。547～550 は杯の資料である。547・549 は土師器杯、548 は陶器杯、550 は 9 世紀頃の口縁部を欠く高台付杯である。551・552 は 8～9 須恵器杯蓋と皿である。553～559 は碗の資料である。553・555～558 は輸入陶磁器で、553・556～558 は白磁碗、559 は青磁碗の資料で概ね 12 世紀前後の時期が考えられる。554 は黒色土器碗の底部である。560・561 は土師器播鉢、562 は土師器鍋、563・564 は把手付鍋、565 は底部を欠く土師器鍋、566 は土師器足釜の脚部である。568・569 は備前焼と土師器の円盤状土製品である。570 は丸瓦、571 はタタキ及び布目瓦痕を残す平瓦片である。

572～577 は出土した石器類である。572 はサスカイトの楔形石器である。573・574 はサスカイトの削器に分類したが未製品の可能性もある。575 はサスカイト製で交互剥離の石核である。576・577 は砂岩の扁平な川原石を用いた敲石である。

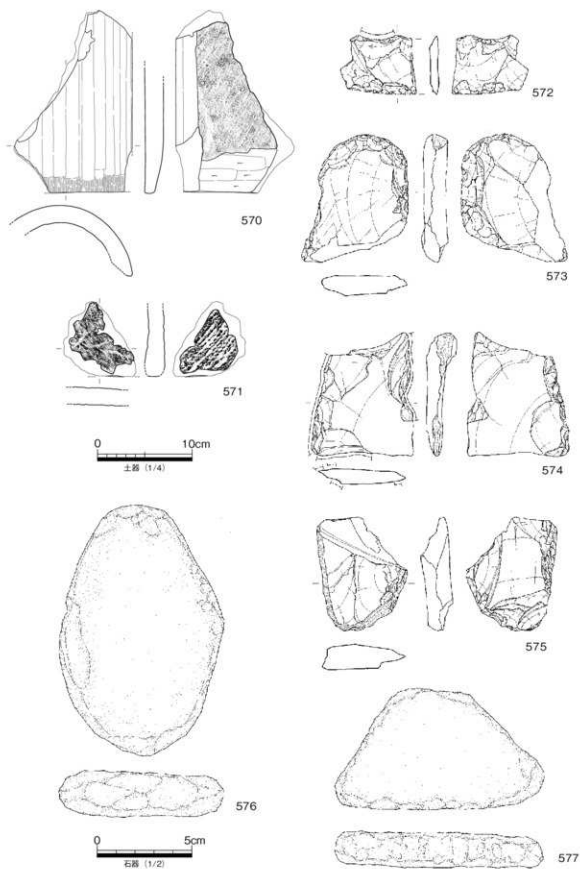
#### SDe26b (第 95・96 図)

先述したように E14・13 区の末則用水と北村用水の分岐点で確認された、中世後半の屋敷地北辺と東辺を「L」字状に画する堀状の大型溝のうち東辺を、南北方向に延びる溝跡を SDe26b と仮称し報告する。SDe26b は E13 区の東辺に沿うように直線状に東西方向に延びる溝跡であるが、屋敷地の東辺全てを画する溝跡ではなく、東辺の北半分の地点で途切れている。南端部で SDe51 と重複し、SDe26b はこの溝跡より後出する。なお、SDe51 は先述した SDe24 と一連の溝跡と考えられる。検出長 20.5 m、幅約 4.2 m、深さ約 0.65 m、主軸方位 N9° E を測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土は SDe26a 同様

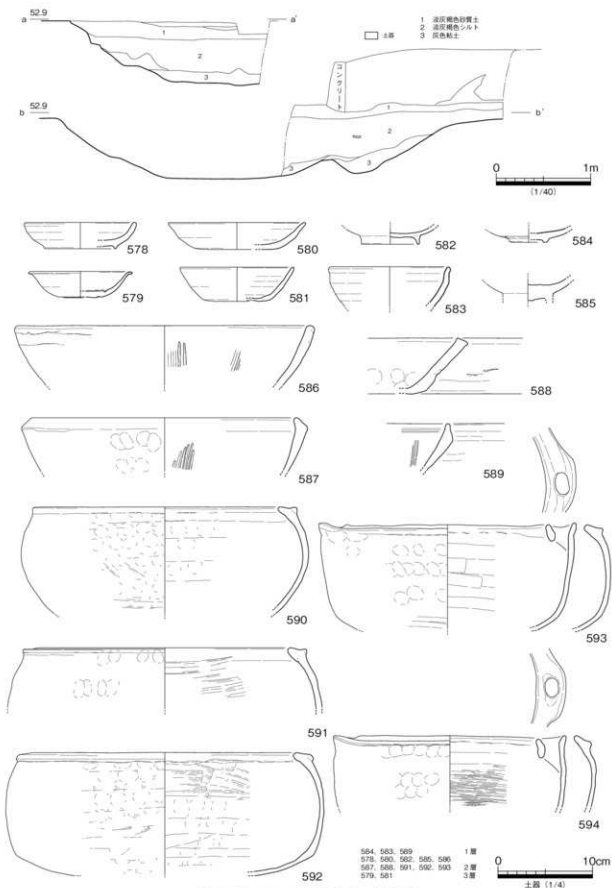




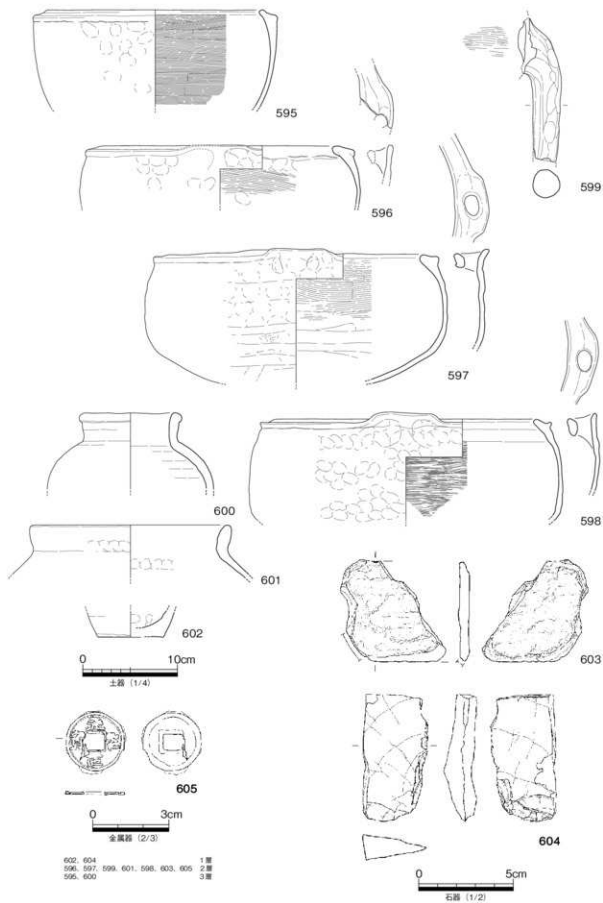
第93図 SDe26a 断面図, 出土遺物



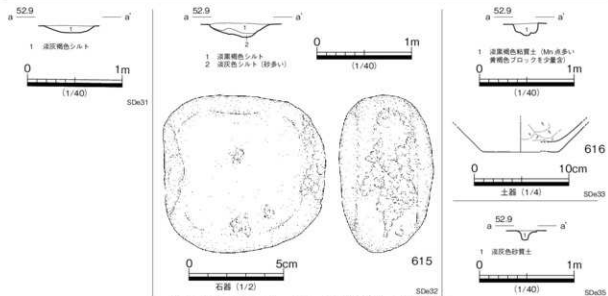
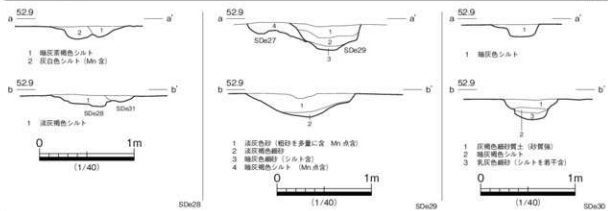
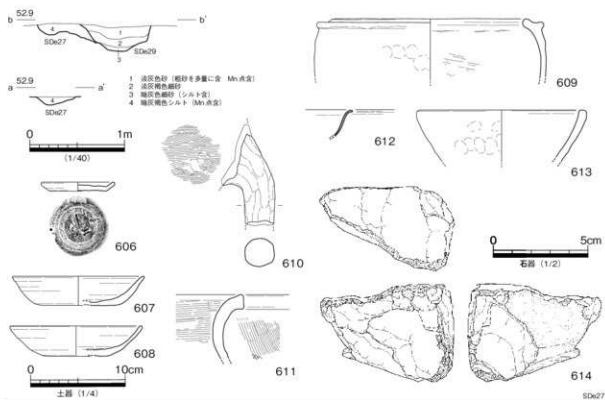
第94図 SDe26a 出土遺物



第95図 SDe26b 断面図, 出土遺物



第96図 SDe26b 出土遺物



第 97 図 SDe27 ~ 33・35 断面図, 出土遺物

で概ね3層に分かれ、上層は淡灰褐色砂質土、中層は淡灰褐色シルト、下層は灰色粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・陶磁器、石器、銭等が出土した。578・579は17世紀前半頃の陶器と白磁皿である。580・581は土師器と須恵器の杯、582は黒色土器碗の底部である。583～585は陶器碗で、583等は17世紀前半頃の遺物である。586・587は土師器鍔鉢、590～592は底部を欠く土師器鍋である。588は土師器掬鉢、589は須恵器鍔鉢、593・594・596～598は土師器把手付鍋、595は土師器鍋、599は土師器足釜、600は陶器壺、601は土師器壺の上半部である。

603は片岩製の石庖丁の未製品、604はエッジに調整を加えたサスカイト製の削器である。605は中国銭の「天聖元宝」(1023～1032年)である。先述したSDe26aの状況を踏まえ、出土遺物を概観すれば、SDe26a・bは16～17世紀前半頃に埋没した溝状遺構と考えられる。

#### SDe27 (第97図)

E13区の西半部に位置し西へ湾曲気味に南北方向に延びる溝状遺構である。北半部ではSDe29と重複し、南半部ではSDe29から分岐する小規模な溝状遺構である。SDe29との前後関係は、SDe27が先行しSDe29が後出する。検出長約6.6m、幅約0.5m、深さは約0.1mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は暗灰褐色シルトからなる。

埋土からは弥生土器・土師器・陶磁器、石器等が出土した。613は弥生時代後期後半の鉢で混入品である。606は土師器小皿、607・608は土師器杯、612は白磁碗、611は陶器壺口縁部片、609・610は土師器足釜である。614は石英製の石核で、周囲にはツブレ痕が顕著に認められ、おそらく火打石の材料であろう。出土遺物からSDe27は中世後半以降の溝跡と考えられる。

#### SDe28 (第97図)

E13区の西半部に位置し東へ湾曲気味に南北方向に延びる溝状遺構である。南半部ではSDe29、北端でSDe37、中央ではSDe31と重複し、これらの溝跡との前後関係は、SDe28が全ての溝跡に先行し、重複する他の溝跡が後出する。検出長約10.0m、幅約0.7m、深さは約0.15mを測る。断面は浅い不整形な皿状を呈し、埋土は灰色系のシルトからなる。埋土からは中世後半の土師器片が少量出土した。

#### SDe29 (第97図)

E13区の西半部に位置し西へ湾曲気味に南北方向に延びる溝状遺構である。SDe27と重複し、この溝跡はSDe27より後出する。南半部ではSDe27はこの溝跡から分岐する。検出長約15.0m、幅約1.2m、深さは約0.6mを測る。断面は浅いU字状を呈し、埋土は淡灰色系砂～細砂からなる。

埋土からは遺物が出土していないためこの溝跡の詳細な時期は不明であるが、SDe27との前後関係から中世以降の溝跡の可能性が高い。

#### SDe30 (第97図)

E13区の西半部SDe28の東に位置し、SDe28と向きを揃えS字状に湾曲し南北方向に延びる溝状遺構である。北端でSDe31と重複し、この溝跡はSDe31より先行する。検出長約15.5m、幅約0.4～0.9m、深さは約0.2mを測る。断面は浅い逆台形状を呈し、埋土は灰色系のシルト～細砂からなる。埋土からは中世後半の土師器・須恵器片が少量出土した。

#### SDe31 (第97図)

E13区の西半部に位置し南北方向に延びる溝状遺構である。SDe30と重複し、この溝跡はSDe30より後出する。検出長約7.0m、幅約0.55m、深さは約0.1mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は淡灰褐色シルトからなる。埋土からは中世後半の土師器小皿・椀等が少量出土した。

#### SDe32 (第97図)

E13区の西半部に位置し西へ湾曲気味に南北方向に延びる溝状遺構である。北端部でSDe37、STe01、中央でSKe03と重複し、SDe32はこれらの遺構に切り込まれている。検出長約15.0m、幅約0.65m、深さは約0.15を測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は上下2層に分かれ、上層は淡黒褐色シルト、下層は淡灰色シルトからなる。

埋土からは中世後半の土師器片、石器類が少量出土した。615は川原石を使用した敲石である。上下両端部には敲打痕が顕著に認められる。

#### SDe33 (第97図)

E13区の西端部に位置し直線気味に南北方向に延びる溝状遺構である。北端部でSXe05と重複し、SDe33はこの遺構より先行する。検出長約8.5m、幅約0.25m、深さは約0.1、主軸方位N8°Eを測る。断面は不整形な形状を呈し、埋土は淡黒褐色粘質土からなる。

埋土からは弥生土器片が1点出土した。616は弥生時代後期後半の壺底部片である。検出状況からこの溝跡は、中世以降の溝跡の可能性が高い。

#### SDe35 (第97図)

E13区中央の北辺に位置し直線気味に東西方向に延びる溝状遺構で、南にSBe02が隣接することからSBe02の雨落ち溝の可能性が高い。検出長約3.8m、幅約0.2m、深さは約0.1、主軸方位N73°W(N17°E)を測る。断面はU字形状を呈し、埋土は淡黒色砂質土からなる。埋土からは中世後半の土師器・須恵器が数点出土した。

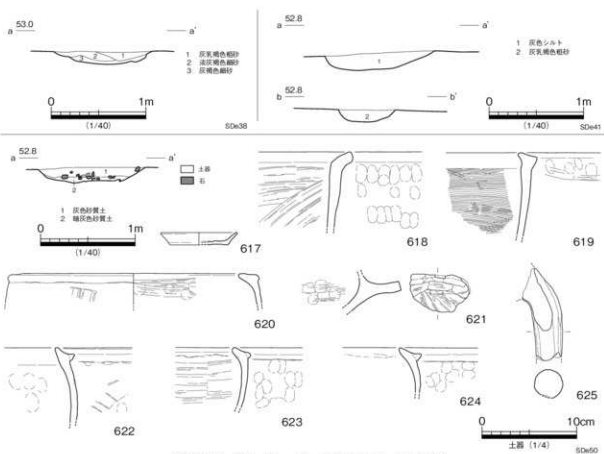
#### SDe38 (第98図)

F12区南東辺に位置し、SDe41・44と重複し、これらの溝跡に切られている。屈曲し東西方向に延びる小規模な溝跡である。検出長約6.0m、幅約0.5～1.0m、深さは約0.3m、主軸方位N73°Wを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は灰色系の細砂からなる。埋土から遺物が出土していないためSDe38の時期判断には無理があるが、中世の溝跡の可能性が高い。

#### SDe41 (第98図)

F12区南東辺から北西方向に向けてSDe39と並行に短く直線気味に延びる溝状遺構である。検出長約14.5m、幅約0.6～1.2m、深さ約0.15m、主軸方位はN14°Wを測る。断面は幅広で浅いU字状を呈し、埋土は灰色系のシルト～粗砂からなる。

埋土からは遺物が出土していないためSDe41の詳細な時期判断には無理があるが、主軸方位などからE14区のSDe21～23等と類似する時期の溝跡の可能性もある。



第98図 SDe38・41・50断面図，出土遺物

#### SDe50 (第98図)

F12区東端部の南北溝SDe51の北端部から西へ短く派生する溝跡である。検出長約7.5m、幅約1.1m、深さ約0.2mを測る。断面は幅広で隅丸逆台形状を呈している。埋土上層は灰色砂質土、下層は暗灰色砂質土からなる。

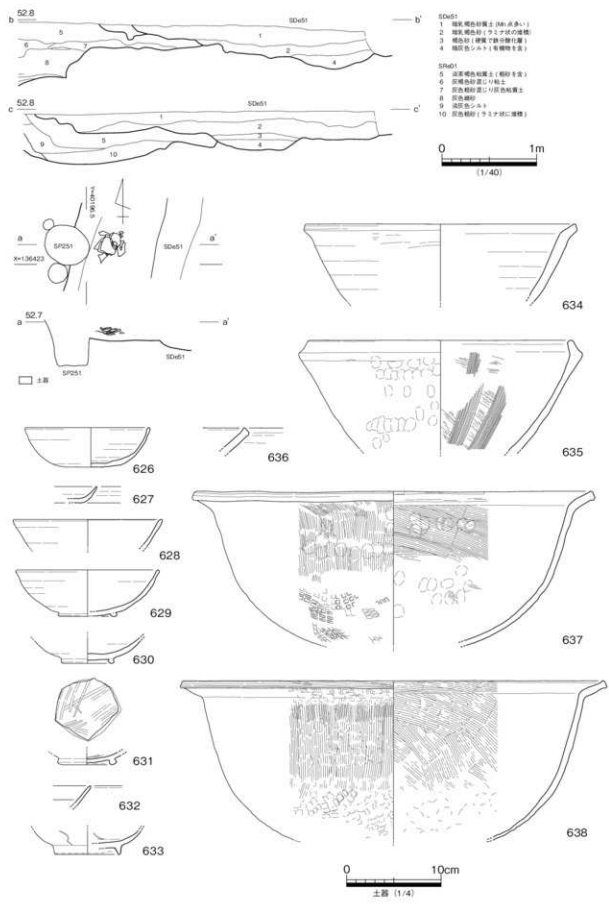
埋土からは中世の土師器が少量出土した。617は土師器杯、618～620は土師器鍋である。621は土師器焙烙把手片、622～624は土師器鍋の口縁部で、625は足釜脚部片である。出土遺物からSDe50の埋没時期は15～16世紀以降が考えられる。

#### SDe51 (第99・100図)

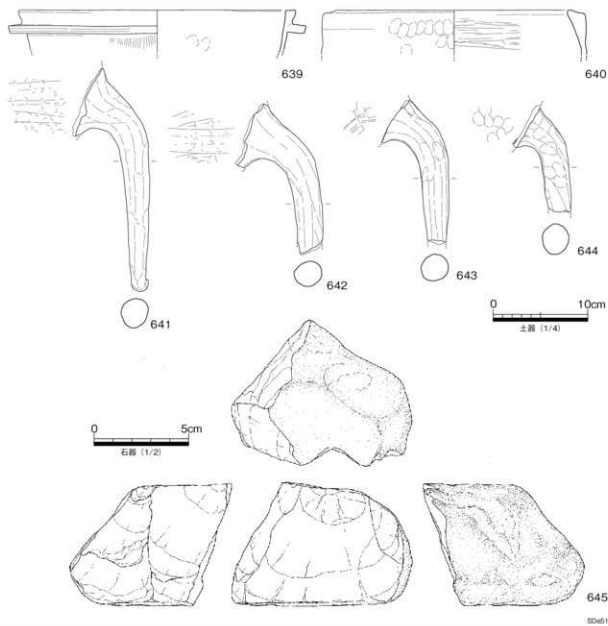
F12区東端部に位置する南北方向の溝跡で、東方に所在する末則用水に隣接する溝跡である。北端部はSDe26bと重複し、この溝跡に切り込まれている。SDe51はSDe26bをはさんで、E14・15区のSDe24と連続している。検出長約23.0m、幅約2.0～5.0m、深さ約0.2mを測る。断面は幅広で不整形な隅丸逆台形状を呈している。埋土は複数層に分かれ、C断面等で上下で2時期に分けられ、下層にあたるのがSDe24に相当する堆積層と考えられる。なお、SDe51は埋没が終了し上面が平坦化した後には多数の柱穴が切り込み、集落域が拡大している状況が窺える。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦質土器・磁器片等の12～13世紀前半のものと、少量16世紀頃の遺物が出土したが、16世紀頃の遺物は混入遺物と考えられる。626・627は土師器杯、628は須恵器杯、629・630は須恵器椀、631は黒色土器椀底部、632・633は青磁碗片である。634は瓦質の捏鉢、635は土師器搥鉢、637・638は底部を欠く土師器鍋、641～644は土師器足釜の脚部片である。





第99図 SDe51断面図, 出土遺物



a 52B — a'



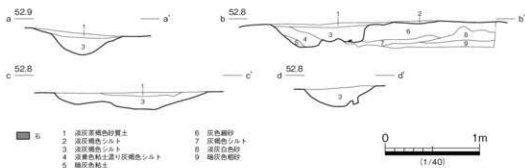
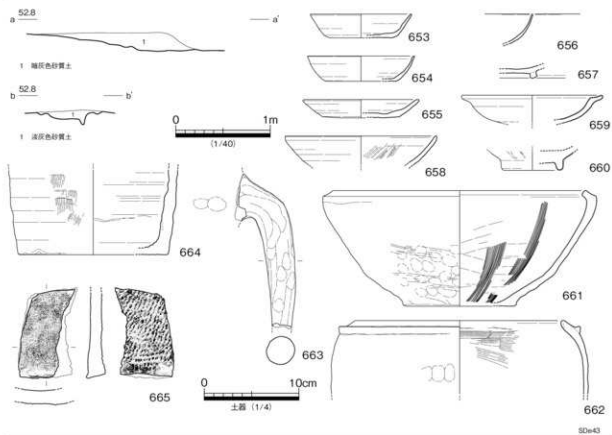
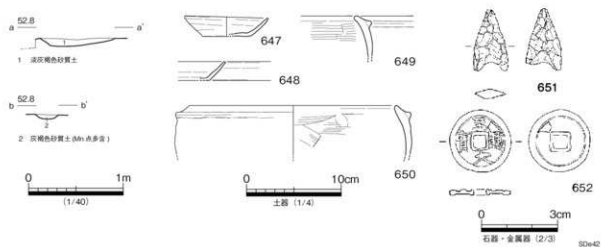
1 湖底砂礫土  
0 1m  
(1/40)



646  
0 10cm  
土器 (1/4)

SDe52

第 100 図 SDe51・52 断面図, 出土遺物



第 101 図 SDe42 ~ 44 断面図, 出土遺物

645 は比較的大型の石英の石核で、おそらく火打石の素材となる剥片を剥ぎ取った石核であろう。出土遺物から SDe51 は 13 世紀前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDe52 (第 100 図)

F12 区の南壁際に所在する SDe43 の溝底で検出した南北方向の小規模な溝跡である。おそらく、北村用水に水を落とすための溝であろう。南端部を SDe53 に切り込まれている。検出長約 1.2 m、幅約 0.8 m、深さ約 0.2 m を測る。断面は幅広で凹凸のある逆台形状を呈し、埋土は淡灰色砂質土からなる。埋土からは中世後半の土師器鍋の口縁部片 646 が出土した。

#### 建物に伴う雨落溝

##### SDe42 (第 101 図)

F12 区に所在する屋敷地内の SBe04 の西辺を画する雨落溝としての性格と、北村用水の裏込めとしての性格があるものと考えられる溝跡である。検出長約 19.0 m、幅約 0.3 ~ 2.5 m、深さ約 0.1 m、主軸方位は N20° E を測る。断面は幅広で浅い皿状を呈し、埋土は淡灰褐色系の砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・瓦器、石器、金属器等が出土した。647・648 は土師器杯、649・650 は土師器足釜の上半部である。651 はサヌカイトの凹基式石鏃である。652 は中国銭の至大通宝 (1310 ~ 1311) である。出土遺物から SDe42 は、15 ~ 16 世紀頃に埋没した溝状遺構と考えられる。

##### SDe43 (第 101 図)

F12 区に所在する屋敷地内の SBe04 南辺を画する雨落溝である。SDe53、SXe07 等と錯綜しており、形状を掴みきれていない点がある。また、西辺を画する SDe42 との切り合いは認められない。検出長約 17.5 m、幅約 0.7 ~ 1.7 m、深さ約 0.2 m、主軸方位は N72.5° W (N17.5E) を測る。断面は幅広で凹凸のある浅い皿状を呈し、埋土は暗灰色 ~ 淡灰褐色系の砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・陶磁器、瓦片等が少量出土した。653 ~ 655 は土師器杯、656・657 は土師器碗、658 は須恵器碗、659・660 は青磁皿と碗である。

661 は土師器搦鉢、662・663 は土師器足釜である。664 は陶器壺底部、665 は平瓦片である。出土遺物から SDe43 は、SDe42 同様に 15 ~ 16 世紀頃に埋没した溝状遺構と考えられる。

##### SDe44 (第 101 図)

F12 区に所在する屋敷地内の SBe05・06 の外周を巡るのは、SDe44・46・47・48・49 等の溝で、SDe44 は南辺と東辺を画する溝跡である。また、SDe44 と西辺を画する SDe46 間には、SXe07・08 等の落ち込み状の遺構が取り付いている。調査の際に、溝と落ち込み状の遺構が明瞭に区別できずに遺構掘削を行なったため遺物が分け切れていない点がある。溝跡から出土した遺物は少量で、時期的にも同時期と考えられるため、遺物は SXe07・08 で一緒に報告することにする。

東西方向の南辺部は比較的直線気味で、検出長約 10.0 m、幅約 0.8 m、深さ約 0.2 m、主軸方位は N77° W (N13° E) を測る。断面の形状は幅広な碗底状を呈し、埋土は灰褐色系の砂質土 ~ シルトからなる。南北方向の東辺部は、凹凸のある不整形な平面形状を呈し、検出長約 11.5 m、幅約 0.2 ~ 2.0 m、深さ約 0.2 m、主軸方位は N8° E を測る。断面の形状は凹凸のある不整形な碗底状を呈し、埋土は淡灰

褐色系のシルトからなる。

#### SDe45 (第102図)

F12区に所在する屋敷地内のSBe04の西辺を画するSDe42から、東へ屈曲し北辺を画する雨落溝である。西端部は調査区外の北村用水に、東端部はSXe06により切り込まれている。この溝のSXe06に隣接する地点からは、SBe05・06の北辺の雨落ち溝SDe49が東へ向けて分岐している。なお、この溝からは少量ではあるが弥生土器が出土している。また検出状況からSDe45は、弥生時代の溝SDe39の延長線上に位置するため、SDe45は本来弥生時代の溝で、中世後半に雨落溝として改修された可能性が高い。検出長約11.0m、幅約3.5m、深さ約0.7m、主軸方位はN71°W(N19°E)を測る。断面は幅広で二重掘方の形状を呈する。

埋土は複数層にわかれ、埋土からは弥生土器・土師器・陶器、瓦、砥石、鉄製品等が出土した。666～689は土師器杯である。口縁部が外上方へ直線状に延びるタイプと、口縁部が内湾気味に延びるタイプとに分かれる。外上方に延びるタイプは14世紀代の杯と考えられる。690は陶器碗の口縁部である。691は底部を欠く土師器搥鉢、692は土師器捏鉢である。693～696は土師器足釜である。697・698は弥生時代後期後半の弥生土器壺と鉢片である。699・700は瓦片、701は砥石片である。702は袋状の鉄斧先端部である。主体となる中世土器には14～16世紀頃までの時期幅があり、この溝跡の埋没時期は15～16世紀頃に推定される。

#### SDe46 ((第103図))

F12区に所在する屋敷地内のSBe05の西辺を画する雨落溝と考えられる南北方向の溝跡である。北端部はSXe06、南端部はSXe07に繋がる。検出長約14.0m、幅約0.2～0.7m、深さ約0.1～0.2m、主軸方位はN175°Eを測る。断面は幅広で不整形で浅いU状を呈し、埋土は淡灰褐色系の砂質土からなる。

埋土からは土師器・瓦器が少量出土した。703は瓦器碗口縁部片、704は土師器捏鉢、705・706は土師器足釜である。出土遺物からSDe46はSDe42・43等と同一時期の可能性が高い。

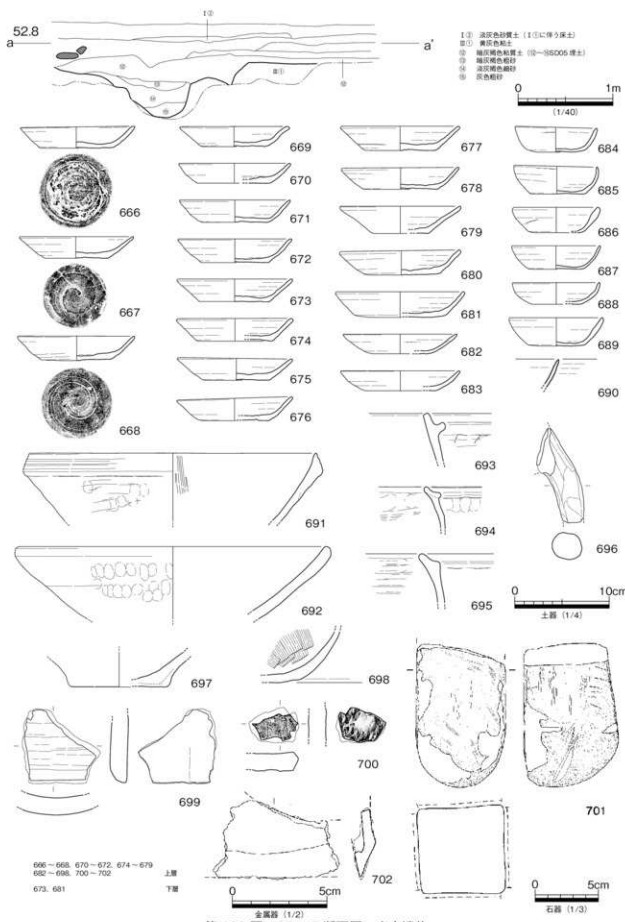
#### SDe47 (第103図)

F12区に所在する屋敷地内のSBe05の北辺を画する雨落溝と考えられる東西方向の溝跡である。西端部はSXe06を始点として東方のSDe49方向へ延び、本来は同溝へ合流していたものと考えられるが、合流部分は削平を受け不明瞭である。検出長約7.0m、幅約0.2～0.5m、深さ約0.1m、主軸方位はN68°W(N22°E)を測る。断面は不整形で浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色系の砂質土からなる。

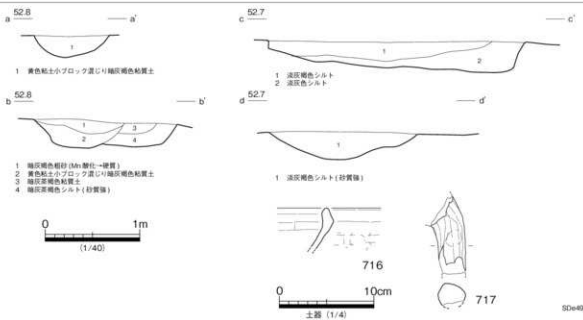
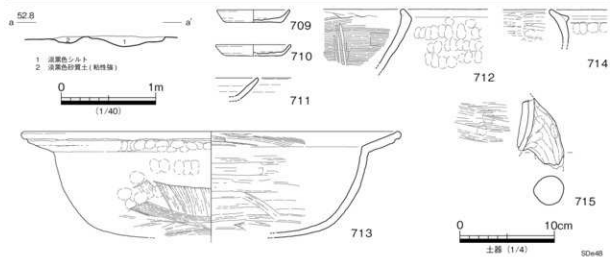
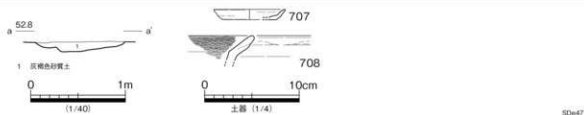
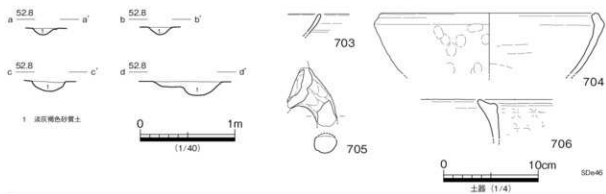
埋土からは土師器片が数点出土した。707は土師器杯、708は土師器鍋の口縁部片である。

#### SDe48 (第103図)

F12区に所在する屋敷地内のSBe06の南辺から東辺を画する雨落溝と考えられる溝跡である。削平を受け残りが悪い。不整形な形状を呈し西端部はSXe08辺りに繋がる。検出長約135m、幅約0.3～1.3m、深さ約0.1mを測る。断面は幅広で不整形で浅い皿状を呈し、埋土は淡黒褐色系のシルトないし砂質土からなる。



第 102 図 SDE45 断面図, 出土遺物



第 103 図 SDe46～49 断面図, 出土遺物

埋土からは中世後半の土師器が少量出土した。709～711は土師器杯、712は土師器鐏片である。713は土師器鍋で、714・715は土師器足釜の口縁部と脚部片である。出土遺物からSDe48は15～16世紀頃に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDe49 (第103図)

F12区に所在する屋敷地内のSBe06の北辺を画する雨落溝と考えられる東西方向の溝跡である。西端部はSDe45、東端部はSXe10に続く。その後南に屈曲しSDe44へと続き、結果的にSBe04・05・06の外周を囲うように巡る。平面は凹凸が著しい不整形な形状を呈し、検出長約20.0m、幅約0.7～2.0m、深さ約0.3mを測る。断面は不整形で地点により異なるが、幅広U字状ないし逆台形状を呈している。埋土は地点により異なるが、主体を占るのは灰褐色シルトである。

埋土からは中世後半の土師器片が数点出土した。716は土師器の鐏片ないし鐏鉢の口縁部片である。717は土師器足釜の脚部片である。

#### 雨落溝に伴う水溜状遺構

#### SXe06 (第104図)

F12区中央、SBe05・06の外周を画する雨落溝SDe46・47・48・49等のうち、SBe05の西辺と北辺に沿うように配された、SDe46・47間の水溜状の不整形な落ち込みである。SDe39・45と重複し両溝より後出する。平面は南北方向で不整形な幅広な楕円形状を呈し、SDe46・47とは切りあわず連続するため一連の遺構と考えられる。検出長約5.0m、幅約2.3m、深さ約0.2mを測る。断面は不整形で凹凸が顕著な浅い皿状を呈している。埋土は暗灰色砂質土からなる。

埋土からは土師器が少量出土した。718・719は土師器杯、720は白磁碗の底部片、721は土師器足釜上半部片である。

#### SXe07・08 (第104～109図)

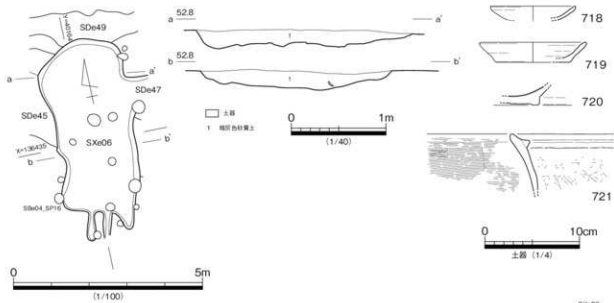
F12区中央、SBe05・06の外周を画する雨落溝のうち、西辺を画するSDe46と南辺・東辺を画すSDe44の交点部分、詳細に言えば南辺溝に当たるSDe44の西半部で検出した。なお、SXe07とSXe08は東西で隣りあわせて検出した。切り合い等がみられない点より一連の遺構と考えられる。

SXe07はSDe46とSXe08に挟まれた水溜状の遺構である。平面は東西に長い長楕円形状を呈し、検出長約6.9m、幅約2.5m、深さ約0.8m、主軸方位はSDe44同様のN77°W(N13°E)を測る。断面の形状は幅広で逆台形状を呈し、埋土は数層に別れるが、概ね上層は灰色系砂質土、下層は暗灰色系シルト～粘土からなる。規模的な点で、水溜状遺構の中で最も容量の大きな遺構で、おそらく南に近接して所在していたと考えられる。北村用水に水を落とすための調整池としての機能が考えられる。

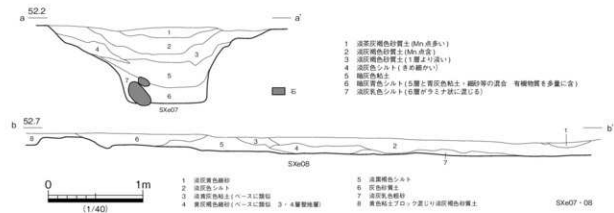
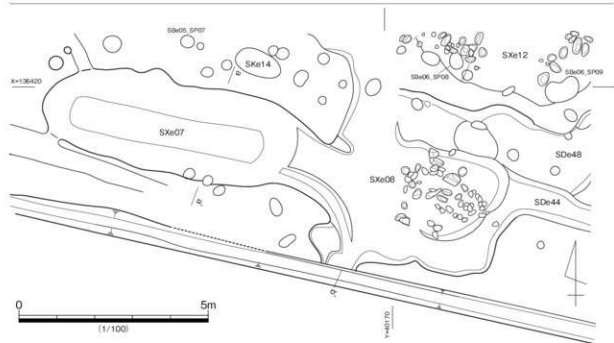
SXe08は先述したSXe07とSDe44に挟まれた水溜状の遺構である。平面は不整形で凹凸のある形状を呈し、南にはおそらく北村用水に水を落とす小溝が延びる。また北はSXe12と接するが、その境は不明瞭である。底面からは円礫が多量に出土した。おそらく、周辺で出土したものを廃棄したものであろう。長径約5.7m、短径約3.3m、深さ約0.15mを測る。断面の形状は幅広で浅い皿状を呈し、埋土は数層に別れるが、主に淡灰色系シルトからなる。

SDe44、SXe07・08からは多量の中世土器が出土しているが、調査時においては遺構を小区画で区分



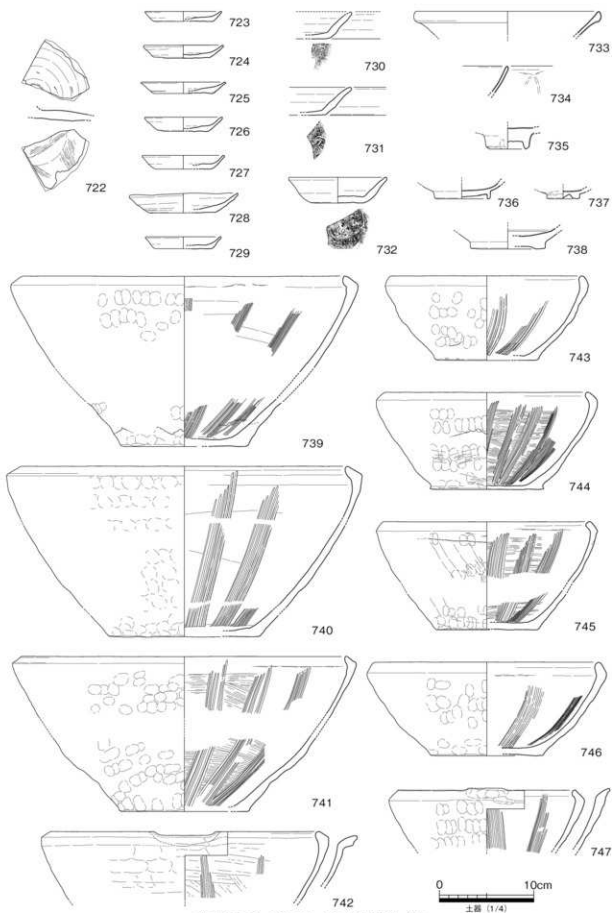


SXe06

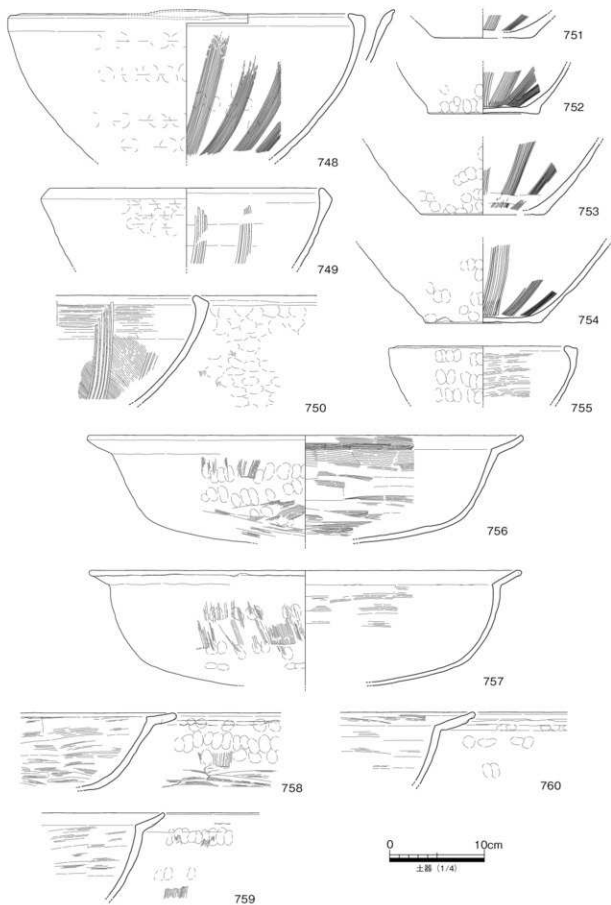


SXe07・08

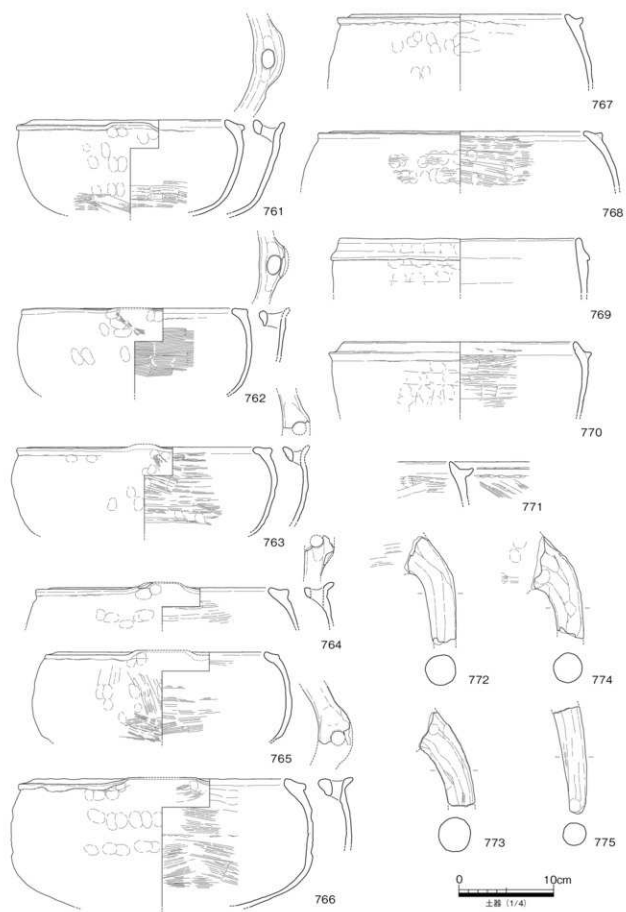
第104図 SXe06～08平・断面図，出土遺物



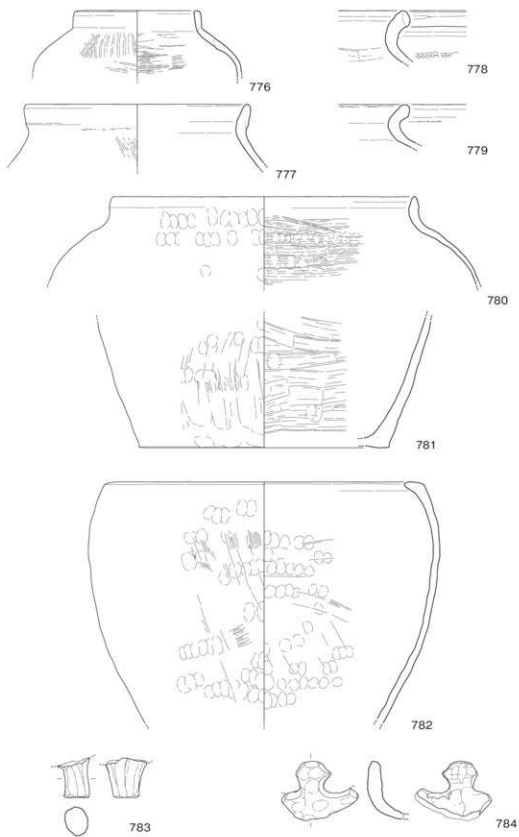
第 105 図 SXe07・08 出土遺物 (1)



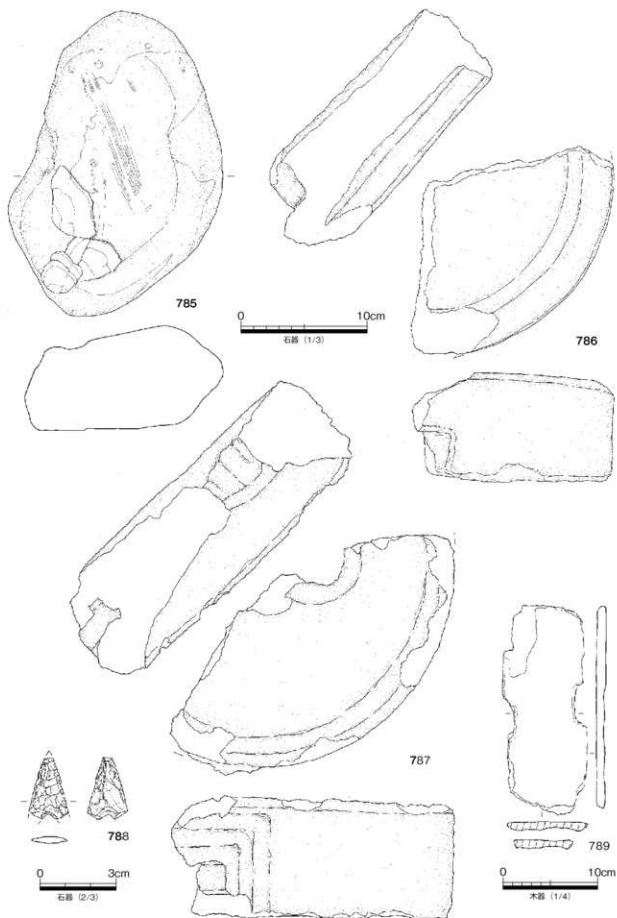
第 106 図 SXe07・08 出土遺物 (2)



第 107 図 SXe07・08 出土遺物 (3)



第 108 图 SXe07·08 出土遺物 (4)



第109圖 SXe07・08 出土遺物(5)

し取り上げたのであるが、調査後にその記録となる図面が紛失したため、三遺構のうち出土遺構が不明瞭な遺物がある。そのため、SDe44、SXe07・08の出土遺物はまとめて報告することにする。なお、これらの遺構の中でSXe07からの出土遺物が最も多く、全体の約8割近くを占めている。

722は須恵器杯蓋片で混入品である。723～729は土師器杯、730は須恵器杯、731・732は陶器の杯である。733～738は青・白磁の椀の資料である。739～750・752～754は土師器播鉢の資料である。742・747・748は片口の播鉢である。756～760は土師器鍋、761～766は土師器把手付鍋である。767～771は土師器足釜の資料で、767～771は足釜上半部、772～775は足釜脚部である。776～779は土師器壺の上半部及び口縁部である。780は土師器大甕上半部である。781は備前焼甕の底部である。782は底部を欠く土師器大型火鉢である。783は土師器火鉢の底部に取り付け脚部片である。

785～788は石製品ないしは石器である。785は砥石、786・787は凝灰岩製の石白片である。788はサヌカイトの石鏃で混入品であろう。789は板状の木製品である。出土遺物からSXe07・08は15～16世紀以降に埋没した遺構と考えられる。

#### SXe09 (第110図)

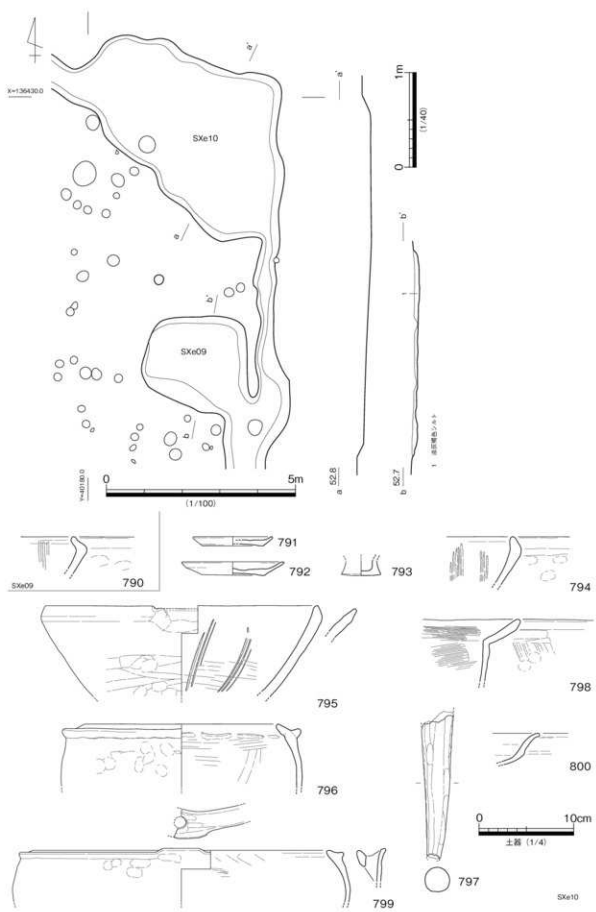
F12区東半部、SBe05・06の外周を画する雨落溝のうち、東辺を画するSDe48の更に東方に位置するSDe44のはほぼ中央で検出した、削平を受け残りがかなり悪い水溜状の不整形な落ち込みである。SDe44とは重複するが、切りあわずに連続するため一連の遺構と考えられる。平面は不整形な略方形状を呈し、長径約2.9m、短径約2.5m、深さ約0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は淡灰褐色シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。790は土師器播鉢の口縁部片である。

#### SXe10 (第110図)

F12区東半部、SBe05・06の外周を画する雨落溝のうち、北辺を画するSDe49と東辺を画するSDe44の交点で検出した、削平を受け残りがかなり悪い水溜状の不整形な落ち込みである。SDe49・44とは重複するが、切りあわずに連続するため一連の遺構と考えられる。平面は不整形な略台形状を呈し、長径約6.5m、短径約3.8m、深さ約0.1mを測る。断面は浅い皿状を呈している。埋土は主に淡灰褐色シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器が出土した。791は土師器小皿、792は土師器杯である。793は土師器托、794は土師器播鉢、795は須恵器片口の播鉢である。796・797は土師器足釜、798は土師器鍋の口縁部片、799は土師器把手付鍋の上半部である。800は弥生時代後期後半の高杯杯部片で混入品である。出土遺物からこの遺構は15～16世紀頃に埋没した遺構と考えられる。



第110図 SXe09・10平・断面図, 出土遺物



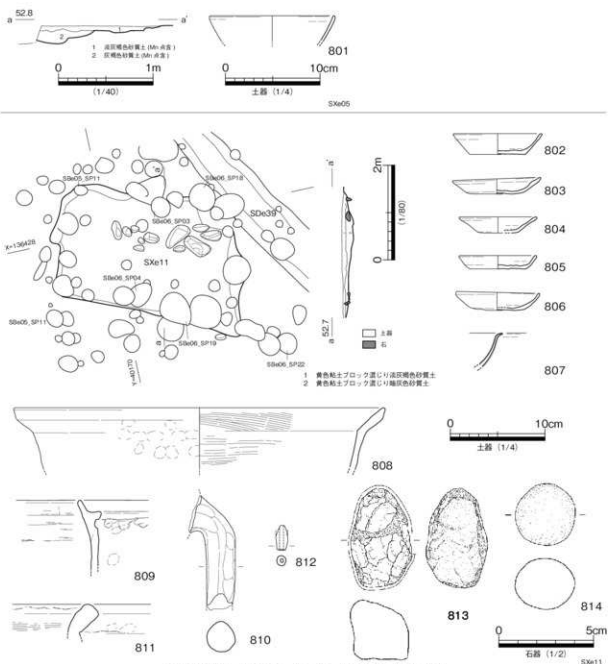
不整形遺構

**SXe05 (第111図)**

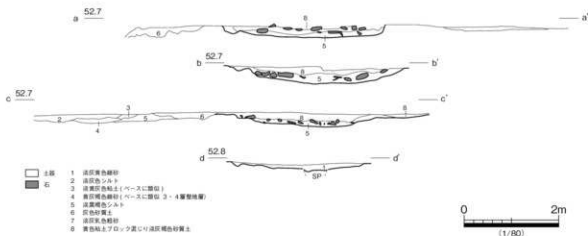
E13区の西端部で検出した不整形な落ち込み状遺構である。SDe33・34・37等の遺構と重複し、SDe33より後出しSDe34より先行する。平面は不整形な方形状を呈し、検出長約4.0m、幅1.5～2.5m、深さ約0.2mを測る。断面の底面は、西に向かって緩やかに傾斜する。埋土は淡灰褐色砂質土からなる。埋土から土師器が数点出土した。801は土師器杯の上半部である。

**SXe11 (第111図)**

F12区の中央に位置し、SXe12の北側に所在する不整形な落ち込み状の遺構である。平面は不整形で凹凸のある略方形状を呈する。また、この遺構の上にはSBe05・06が重複しており、SBe前後関係



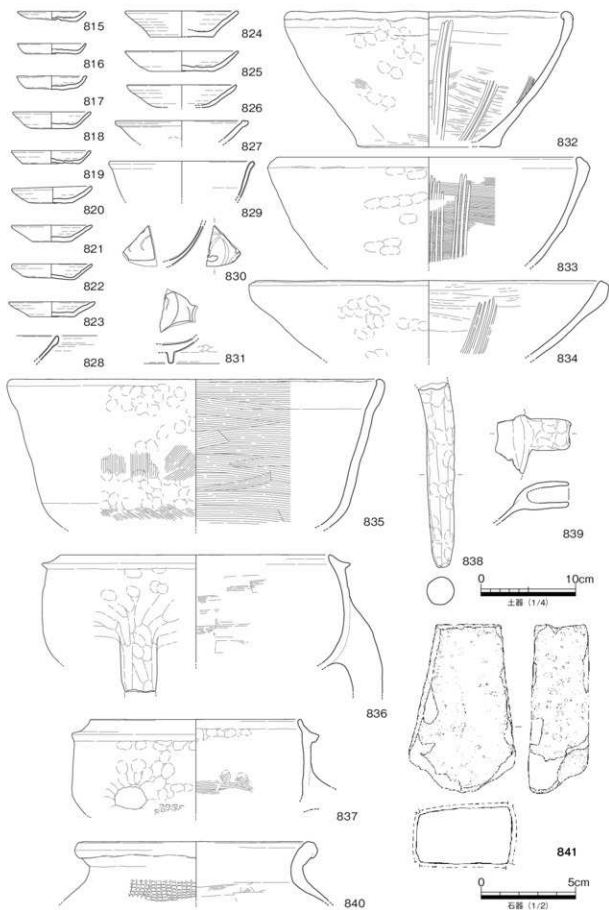
第111図 SXe05・11平・断面図, 出土遺物



- |   |    |                          |
|---|----|--------------------------|
| □ | 土層 | 1 淡灰黄色粘砂                 |
| ■ | E  | 2 淡灰色シルト                 |
|   |    | 3 淡黄灰色粘土(ベースに類似)         |
|   |    | 4 黄灰色粘砂質(ベースに類似) 3・4層間境界 |
|   |    | 5 淡黄褐色シルト                |
|   |    | 6 灰色砂質土                  |
|   |    | 7 淡灰色粘砂                  |
|   |    | 8 黄褐色土上D・P・P層に付淡灰褐色粘砂層土  |

0 2m  
(1/80)

第112図 SXe12平・断面図



第 113 図 SXe12 出土遺物

は05・06が後出し、SXe11が先行する。SXe08同様、底面からは円礫が多数出土した。周辺で出土したものを廃棄したものであろう。長径約4.5m、短径約2.4m、深さ約0.3mを測る。断面の形状は幅広く浅い皿状を呈し、埋土は上下2層に分かれ、上層は黄色粘土ブロック混じり淡灰褐色砂質土、下層は黄色粘土ブロック混じり暗灰色砂質土からなる。

埋土からは土師器・陶磁器、石製品などが出土した。802～806は土師器杯、807は青磁碗ないし鉢である。808は土師器鍋、809・810は土師器足釜、811は陶器甕の口縁部片、812は須恵質の土鍔片、813は石英製の火打石である。外周の潰れ痕が顕著である。814は丸石で投擲の可能性がある。

### SXe12 (第112・113図)

F12区の南半部中央に位置し、SXe08の北側に所在する不整形な落ち込み状の遺構である。平面は不整形で凹凸のある長楕円形状を呈するが、遺構際の端部は不明瞭である。南にSXe08と接するがその境も不明瞭である。また、この遺構の上面にはSBe06が重複しており、前後関係はSBe06が先行し、SXe12が後出するようである。SXe08同様、底面からは円礫が多量に出土した。周辺で出土したものを廃棄したものであろう。なお、円礫中からは、石英の原石・石核・剥片等が多量に出土しており、おそらく周辺域で石英を原材料にして火打石を生産していたものと考えられる。長径約5.8～8.5m、短径約3.8m、深さ約0.3mを測る。断面の形状は幅広く浅い皿状を呈し、埋土は上下2層に分かれ、上層は黄色粘土ブロック混じり淡灰褐色砂質土、下層は淡黒褐色シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器・陶磁器、石製品等が出土した。815～817は土師器小皿、818～826は土師器杯である。827は陶器皿、828～831は青白磁の碗である。832～834は土師器撞鉢、835は底部を欠く土師器鍋、836～838は土師器足釜である。839は土師器焙烙の把手、840は須恵質甕口縁部片である。841は直方体状の砥石である。出土遺物からこの遺構は15～16世紀頃に埋没した遺構と考えられる。

### (3) 近世前半以降の遺構・遺物

#### SDe37 (第114図)

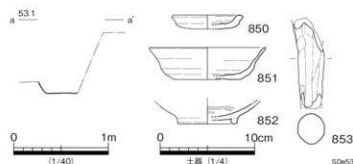
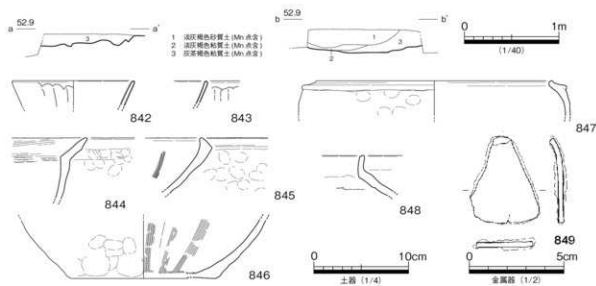
E13区北辺の現用水路の南側に配されていた東西方向の溝跡で、検出状況から近世以降の用水路の裏込め部分と考えられる。検出長約27.0m、幅約1.2m以上、深さは0.1～0.3m、主軸方位N73°W(N17°E)を測る。断面は凹凸のある不整形な形状を呈し、埋土は灰褐色系の砂質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・陶磁器等が多数出土した。842・843は青磁碗の上半部である。844は土師器鍋、845・846は土師器撞鉢、847は土師器足釜、848は土師器壺の口縁部である。849は板状の不明金属器片である。

#### SDe53 (第114図)

F12区南辺の現用水路の北辺際に配されていた東西方向の溝跡で、近世以降の北村用水の北岸の裏込め部分にあたる。検出長約18.0m以上、幅0.4～0.8m、深さ約0.2m、主軸方位N77.0°W(N130°E)を測る。断面は凹凸のある不整形な形状を呈する。

埋土からは中近世の遺物が出土した。残りが良い代表的な遺物を図化した。850は土師器小皿、851は土師器杯である。852は黒色土器碗底部、853は土師器足釜の脚部片である。



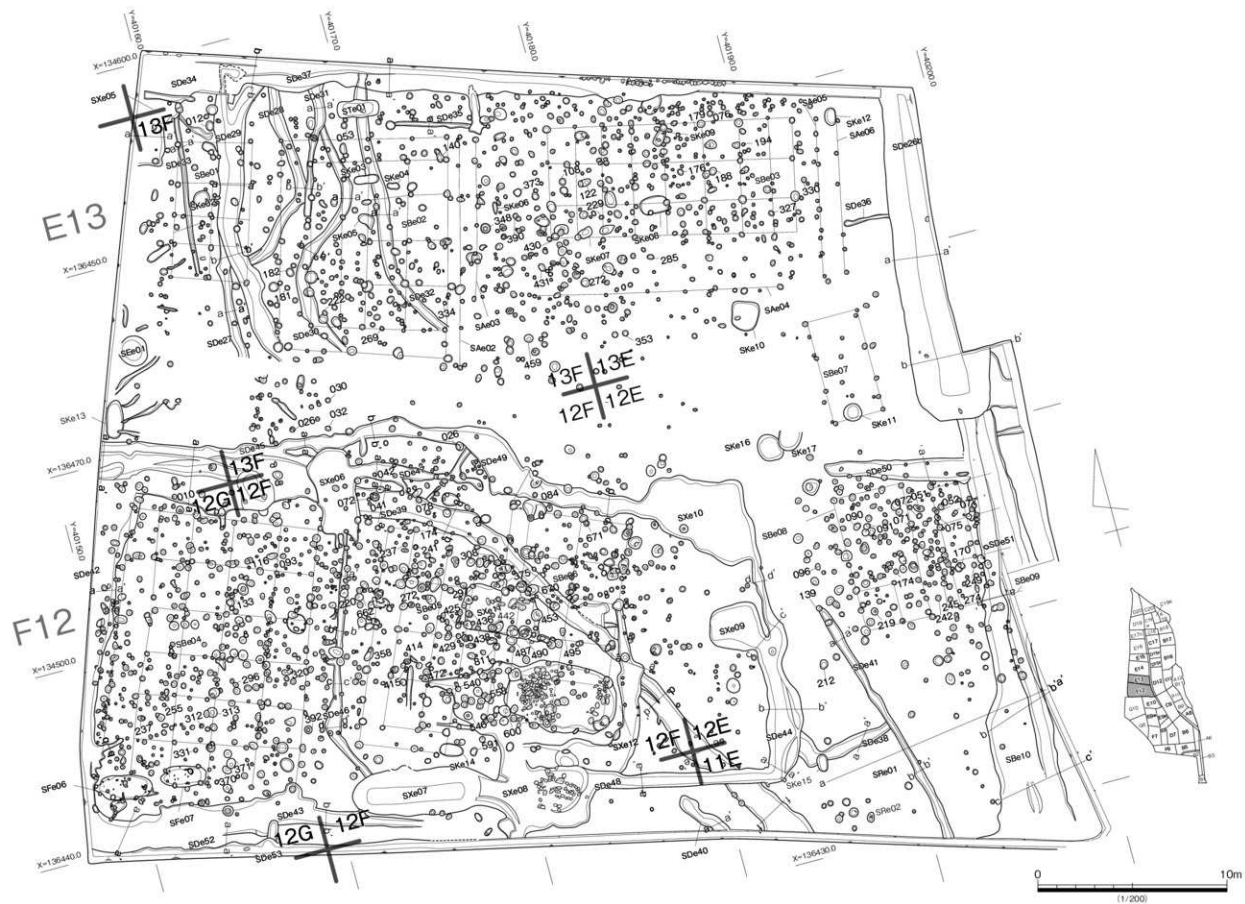
第 114 図 SDe37・53 断面図，出土遺物

(4) 柱穴出土遺物 (第 116～120 図)

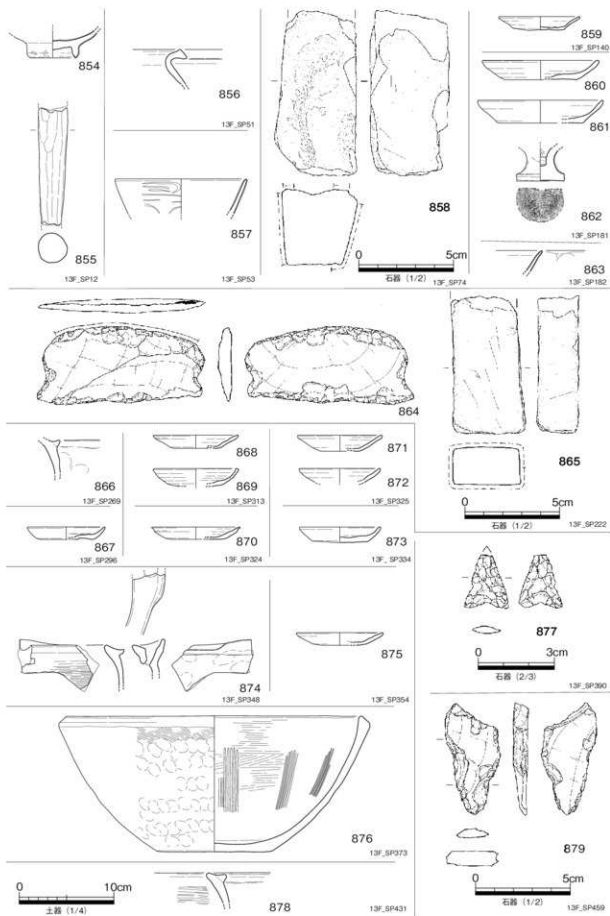
E15・E14・E13・F 12 区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物を報告する。柱穴を多数検出し遺物が多量に出土しているのは、中世後半の屋敷地が所在する E13・F 12 区の柱穴である。E13・F 12 区からは足の踏み場もない程の高密度で柱穴を確認した。その数は、面積 2,544m<sup>2</sup>を測る E13・F 12 区で合計 2,537 基確認した。柱穴の密度が高いため、柱穴番号が混乱する可能性が出てきた。そのため、調査区内に設定しているグリッド単位に 01 から始まる柱穴番号を付すことにした。出土遺物からそのほとんどは中世以降の柱穴と考えられる。図化遺物の抽出に際しては、建物遺構の再検討の必要性を考慮して、可能な限り多めに抽出し報告することにした。

854～892 は E13 区の柱穴出土遺物である。出土した遺物をグリッドで細分すれば、854～879 は 13F グリッド、880～892 は 13E グリッドから出土した遺物である。E13 区の柱穴出土遺物は、少量弥生時代の土器及び石器や、中世前半 (12 世紀頃) に遡る資料も含まれるが、中世後半頃の資料が主体を占める。856 は弥生時代後期の甕、864・877・879 はサスカイトの石庖丁・石鎌・石錐である。857・863・891 は青白磁の碗の資料で、863・891 は 12～13 世紀頃と考えられる。

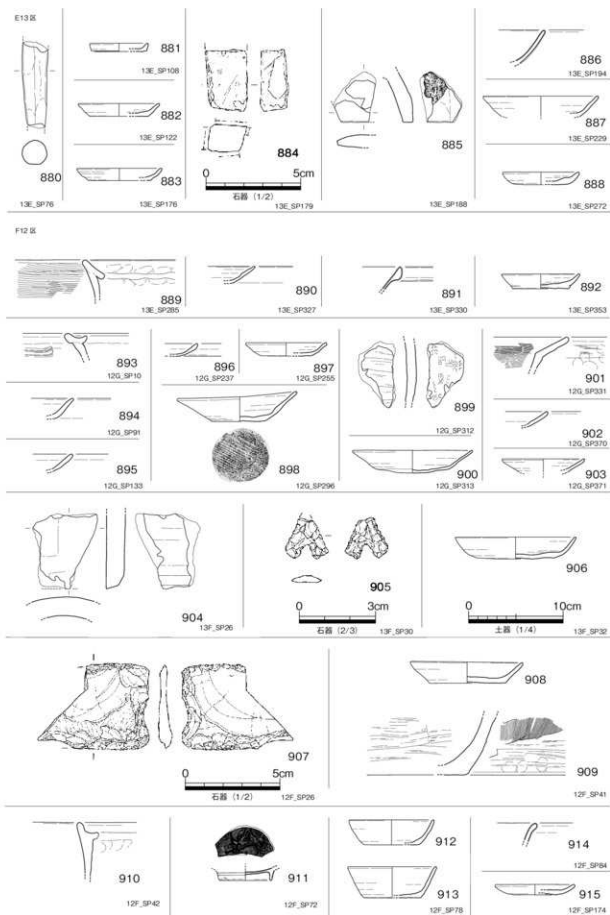
893～989 は F12 区の柱穴出土遺物である。出土した遺物をグリッドで細分すれば、893～903 は 12G グリッド、904～906 は 13F グリッド、907～960 は 12F グリッド、961～989 は 12 E グリッドの柱穴出土遺物である。F12 区の柱穴出土遺物は E 13 区同様、少量弥生時代の土器及び石器や中世前半



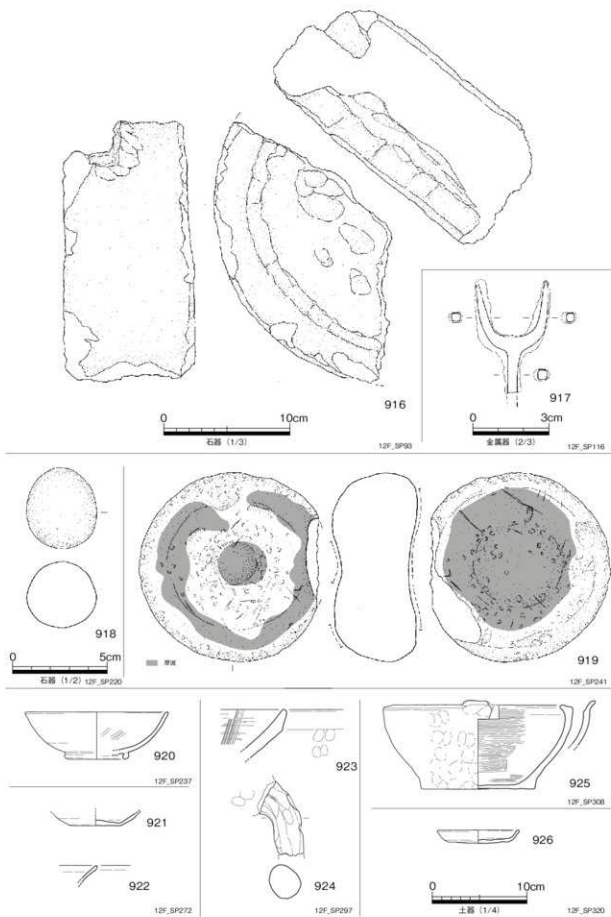
第115図 E13・F12区遺構配置図



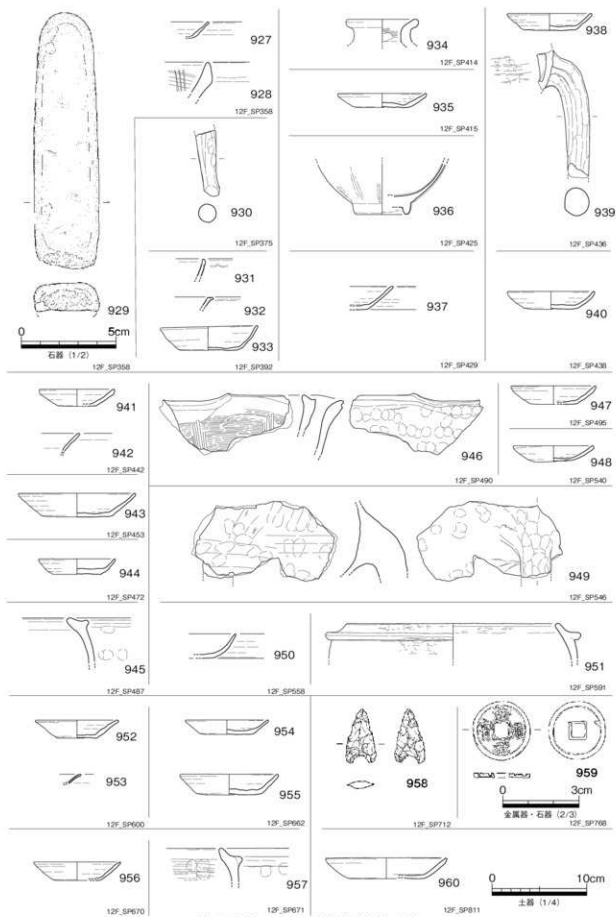
第 116 图 E13 区柱穴出土遺物



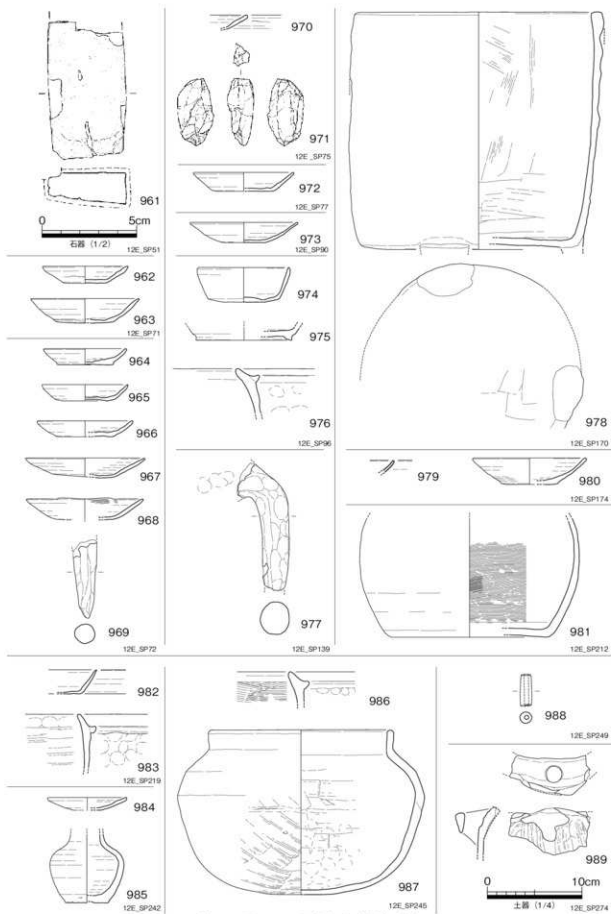




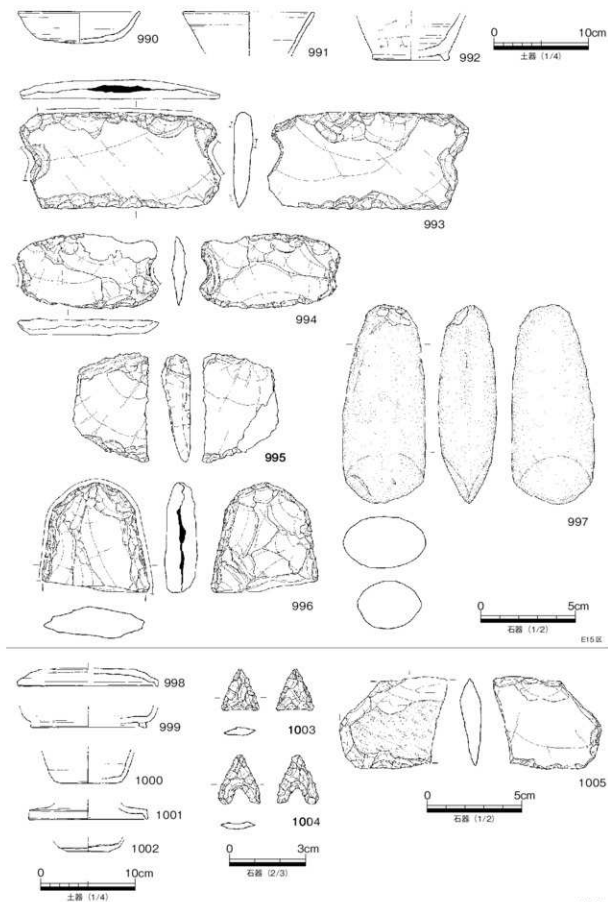
第118图 F12区柱穴出土遗物(1)



第 119 图 F12 区柱穴出土文物 (2)

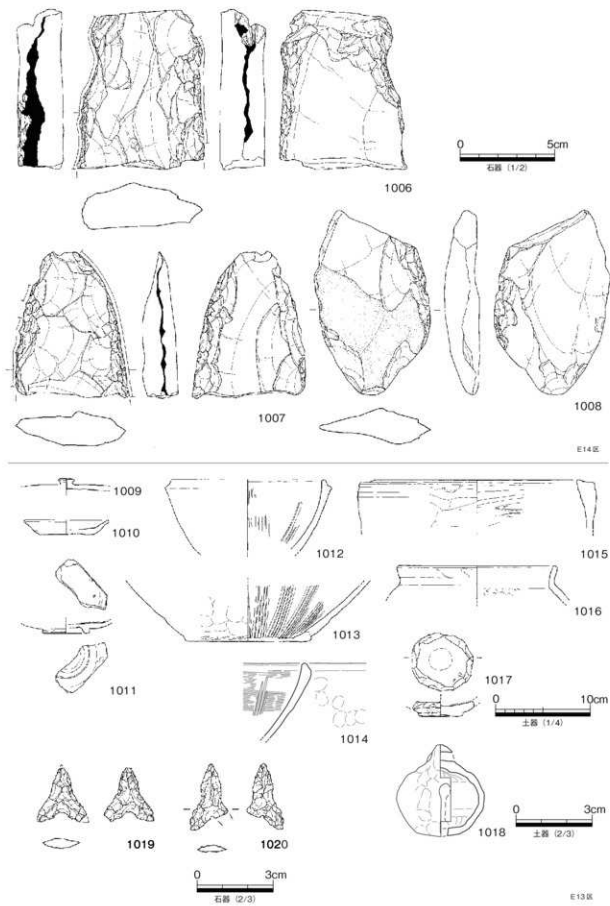


第 120 図 F12 区柱穴出土遺物 (3)

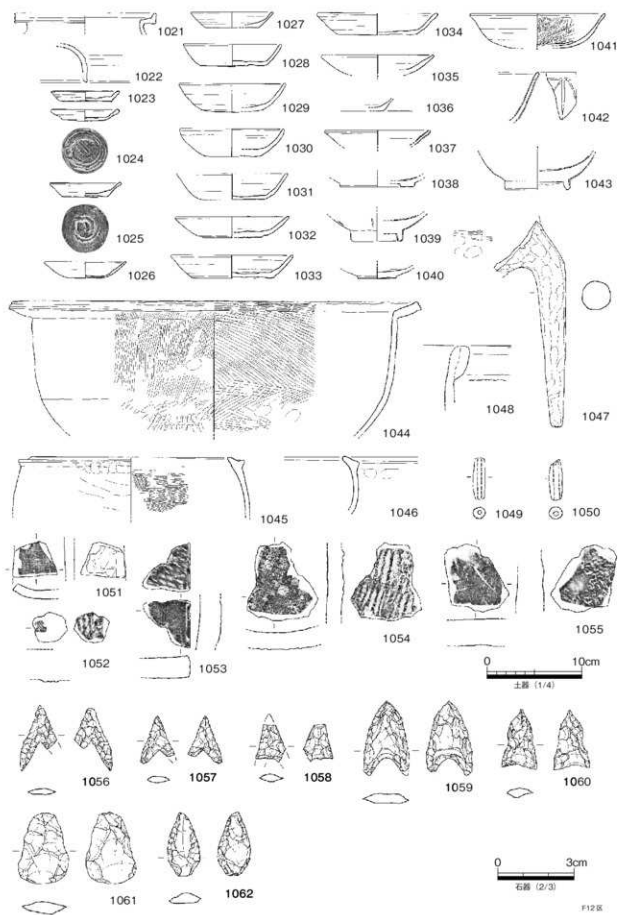


第121图 E15·E14区包含層出土遺物

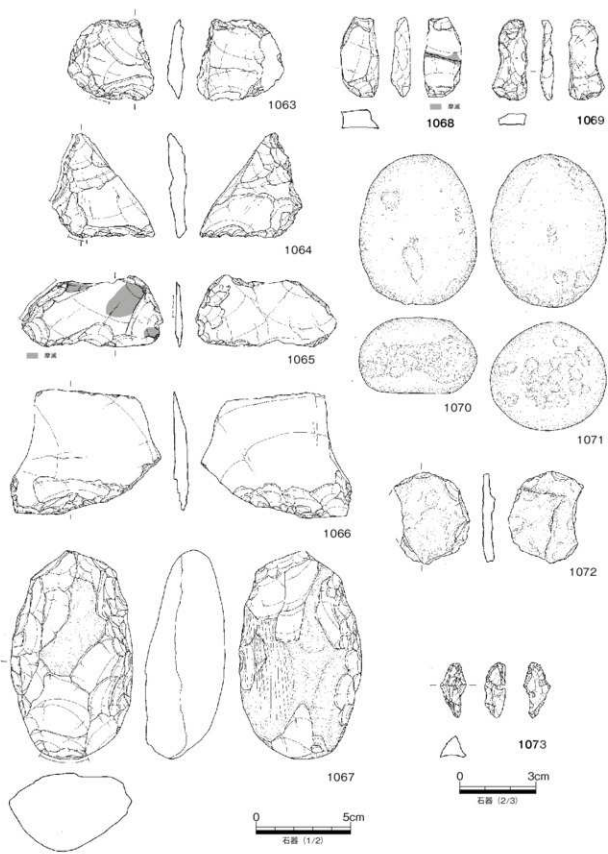
E14区



第 122 图 E14·E13 区包含層出土遺物



第 123 图 F12 区包含層出土遺物 (1)



F12区

第124图 F12区包含層出土遺物(2)

(12世紀頃)に遡る資料も含まれが、中世後半～近世初頭頃の資料が主体を占める。905・907・958はサヌカイトの石鎌・石庖丁である。959は輸入銭貨で「洪武通宝」である。971は長石の楔形石器、916は凝灰岩製の石臼である。920は12世紀頃の黒色土器の椀で中世前半の資料である。

#### (5) 包含層出土遺物 (第121～124図)

E15・E14・E13・F12区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次に包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側掘掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

990～997はE15区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。990は土師器杯、991は須恵器杯、992は須恵器壺の高台付底部である。993～997は石器の資料である。993・994はサヌカイト打製石庖丁である。995は横長剥片のエッジを刃部にした削器である。996は打製の石鎌の基部にあたり、エッジには潰れ痕が顕著に認められる。997は砂岩製の小型の太型蛤刃石斧である。

998～1008はE14区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。998～1001は須恵器の資料である。998・999は8世紀頃の杯蓋及び高台付杯の底部である。1001は7世紀頃の高杯脚部片である。1002は青磁皿である。1003～1008はサヌカイトの石器の資料である。1003・1004は石鎌である。1005は石庖丁片である。横長剥片を素材に用い、側縁に調整を加え長方形に仕上げたものである。1006・1007は石鎌なし石斧である。肉厚な大型剥片を素材に用い、側縁部から調整を加えているが、素材の分割面を広く残しており、その形状から素材が横長状の剥片であることが解る。エッジには潰れ痕を顕著に残している。1008は横長状の大型剥片に調整を加えた石器であるが、形状から未製品と考えられるため、二次加工ある剥片に分類した。

1009～1020はE13区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。1009は8世紀頃の須恵器杯蓋である。1010は土師器杯、1011は緑釉の皿である。1012～1014土師器播鉢、1015は土師器土釜の口縁部、1016は土師器壺の上半部である。1018は土師質の土鈴である。出土例が少なく希少な遺物である。1019・1020はサヌカイトの石鎌である。

1021～1073はF12区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。1021は弥生時代後期後半以降の甕口縁部である。直立気味の口唇部外面には退化凹線が二条認められる。1022はTK10並行期頃の須恵器杯蓋片である。1023・1024は土師器小皿、1025～1036は土師器杯である。1037～1040は施軸陶器の皿と椀である。1041は高台部を欠く須恵器椀、1042・1043は青磁椀である。

1044～1046は底部を欠く土師器鍋、1047は土師器足釜の脚部である。1049・1050は土師質管状土鍾、1051～1055は平瓦の小片である。消耗しているが、表裏面ともに布目・縄目のタタキ痕を残している。1056～1062はサヌカイトの石鎌の資料である。1056～1059・1062は凹基式で、1056は形状から縄文時代の石鎌と考えられる。1061は形状から石鎌の未製品と考えられる。1063～1066はサヌカイトの削器である。いずれも横長剥片を素材に用いた削器で、1063・1064等は破損品である。1065には摩滅痕が部分的に認められる。1066は削器にしたが、交互剥離状の剥離痕が認められ石核の可能性もある。1068・1069は形状から楔形石器の削片に分類した。1067は安山岩の円礫を素材にした石斧である。表面には使用痕と考えられる直線状の痕跡が複数認められる。1070・1071は花崗岩と砂岩の円礫を素材にした敲石である。上下両端部には敲打痕が認められる。1072は結晶片岩を素材にした円盤状石製品である。1073は緑色頁岩の二次加工ある剥片であるが、本来は何らかの石器の調整剥片と考えられる。



(参考文献)

- 田辺 昭三 1966「陶邑古窯址群Ⅰ」平安学園考古学クラブ
- 香川県教育委員会 1976「未開古墳調査概要」
- 菅原康夫 1991「遺物をもたない遺構——伏焼木炭窯に関する予察——」『徳島県埋蔵文化財センター年報 V o 1. 2』財団法人徳島県埋蔵文化財センター
- 中世土器研究会 1995「概説 中世土器・陶磁器」真陽社
- 松本和彦 2001「第4節炭焼き窯について」『国道193号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2002「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末開遺跡」
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2003「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末開遺跡」
- 香川県教育委員会 2005「西末開遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成15年度』
- 香川県教育委員会 2005「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末開遺跡Ⅰ」
- 香川県教育委員会 2005「西末開遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』
- 香川県教育委員会 2006「西末開遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成17年度』
- 香川県教育委員会 2007「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西末開遺跡Ⅱ」
- 香川県教育委員会 2012「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 西末開遺跡Ⅲ」
- 香川県教育委員会 2014「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 西末開遺跡Ⅳ」

## 第V章 E調査区の調査

### 第1節 E調査区の概要・基本層位

#### 1. 概要

E調査区は平成14・16・17年度に発掘調査を実施した西末則遺跡の南半部にあたる調査区である。調査区は東辺の末則丘陵から南西方向に広がる段丘面上に立地し、南北約120m、東西約100mを測る調査区である。E調査区の整理作業は平成16・25年度に部分的に実施した。平成16年度はD7・B6区の整理作業を実施し、A・B調査区の調査成果を含め「西末則遺跡Ⅰ」として報告した。平成24年度はG10・G8区の整理作業を実施し「西末則遺跡Ⅳ」として報告している。

今回の整理作業ではE調査区の残された地区の整理を実施したが、対象地はかなり広いため報告の都合上、北半部と南半部に分けて報告することにした。北半部はC9・E10・E9e・E9w区、南半部はF7・E6・F6・B5区にあたる。

段丘面上には綾川から派生する弥生時代後期後半～古墳時代前期、古代以降の複数の小流路と、末則丘陵方面から流下する谷状の小流路が交差しており、それらの流路が埋没し平坦化した後に河川周辺や上面に集落の居住域が広がる。

縄文～弥生時代のものは河川中からの出土遺物と大型土坑等の資料があるが、住居等はみられず、この時期の集落の中心は周辺域に広がるものと考えられる。

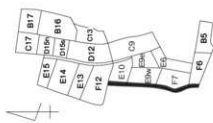
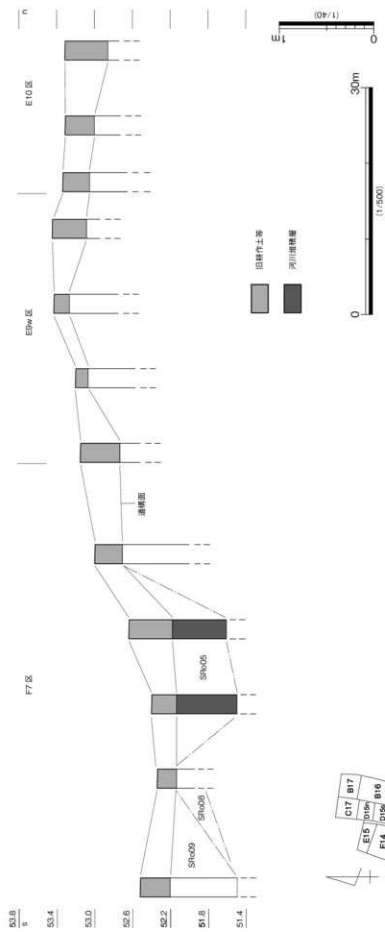
古代の主な遺構としては建物、土坑、溝状遺構が少数分布するが、段丘を東西に横断する幅広の河川からは古代の遺物が比較的多量に出土している。注目できる出土遺物として、E6区出土の陶印があげられる。陶印は奈良時代から平安時代の地方豪族が役所の公印である銅印を模倣した一種の私印であり、県下でも事例はあるが希少な資料である。なお、既に先の報告書で紹介しているが（註1）、周辺からは帯金具や蔵骨器が出土しており、西末則周辺を拠点とする地方豪族を推測する上で重要な資料になっている。

中世以降の遺構・遺物はほぼ全域から検出しているが、特に北半部のE10、南半部のF6区からは中世後半～近世初頭頃の集落域を検出した。E10区は比較的柱穴の密度が高く、北村用水を挟んで北に位置するF12区や西のJ4区同様に居住域の中心地にあたるものと考えられる。

#### 2. 基本層位

E調査区は末則丘陵裾部から西方へ続く段丘面上に位置する調査区である。調査区内には弥生時代～古代に至る複数の河川を検出し、その河川間の微高地や河川が埋没した後の河川上面に古代～中・近世の集落が広がる。

E10・E9w・F7・F6区の西壁をもとに、南北方向の基本層位の柱状図を作図した。調査前の旧状は全面農地で、北端にあたるE10区の地表面の標高は約53.3m、E9w区北半部53.5m、E9w区の南半部からは地表は下がり、F7・F6区52.5～53.1mを測り、南に向けて傾斜している事が解る。ベースは北半部のE10・E9w区周辺は礫混じりの黄褐色系粘質土～シルト、南半部のF7・F6区周辺は河川堆積層をベースにしているため、暗褐色系の細砂～粘性細砂等がベースになる。遺構面はベース面のほぼ上面に位置し、北端にあたるE10区の遺構面の標高は約53.0m、E9w区北半部53.2m、E9w区の南半



第125图 F7·E6·D7区遺構配置图

部からは、自然河川 SRo04・05 が東西方向に流下するため遺構面は下がり、F7・F6区 52.7～52.2 mを測り、地表面同様、南に傾斜している事が解る。なお、南端部の F6 区の自然河川上面では比高差 0.2 m程ではあるが遺構面を2面確認し上層遺構面を第1遺構面、下層遺構面を第2遺構面と呼ぶ。

## 第2節 E調査区の遺構・遺物

### 1. C9・E10・E9e・E9w区

#### (1) 縄文時代～弥生時代の遺構・遺物

##### 土坑

##### SKo06 (第127図)

E9e区南東端部で検出した大型土坑である。南壁沿いで約1/2を検出した。平面は不整形形状を呈し、長径3.8m、短径1.0m以上、深さ約0.5mを測る。埋土上層は淡黒褐色粘質土、下層は暗灰褐色粘質土からなる。

埋土からは弥生時代後期後半以降の弥生土器及び石器等の資料が比較的まとまって出土した。1074・1075は甕で体部は長胴気味で平底を僅かに残す。口縁部は「ハ」の字状に開き、端部は丸く仕上げている。1076・1077・1078は鉢、1079は台付鉢の底部である。1080はサヌカイトの大型剥片を素材に用い、側縁部に調整を施した刮器である。出土遺物からSKo06は弥生時代後期後半新相以降に埋没した大型土坑と考えられる。

##### 溝状遺構

##### SDo00 (第128図)

C9区南端部で検出した概ね北西方向へ延びる溝状遺構で、SDo01と並走しており、北半部ではSRo01と合流するが、明瞭な切り合いは認められない。なお、この溝状遺構はB6区のSDa13と連続する溝状遺構である。検出長約9.5m、幅約4.0m以上、深さ約0.35mを測る。断面は凹凸のある不整形な形状を呈し、埋土上層は灰黄褐色砂質土、下層は暗灰黄色砂礫からなる。

埋土からは弥生時代中期中葉、後期初頭、後期前半頃の弥生土器が少量出土した。1081・1082は後期前半頃の広口壺の口縁部と高杯脚部の上半部である。出土遺物が少ないため詳細な時期判断はできないが、この遺構は概ね後期前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

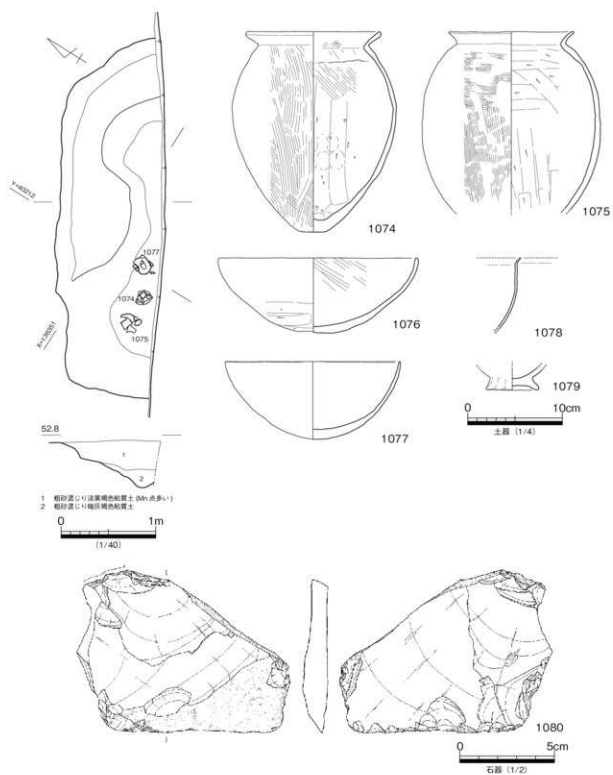
##### SDo01 (第128図)

C9区南端部で検出した北西方向へ延びる直線状の溝状遺構である。SRo01と重複し、前後関係としてはこの溝はSRo01より後出する。検出長約11.0m、幅約2.5m、深さ約0.4m、主軸方位N58°Wを測る。断面は凹凸のある不整形な逆台形状を呈し、上層は褐灰・黒褐・黄灰色等の砂混じり粘土、下層は灰色砂礫層からなる。

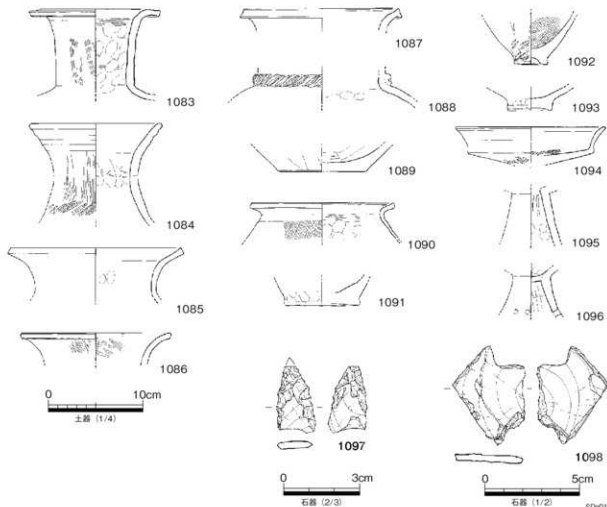
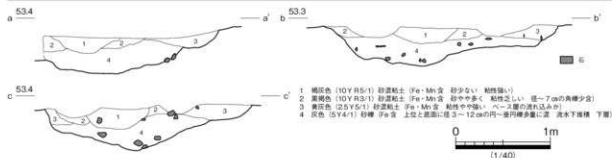
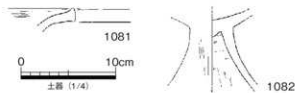
埋土からは弥生土器、石器が出土した。1083～1098は弥生時代後期前半の土器で、1083・1084は長頸壺、1085～1088は広口壺である。1092・1093は鉢の底部であるが、1093は甕の可能性もある。1094～1096は高杯の杯部と脚部片である。1097はサヌカイトの石鏃で、1098はサヌカイトの横長状の剥片である。出土遺物からSDo01は弥生時代後期前半新相～後期後半古相以降に埋没した溝状遺構と考えら



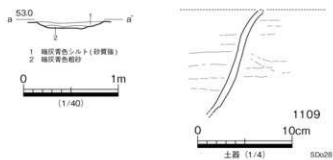
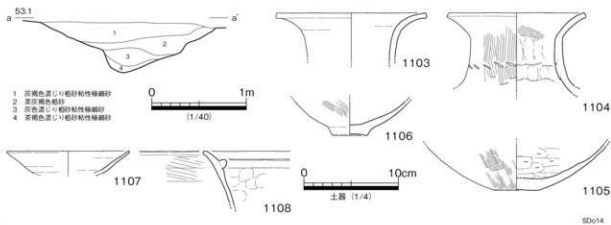
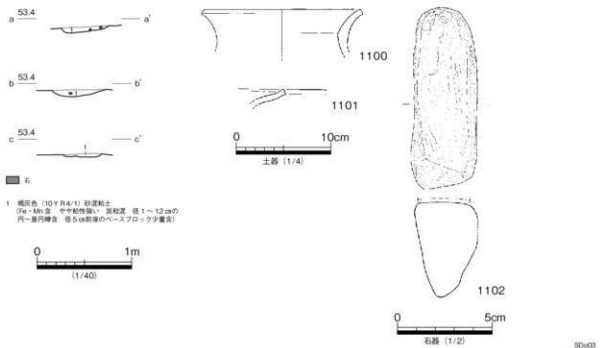
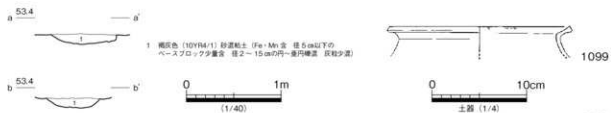
第 126 图 C9 · E10 · E9e · E9w 区遺構配置図



第 127 図 SKo06 平・断面図, 出土遺物



第128図 SDo00・01 断面図, 出土遺物



第129図 SDo02・03・14・28断面図, 出土遺物



れる。

#### SDo02 (第129図)

C9区南端部で検出した北西方向へ延びる直線状の細い溝状遺構である。SDo01の上面で検出した2条の小溝の一つで、検出状況からSDo01より後出する。検出長約13.0m、幅0.6～0.7m、深さ約0.1m、主軸方位N60°Wを測る。断面は凹凸のある不整形な皿状を呈し、褐灰色砂混り粘土からなる。

埋土からは弥生時代後期前半頃の土器片が少量出土した。1099は甕の口縁部片である。

#### SDo03 (第129図)

C9区南端部で検出した北西方向へ延びる直線状の細い溝状遺構である。SDo01の上面で検出した2条の小溝の一つで、検出状況からSDo01より後出する。検出長約16.3m、幅0.4～0.6m、深さ約0.05m、主軸方位N59°Wを測る。断面は凹凸のある不整形な皿状を呈し、褐灰色砂混り粘土からなる。

埋土からは弥生時代後期前半頃の土器片が少量出土した。1100は直口壺の口頸部、1101は甕口縁部片である。1102は棒状の砥石である。出土遺物が少なくSDo03の詳細な時期については問題を残すが、SDo01同様弥生時代後期以降に埋没した溝状遺構の可能性が高い。

#### SDo14 (第129図)

E10区中央、概ね南北方向であるが僅かに西に振る溝状遺構である。SDo15・17・20・24と重複し、全ての溝より先行する。検出状況からF12区のSDe39、E9e区SDo29、C9区のSDo00・01等と連続する溝状遺構の可能性が高い。検出長約18.0m、幅1.0～1.7m、深さ約0.5mを測る。断面は凹凸のある不整形なV字状を呈し、埋土は灰褐色～茶褐色系の細砂からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器等が出土した。上下層とも弥生時代後期後半新相頃の土器が主体を占めるが、中世の土師器・須恵器が混じるということは、弥生時代に溝を掘削し埋没した後に、中世頃に改修された可能性がある。1103～1106は弥生土器壺である。1103・1104は広口壺の口頸部である。1105は壺底部で僅かに平底を残す。1107は底部を欠く土師器杯、1108は土師器足釜の口縁部片である。

#### SDo28 (第129図)

E9e区中央、SRo03とSDo29が重複する地点付近に位置する。SRo03の東岸へ合流する短い溝状遺構である。検出長約6.5m、幅約0.7m、深さ約0.05mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土上層は暗灰青色シルト、下層は暗灰青色粗砂からなる。

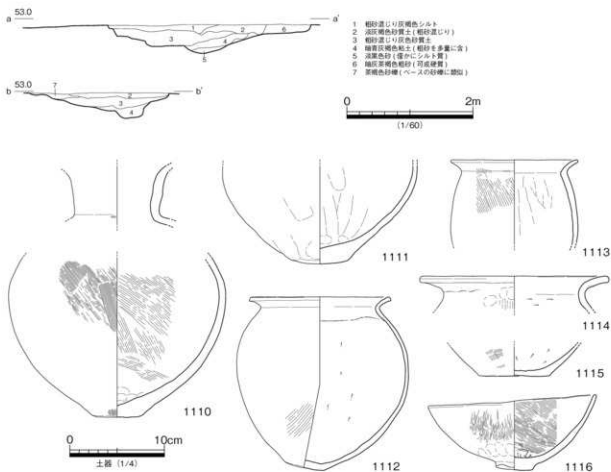
埋土からは縄文時代晩期頃の浅鉢片が出土している。1109は浅鉢片である。磨滅が著しいが、条痕文が僅かに認められる。

#### SDo29 (第130図)

E9e区北半部、SRo03を切り込んで北西方向へ直線気味に延びる溝状遺構である。この溝跡はかなり広範囲で確認している溝状遺構で、南端から北端にかけての繋がりは、C9区のSDo01ないしSDo00→E9e区SDo29→E10区SDo14→F12区SDe39・45等の連続が推定できる。断面は幅広く凹凸のある不整形な落ち込み状を呈する。埋土は複数層に分かれ、概ね上層は淡灰褐色砂質土・粗砂混じ

り灰色砂質土、下層は暗青灰褐色粘土等からなる。

埋土からは弥生時代後期後半頃の弥生土器が出土した。1110・1111は壺の資料である。1110は広口壺の頸部と体部で、1111は体部下半部である。1112～1115は甕の資料である。口縁部は「ハ」字状に外上方に開き、端部は平坦ないし丸く仕上げている。1112の体部内面にはヘラケズリが顕著に認められる。



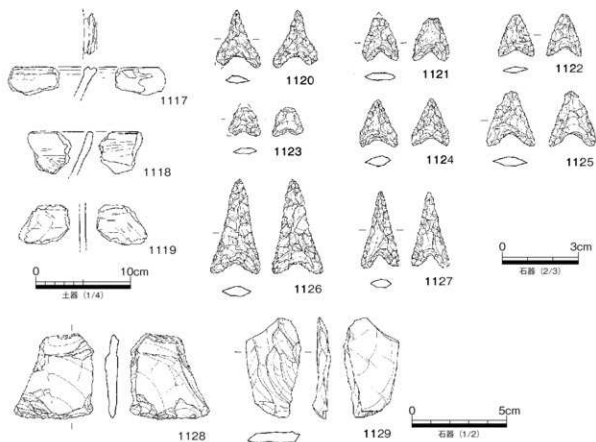
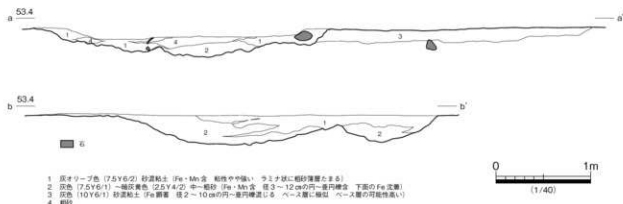
第130図 SDo29 断面図, 出土遺物

自然河川

### SRo01 (第131図)

C9区南端部で検出した概ね東西方向へ蛇行する河川で、西端の西壁際ではSRo02と合流する。削平を受け残りは悪い。周囲の状況から推定して、東に隣接するA調査区のB9・A9区の東方に所在する谷間から延びている小河川と考えられる。検出長約21.0m、幅2.8～4.7m、深さ約0.3mを測る。断面は凹凸のある不整形で浅い皿状を呈し、埋土は灰オリーブ色砂混粘土、灰～暗灰黄色砂等からなる。

埋土からは縄文時代晩期頃の土器と弥生土器の細片、石器が混在した状態で出土した。1117～1119は縄文土器の浅鉢口縁部片と考えられる。1120～1127はサヌカイトの凹基式石鏃である。1128はサヌカイトの横長剥片のエッジに調整を施した削器である。1129はサヌカイトの剥片で、形状や風化度から旧石器時代の翼状剥片に分類できる。旧石器の資料は数が少なく貴重な資料になる。



第131図 SRo01 断面図, 出土遺物

### SRo03 (第132~135図)

E9e 区の西半部を南北方向に延びる自然河川で、E6 区から E9e 区を経由し E10 区方向へ延びるが、詳細な経路については不明な点が多い。E9e 区南端では幅が狭いが、北半部では幅広になる。SDo29 ~ 32、SXo06・07・08、SRo04 と重複し、SRo03 は全ての遺構より先行する。検出長約 40.0 m、幅 2.5 ~ 10.0 m、深さ約 1.0 m を測る。断面は隅丸逆台形状を呈し、埋土は複数層に分かれる。埋土からは縄文土器・弥生土器、石器が比較的多数出土した。おそらく、縄文時代晚期と弥生時代の複数の流路が重複しているものと考えられる。

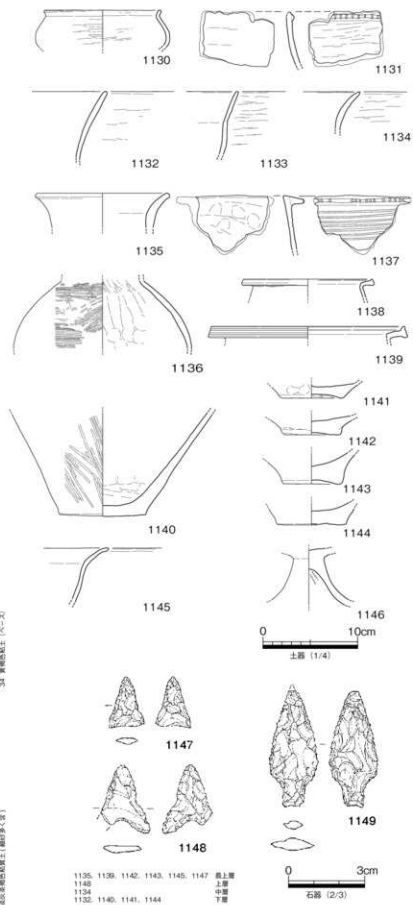
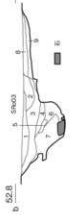
53.1



- 1 緑泥岩質粘板岩
- 2 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 3 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 4 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 5 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 6 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 7 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 8 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 9 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 10 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 11 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 12 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 13 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 14 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 15 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 16 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 17 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 18 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 19 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 20 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))

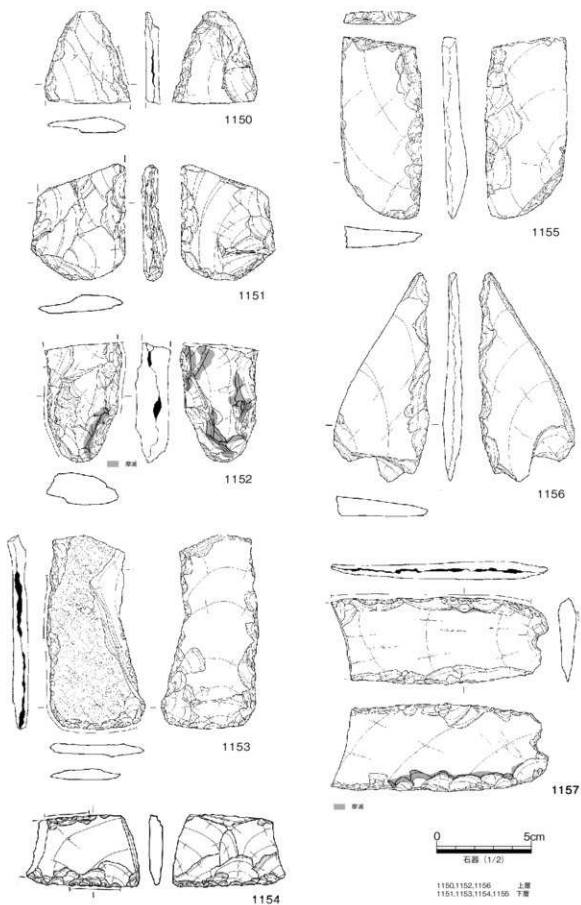
- 21 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 22 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 23 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 24 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 25 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 26 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 27 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 28 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 29 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 30 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 31 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 32 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 33 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 34 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))

- 1 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 2 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 3 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 4 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 5 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 6 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 7 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 8 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))
- 9 緑泥質シリカ質粘板岩(土壌下シロト層(表層))

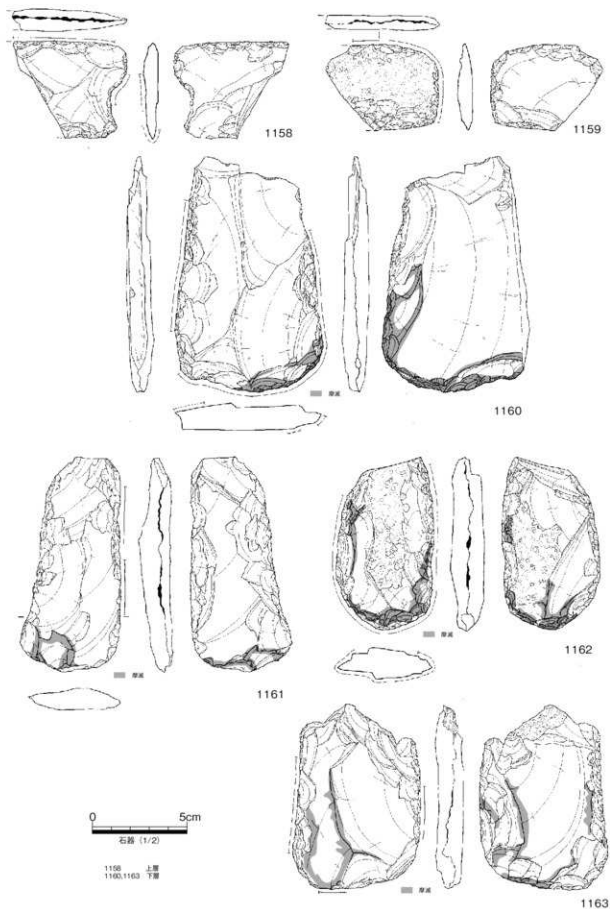


- 1135, 1139, 1142, 1143, 1145, 1147 最上層  
 1148 上層  
 1134 中層  
 1132, 1140, 1141, 1144 下層

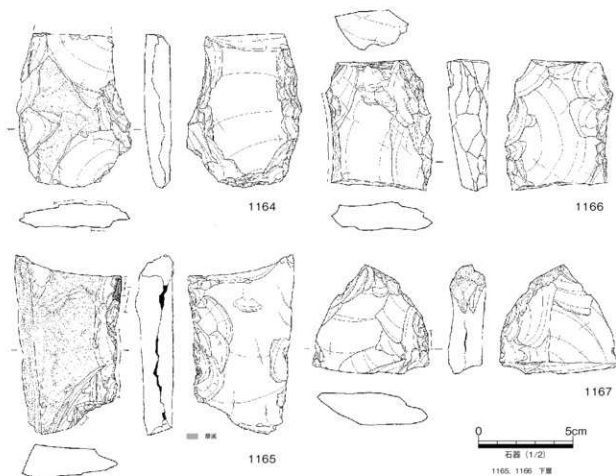
第132図 SRo03 断面図, 出土遺物



第 133 図 SRO03 出土遺物 (1)



第 134 図 SRo03 出土遺物 (2)



第 135 図 SRe03 出土遺物 (3)

1130～1134は縄文時代晩期頃の資料である。1135～1146は弥生時代前期末、後期前半、後期後半頃の資料である。1147～1167はサヌカイトの石器である。1147～1149は石鏃である。1150～1152は槍先形石器の未製品ないしは欠損品に分類したが、石核の可能性もある。1153～1156は横長状の剥片に刃部を付した削器であるが、1153は小型の石鏃とも考えられる。1157～1159は打製石庖丁片である。1160～1164は打製石鏃に分類した。1165～1167は肉厚な剥片を素材にした石核と考えられる。いずれも側縁部を作業面にて、交互剥離を多用し剥片剥離を行なっている石核である。

## (2) 古代の遺構・遺物

### 掘立柱建物

#### SBo13 (第 136 図)

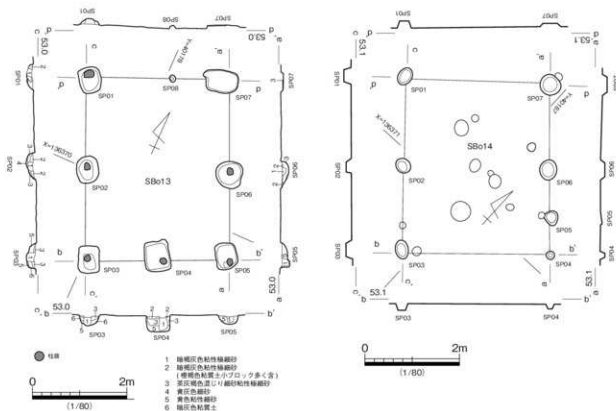
E9w 区の西半部中央で検出した梁間 2 間、桁行 2 間の南北棟である。削平を受けた柱穴の残りが悪く柱穴の一部を欠く。なお、あと桁行 1 間分ほど北に延びる可能性があるが不明瞭である。2 間 (3.0 m) × 2 間 (3.9 m)、面積 11.7 m<sup>2</sup>、主軸方位 N235° W、柱間は梁間 1.4～1.6 m、桁行 1.9～2.0 m を測る。

柱穴掘方は方形状を呈し、6 柱穴で柱痕を確認した。柱穴径 0.5～0.6 m、深さ 0.05～0.4 m を測る。柱穴 SP04 からは弥生土器の寛底部が 1 点だけ出土しているが混入であろう。出土遺物が少なく SBo13 の詳細な時期判断には無理があるが、柱穴の形状等から古代の建物の可能性がある。

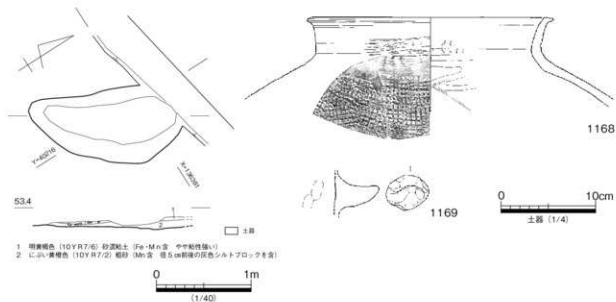
### SB014 (第136図)

E9W区の中央で検出した梁間1間、桁行2間の方形に近い南北棟である。削平を受けたため柱穴の残りが悪い。1間(3.1m)×2間(3.6m)、面積11.16㎡、主軸方位N40.5°W、柱間は梁間3.0~3.1m、桁行1.8mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.2~0.5m、深さ0.1~0.2mを測る。

柱穴からは遺物が出土していないためSB014時期判断には無理があるが、配置や検出状況から隣接するSB013に類似する時期の可能性はある。



第136図 SB013・14平・断面図



第137図 SK002平・断面図, 出土遺物



土坑跡

#### SKo02 (第137図)

C9区北半部南寄りで検出した不整形な土坑である。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広く浅い皿状を呈する。長径1.6m以上、短径約0.8m、深さ約0.1mを測る。埋土は上下2層に分かれ、上層は明黄褐色砂混粘土、下層はにぶい黄橙色粗砂を呈し、人為的な埋め戻し土の可能性がある。

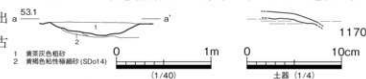
埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。1168は須恵器甕の上半部である。1169は土師器甕の把手片である。出土遺物が少ないためこの土坑の詳細な時期判断には無理があるが、SKo02は概ね古代の土坑と考えられる。

溝状遺構

#### SDo15 (第138図)

E10区中央、SDo14の西側に位置する溝跡で、途中で屈曲しているが概ね南北方向に延びる。SDo14・17・20と重複する。切合いからこの溝跡はSDo14より後出し、SDo17・20より先行する。検出長約15.0m、幅0.5～1.3m、深さ約0.4mを測る。断面は皿状を呈し、埋土は黄茶灰色粗砂からなる。

埋土からは土師器・須恵器が極少量出土した。1170は須恵器杯蓋の天井部である。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物や切り合い関係からSDo15は古代以降に埋没した溝跡と考えられる。



第138図 SDo15断面図, 出土遺物

(3) 中世の遺構・遺物

掘立柱建物

#### SBo01 (第139図)

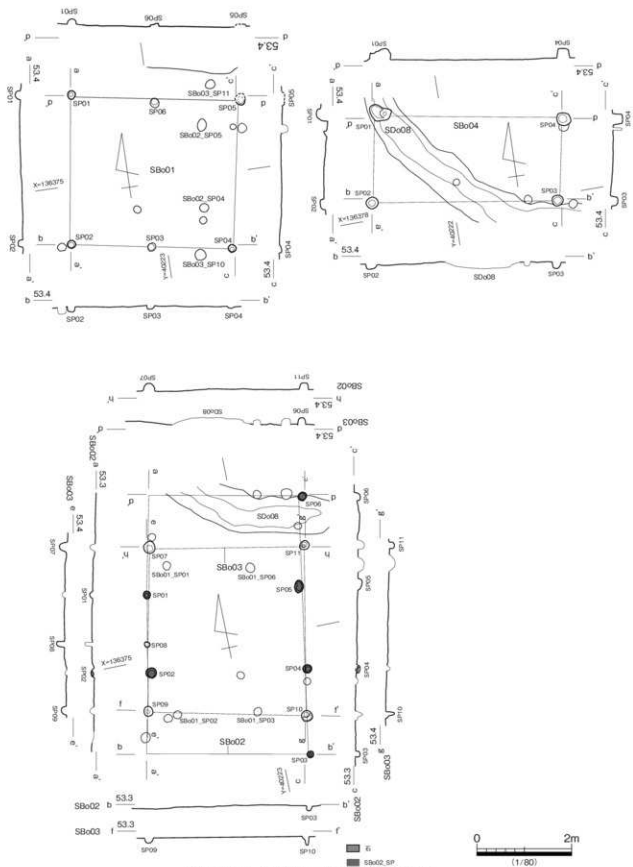
C9区北半部南よりで検出した梁間1間、桁行2間の方形に近い東西棟である。削平を受けたため柱穴の残りが悪い。SBo02・03と重複するが、明瞭な柱穴の切り合いが認められないため前後関係は不明である。1間(3.2m)×2間(3.4m)、面積10.88㎡、主軸方位N8.0°E、柱間は梁間3.2m、桁行1.6mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は0.2～0.3m、深さ0.1～0.2mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少なくSBo01の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世以降の建物と考えられる。

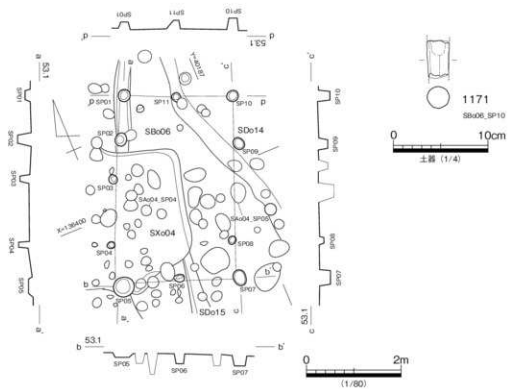
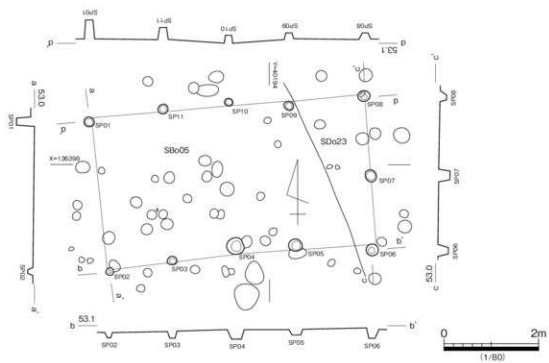
#### SBo02 (第139図)

C9区北半部南よりで検出した梁間1間、桁行3間の南北棟である。削平を受けたため柱穴の残りが悪い。SBo01・03と重複するが、明瞭な柱穴の切り合いが認められないため前後関係は不明である。1間(3.3m)×3間(5.5m)、面積18.15㎡、主軸方位N10.0°E、柱間は梁間3.3m、桁行1.8～2.0mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は0.2～0.3m、深さ0.1～0.2mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片、十瓶焼の甕等が少量出土した。出土遺物からSBo02は中世以降の建物と考えられる。



第 139 图 SB001 ~ SB004 平・断面图



第 140 図 SB05・06 平・断面図，出土遺物

#### SB03 (第139図)

C9区北半部南よりで検出した梁間1間、桁行2間以上の方形に近い南北棟である。削平を受けたため柱穴の残りが極端に悪い。そのため柱列の柱穴の一部を欠く。SB01・02と重複するが、明瞭な柱穴の切り合いが認められないため、前後関係は不明である。1間(3.3m)×2間(3.4m)、面積11.22㎡、主軸方位N10.0°E、柱間は梁間3.3m、桁行1.4～2.0mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は0.2～0.3m、深さ0.1～0.2mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片、十瓶焼の甕等が少量出土した。出土遺物からSB03は中世以降の建物と考えられる。

#### SB04 (第139図)

C9区北半部南よりで検出した梁間1間、桁行1間以上の東西棟である。削平を受けたため柱穴の残りが極端に悪い。そのため側柱列の柱穴の一部を欠く。SB02と重複するが、明瞭な柱穴の切り合いが認められないため、前後関係は不明である。1間(1.8m)×1間(3.9m)、面積7.02㎡、主軸方位N10.0°E、柱間は梁間1.8m、桁行3.9mを測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径は0.2～0.4m、深さ0.1～0.2mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片、十瓶焼の甕等が少量出土した。出土遺物からSB04は中世以降の建物と考えられる。

#### SB05 (第140図)

E10区の北東部のSD023の上面で検出した梁間2間、桁行4間の東西棟である。2間(3.2m)×4間(5.8m)、面積18.56㎡、主軸方位N86.0°E(N4.0°W)、柱間は梁間1.4～1.6m、桁行1.4～1.6mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径は0.2～0.3m、深さ0.2～0.4mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少なくSB05の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世以降の建物と考えられる。

#### SB06 (第140図)

E10区の北半部中央で検出した梁間2間、桁行4間の小型の南北棟である。SD014・15、SX004等と重複し、切り合い関係よりSB06はこれらの遺構より後出する。2間(2.4m)×4間(3.9m)、面積9.36㎡、主軸方位N21°E、柱間は梁間1.2m、桁行0.8～1.2mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.1～0.4m、深さ0.1～0.3mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。1171はSP10から出土した土師器足釜の脚部片である。出土遺物が少なくSB06の詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物から中世の建物と考えられる。

#### SB07 (第141図)

E10区の中央で検出した梁間1間、桁行4間の東西棟である。削平を受けたため柱穴の残りが極端に悪い。そのため、側柱列の柱穴の一部を欠く。SB09・08、SD015・16等と重複し、切り合い関係からSB07はこれらの遺構より後出する。1間(3.0m)×4間(7.3m)、面積21.9㎡、主軸方位N85.0°W(N5.0

° E)、柱間は梁間 2.8 ~ 3.2 m、桁行 1.2 ~ 3.2 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.2 ~ 0.3 m、深さ 0.1 ~ 0.4 m を測る。

柱穴からは土師器、石器等が少量出土した。1172 は SP02 から出土したサスカイトの石鏃で混入品であろう。出土遺物が少なく SBo07 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世の建物と考えられる。

#### SBo08 (第 141 図)

E10 区の中央で検出した梁間 2 間、桁行 3 間の東西棟である。削平を受けたためか柱穴の残りが悪い。SBo07・09、SDo15・16 等と重複し、SDo15・16 とは切り合うため、SBo08 が後出することが解るが、他とは切りあわないため不明瞭である。2 間 (2.8 m) × 3 間 (5.0 m)、面積 14.0 m<sup>2</sup>、主軸方位 N74.0° W (N160° E)、柱間は梁間 1.2 ~ 1.6 m、桁行 1.4 ~ 1.8 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.2 ~ 0.25 m、深さ 0.1 ~ 0.2 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少なく SBo08 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世の建物と考えられる。

#### SBo09 (第 142 図)

E10 区の中央で検出した梁間 2 間、桁行 5 間の東西棟で、E10 区で最も大型の建物である。削平を受けたためか柱穴の残りが悪い。SBo07・08、SDo15・16 等と重複するが、切り合い関係からこの建物は SDo15 より先行し、SDo16 より後出する。2 間 (4.0 m) × 3 間 (9.5 m)、面積 38.0 m<sup>2</sup>、主軸方位 N77.0° W (N13° E)、柱間は梁間 1.9 ~ 2.1 m、桁行 1.4 ~ 2.4 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.1 ~ 0.3 m、深さ 0.1 ~ 0.3 m を測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。1173 は SP04 から出土した土師器片口の描鉢片で、1174 は土師器鍋口縁部片である。出土遺物より SBo09 は中世後半～末頃の建物と考えられる。

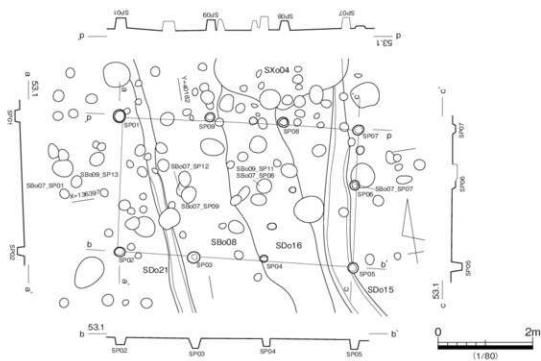
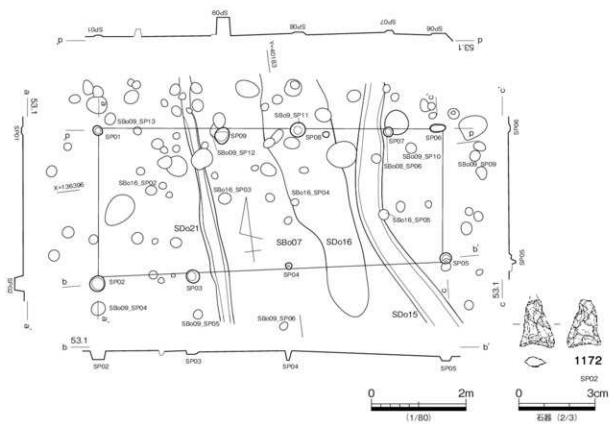
#### SBo10 (第 143 図)

E10 区の北西部で検出した梁間 2 間、桁行 3 間の南北棟で小型建物である。SBo11 の東、SBo08 の北に隣接して位置する。2 間 (3.4 m) × 3 間 (4.4 m)、面積 14.96 m<sup>2</sup>、主軸方位 N15.0° E、柱間は梁間 1.6 ~ 1.8 m、桁行 1.4 ~ 1.6 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.2 ~ 0.38 m、深さ 0.1 ~ 0.2 m を測る。

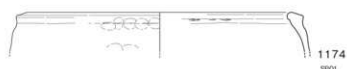
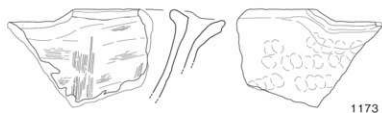
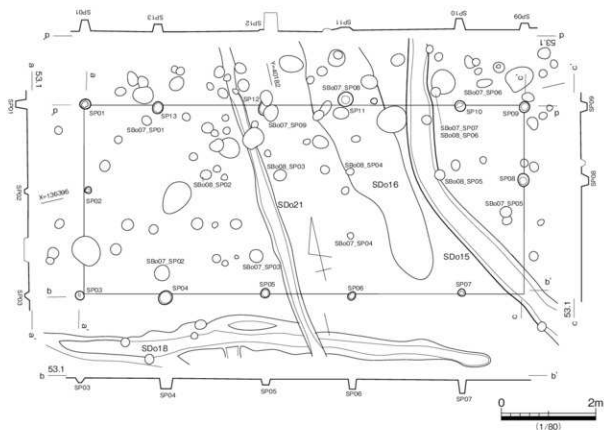
柱穴からは土師器片等が少量出土した。出土遺物が少なく SBo10 の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況等から概ね中世の建物と考えられる。

#### SBo11・SAo00 (第 143 図)

E10 区の西半部中央で検出した梁間 2 間、桁行 2 間の南北棟で小型建物である。SBo10 の南西、SBo08・09 の西に隣接して位置する。2 間 (2.1 m) × 2 間 (2.7 m)、面積 5.67 m<sup>2</sup>、主軸方位 N15.0° E、柱間は梁間 1.0 ~ 1.1 m、桁行 1.2 ~ 1.5 m を測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径 0.1 ~ 0.3 m、深さ 0.1 ~ 0.3 m を測る。なお、西側柱列の南端からは、南へ 3 間分の構列 SAo00 が付設されている。SBo11・SAo00 は区画溝 SDo25 に隣接することや、周辺の SBo08 ~ 11 と配置等で類似する点が多く、これらの建物グループに含まれ、グループの西限を画する遺構の可能性が高い。



第141図 SB07・08平・断面図，出土遺物



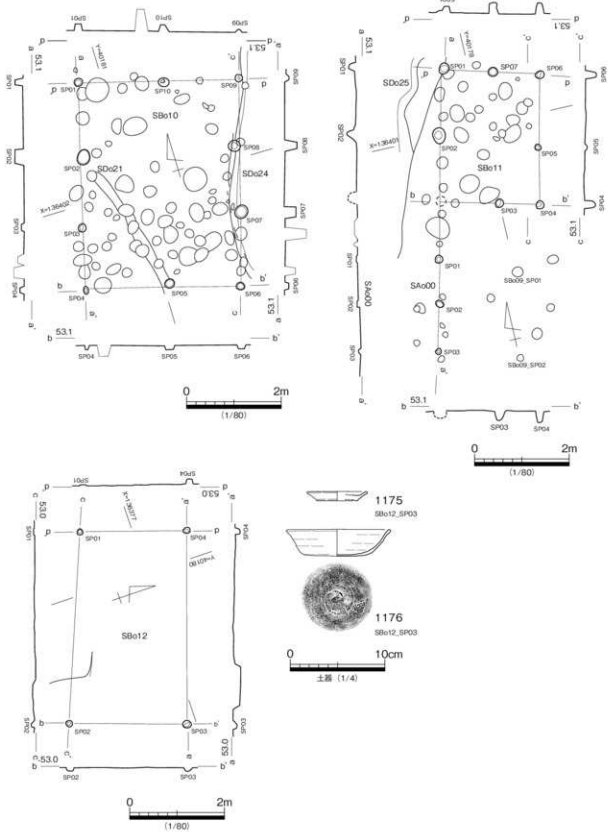
第142図 SBo09平・断面図，出土遺物

柱穴からは遺物が出土していないためSBo11・SAo00の時期判断には無理があるが、配置や検出状況からSBk08～11に類似する時期の可能性はある。

### SBo12 (第143図)

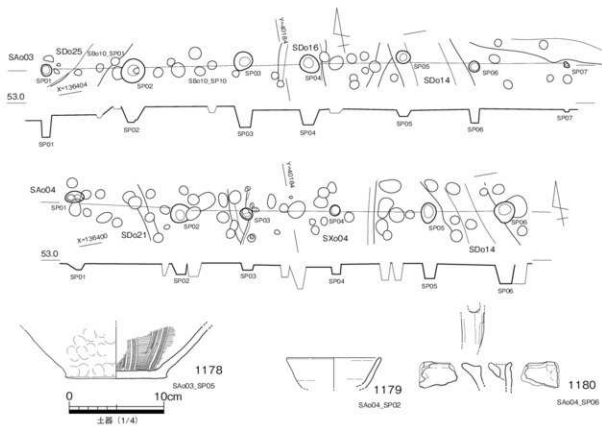
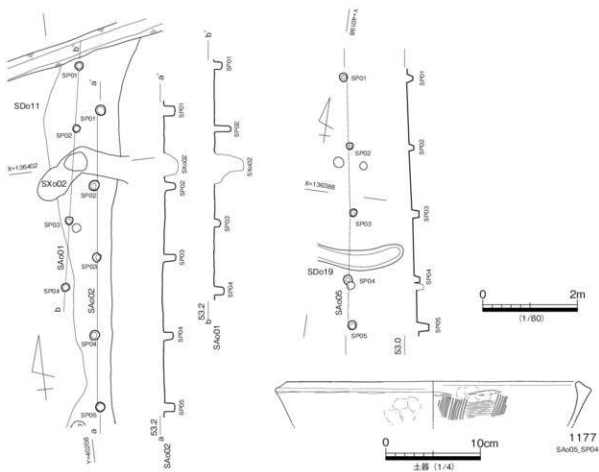
E9W区で中央で検出した梁間1間、桁行1間の南北棟である。削平を受けたため柱穴の残りが悪い。そのため、側柱列の柱穴の一部を欠く。1間(2.4m)×1間(4.1m)、面積9.84㎡、主軸方位N68.0°W(N220°E)、柱間は梁間2.3～2.4m、桁行4.1mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.1～0.2m、深さ0.05～0.1mを測る。

柱穴からは土師器が少量出土した。1175・1176はSP03から出土した土師器小皿及び杯である。出土遺物からSBo12は、13～14世紀前半以降の建物と考えられる。



第143図 SB010・11・12・SA000平・断面図，出土遺物





第 144 図 SAo01 ~ 05 平・断面図, 出土遺物

柵列

#### SAo01 (第144図)

C9区北西端部、SDo11の東屑部で検出した南北方向の柵列で、西には同方向のSAo02が隣接して並走している。柱間3間、検出長4.8m、柱間は1.5～2.0m、柱穴径約0.1m、深さ0.2～0.4m、主軸方位N105°Eを測る。

柱穴からは中世土師器が極少量出土した。出土遺物が少なくSAe03の詳細な時期判断には無理があるが、SAo01は概ね中世以降の柵列であろう。

#### SAo02 (第144図)

C9区北西端部、SDo11の東屑部で検出した南北方向の柵列で、東には同方向のSAo01が隣接して並走している。柱間4間、検出長6.3m、柱間1.5～1.6m、柱穴径約0.15m、深さ約0.2m、主軸方位N85°Eを測る。

柱穴からは中世土師器が極少量出土した。出土遺物が少なくSAe02の詳細な時期判断には無理があるが、概ねSBe01と類似する時期と考えられる。

#### SAo03 (第144図)

E10区北半部で検出した東西方向の柵列で、南には同方向のSAo04が約4m隔てて並走しており、当初両者を含めて建物として検討した。柱間が不揃いのため別遺構と考えたが、再考の余地もある。柱間6間、検出長19.0m、柱間1.5～2.0m、柱穴径0.1～0.5m、深さ0.1～0.4m、主軸方位N81.0°W (N9.0°E)を測る。

柱穴からは中世土師器が極少量出土した。1178は土師器播鉢の下半部である。出土遺物が少なく、SAe03の詳細な時期判断には無理があるが、SAo03は概ね中世後半以降の時期が考えられる。

#### SAo04 (第144図)

E10区北半部で検出した東西方向の柵列で、先述したように北には同方向のSAo03が約4m隔てて並走しており、当初両者を含めて建物として検討した。柱間が不揃いのため別遺構と考えたが、再考の余地もある。柱間5間、検出長9.0m、柱間1.5～2.0m、柱穴径0.2～0.4m、深さ0.2～0.4m、主軸方位N79.0°W (N11.0°E)を測る。

柱穴からは中世土師器が極少量出土した。1180は土師器把手付鍋の把手部分である。出土遺物が少なく、SAe03の詳細な時期判断には無理があるが、SAo04は概ね中世後半～末以降の時期が考えられる。

#### SAo05 (第144図)

E10区南東端部の東西方向の柵列で、柱間4間、検出長5.3m、柱間1.0～1.5m、柱穴径約0.2m、深さ0.1～0.2m、主軸方位N4.0°Wを測る。

柱穴からは中世土師器が極少量出土した。1177は土師器播鉢の上半部である。出土遺物が少なく、SAe05の詳細な時期判断には無理があるが、SAo05は概ね中世後半以降の時期と考えられる。

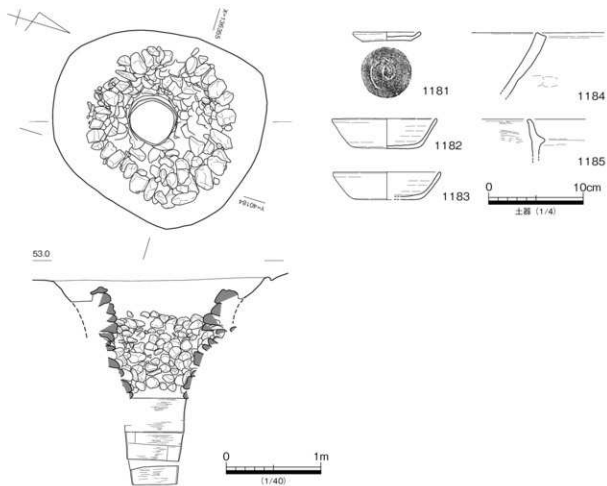
## 井戸・土坑跡

### SEo01 (第145図)

E9W区南半部のSRo04の北肩部で検出した石組み井戸である。平面は楕円形状を呈し、断面は地表から約2.5m掘り下げており、その上半部(1.30m)が石組みで、下半部(1.20m)は曲げ物井戸枠を4～5段積みで組み上げる構造である。掘方上面の長径2.25m、短径2.00m、深さ約2.5mを測る。

埋土は複数層にわかれ、土師器・須恵器が出土した。

1181は土師器小皿、1182・1183は14世紀前半頃の土師器杯である。1184は須恵器捏鉢、1185は14世紀頃の土師器足釜片である。出土遺物から推定してSEo01は14世紀以降に埋没した井戸であろう。

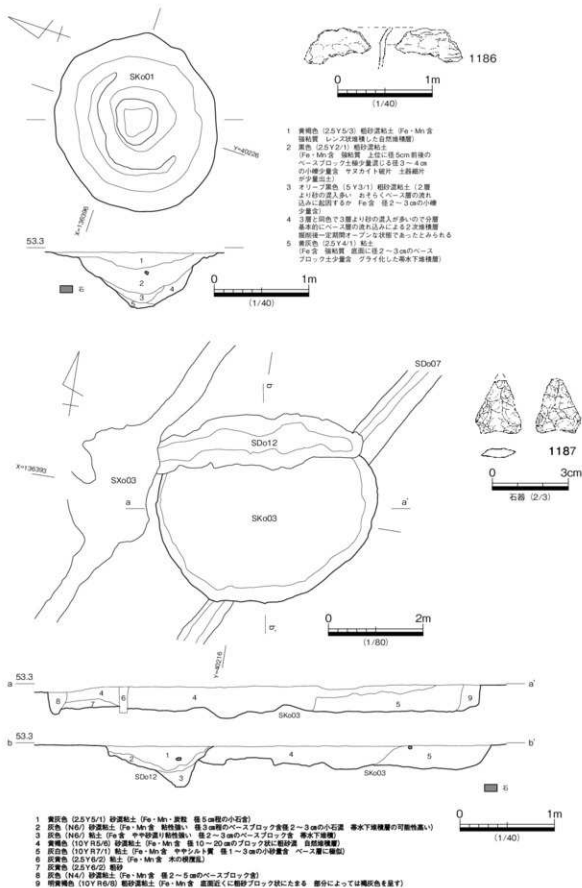


第145図 SEo01 平・断面図, 出土遺物

### SKo01 (第146図)

C9区北半部の東壁際で検出した土坑である。平面は凹凸のある円形状、断面は幅広V字状を呈する。長径1.9m、短径1.7m、深さ約0.6mを測る。埋土は複数層にわかれ、埋土からは縄文土器・土師器・須恵器片が少量出土した。

1186は縄文土器の浅鉢片で混入品である。出土遺物が少ないためこの土坑の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降の土坑であろう。



第146図 SKo01・03平・断面図, 出土遺物

### SKo03 (第146図)

C9区北半部で検出した浅い土坑である。SDo07・12と重複し、SDo12より先行し、SDo07より後出する。平面は不整形形状、断面は幅広く皿状を呈する。長径4.7m、短径3.0m以上、深さ約0.25mを測る。埋土上層は黄橙色砂混粘土、下層は灰白色粘土等からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器、石器等が少量出土した。1187はサヌカイトの石織で混入品である。出土遺物が少なくSKo03の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降の土坑と考えられる。

### SKo04 (第147図)

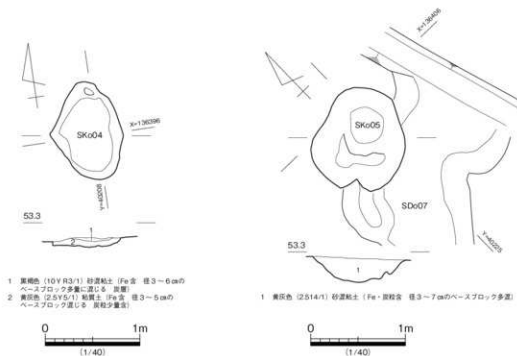
C9区北半部のSDo11の肩で検出した浅い土坑である。平面は不整形形状、断面は幅広く皿状を呈する。長径1.05m、短径0.7m、深さ約0.1mを測る。埋土上層は黒褐色砂混粘土、下層は黄灰色粘質土等からなる。

埋土からは中世頃の土師器片が少量出土した。出土遺物が少なくSKo04の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降の土坑と考えられる。

### SKo05 (第147図)

C9区北半部北東隅で検出した土坑である。SDo05と重複し、SDo05より後出する。平面は不整形形状、断面は碗底状を呈する。長径1.1m、短径0.9m、深さ約0.25mを測る。埋土は黄灰色砂混粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。出土遺物が少なくSKo05の詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世以降の土坑と考えられる。



第147図 SKo04・05平・断面図

溝状遺構

#### SDo04 (第148図)

C9区南端部で検出した北西方向へ延びる直線状の細い溝状遺構である。SRo02の上面で検出した溝跡で、検出状況からSRo02より後出する。検出長約9.5m、幅0.6～1.2m、深さ約0.18m、主軸方位N46.5°Wを測る。断面は凹凸のある不整形な皿状を呈し、黄灰色砂混り粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・陶器等が少量出土した。1188は11世紀頃の土師器羽釜の上半部である。出土遺物からSDo04は中世後半以降の溝跡と考えられる。

#### SDo05 (第148図)

C9区北半部中央で検出した東西方向へ延びる直線気味の溝状遺構である。SDo05はSDo06・08と重複しこれらの溝跡より後出する。検出長約18.5m、幅0.8～1.0m、深さ約0.1m、主軸方位N72.5°E(N17.5°W)を測る。断面は凹凸のある不整形で浅い皿状を呈し数層に分かれる。

埋土からは土師器・須恵器・瓦質土器・陶器等が出土した。1189・1190は土師器小皿、1191は土師器杯、1192は須恵器椀、1193は瓦質鉢、1194は土師器鍋、1195は土師器足釜、1196は須恵器壺の上半部、1198は須恵器甕上半部である。出土遺物や他遺構との関係から、SDo05は概ね中世前半以降の溝跡と考えられる。

#### SDo06 (第148図)

C9区北半部で検出した北東方向へ延びる直線状の3条の溝のうち東側の細い溝状遺構である。北半部中央でSDo05と重複し、SDo05より先行する。検出長約14.0m、幅約0.4m、深さ約0.1m、主軸方位N36°Eを測る。断面は凹凸のある不整形で浅い皿状を呈し、埋土は褐灰色砂混り粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。1199は土師器鍋口縁部である。出土遺物から、SDo06は中世後半以降の溝跡と考えられる。

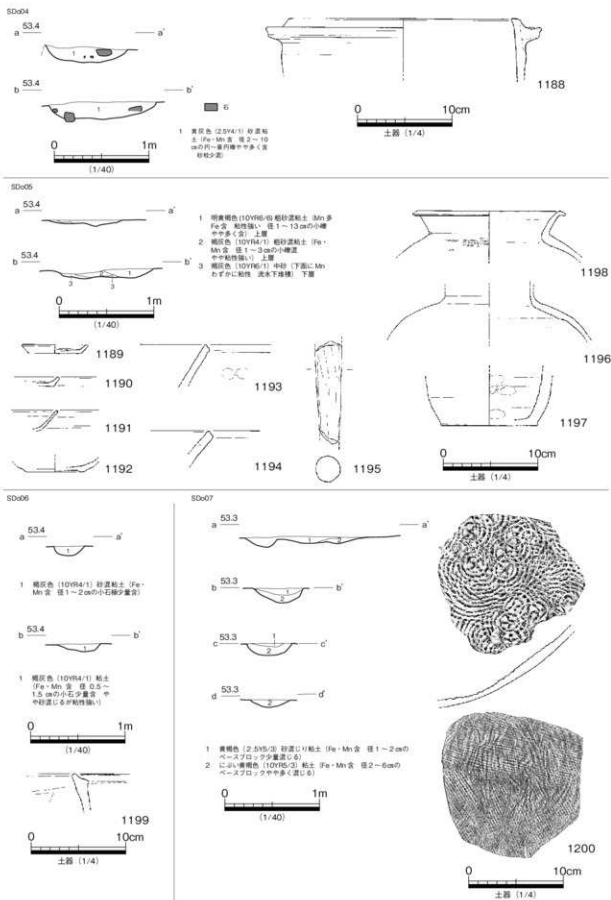
#### SDo07 (第148図)

C9区北半部で検出した北東方向へ延びる直線状の3条の溝のうち中央の細い溝状遺構である。北半部中央でSKo03・05・12と重複し、SKo03・05・12より先行する。また、北東端部でSXo01に合流する。検出長約25.0m、幅0.6～1.3m、深さ約0.1m、主軸方位N36°Eを測る。断面は凹凸のある不整形で浅い皿状を呈し、埋土は明黄褐色や褐灰色の粗砂混り粘土からなる。

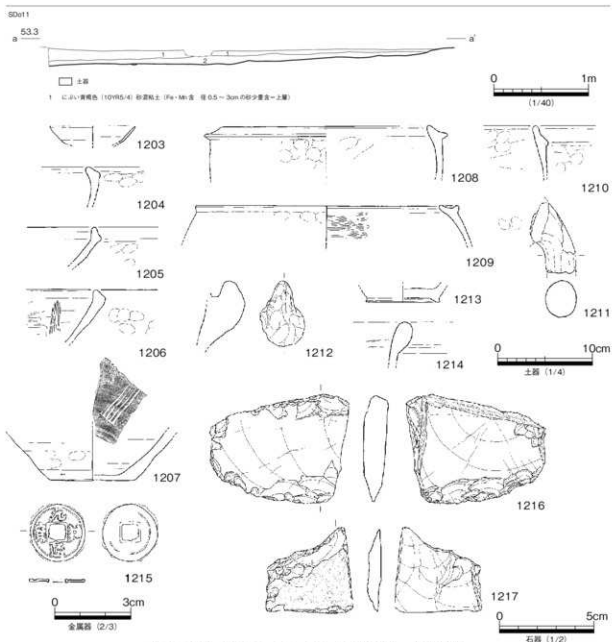
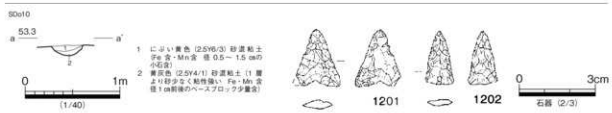
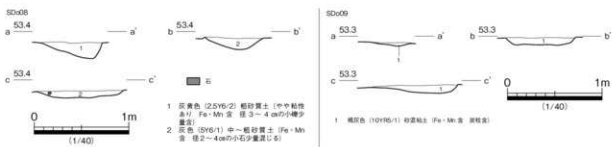
埋土からは土師器・須恵器等が出土した。1200は須恵器甕の体部片である。出土遺物や他遺構との関係からSDo07は中世後半以降の溝跡と考えられる。

#### SDo08 (第149図)

C9区北半部南よりで検出した北西～北東方向へ湾曲気味に延びる直線状の細い溝状遺構である。SBo02-04、SDo05と重複し、これらの遺構より先行する。検出長約15.5m、幅0.6～0.9m、深さ0.1～0.2mを測る。断面は凹凸のある不整形で浅い皿～略V字状を呈し、埋土は灰黄色・灰色系の粗砂質土からなる。



第 148 図 SD004・05・06・07 断面図, 出土遺物



第149図 SDo08・09・10・11 断面図, 出土遺物



埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、SDo08 は概ね中世以降の溝跡と考えられる。

#### SDo09 (第149図)

C9区北半部で検出した北東方向へ延びる直線状の3条の細い溝跡のうち西側の溝状遺構である。南半部ではSDo10が北西方向に向けて分岐する。SDo12と重複し、SDo12より後出する。検出長約220m、幅0.4～1.0m、深さ約0.1mを測る。断面は不整形で浅い皿状を呈し、埋土は褐灰色の粗砂混り粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが他遺構と関係から、SDo09 は概ね中世前半以降の溝跡と考えられる。

#### SDo10 (第149図)

C9区北半部で検出したSDo09・SXo03から北西方向へ分岐する溝状遺構である。北端部ではSDo11と重複し、この溝より先行する可能性が高い。検出長約5.0m、幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。断面は不整形で浅い碗底状を呈する。

埋土からは土師器細片、石器が少量出土した。1201・1202はサヌカイトの石鏃で、混入品と考えられる。SDo10は出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、他遺構との関係からSDo10は概ね中世前半以降の溝跡と考えられる。

#### SDo11 (第149図)

C9区北西端部で検出した幅広の溝状遺構で、検出状況からF12区のSDe51・E10区SDo23等の地境溝と同様の溝状遺構である。調査区の問題で東肩の部分調査になった。検出長約120m、幅4.5m以上、深さ約0.2m以上を測る。断面は浅い落ち込み状を呈し、埋土はにぶい黄橙色砂混り粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・陶器、銭貨、石器等が出土した。1203は土師器杯、1204・1205は土師器捏鉢、1206は土師器播鉢片である。1207は陶器の播鉢である。1208・1210・1211は14～15世紀頃の土師器足釜、1209は土師器鍋、1212は土師器瓶の把手部である。1215は中国銭で「元祐通宝」(1086～1094年)である。1216・1217は横長剥片を素材にし、エッジに調整を施したサヌカイトの削器である。出土遺物や他遺構との関係から、SDo11は15～16世紀頃の中世末以降に埋没した溝跡と考えられる。

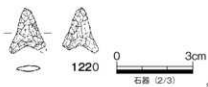
#### SDo12 (第150図)

C9区北半部で検出した東西方向へ短く延びる溝状遺構である。SDo12はSDo05・09、SKo03と重複する溝状遺構で、切り合い関係より、この溝より先行するのはSDo05、SKo03、後出するのはSDo09である。検出長約4.4m、幅1.05m、深さ約0.4mを測る。断面は凹凸のある不整形な逆台形状を呈し、埋土は黄灰色～灰色系の砂混り粘土・粘土からなる。

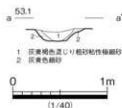
埋土からは土師器・須恵器、石器等が出土した。1218は底部を欠く土師器杯、1219は須恵器碗、1220はサヌカイトの石鏃で混入品であろう。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物や他遺構との係わりからSDo12は中世以降の溝跡と考えられる。



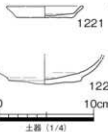
- 1 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂质粘土 (Fe・Mn) 薄粒 径5cm程の小石を含む
- 2 灰色 (N6/7) 砂质粘土 (Fe・Mn) 全 粒性強、径3cm程のベームブロックを含む 径2～3cmの小石混 潜水下層構造の可能性高い
- 3 灰色 (N6/7) 粘土 (Fe) 全 やや砂質で粒性強い 径2～3cmのベームブロックを含む 潜水下層構造
- 4 黄褐色 (10YR5/6) 砂质粘土 (Fe・Mn) 全 径10～20cmのブロック状に砂混 自然増殖層
- 5 灰白色 (10YR7/1) 粘土 (Fe・Mn) 全 ややシルト質 径1～3cmの小砂混 全 ベーム層に類似



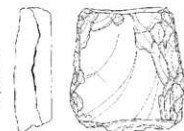
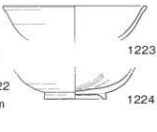
SDo12



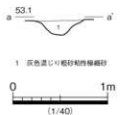
- 1 灰黄褐色泥じり粗砂粘性線磁砂
- 2 灰黄色磁砂



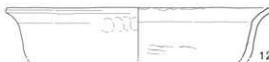
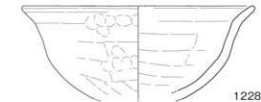
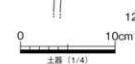
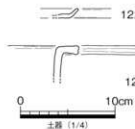
- 1 灰黄褐色泥じり粗砂粘性線磁砂 (黄褐色粘性線磁砂小ブロック [磁化層] 多く含む)
- 2 灰褐色泥じり粗砂粘性線磁砂



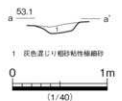
SDo17



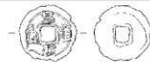
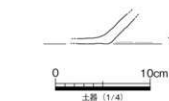
- 1 灰色泥じり粗砂粘性線磁砂



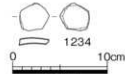
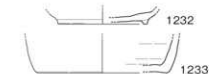
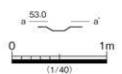
SDo18



- 1 灰色泥じり粗砂粘性線磁砂



SDo20



SDo22

第150図 SDo12・17・18・20・22 断面図，出土遺物

#### SDo17 (第150図)

E10区南西隅付近に位置する南壁から西壁に向けて延びる不整形な溝跡である。南壁際から調査区外へ延びる。その延長にはE9W区のSDo30～32が位置することから、それらの溝跡に連続している可能性が高い。また、この溝跡はSDo14・15・20等の溝跡と重複する。前後関係ではSDo17は、先述した全ての溝跡より後出する。検出長約19.0m、幅0.5～0.8m、深さ0.1～0.2mを測る。断面は逆台形状を呈し、埋土は灰黄褐色～灰褐色系の細砂からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器が少量出土した。1221・1222は土師器杯である。1223は底部を欠く土師器椀、1224は口縁部を欠く黒色土器椀である。1225はサヌカイトの石斧であるが、短辺に裁断面が認められることから石斧転用の楔形石器に分類した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物や他遺構との係わりからSDo17は概ね12世紀頃の中世前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDo18 (第150図)

E10区南西隅付近に位置しSDo17から東方向へ二股に分岐する小溝である。この溝の延長に所在するSDo19は本来同一の溝状遺構と考えられる。SDo21・25と重複するが、切り合い関係からSDo18はこれらの溝より先行する。検出長約9.0m、幅0.5m、深さ0.15mを測る。断面は逆台形状を呈し、埋土は灰色混じり粗砂粘性極細砂からなる。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。1226は土師器小皿、1227は土師器甕の口縁部片である。1228・1229は弥生土器で底部を欠く鉢である。

#### SDo20 (第150図)

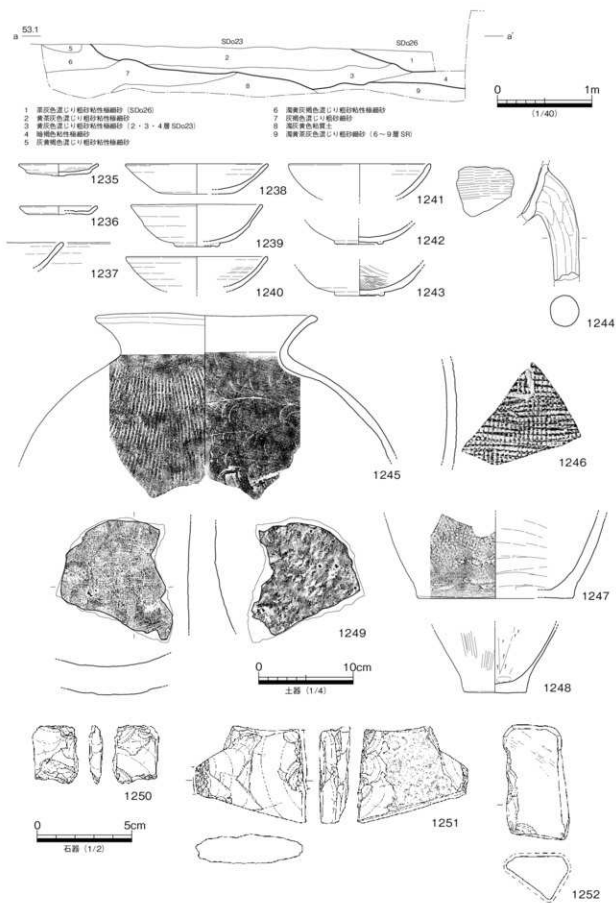
E10区の南壁際を東西方向へ延びる溝状遺構である。SDo14・15・17、SXo05と重複するが、切り合い関係からSDo20はこれらの溝より後出する。検出長約28.5m、幅0.4～1.0m、深さ約0.1mを測る。断面は逆台形状を呈し、埋土は灰色混じり粗砂粘性極細砂からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器が少量出土した。1230は土師器鉢底部片、1231は中国銭で「皇栄通宝」(1038～1040年)である。出土遺物や検出状況からSDo20は中世前半以降に埋没した溝跡と考えられる。

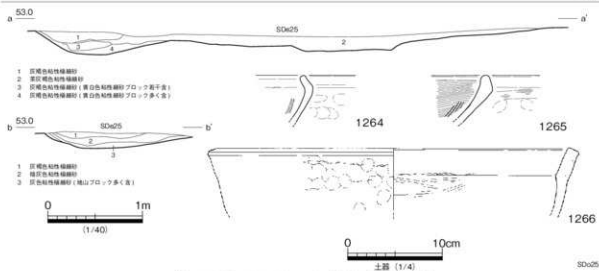
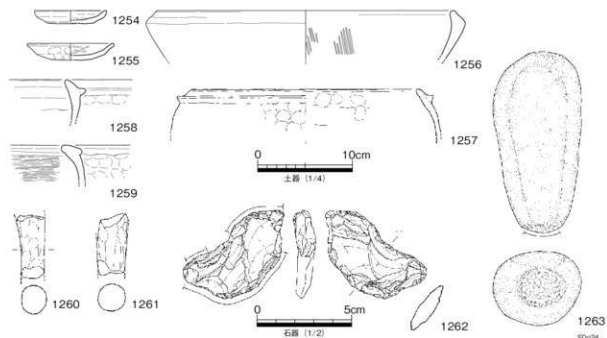
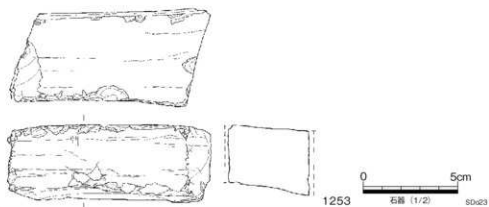
#### SDo22 (第150図)

E10区南西隅付近に位置する南北方向の、SDo18からSDo20の方向へ延びる小溝である。SDo17・18・20等と重複し、SDo17を切り込みSDo20に切られていることから、前後関係としては、SDo20より先行し、SDo17より後出する。検出長約4.0m、幅0.6m、深さ0.05mを測る。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・瓦質土器・磁器が少量出土した。1232は須恵器杯の底部である。1233は須恵器壺底部片である。1234は青磁片転用の円盤状土製品である。全体的に須恵器片が比較的多い。8～9世紀代の遺物が出土しているが混入遺物と考えられ、SDo22は中世前半以降の溝跡の可能性が高い。



第 151 図 SDo23 断面図, 出土遺物



第 152 図 SDa23 ~ 25 断面図, 出土遺物

#### SDo23 (第151・152図)

E10区東辺で検出した幅広の溝状遺構である。幅広の形状を呈するが、調査区の間係で西屑部だけを確認した。SBo05、SDo24・26等と重複し、切り合いより全ての遺構より先行する。なお、この溝跡より下位には、F12区から連続するSRe01の可能性が高い細砂層を主体にした堆積層を確認しているが、トレンチの断面で確認しているだけのため詳細な点は不明瞭である。検出長約15.5m以上、幅約4.0m以上、深さ約0.4mを測る。断面は浅い落ち込み状を呈し、埋土上層は黄茶灰色混じり粗砂粘性極細砂、下層は黄灰色～暗褐色粗砂粘性極細砂からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器、石器等が出土した。1235・1236は土師器小皿、1237は土師器杯、1238須恵器杯、1239～1243は13世紀前半頃の須恵器椀、1244は土師器足釜脚部、1245は須恵器甕の上半部、1247は須恵器甕の下半部である。1248は弥生後期前半古相頃の弥生土器の甕で混入品であろう。1250はサヌカイトの剥片を素材に用い、短辺に裁断面が認められることから楔形石器に分類した。1251は肉厚なサヌカイトの剥片を素材に用いた石核である。1252・1253は砥石である。SDo23は13世紀前半以降の中世前半に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDo24 (第152図)

E10区北辺で検出した幅広の溝状遺構で、西辺のSDo25から連続する地境溝である。検出長約18.5m、幅1.0～3.0m、深さ約0.5mを測る。断面は不整形な碗底状を呈し、埋土は灰褐色粘性極細砂が主体を占める。

埋土からは弥生土器・土師器・瓦器、石器等が出土した。1254は土師器小皿、1255は瓦器小皿である。1256は土師器播鉢上半部、1257・1258・1260・1261は土師器足釜、1259は土師器鍋の資料である。1262はサヌカイト製の石器で、外周の潰れ痕が顕著なため楔形石器に分類した。1263は円礫を素材にした砥石である。出土遺物からSDo24は中世後半～末以降に埋没した溝跡と考えられる。

#### SDo25 (第152・153図)

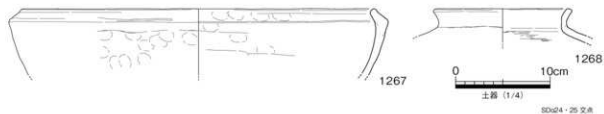
E10区西辺で検出した幅広の溝状遺構で、北辺のSDo24から連続する地境溝である。検出長約13.0m、幅0.6～4.0m、深さ約0.25mを測る。西端部の断面は浅い碗底状、他は浅い落ち込み状を呈する。埋土は灰褐色～茶灰褐色の細砂が主体を占める。

埋土からは土師器・須恵器が少量出土した。1264・1265は土師器播鉢、1266は土師器鍋上半部である。なお、1267・1268はSDo24と25の交点付近で出土した土師器捏鉢と壺の上半部である。出土遺物からSDo25は中世後半～末以降に埋没した溝跡と考えられる。

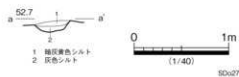
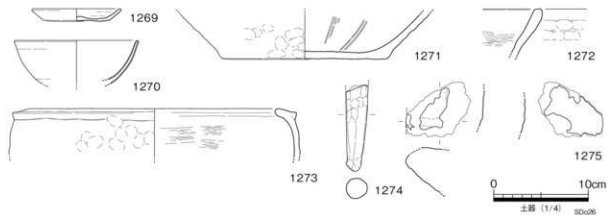
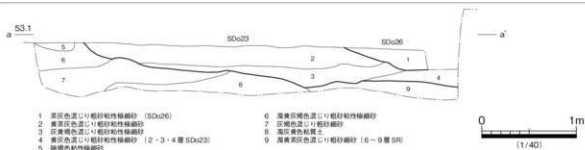
#### SDo26 (第153図)

E10区東辺で検出した溝状遺構で、北辺のSDo24や西辺のSDo25と同様の地境溝である。北辺のSDo24とは重複し、切り合いからこの溝跡はSDo24より後出する。検出長約31.0m、幅1.1～1.2m以上、深さ約0.2mを測る。断面は逆台形状を呈し、埋土は茶灰色混じり粗砂粘性極細砂からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・陶磁器等が少量出土した。1269は土師器杯、1270は底部を欠く青磁椀、1271は土師器播鉢底部、1272・1273は土師器鍋、1274は土師器足釜、1275は軒平瓦片である。出土遺物からSDo26は中世後半～末以降に埋没した溝跡と考えられる。



SDo24・25 文庫



第153図 SDo24～27・30～32断面図，出土遺物

### SDo27 (第153図)

E9e区南端部に検出した東西方向の小溝である。北に向けて僅かに湾曲し、E6区方面にまで続く。SRo03と重複し、切り合いからSDo27はSRo03より後出する。検出長約15.0m、幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。断面は碗底状を呈し、埋土は灰色系シルトからなる。

埋土からは土師器・須恵器・瓦器片が極少量出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、SDo27は概ね13世紀後半～14世紀頃の時期が考えられる。

### SDo30～32 (第153図)

E9E・W区のSRo03の上面で確認した3条の小溝群である。配置からSDo31・32等はE10のSDo15・17に繋がる可能性が高い。削平を受けており残りが極めて悪い。SDo30:検出長3.5m、幅約0.4m、深さ0.05m、SDo31:検出長9.0m、幅約0.4m、深さ0.05m、SDo32:検出長9.5m、幅約0.5m、深さ0.05mを測る。

埋土からは土師器・須恵器の細片が数点出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、これらの溝跡はSDo15・17と連続する可能性が高いことから中世前半以降の溝跡の可能性が高い。

### 不整形遺構

#### SXo02 (第154図)

C9区北西端部で検出したSDo11の東肩の斜面部で検出した、不整形で短い溝状遺構である。SDo11との前後関係については不明瞭であるが、SXo02が先行する可能性が高い。検出長約3.0m、幅0.5～1.1m、深さ約0.6mを測る。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦器等が少量出土した。1276は12世紀後半頃の口縁部を欠く黒色土器碗の資料である。出土遺物からSXo02は12世紀後半以降に埋没した遺構と考えられる。

#### SXo03 (第154図)

C9区北半部で検出した北東方向へ延びる直線状の溝状遺構SDo09とSDo10との分岐点に所在する、不整形で幅広い落ち込み状の遺構である。長径約2.8m、短径約1.7m、深さ0.1mを測る。断面は不整形で浅い皿状を呈し、埋土は褐灰色の粗砂混り粘土からなる。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器片が少量出土した。SXo03は出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、概ね中世前半以降の遺構と考えられる。

#### SXo04 (第154図)

E10区北半部中央よりで検出した浅い落ち込み状の遺構である。削平を受け残りは極めて悪い。この遺構はSDo15・16と重複し、これらの遺構より後出する。平面は隅丸方形形状、断面は浅い皿状を呈する。埋土上層は褐灰色粘性極細砂、下層は濁灰黄褐色粘性粗砂からなる。

埋土からは土師器・陶器片が極少量出土した。1277は陶器の壺口縁部片である。

#### SXo05 (第155図)

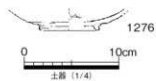
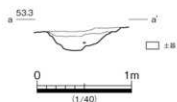
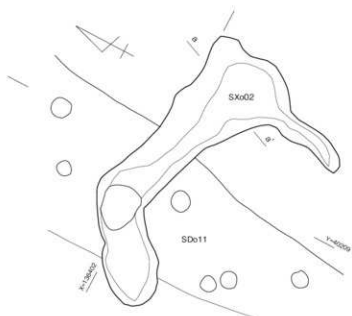
E10区南西辺で検出した浅い落ち込み状の遺構である。削平を受け残りは悪い。この遺構はSDo20・25と重複し、これらの遺構より後出する。平面は円形状、断面は浅い皿状を呈する。

埋土からは土師器・須恵器及び染付片が少量出土している。1278は土師器播鉢、1279は土師器捏鉢、1280は土師器足釜の脚部片である。出土遺物からSXo05は中世末以降の時期が考えられる

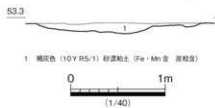
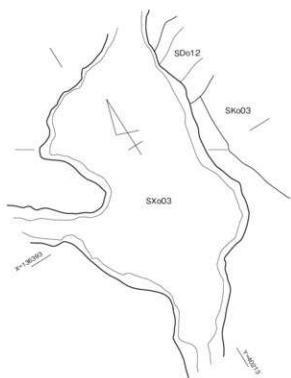
#### SXo07 (第155図)

E9W区中央東壁際で検出した浅い落ち込み状の遺構である。削平を受け残りは極めて悪い。この遺構はSRo03の上面を切り込んでいることから、前後関係ではSRo03より後出する。平面は隅丸長方形形状、

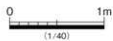




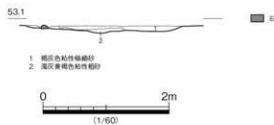
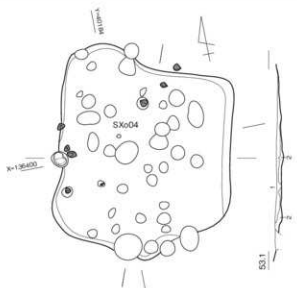
SXo02



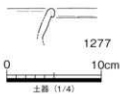
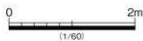
1 褐色 (10YR5/1) 砂遺粘土 (Fe・Mn 含 炭粒含)



SXo03



1 褐色粘状性細砂  
2 褐色黄褐色粘状性粉砂

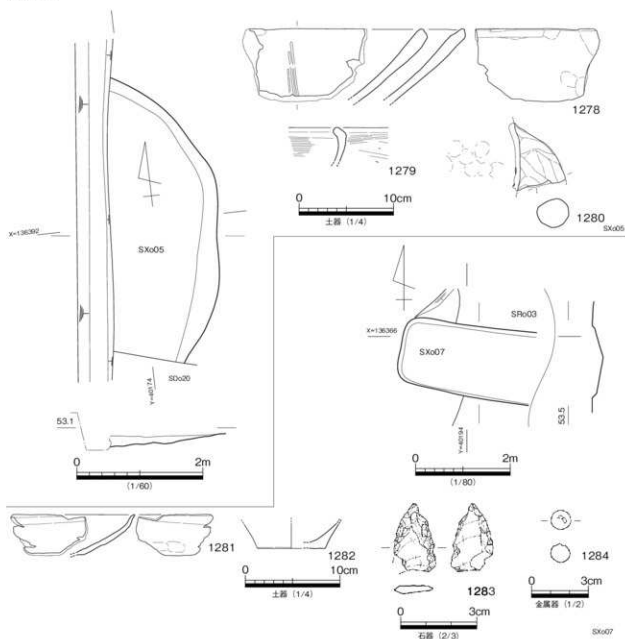


SXo04

第 154 図 SXo02 ~ 04 平・断面図, 出土遺物

断面は浅い皿状を呈する。長径3.0m以上、短径約1.6m、深さ約0.2mを測る。

埋土からは縄文土器・弥生土器・土師器、金属器、石器等が少量出土した。1281は縄文土器の浅鉢片である。1282は弥生時代後期前半頃の甕底部片である。1283はサヌカイトの石鎌である。1284は鉛製の丸玉で、形状より火縄銃の弾丸の可能性が高い。なお、出土した縄文土器や弥生土器等はこの遺構の下位に存在するSRo03から混入した遺物と考えられ、SXo07は中世後半～近世以降の時期の可能性が高い。



第155図 SXo05・07平・断面図，出土遺物

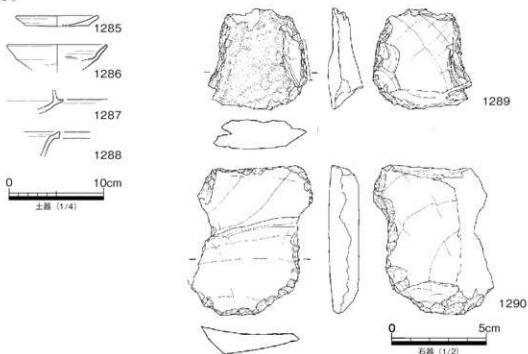
自然河川

SRo04 (第156図)

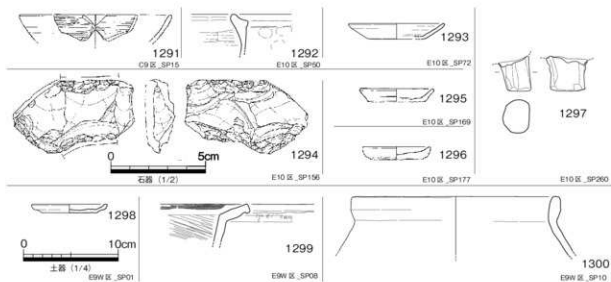
E9w区の南半部に位置する。F7区で検出した自然河川SRo05とはほぼ同一の河川で、SRo04は本来SRo05の北斜面部にあたるものと考えられ緩い傾斜面からなる。SRo05は弥生時代後期後半から埋没が

開始し最終的には古代の段階で平坦化するが、SRo04はSRo05の最上層にあたるためか、出土遺物の中に弥生土器を含まない代わりに混入品として中世遺物を含んでいるため、中世の範疇で報告することにする。

埋土からは土師器・須恵器・黒色土器・瓦質土器・磁器、石器等が出土している。1285は土師器小皿、1286は青磁皿、1287は須恵器杯身、1288は須恵器壺の口縁部片である。1289・1290はサヌカイトの石楯である。



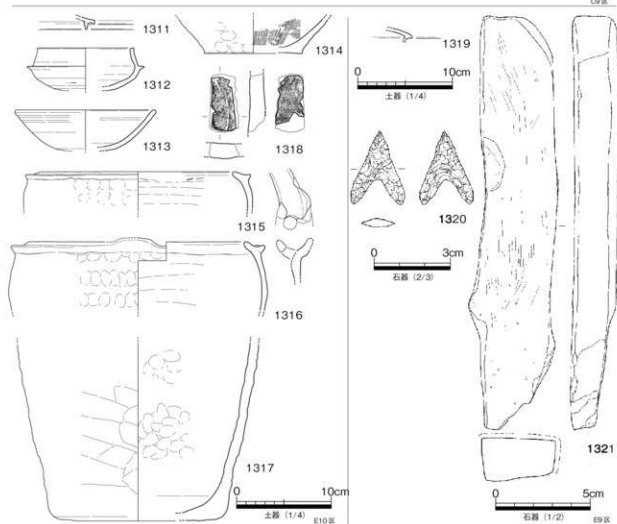
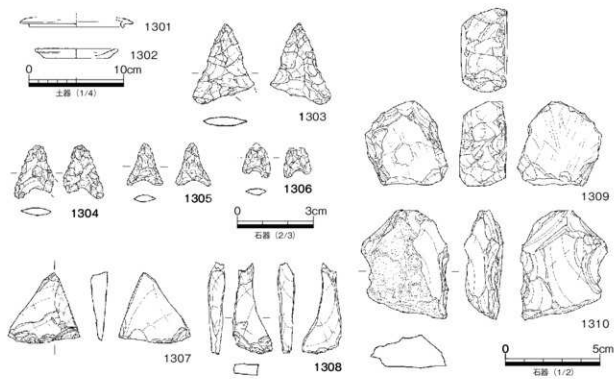
第156図 SRo04出土遺物



第157区 C9・E10・E9w区柱穴出土遺物

(5) 柱穴・包含層出土遺物 (第157・158図)

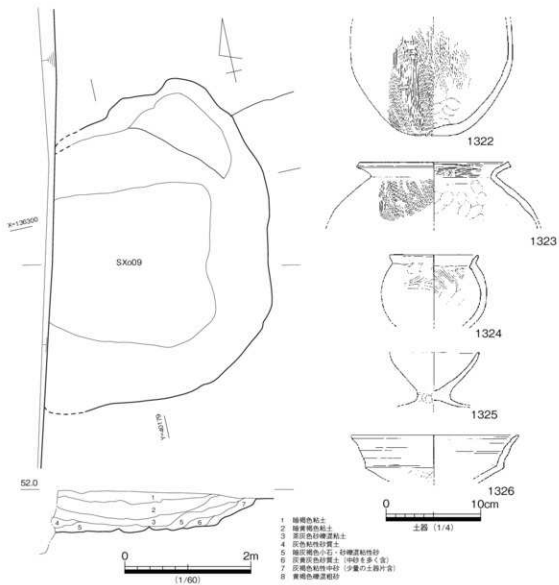
C9・E10・E9w・E9e区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物及び包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。



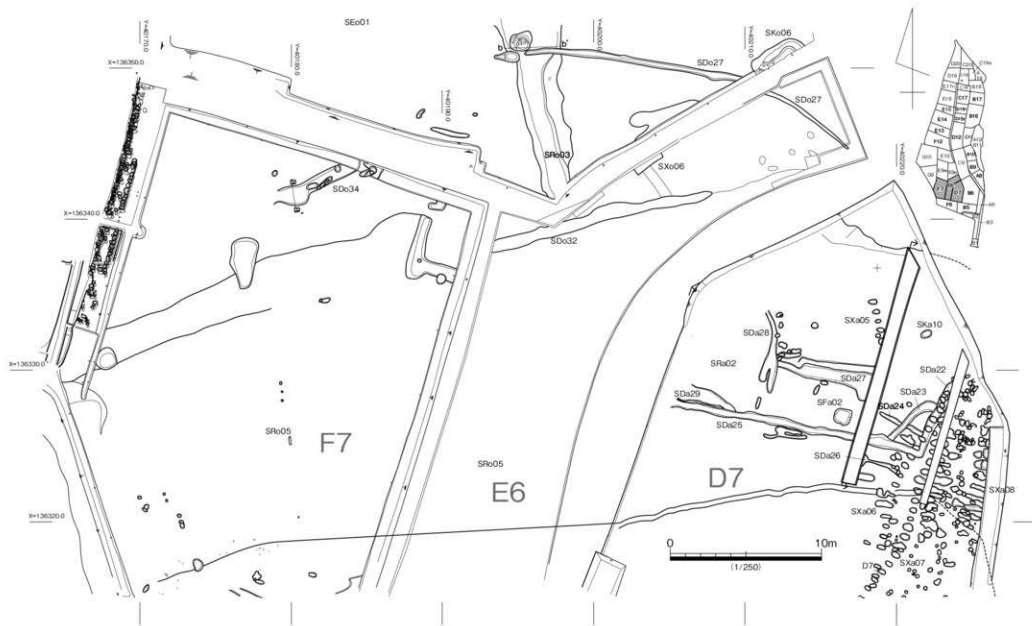
第158图 C9·E10·E9区包含層出土遺物

1291～1300は柱穴出土遺物である。1291はC9区、1292～1297はE10区、1298～1300はE9w区の柱穴出土遺物である。1291は瓦器碗上半部、1292は土師器鍋口縁部片、1293・1295は土師器杯、1297は土師器火鉢の支脚、1296・1298は土師器小皿、1299は土師器鍋口縁部片、1300は土師器壺上半部である。

1301～1310はC9区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。1301は須恵器杯蓋、1302は土師器小皿、1303～1306はサヌカイトの石鏝、1307はサヌカイトの削器、1308はサヌカイトの楔形石器の削片、1310はサヌカイトの石核である。1311～1318はE10区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。1311～1313は須恵器杯で、1311は7世紀前半の杯蓋、1312は5世紀末の杯身である。1314は土師器播鉢、1315・1316は土師器把手付鍋である。1319～1321はE9e区の包含層出土遺物の中で代表的な遺物である。1319は7世紀前半の須恵器杯蓋、1320はサヌカイトの石鏝で、形状から縄文時代の石鏝の可能性が高い。1321は棒状の砥石で、おそらく中世以降の遺物であろう。



第159図 SXo09 平・断面図、出土遺物



第 160 図 F7・E6区 遺構配置図



第161図 F6・B5区 遺構配置図

## 2. F7・E6・F6・B5区

### (1) 弥生時代の遺構・遺物

不整形遺構

#### SXo09 (第159図)

F6区西半部の第2遺構面上で検出した不整形な落ち込みである。この遺構はSRo08・09の上面を切り込んでいることから、前後関係ではSXo09はこれらの河川より後出する。平面は不整形な楕円形状、断面は凹凸のある椀状を呈する。長径5.5m、短径3.5m以上、深さ約0.7mを測る。

埋土からは弥生時代後期前半・後期後半新相頃の弥生土器が出土した。1322は壺の下半部、1323は甕の上半部である。1325は台付鉢である。1326は弥生時代後期前半新相頃の髹杯の杯部である。出土遺物よりSXo09は弥生時代後期後半新相以降に埋没した遺構と考えられる。

自然河川

#### SRo05 (第162・163図)

F7・E6区の中央を東西方向に延びる自然河川で、A6区を東端とし、B6・D7区を經由しE6・F7区へ延びる幅広な大型の自然河川である。SRo05は綾川の一時期の支流と考えられ、調査対象地より南東方向にある綾川の氾濫原より末則丘陵の南裾を通りA6・B6・D7区を經由し、最終的には調査区外の段丘崖へと抜けることが予想される。なお、この河川の東半部にあたるA6・B6・D7区の区間については平成17年度に刊行した「西木則1」で報告しているので参照していただきたい。また、河川の名称については同書ではSRa02と表記している。

検出長約68.0m、幅12.0m～27.0m、深さ0.6～1.2mを測る。断面の形状は隅丸逆台形状～浅い皿状を呈し、堆積層は複数層に分かれ、色調は灰色～黒褐色系、土質は粘質土～砂質土が主体を占める。堆積状況は地点により異なるが、概ね水平に堆積している箇所が主である。

調査に際しては堆積層中に予想された水田跡の検出に努めたが、遺構検出までには至らなかった。そのため、D7区の堆積層の中から数点プラント・オパール分析を実施し、プラント・オパールを抽出しており、河川の埋没が終了し河道内が概ね平坦化した頃に広範囲に水田化されたことは確実視されるが、その具体的な時期については問題を残している。

堆積層からは弥生土器・須恵器、石器等が比較的多数に出土した。1327～1335は弥生時代後期後半新相頃の弥生土器の資料である。1327・1328は壺の上半部と底部である。底部は僅かに平底を残しているが、終末期に含める選択肢もある。1329～1331は甕の上半部である。

1336～1338は古代の土師器や土製品である。1339～1379は7～9世紀頃の須恵器である。1339～1344は7世紀初頭～第2四半期頃の杯である。1345～1362は8～9世紀前半頃の杯である。1369・1370は6世紀後半と7世紀頃の髹杯脚部片である。1371・1372は平瓶の口縁部と把手部片で、1373はハソウの体部である。1374は大型の盤の底部で、1375は横瓶の体部片である。1376～1379は壺と甕の口縁部片である。

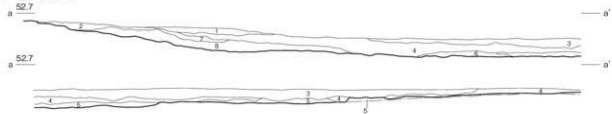
1380・1381は土師器杯、1382は黒色土器椀底部片、1383・1384は緑釉陶器の皿と椀である。1385は土師器羽釜の口縁部片、1386は土師器小皿である。

1387～1389はサヌカイトの石器である。1387は石廬丁片、1388は裁断面が認められる点から楔形石器に分類した。1389は形状から楔形石器の削片と考えられる。

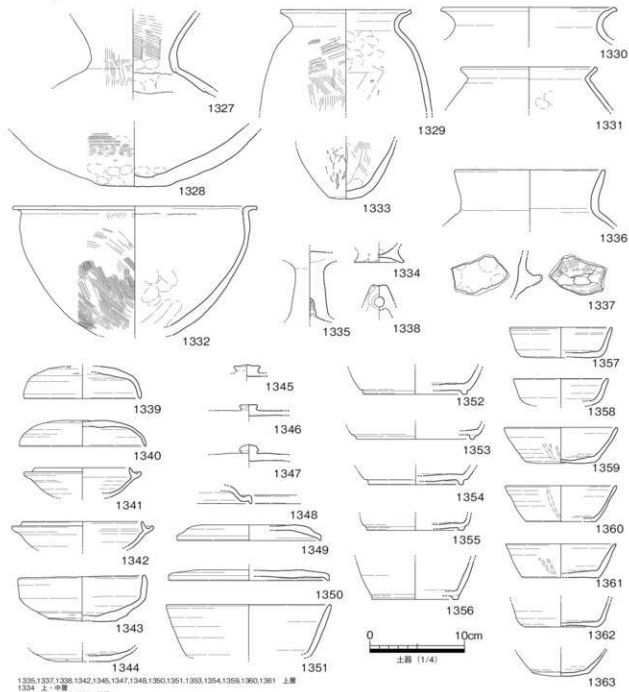


F7\_SRo05 畦

52.7

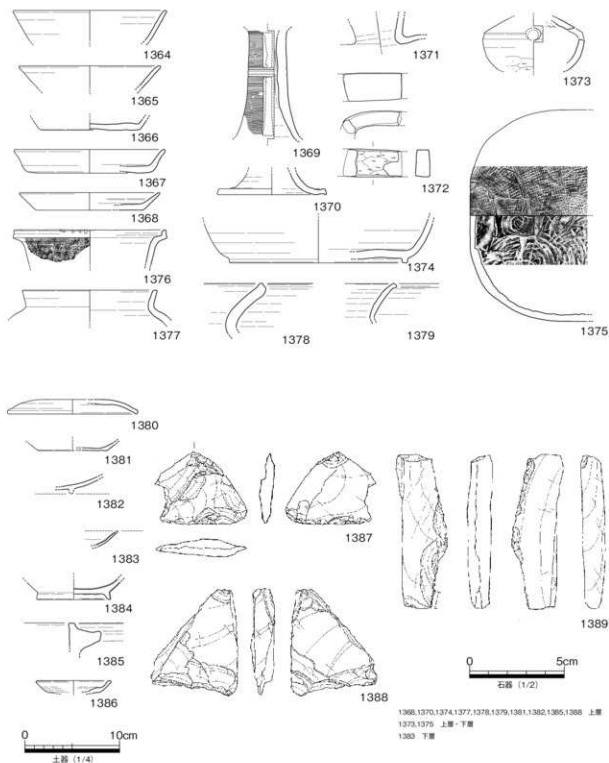


52.7



1335,1337,1338,1342,1346,1347,1348,1360,1361,1363,1364,1365,1366,1367,1368,1369,1370,1371 上層  
 1334 上・中層  
 1336,1341,1343,1349 下層

第 162 図 SRo05 断面図, 出土遺物



第 163 図 SRo05 出土遺物

SRo06

B5 区で検出した SRo07・09 より下位に所在する自然河川であるため、B5 区や F6 区で最も古い河川と考えられるが、トレンチの断面で確認した河川のため、規模・方向等不明瞭な河川である。また、出土遺物が採集できていないため時期判断には問題を残す。幅約 7.5 m 以上、深さ約 1.0 m を測る。断面の形状は不整形な逆台形状を呈する。

### SRo07 (第164図)

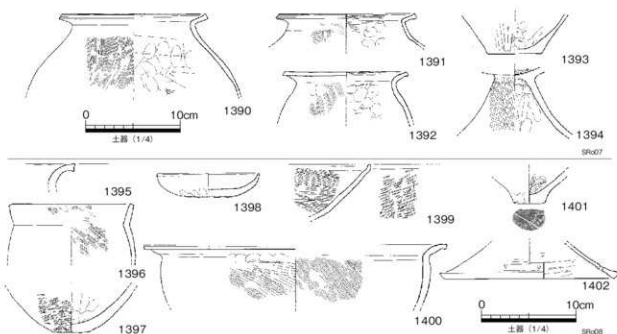
B5区で検出した幅の狭い自然河川で、平成17年度に刊行した「西末則Ⅰ」で報告しているB2区のSRa03と連続する可能性が高いが、SRo09もSRa03との連続する可能性が高いため、おそらくB5区とB2区間の未調査区域でこれらの河川は切り合うものと考えられる。この河川はSRo06・09と重複するが、土層断面の切り合い関係からSRo06より後出し、SRo09より先行する。検出長約28.0m以上、幅約4.5m以上、深さ約0.7mを測る。断面の形状は不整形な逆台形状を呈する。複数の堆積層に分かれる。

堆積層からは弥生時代後期後半の土器が少量出土した。1390～1392は甕の上半部で、1390・1391は後期前半新相～後期後半古相頃の時期が考えられる。1393は甕の底部片で、1390・1391等のタイプの甕上半部に付くものと考えられる。1394は高杯脚部の上半部である。

### SRo08 (第164図)

F6区の西端部で検出した不明瞭な河川で、平成17年度に刊行した「西末則Ⅰ」で報告しているD7区のSRa02ないしB2区のSRa03と連続する可能性があるが、D7区では上面検出だけの部分調査で終えているため、河川の繋がりについては不明である。SRo09と重複し、切り合い関係からSRo08はSRo09より先行する。検出長約25.0m以上、幅約12.0m以上、深さ約0.7mを測る。断面の形状は皿状を呈する。

堆積層からは弥生時代後期後半の土器が少量出土した。1395は壺口縁部片である。1396・1397は後期後半新相頃の甕の資料である。1398・1399・1400・1401は鉢の資料である。1402は高杯脚部の下半部である。



第164図 SRo07・08出土遺物



第 165 図 F6・F7・E6・D7 河川配置図

### SRo09・SXo13 (第169～173図)

F6・B5区で検出した幅広い自然河川で、平成17年度に刊行した「西末則I」で報告しているB2区のSRa03ないしSRa04を東限とし、F6・B5区の南半部を東西に横断する自然河川である。この河川はB5区ではSRo06・07、F6区ではSRo08と重複するが、土層断面の切り合い関係からSRo09はこれらの河川より後出する。検出長約65.0m以上、幅約15.0m以上、深さ約0.8mを測る。断面の形状は皿状を呈する。なお、SRo09の河床面上で1面(第3遺構面)、最終埋没面上で2面(第1・2遺構面)、合せて3面の遺構面を検出した。F6区第2遺構面前後からは弥生時代後期後半の土器溜りSXo13を検出した。土器溜りSXo13は長径7.6m、短径6.8mの楕円形状の形状を呈し、河川の埋没がほぼ終了した段階で、同一レベルの遺構面上に1405・1406・1408・1409・1414～1416・1420・1422・1423・1426・1429・1431・1432・1435・1441・1446・1447・1450・1451・1455・1456・1460・1462・1464・1466・1467・1472・1473・1485・1486・1489・1490等の多量の弥生土器が廃棄されていた。次に土器溜りSXo13の出土遺物を含め、堆積層中の出土遺物を順次報告する。

1403は縄文晩期の深鉢口縁部片で、唯一の縄文土器の資料である。1404～1433は壺の資料である。1405～1408は複合口縁の壺上半部である。1405・1407は鋸歯文が口縁部を巡る。1409～1413は広口壺の口縁部である。1414～1418は口縁部を欠く広口壺の頸部である。1420～1425は頸部の短い広口壺である。口縁部は「ハ」の字状に開き端部は平坦に仕上げる土器が主体を占める。1428は底部を欠く小型丸底壺である。

1434～1483は甕の資料である。1434～1463は甕上半部、1464～1483は体部～底部である。総体的な点で、口縁部は「ハ」字状に短く開くものと直立気味に短く延びる口縁とがある。体部は球体気味で外面にタタキを残すものと、タタキをハケでナゲ消す土器とに分かれる。底部は少量丸底もあるが、僅かに平底に残している土器が主体を占める。

1485～1490は鉢の資料で、丸底でボール状のタイプと、口縁部を屈曲させるものとに分かれる。1491は台付鉢、1492は高杯の脚部である。1493は器台の口縁部片で、外面には鋸歯文が巡る。1494はミニチュアの鉢、1495は製塩土器の脚台部で、形状から弥生後期後半新相頃の製塩土器と考えられる。1496はサヌカイトの大型剥片の側縁に調整を加えた削器である。1497は板状の片岩に調整を加えた剥片で、おそらく石庵丁等の磨製石器の未製品の可能性が高い。

### SRo10 (第174～175図)

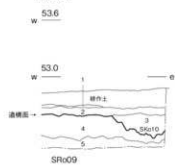
B5区で検出した自然河川で、平成17年度に刊行した「西末則I」で報告しているB2区のSRa03を東限とし、B5区の北東隅を北西方向へ延びて、B6区に至る自然河川である。B6区では明瞭にプランが把握できていないが、おそらくSRa02方向へ延びて同河川と交わるものと考えられる。

B2区まで含めた検出長約25.0m、幅約6.0m以上、深さ約1.0mを測る。断面の形状は皿状を呈し、堆積層は灰色～黒褐色系、土質は粘質土・砂質土・砂礫層からなる。

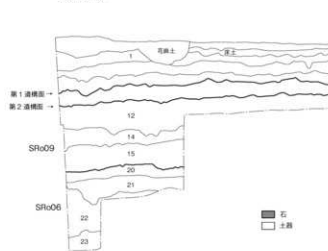
堆積層からは弥生時代後期後半新相頃の弥生土器や石器が比較的多数出土した。特に南半部では弥生土器が土器溜り状に出土し、それをSXo14とした。SXo14からは1499・1500・1502～1507・1509～1513・1515・1517・1519・1520の弥生土器が出土した。次に土器溜りSXo14の出土遺物を含め、堆積層中の出土遺物を順次報告する。

1498～1509は甕の資料である。体部の球体化が進み底部には平底を僅かに残す後期後半新相頃の土

F6 南壁



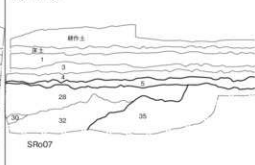
B5 南壁⑤



石  
土層

- B5南壁
- 1 灰色ヤングン泥岩砂礫混じり粘質土 (やや青み帯びる 団粒作土)
  - 2 赤色粘質砂土
  - 3 赤色粘質砂土
  - 4 赤色ヤングン泥岩砂礫混じり粘質土 (団粒作土)
  - 5 赤色粘質砂土
  - 6 赤色粘質砂土
  - 7 赤色粘質砂土
  - 8 赤色粘質砂土
  - 9 赤色粘質砂土
  - 10 赤色粘質砂土
  - 11 赤色粘質砂土
  - 12 赤色粘質砂土
  - 13 赤色粘質砂土
  - 14 赤色粘質砂土
  - 15 赤色粘質砂土
  - 16 赤色粘質砂土
  - 17 赤色粘質砂土
  - 18 赤色粘質砂土
  - 19 赤色粘質砂土
  - 20 赤色粘質砂土
  - 21 赤色粘質砂土
  - 22 赤色粘質砂土
  - 23 赤色粘質砂土

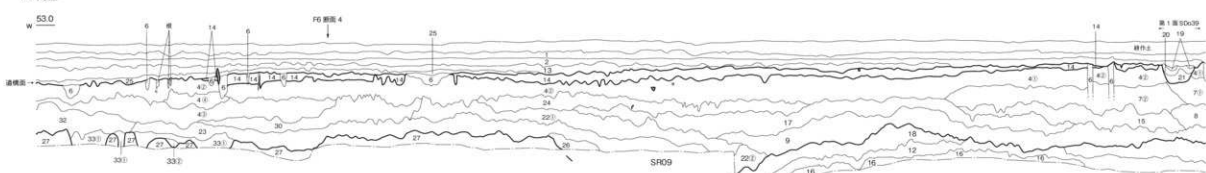
B5 南壁③



- 24 赤色粘質砂土
- 25 赤色粘質砂土
- 26 赤色粘質砂土
- 27 赤色粘質砂土
- 28 赤色粘質砂土
- 29 赤色粘質砂土
- 30 赤色粘質砂土
- 31 赤色粘質砂土
- 32 赤色粘質砂土
- 33 赤色粘質砂土
- 34 赤色粘質砂土

- 35 灰色砂礫
- 36 赤色粘質砂土
- 37 赤色粘質砂土
- 38 赤色粘質砂土
- 39 赤色粘質砂土
- 40 赤色粘質砂土
- 41 赤色粘質砂土

F6 南壁



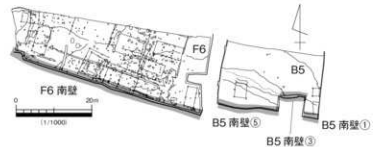
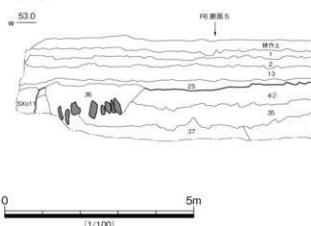
土層  
石

F6南壁

- 1 灰色粘質砂礫粘質土 (団粒作土)
- 2 赤色粘質砂土
- 3 赤色粘質砂土
- 4 赤色粘質砂土
- 5 赤色粘質砂土
- 6 赤色粘質砂土
- 7 赤色粘質砂土
- 8 赤色粘質砂土
- 9 赤色粘質砂土
- 10 赤色粘質砂土
- 11 赤色粘質砂土
- 12 赤色粘質砂土
- 13 赤色粘質砂土
- 14 赤色粘質砂土
- 15 赤色粘質砂土

- 17 赤色粘質砂土
- 18 赤色粘質砂土
- 19 赤色粘質砂土
- 20 赤色粘質砂土
- 21 赤色粘質砂土
- 22 赤色粘質砂土
- 23 赤色粘質砂土
- 24 赤色粘質砂土
- 25 赤色粘質砂土
- 26 赤色粘質砂土
- 27 赤色粘質砂土
- 28 赤色粘質砂土
- 29 赤色粘質砂土
- 30 赤色粘質砂土
- 31 赤色粘質砂土
- 32 赤色粘質砂土
- 33 赤色粘質砂土
- 34 赤色粘質砂土
- 35 赤色粘質砂土
- 36 赤色粘質砂土
- 37 赤色粘質砂土

F6 南壁



第166図 F6・B5区南壁断面図

B5 南壁②



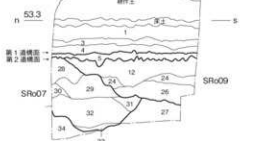
B5 南壁②

- 1 灰色マンガン沈澱砂礫混り粘質土(やや黄み帯る 旧耕作土)
- 3 灰黄色粘性情砂礫(旧耕作土)
- 4 灰黄色マンガン沈澱砂礫(旧耕作土)
- 5 灰黄色粘土質少砂礫混り粘性情砂礫(第1面のベース土 旧耕作土)
- 12 暗栗色少砂礫混り粘土(第2面のベース土)
- 24 灰黄色粘性情砂
- 25 暗栗色粘性情砂

- 27 暗栗色粘性情砂
- 28 暗栗色粘性情砂
- 29 栗色砂礫混り粘性情砂
- 30 栗褐色小石混り粘性情砂
- 31 栗褐色砂礫混り粘性情砂
- 32 栗褐色小石混り粘性情砂
- 33 灰黄色粘性情砂
- 34 明栗褐色粘性情砂
- 35 灰色粘土
- 28 暗栗色粘性情砂
- 36 暗栗色粘性情砂
- 37 暗栗色粘土質少砂礫混り粘性情砂
- 38 暗栗色粘性情砂
- 39 暗栗色小石混り粘性情砂

- 40 暗栗色小石混り砂(埋山)
- 41 暗栗色粘性情砂(埋山)
- 42 暗栗色粘性情砂
- 43 暗栗色粘性情砂(少量の礫を含む)

B5 南壁④



B5 西壁

53.5



B5 西壁

- 1 灰色マンガン沈澱砂礫混り粘質土(やや黄み帯る)
- 2 栗黄色マンガン沈澱砂礫混り粘質土
- 3 灰黄色粘性情砂
- 4 灰黄色マンガン沈澱砂礫(1~4層旧耕作土?)
- 5 灰黄色砂礫混り粘性情砂(第1面のベース土)
- 6 灰褐色粘土(第2面のベース土)
- 7 暗栗色粘性情砂(小石を多く含む)
- 8 暗栗色粘性情砂
- 9 暗栗色小石混り砂礫(5~10cmの小石を多く含む)
- 10 暗栗色小石混り砂礫
- 11 暗栗色粘土
- 12 暗栗色少砂礫混り粘質土(第2面のベース土)
- 13 暗栗色少砂礫混り粘質土(第2面のベース土)
- 14 暗栗色粘質土
- 15 暗栗色粘質土

- 16 暗栗色粘質土
- 17 暗栗色砂礫混り粘質土
- 18 暗栗色粘質土(砂礫が多い)
- 19 暗栗色粘質土
- 20 暗栗色粘質土
- 21 暗栗色粘土(やや黄み帯る)
- 22 暗栗色粘性情砂・暗栗色粘土を多く含む
- 23 暗栗色粘土
- 24 暗栗色粘質土

B5 断面1



B5 断面1

- 1 暗栗褐色
- 2 暗栗色粘土(粘土少量)砂礫
- 3 暗栗色粘性情砂
- 4 暗栗色粘性情砂(埋山)
- 5 暗栗色小石混り粘土
- 6 暗栗色小石混り粘土
- 7 暗栗色粘土
- 8 暗栗色粘土
- 9 暗栗色粘土
- 10 暗栗色粘土

SRo10

53.0



SRo08

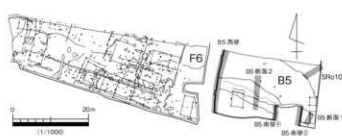
- 1 暗栗色少砂礫混り粘質土
- 2 暗栗色粘質土
- 3 暗栗色粘性情砂
- 4 暗栗色粘土
- 5 暗栗色粘土
- 6 暗栗色小石混り粘土
- 7 暗栗色粘土(埋山)

B5 断面2



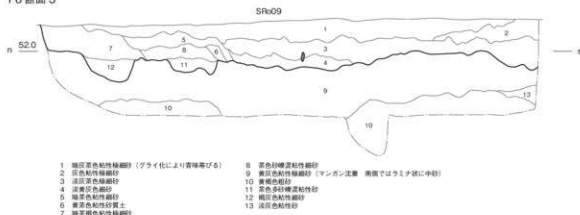
B5 断面2

- 1 暗栗褐色少砂礫混り粘土(砂を多く含む)
- 2 暗栗色粘土(粘土多い)
- 3 暗栗色粘性情砂(粘土帯る)
- 4 暗栗色粘土
- 5 暗栗色粘土(少量の砂礫を含む)
- 6 暗栗色粘土
- 7 暗栗色粘土(砂を多く含む)
- 8 暗栗色粘土
- 9 暗栗色粘土(部分的に暗栗色粘土を含む)
- 10 暗栗色粘土
- 11 暗栗色小石混り粘土
- 12 暗栗色粘性情砂
- 13 暗栗色粘性情砂(やや黄み帯る)
- 14 暗栗色粘土
- 15 暗栗色粘土

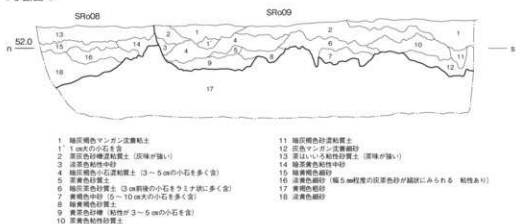


第167図 F6・B5区南壁・西壁断面図

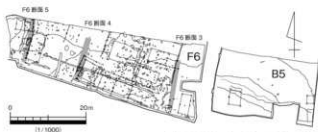
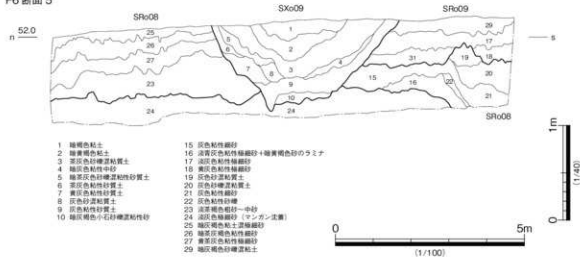
F6 断面 3



F6 断面 4

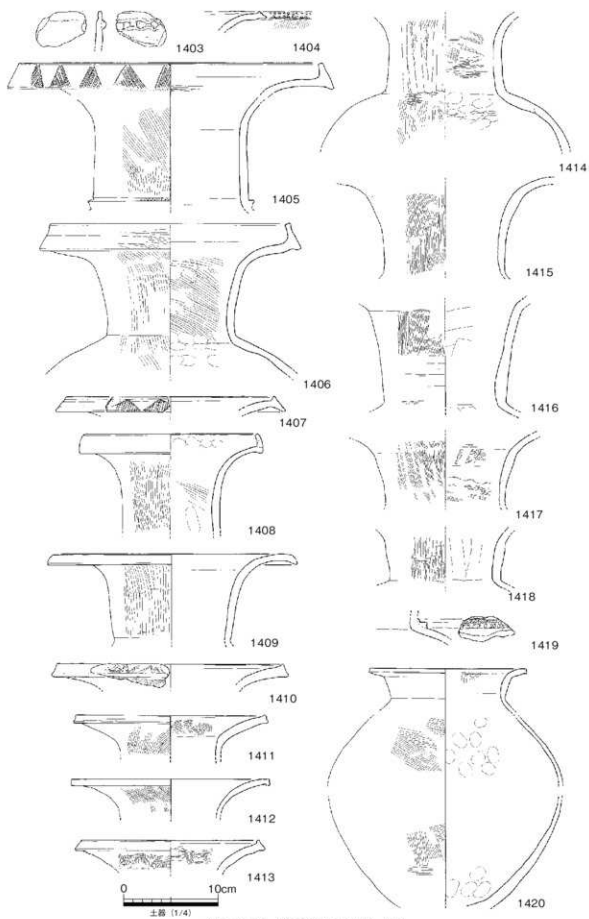


F6 断面 5

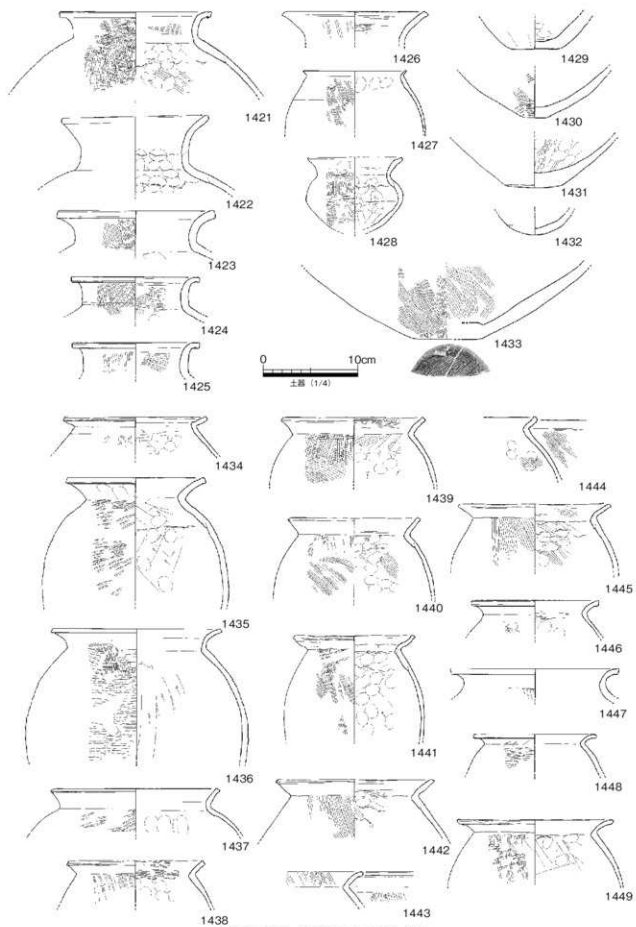


第 168 図 F6・B5 区断面図

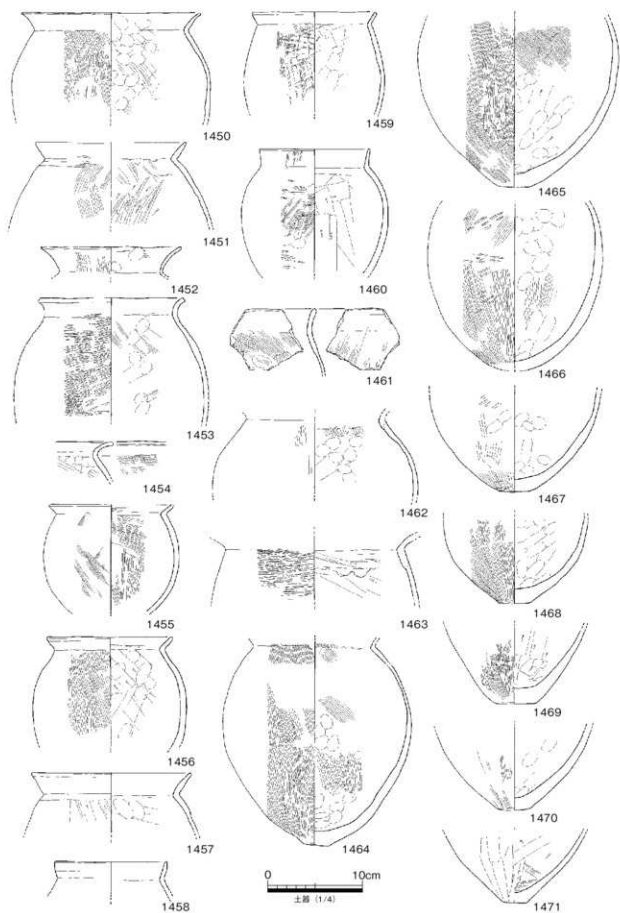




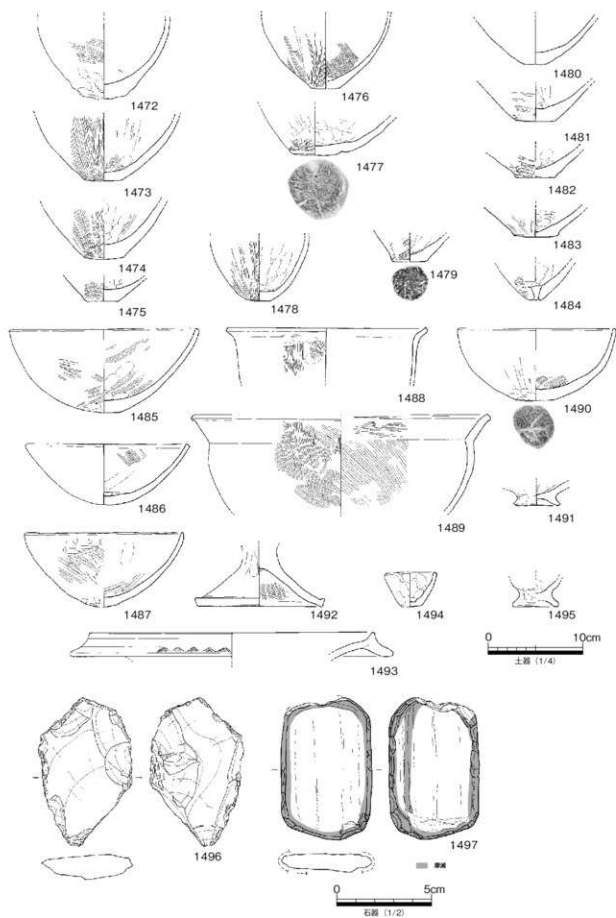
第169図 SRo09出土遺物(1)



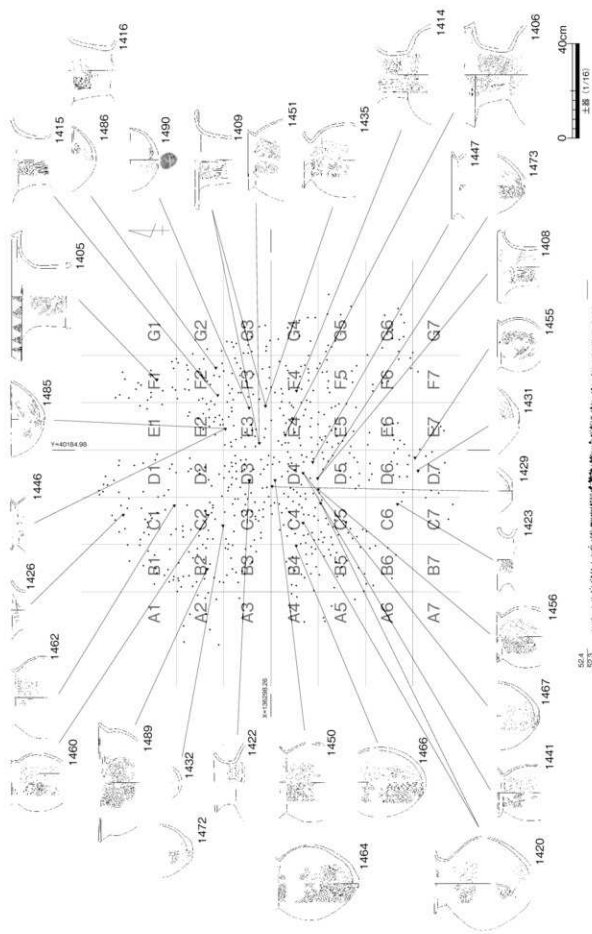
第170図 SR09 出土遺物 (2)



第 171 図 SRo09 出土遺物 (3)

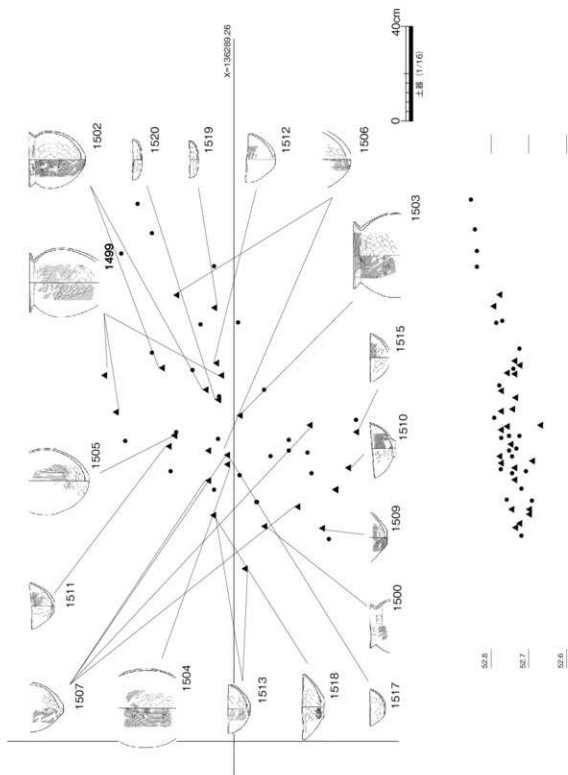


第172回 SR09 出土遺物 (4)

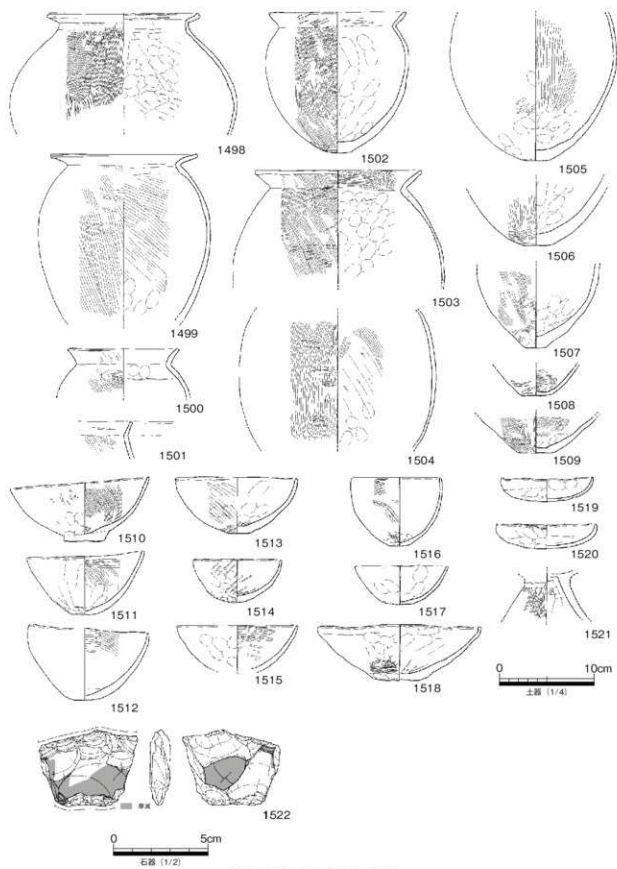


第 173 图 SXo13 土器出土状况

Y=40250.98



第 174 图 SXo14 土器出土状况



第 175 図 SRo10 出土遺物

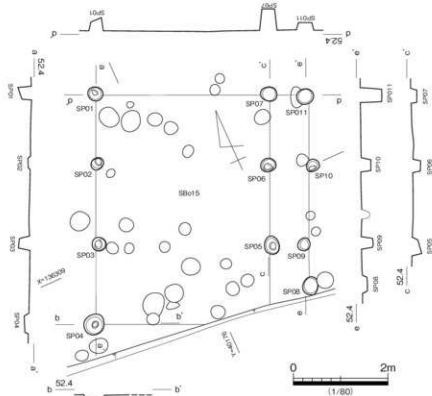
器が主体を占める。1510～1520は鉢の資料である。1521は高杯脚部の上半部である。1522は側縁の潰れ痕及び裁断面を有することから楔形石器に含めた。

## (2) 古代の遺構・遺物

### 掘立柱建物

#### SBo15 (第176図)

F7区南端部のSRo05南肩部の微高地上で検出した梁間1間、桁行3間南北棟で、東面には廂が1間分付設している。南東端部の柱穴は調査区より外れるため未確認である。約3.0m北には主軸を合わせた東西方向のSDo33が配されている。身舎は1間(3.7m)×3間(4.8m)、面積17.76㎡、主軸方位N24°E、柱間は梁間3.7m、桁行1.4～1.8mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.3～0.4m、深さ0.1～0.5mを測る。廂を含めた構造では、2間(4.5m)×3間(4.8m)、面積21.6㎡を測る。柱穴からは遺物が出土していないためSBo15の時期判断はできないが、SBo15が北に隣接するSDo33に向きを揃えて配置しているため、この溝跡と類似する7世紀前半頃の可能性が高い。



第176図 SBo15平・断面図

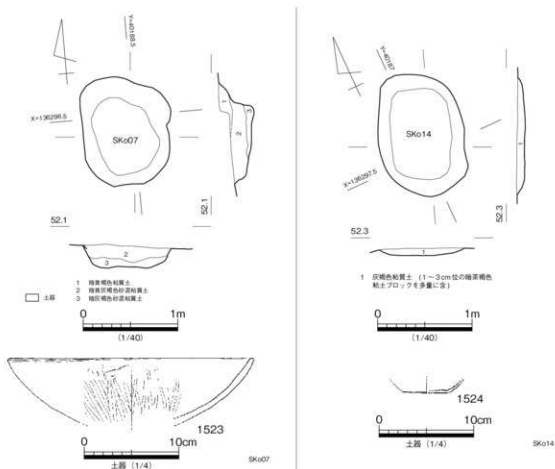
### 土坑跡

#### SKo07 (第176図)

F6区西半部で検出した土坑である。平面は不整形円形状、断面は凹凸のある不整形な逆台形状を呈する。長径1.1m、短径0.9m、深さ約0.35mを測る。埋土は暗黄褐色～暗灰褐色系の粘質土からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器片が極少量出土した。1523は弥生時代後期後半の鉢である。出土遺物が少ないため詳細な時期判断には無理があるが、遺物中で古代末頃の須恵器杯片があり、SKo07はこの時期にあたる可能性がある。





第177図 SKo07・14平・断面図，出土遺物

#### SKo14 (第177図)

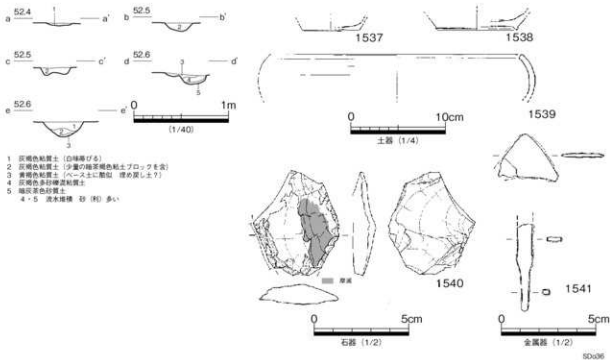
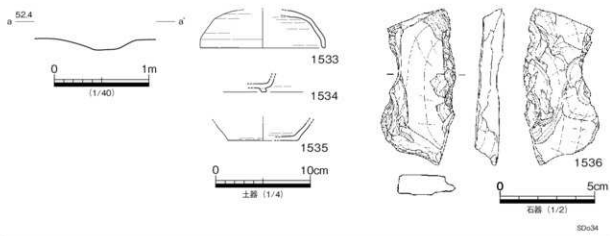
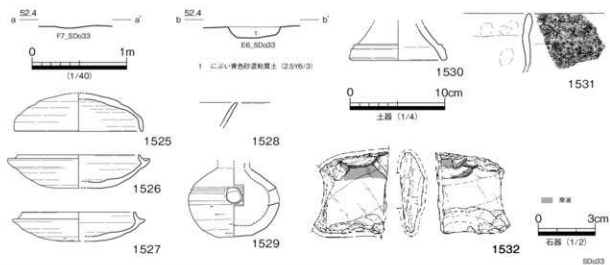
F6区西半部で検出した土坑である。平面は楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。長径13m、短径0.9m、深さ約0.1mを測る。埋土は暗茶褐色粘土の小ブロックを多量に含む灰褐色粘質土からなる。埋土からは土師器・須恵器片が極少量出土した。1524は土師器杯底部片である。出土遺物が少ないため詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物からSKo14は古代末～中世頃の時期が考えられる。

#### 溝状遺構

#### SDo33 (第178図)

F7・E6区南辺部のSRo05南岸部に直線状に配した東西方向の溝状遺構である。削平を受け残りが極めて悪い。先述したが、約3.0m南にはSBo15が向きを合わせて配されており、両者は互いに関連する遺構の可能性が高い。検出長約21.0m、幅約0.55m、深さ約0.1m、主軸方位N69.0° W(N21.0° E)を測る。断面は不整形な逆台形状を呈し、埋土はにぶい黄色砂混じり粘質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器、石器が少量出土した。1525～1530は須恵器の資料である。1525は杯蓋、1526・1527は杯身である。1529は甗の体部である。いずれも7世紀前半頃の遺物である。1530は有蓋ないしは無蓋高杯の脚部である。1531は製塩土器の口縁部片である。外面には格子タキが認められる。1532はサヌカイトの石磨丁の破損品で混入品であろう。出土遺物からSDo33は7世紀前半以降に埋没した溝跡と考えられる。



- 1 灰褐色粘質土 (白縁をける)
  - 2 灰褐色粘質土 (少量の緑茶褐色粘土ブロックを含)
  - 3 黄褐色粘質土 (ベース土に敷製 埋め戻し土?)
  - 4 灰褐色多砂礫質粘質土
  - 5 褐灰色砂質土
- 4・5 流水堆積 砂 (粒) 多い

第 178 図 SDo33・34・36 断面図, 出土遺物

#### SDo34 (第178図)

F7区北辺部のSRo05北岸部で検出した不整形で短い東西方向の溝状遺構である。削平を受け残りが悪い。検出長約6.5m、幅1.0～1.5m、深さ約0.1m、主軸方位N63.0°Eを測る。断面は不整形な逆台形状を呈する。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器が少量出土した。1533～1535は須恵器の杯である。1533は7世紀初頭頃の杯蓋、1534は8世紀前半頃の高台付杯の底部片である。1535は10世紀頃の杯底部で、この溝跡の埋没時期を示唆する遺物と考えられる。1536はサヌカイトの大型剥片の側縁部を作業面にもちいた石核で、混入品である。

#### SDo36 (第178図)

F6区南辺部に直線状に配した東西方向の溝状遺構である。約3.3m南にはSDo37がこの溝と並走しており、両者は有機的に関連する遺構の可能性が高い。なお、SDo36の東端には不整形な溝跡SDo39が配されている。また、SDo36はSBo23・24、SKo15、SDo40等と重複するが、SBo23、SKo15、SDo40に切り込まれており、前後関係としては、これらの遺構より先行する。検出長約31.0m、幅約0.2～0.5m、深さ約0.1～0.3m、主軸方位N70.0°W(N20.0°E)を測る。断面は不整形な碗底状を呈し、埋土は灰褐色系の粘質土が主体になる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器片が少量出土した。1537は土師器杯、1538は須恵器の高台付杯の底部である。1539は須恵器の鉄鉢である。1540はサヌカイト製で石器の未製品で混入品である。1541は上下で分離している鉄族と考えられる。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、SDo36は古代後半頃の時期が考えられる。

#### SDo37 (第179図)

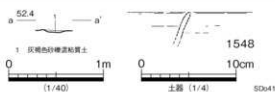
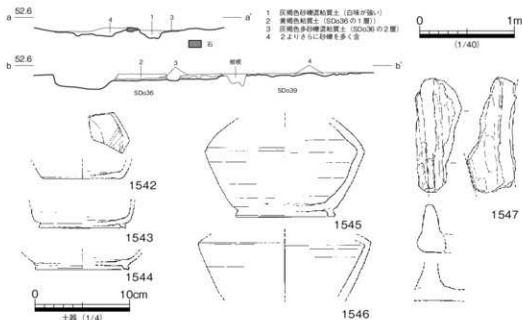
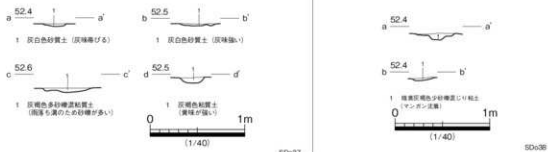
F6区南辺部に直線状に配した東西方向の溝状遺構である。先述したように、約3.3m北にはSDo36がこの溝と並走しており、両者は有機的に関連する遺構の可能性が高い。削平を受けて残りが悪く、途切れ途切れでしか残っていない。SDo37はSBo23・24等と重複するが、SBo23・24に切り込まれており、前後関係としては、これらの遺構より先行する。検出長約21.0m、幅約0.2～0.5m、深さ約0.1m、主軸方位N70.0°W(N20.0°E)を測る。断面は不整形な形状を呈し、埋土は灰色系の砂質土ないしは粘質土が主体になる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、周辺遺構との関係からSDo37はSDo36に類似した時期が考えられる。

#### SDo38 (第179図)

F6区西半部の南辺に直線状に配した東西方向の溝状遺構である。削平を受けて残りが悪く不明瞭であるが、約7.0m東の延長にはSDo37があり、両者は連続する溝跡の可能性が高い。検出長約5.2m、幅約0.3～0.5m、深さ約0.05m、主軸方位N70.0°W(N20.0°E)を測る。断面は不整形な形状を呈し、埋土は暗黄灰褐色砂礫混じり粘土からなる。

埋土からは弥生土器・土師器が少量出土した。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、周辺遺構との関係からSDo38は、SDo37・41に類似した時期が考えられる。



第179図 SD037・38・39・41 断面図, 出土遺物

#### SD039 (第179図)

F6区南辺部のSD036の東端に交わる南北方向の不整形な溝跡である。平面形状は凹凸のある不整形な形状を呈し、若干湾曲気味に南北方向に配されている。検出長約9.0m以上、幅約1.0～2.0m、深さ約0.1を測る。断面は不整形で浅い落ち込み状を呈し、埋土は灰褐色系の粘質土が主体になる。

埋土からは土師器・須恵器等が出土した。1542は須恵器杯、1543・1544は8～9世紀頃の須恵器の高台付杯の底部である。1545・1546は須恵器の長頸ないしは細頸である。1547は土師器甕の頸口部分である。出土遺物からSD039は8世紀後半以降に埋没した溝状遺構と考えられる。

#### SD041 (第179図)

F6区南辺部に直線状に配した東西方向の小溝である。削平を受けて残りがかなり悪い溝跡である。この溝跡の東約12.0mには同方向に配されたSD037が位置することから、この溝跡はSD037の東端の

残存部と考えられる。検出長約1.5m、幅約0.5m、深さ約0.1mを測る。断面は浅い皿状を呈し、埋土は灰褐色砂混粘質土からなる。

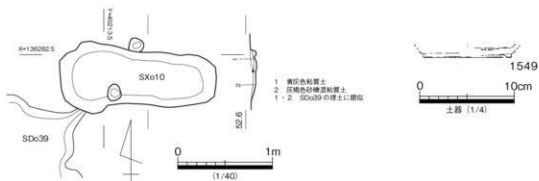
埋土からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土した。1548は須恵器の杯である。出土遺物が少なく詳細な時期判断には無理があるが、周辺遺構との関係からSDo37はSDo36に類似した時期が考えられる。

#### 不整形遺構

##### SXo10 (第180図)

F6区東端部のSDo39に交わる東西方向の不整形な落ち込み状の遺構である。平面形状は凹凸のある不整形な楕円形状を呈し、検出長約1.7m以上、幅0.5～0.7m、深さ0.05mを測る。断面は不整形で浅い落ち込み状を呈し、埋土は黄灰色～灰褐色の砂礫混じり粘質土が主体になる。

埋土からは土師器・須恵器等が出土した。1549は9世紀頃の須恵器の高台付杯の底部である。出土遺物からSXo10は9世紀以降に埋没した不整形遺構と考えられる。



第180図 SXo10平・断面図，出土遺物

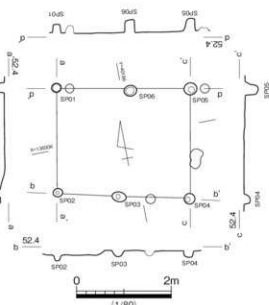
### (3) 中世～近世前半の遺構・遺物

#### 掘立柱建物

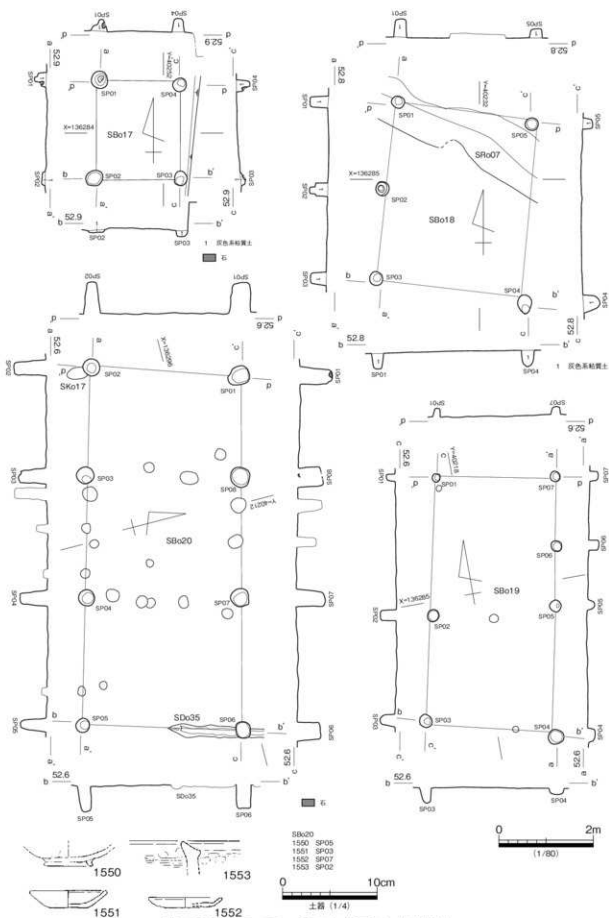
##### SBo16 (第181図)

E6区南端部のSRo05南肩部の微高地上のSBo15の東側で検出した梁間1間、桁行2間の小型で方形に近い東西棟である。約4.0m北には東西方向のSDo33が位置する。1間(2.2m)×2間(2.8m)、面積6.16㎡、主軸方位N10.0°E、柱間は梁間2.2m、桁行1.2～1.4mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.2～0.3m、深さ0.2～0.3mを測る。

柱穴からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土した。出土遺物が少なく、SBo16の時期判断には無理があるが、検出状況や配置等から概ね中世の建物と考えられる。



第181図 SBo16平・断面図



第 182 図 SBo17 ~ 20 平・断面図, 出土遺物

#### SB017 (第182図)

B5区東端部のSR07・10に挟まれた微高地上で検出した梁間1間、桁行1間の小型で方形に近い南北棟である。1間(1.8m)×1間(2.1m)、面積3.78㎡、主軸方位N0°、柱間は梁間1.8m、桁行2.1mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.2～0.3m、深さ0.1～0.2mを測る。

柱穴からは中世の土師器片が少量出土した。出土遺物が少なく、SB017の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から概ね中世の建物と考えられる。

#### SB018 (第182図)

B5区東端部のSR09上面の第1遺構面上で検出した梁間1間、桁行2間の小型の南北棟である。1間(3.0m)×2間(3.6m)、面積10.8㎡、主軸方位N5.0°E、柱間は梁間3.0m、桁行19.0mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.3～0.4m、深さ0.2～0.4mを測る。

柱穴からは中世の土師器片が少量出土した。出土遺物が少なく、SB018の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から概ね中世の建物と考えられる。

#### SB019 (第182図)

F6区東端部のSR09上面の第1遺構面上で検出した梁間1間、桁行3間以上の南北棟である。削平を顕著に受けており柱穴の一部を欠く。1間(2.6m)×3間以上(5.3m)、面積13.78㎡、主軸方位N10.0°E、柱間は梁間2.6m、桁行1.2～3.8mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.2～0.3m、深さ0.2～0.4mを測る。

柱穴からは土師器小皿、亀山焼片等が少量出土した。出土遺物が少なく、SB019の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から概ね中世の建物と考えられる。

#### SB020 (第182図)

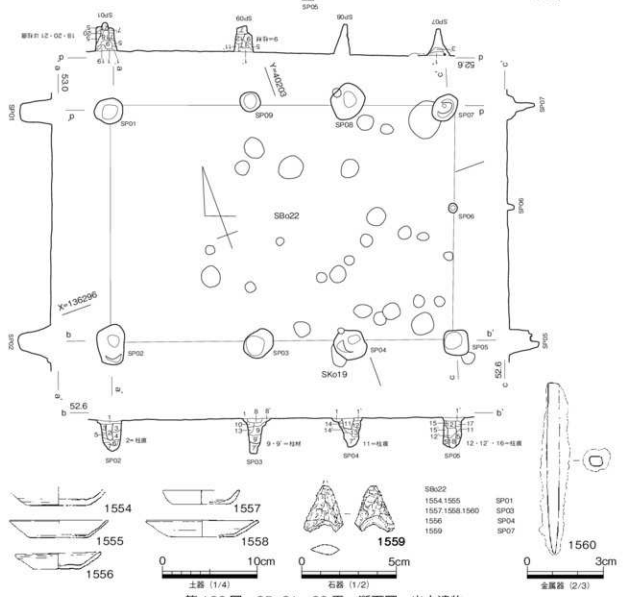
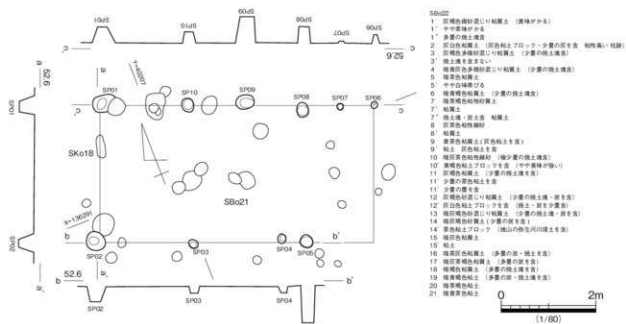
F6区東半部のSR09上面の第1遺構面上で検出した梁間1間、桁行3間の東西棟である。西にSB022、南にSB021等と隣接し一群をなしている。SB020はSD035と重複し、この溝跡を切り込んでいる。1間(3.4m)×3間(7.6m)、面積25.84㎡、主軸方位N75.0°W(N15.0°E)、柱間は梁間3.2～3.4m、桁行2.1～2.8mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.3～0.4m、深さ約0.6mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。1550はSP05から出土した須恵器碗底部、1551はSP03から出土した土師器杯、1552はSP07から出土した土師器小皿、1553はSP02から出土した土師器足釜である。検出状況や出土遺物からSB020は概ね中世後半以降の建物と考えられる。

#### SB021 (第183図)

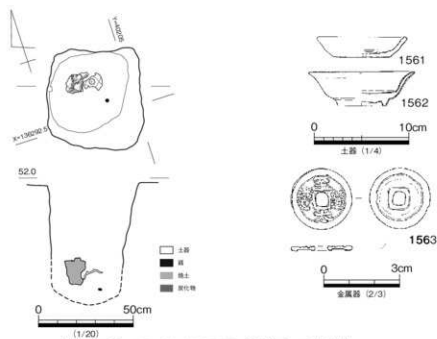
F6区東半部のSR09上面の第1遺構面上で検出した梁間1間、桁行3間の東西棟である。西にSB022、北にSB020等と隣接し一群をなしている。1間(2.9m)×3間(5.8m)、面積16.82㎡、主軸方位N70.0°W(N20.0°E)、柱間は梁間2.8m、桁行5.8mを測る。柱穴掘方は円形状を呈し、柱穴径0.1～0.4m、深さ約0.3～0.5mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器片等が少量出土した。出土遺物が少なく、SB021の詳細な時期判断には無理があるが、建物配置や出土遺物からSB019・20に類似する時期が考えられる。

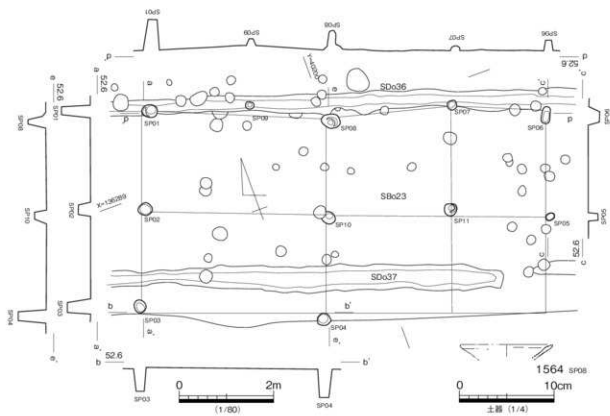


第 183 図 SBo21・22 平・断面図, 出土遺物





第184図 SBo22\_SP05平・断面図，出土遺物



第185図 SBo23平・断面図，出土遺物

#### SB022 (第183・184図)

F6区東半部のSR09上面の第1遺構面上で検出した梁間1間、桁行3間の東西棟である。東にSB020・21と隣接し一群をなすが、建物群中最も大型の建物である。2間(5.0m)×3間(7.3m)、面積36.5㎡、主軸方位N70.0°W(N20.0°E)、柱間は梁間2.2～2.8m、桁行1.0～3.0mを測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径0.4～0.8m、深さ約0.6～0.8mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器・陶器、石器、金属器等が出土した。1554・1555はSP01、1556はSP04、1557・1558はSP03から出土した土師器小皿と杯である。1559はSP07から出土したサヌカイトの石籤である。1560はSP03から出土した鉄釘である。1561・1562はSP05から出土した土師器杯と、施釉陶器皿である。また、1563は中国銭で「至大通宝」(1310～1311)である。出土遺物からSB022は17世紀前半頃の建物と考えられる。

#### SB023 (第185図)

F6区東半部のSR09上面の第1遺構面上で検出した梁間2間、桁行4間の東西棟である。北にはSA006を境にして、向を揃えたSB020・21・22が位置する。また、西には僅かに向きを違えるがSB024、SA007が隣接する。削平を受け銅柱の一部を欠く。2間(4.2m)×4間(8.4m)、面積35.28㎡、主軸方位N70.0°E(N20.0°W)、柱間は梁間2.0～2.2m、桁行2.0～2.6mを測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径0.2～0.4m、深さ0.1～0.6mを測る。

柱穴からは土師器・須恵器が少量出土した。1564はSP08から出土した底部を欠く中世の土師器杯である。検出状況からSB023は周辺のSB021に類似した時期が考えられる。

#### SB024 (第186図)

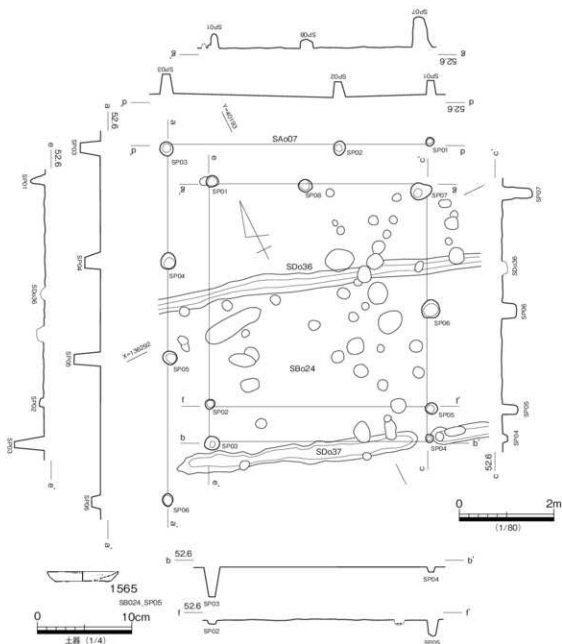
F6区中央部南のSR09上面の第1遺構面上で検出した梁間2間、桁行2間で、南面に廂が付く南北棟である。東には僅かに向きを違えるがSB023が隣接する。削平を受け柱穴の一部を欠く。2間(4.6m)×2間(4.8m)、面積22.08㎡、主軸方位N27.0°E、柱間は梁間2.0～2.2m、桁行2.2～2.4mを測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径0.2～0.4m、深さ0.1～0.6mを測る。廂を含めた構造では、2間(4.6m)×3間(5.4m)、面積24.84㎡を測る。

柱穴からは弥生土器・土師器・須恵器が少量出土した。1565はSP05から出土した中世の土師器小皿である。検出状況からSB024は周辺のSB021・22・23に類似した時期が考えられる。

#### SB025 (第187図)

F6区西端部のSR09上面の第1遺構面上で検出した梁間2間、桁行3間の南北棟である。削平を受け一部の柱穴を欠く。西側柱列の西には、並行する欄列SA010が配されている。1間(3.6m)×3間(7.5m)、面積27.0㎡、主軸方位N17.0°E、柱間は梁間約3.6m、桁行2.2～2.8mを測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径0.2～0.4m、深さ0.1～0.4mを測る。

柱穴から土師器・須恵器、亀山焼が少量出土した。出土遺物が少なくSB025の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から概ね中世後半以降の建物と考えられる。

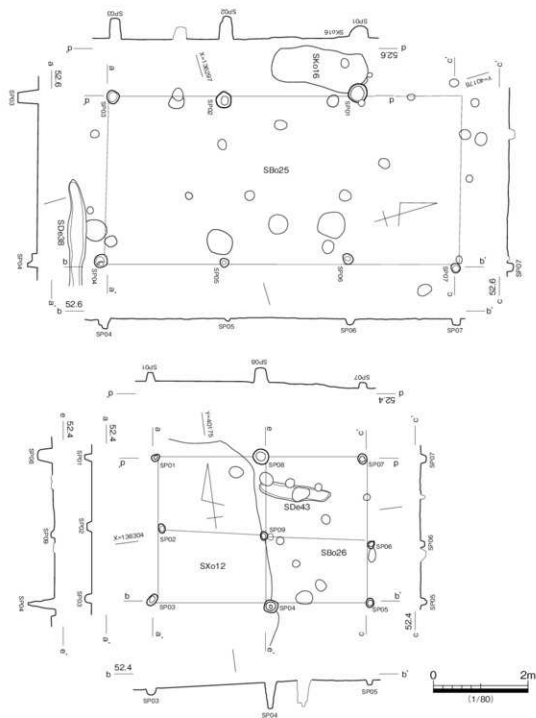


第186図 SB024・SA007平・断面図，出土遺物

### SB026 (第187図)

F6区西端部のSX012の上面で検出した梁間2間、桁行2間の総柱の東西棟である。削平を受け柱穴の残りは悪い。SA010と重複するが柱穴が切り合わないため前後関係は不明瞭である。2間(3.1m)×2間(4.5m)、面積13.95㎡、主軸方位N72.5°E、柱間は梁間約3.1m、桁行2.0～2.4mを測る。柱穴掘方は円形～不整形円形状を呈し、柱穴径0.1～0.3m、深さ0.1～0.5mを測る。

柱穴から弥生土器・土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なくSB026の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から概ね中世後半以降の建物と考えられる。



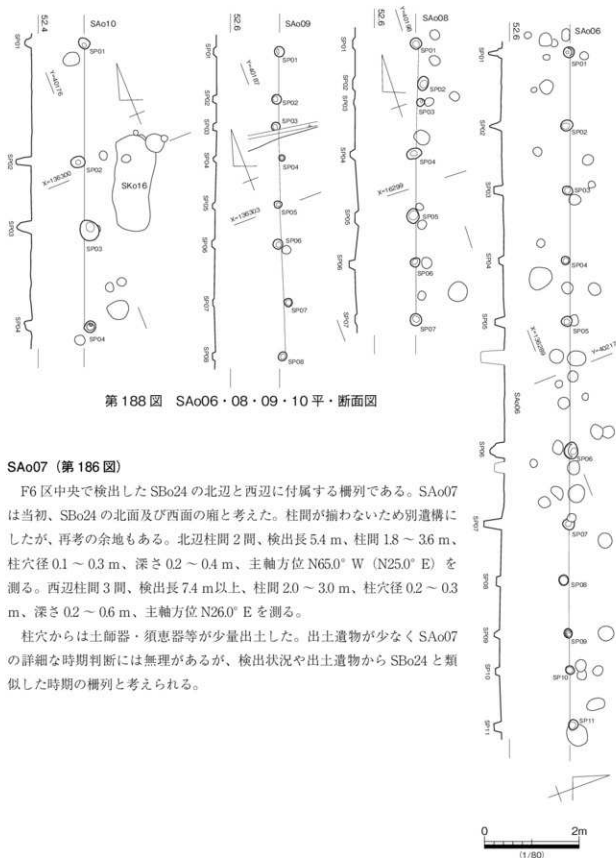
第187図 SB025・26平・断面図

横列

SAo06 (第188図)

F6区東半部で検出した東西方向の横列で、北に分布するSB020～22の建物グループと南に分布するSB023-24の建物グループ間に位置し、両者を画している。柱間10間、検出長14.2m、柱間0.8～2.8m、柱穴径0.1～0.4m、深さ0.1～0.4m、主軸方位N69.0°W(N21.0°E)を測る。

柱穴からは弥生土器・土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なくSAo06の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物から周辺の建物と同時期の横列と考えられる。



第188図 SAo06・08・09・10平・断面図

#### SAo07 (第186図)

F6区中央で検出したSBo24の北辺と西辺に付属する横列である。SAo07は当初、SBo24の北面及び西面の廂と考えた。柱間が揃わないため別遺構にしたが、再考の余地もある。北辺柱間2間、検出長5.4m、柱間1.8～3.6m、柱穴径0.1～0.3m、深さ0.2～0.4m、主軸方位N65.0°W (N25.0°E)を測る。西辺柱間3間、検出長7.4m以上、柱間2.0～3.0m、柱穴径0.2～0.3m、深さ0.2～0.6m、主軸方位N26.0°Eを測る。

柱穴からは土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なくSAo07の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物からSBo24と類似した時期の横列と考えられる。

#### SAo08 (第188図)

F6区中央で検出したSBo22の西辺に並行に配された南北方向の柵列である。柱間5間、検出長6.2m以上、柱間1.0～1.2m、柱穴径約0.2m、深さ0.1～0.2m、主軸方位N20.0°Eを測る。

柱穴からは土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なくSAo08の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況や出土遺物からSBo22と同時期の柵列の可能性が高い。

#### SAo09 (第188図)

F6区西半部で検出した南北方向の柵列である。柱間6間、検出長6.6m、柱間0.8～1.0m、柱穴径0.1～0.2m、深さ約0.1m、主軸方位N21.0°Eを測る。

柱穴からは土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なくSAo09の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況から概ね中世後半の柵列と考えられる。

#### SAo10 (第188図)

F6区西端部で検出した、SBo25の西辺に並行に配された南北方向の柵列である。SBo26と重複するが、柱穴が切り合わないため前後関係については不明である。柱間3間以上、検出長6.0m以上、柱間1.4～2.6m、柱穴径0.2～0.4m、深さ0.2～0.3m、主軸方位N20.0°Eを測る。

柱穴からは土師器・須恵器等が少量出土した。出土遺物が少なくSAo10の詳細な時期判断には無理があるが、検出状況から概ね中世後半の柵列と考えられる。

#### 土坑跡

#### SKo13 (第189図)

F6区中央部の南壁際で検出した土坑である。南半部が調査区より外れるため北半部を検出した。北端はSDo37と接するが、切り合いまでには至らない。平面は楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。長径0.8m以上、短径約0.9m、深さ約0.1mを測る。埋土は灰褐色粘質土からなる。

埋土からは土師器小皿、須恵器杯片等の中世の遺物が出土しているため、SKo13は中世以降の時期が考えられる。

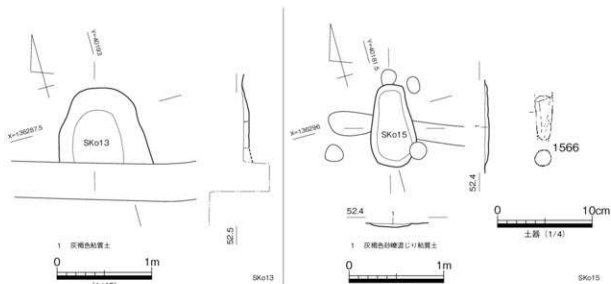
#### SKo15 (第189図)

F6区西半部で検出した土坑である。この土坑はSDo36の西端部分で重複し、SDo36を切り込んでいる。そのため、前後関係としてはSDo36より後出することが解る。平面は楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。長径0.9m、短径0.45m、深さ約0.05mを測る。埋土は灰褐色粘質土からなる。

埋土からは土師器片が極少量出土した。1566は土師器足釜脚部片である。出土遺物が少ないため詳細な時期判断には無理があるが、出土遺物からSKo15は中世以降の時期が考えられる。

#### SKo16 (第190図)

F6区西端部で検出した土坑である。この土坑はSBo25とSAo10の間に位置し、SBo25の側柱の柱穴SP01に切り込まれているため、前後関係としてはSKo16はSBo25より先行する。平面は長楕円形状を、断面は幅広いU字状を呈する。特徴的な点では東西の両端部に須恵器大甕と亀山焼大甕の体部～底部片



第189図 SKo13・15平・断面図、出土遺物

を掘えており、本来は上半部まで残存していたものが削平により失われた可能性があるが、何を意図したか性格不明の土坑である。長径約2.0m、短径約0.7m、深さ約0.35m、主軸方位はN230°Eを測る。

埋土からは土師器・須恵器・瓦質土器等が出土した。1567は土師器杯、1568は須恵器壺の口縁部片である。1569は須恵器大甕の体部片である。1570は亀山焼大甕の体部片である。外面には格子タタキが顕著である。

#### SKo17 (第191図)

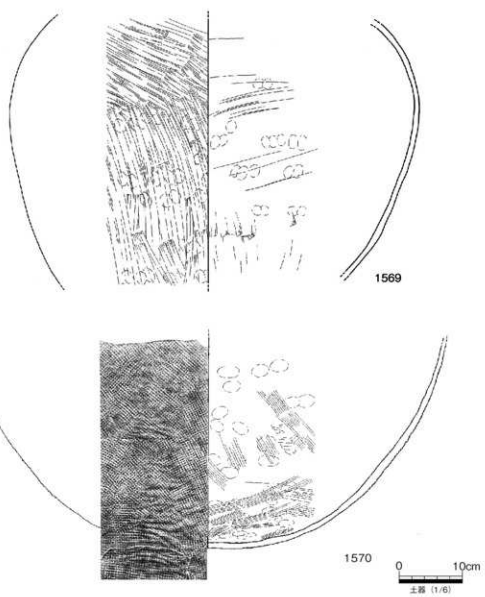
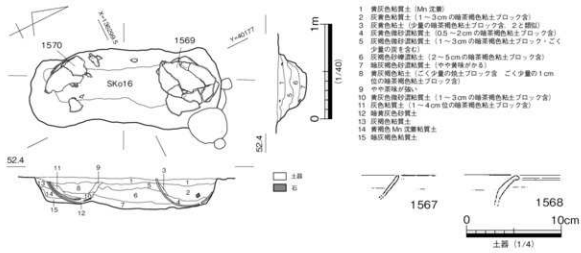
F6区東半部で検出した土坑である。この土坑はSBo20の南西隅柱にあたるSP02と重複し、SP02に切り込まれているため、前後関係としてはSBo20より先行することが解る。平面は楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。長径0.45m以上、短径0.25m、深さ約0.05mを測る。

埋土からは土師器杯が7個体ほど出土した。出土遺物や検出状況から推定して、SKo17は地鎮祭に係わる遺構の可能性が高い。1571～1577は15世紀前半頃の土師器杯である。出土遺物からSKo17は中世後半以降の地鎮土坑と考えられる。

#### SKo18 (第191図)

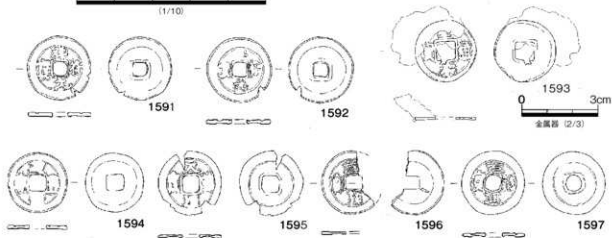
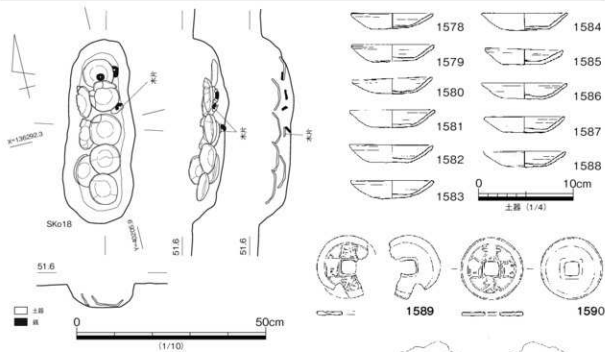
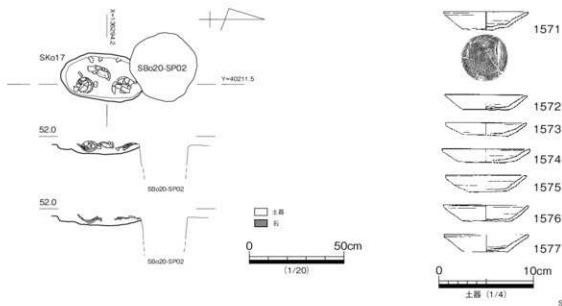
F6区東半部で検出した土坑である。この土坑はSBo21と重複するが柱穴と切り合わないため、前後関係は不明である。平面は長楕円形状、断面は浅い皿状を呈する。長径約0.5m、短径約0.18m、深さ約0.1mを測る。埋土からは土師器杯11個体を並べて配し、その杯に加え更に9点の銭貨を埋納しており、出土遺物や検出状況からSKo18は先述したSKo17同様、地鎮祭に係わる遺構の可能性が高い。

埋土からは1578～1597が出土した。1578～1588は14世紀後半～15世紀前半頃の土師器杯である。1589～1597は出土した中国銭である。1589は咸平元宝(998～1003年)、1590は景德元宝(1004～1007年)、1591・1592は祥符元宝(1008～1016年)、1593は皇宋通宝(1038～1040年)、1594～1596は元豊通宝(1078～1085年)、1597は元祐通宝(1086～1094年)である。銭貨と土器の年代観が合致しないが、土器の年代観からSKo18は中世後半以降の地鎮土坑と考えられる。

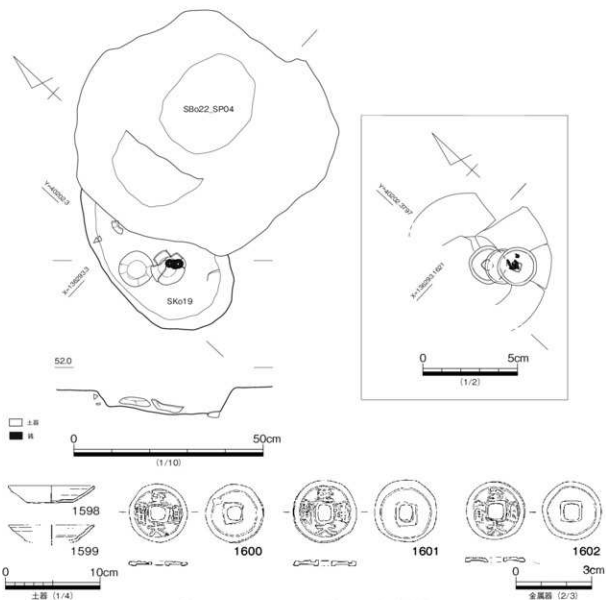


第190図 SKo16平・断面図, 出土遺物





第 191 図 Sko17・18 平・断面図, 出土遺物



第192図 SKo19平・断面図，出土遺物

### SKo19 (第192図)

F6区東半部中央で検出した土坑である。この土坑はSBo22の南側柱列のSP04と重複し、SP04に切り込まれているため、前後関係としてはSBo22より先行することが解る。平面は楕円形状を呈し、断面は幅広な逆台形状を呈する。長径0.5m以上、短径0.3m以上、深さ約0.07mを測る。埋土からは土師器杯が2個体出土し、1つの杯には銭貨3枚を重ねた状態で出土した。また、銭貨と杯との間には、5粒ほどの米粒が認められ、銭貨と一緒に供えられたものと考えられる。出土遺物や検出状況から推定して、SKo17は地鎮祭に係わる遺構の可能性が高い。

埋土からは1598～1602が出土した。1598・1599は14世紀末～15世紀前半頃の土師器杯である。1600～1602は出土した銭貨で、3点共に至大通宝(1310～1311年)である。遺物の出土状況からSKo19は中世後半以降の地鎮土坑と考えられる。

溝状遺構

SDo40 (第193図)

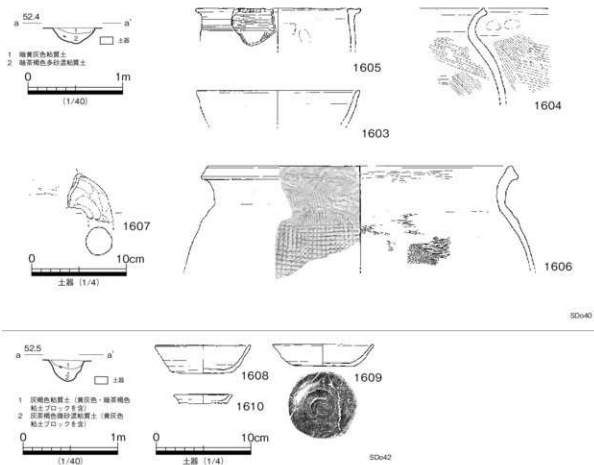
F6区西半部に直線状に配した南北方向の溝状遺構である。削平を受けて残りがかなり悪い溝跡である。SDo36と重複し、この溝跡を切り込んでおり、前後関係としてはSDo36より後出する。検出長約6.7m、幅約0.45m、深さ約0.15mを測る。断面は椀状を呈し、埋土上層は暗灰黄色粘質土、下層は暗茶褐色砂混じり粘質土からなる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器片が少量出土した。1605は弥生時代前期末～中期初頭の甕上半部である。1604は弥生時代後期後半の甕でこれらは混入品であろう。1603は須恵器の杯上半部、1606は瓦質の亀山焼の甕上半部で、体部外面には格子タタキが顕著に認められる。1607は土師器足釜片で、これらの遺物がSDo40の時期を示す遺物と考えられる。出土遺物からSDo40は中世前半以降の溝状遺構と考えられる。

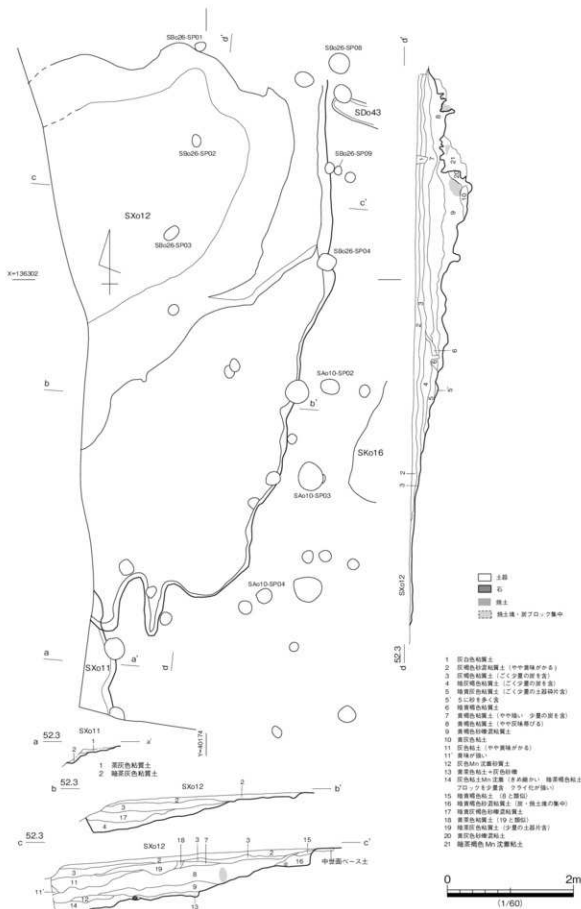
SDo42 (第193図)

F6区西半部のSDo36南に隣接する小さな溝状遺構である。SBo24と重複するが、柱穴と切り合っていないため検出状況からの前後は不明である。検出長約1.3m、幅約0.3m、深さ約0.2mを測る。断面は椀状を呈し、埋土上層は灰褐色粘質土、下層は灰茶褐色砂混じり粘質土からなる。

埋土からは土師器・須恵器片が少量出土した。1608・1609は14世紀前半頃の土師器杯で、1610は土師器小皿である。出土遺物からSDo42は中世前半以降の溝状遺構と考えられる。



第193図 SDo40・42平・断面図，出土遺物



第194図 SXo11・12平・断面図

不整形遺構

### SXo11 (第194・195図)

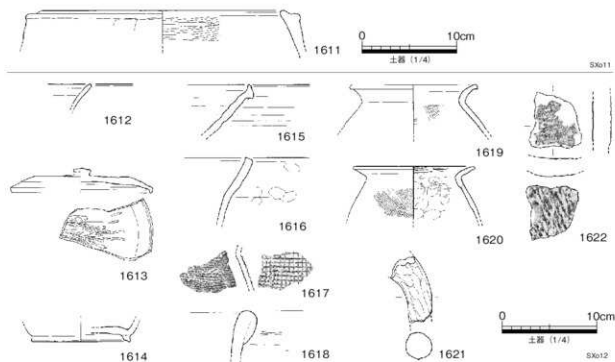
F6区西端部で検出したSXo12と重複する落ち込み状の遺構である。性格的にはSXo12同様、完新世段丘崖の縁に位置する遺構である。平面形状は凹凸のある不整形な楕円形状を呈し、段丘崖を斜めに挟んでいる。全体の中で極一部が調査区内で検出された。形状からSXo12同様、人為的な遺構とは考えられない。検出長約1.5m以上、幅約0.8m、深さ約0.4mを測る。断面は凹凸が著しい不整形な落ち込みを呈する。

埋土からは土師器・備前焼片等が少量出土した。1611は土師器鍋の口縁部片である。出土土器の状況からSXo11は中世後半以降の遺構と考えられる。

### SXo12 (第194・195図)

F6区西端部で検出した比較的大規模な落ち込み状の遺構である。完新世段丘崖の縁に位置する遺構である。平面形状は凹凸のある不整形な楕円形状を呈し、段丘崖を斜めに挟っており、形状から人為的な遺構とは考えられない。検出長約9.5m以上、幅約4.1m、深さ約0.8mを測る。断面は凹凸が著しい不整形な落ち込みを呈する。埋土は約20層に細分できる。

埋土からは弥生土器・土師器・須恵器・陶器・瓦質土器等が混在した状態で出土した。1619・1620は弥生時代後期後半の甕上半部、1613・1614は8世紀後半の須恵器蓋・杯でこれらは混入品であろう。この遺構の形成時期を示す遺物は、1615～1618・1621等の中世後半以降の土器である。



第195図 SXo11・12出土遺物

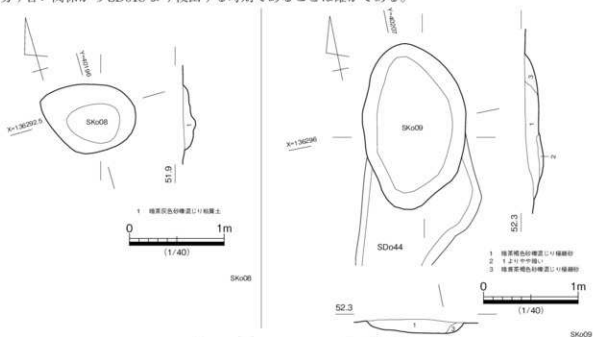
#### (4) 時期不明の遺構

##### SKo08 (第196図)

F6区中央部の第2遺構面上で検出した土坑である。平面は不整形形状、断面は凹凸のある不整形な形状を呈する。長径1.0m、短径0.7m、深さ約0.1mを測る。埋土は暗茶灰色砂礫混じり粘質土からなる。埋土からは遺物が出土していないため時期判断には無理がある。

##### SKo09 (第196図)

F6区中央部の第2遺構面上で検出した土坑である。この土坑はSDo18の先端部分で重複し、SDo18を切り込んでいるため、前後関係としてはSDo44より後出することが解る。平面は不整形楕円形状を呈、断面は浅い皿状を呈する。長径1.75m、短径1.1m、深さ約0.15mを測る。埋土は暗茶灰色礫混じり細砂が主体を占める。埋土からは遺物が出土していないため時期判断には無理があるが、SDo18との切り合い関係からSDo18より後出する時期であることは確かである。



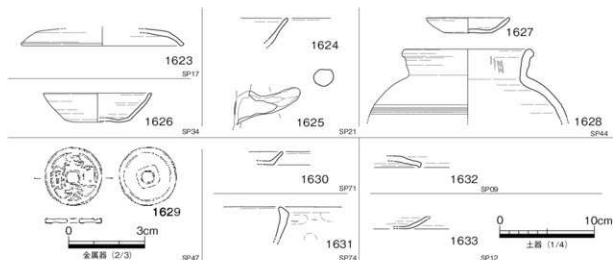
第196図 SKo08・09平・断面図

#### (5) 柱穴・包含層出土遺物 (第197～202図)

F7・E6・F6・B5区の主要な遺構・遺物については先に報告したが、次にその他の柱穴出土遺物及び包含層出土遺物を報告する。なお、包含層出土遺物中には機械掘削・遺構検出・側溝掘削時等に出土した、個別の遺構に区分できない遺物までを含めている。

1623～1633はF7・E6区の柱穴出土遺物である。1623・1632は須恵器杯蓋、1624・1626は須恵器杯、1625は把手付鉢の把手部と考えられる。1627・1633は土師器杯、1630は土師器小皿、1628は陶器壺の上半部である。なお、1629の銭貨は至大通宝(1310～1311年)である。

1634～1670はF6区の柱穴出土遺物である。1639・1640・1661・1667・1668は弥生土器の壺・甕・鉢等の土器である。1660は8世紀後半の須恵器杯、1634・1638・1641・1643・1644・1649・1652・1655・1656・1662～1666・1670は中世土師器杯、1635・1669は土師器小皿、1647・1659は土師器足釜の脚部である。1642はサヌカイトの二次加工ある剥片、1653は砥石である。



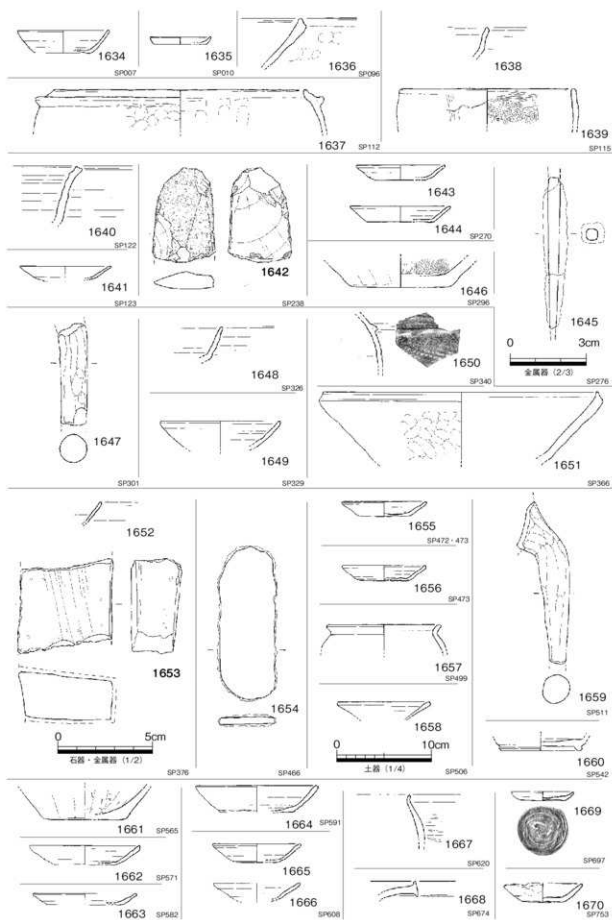
第197図 F7・E6区柱穴出土遺物

1671～1733はF7区の包含層出土遺物で、1671～1681は弥生時代後期後半新相頃の土器である。1671・1672は壺、1673・1674は甕、1675～1677は鉢、1679～1681は高杯である。1671の壺は下半部を欠く壺で、口頸部は外上方に開き、口縁端部は上方へ拡張し、口縁部外面には鋸歯文を巡らしている。1674は下半部を欠く甕で、口縁部は外上方に短く「ハ」字状に開き、体部外面には細いタキを施しており、この時期の特徴を良く表している。1683～1706・1715は古代の須恵器である。1683は7世紀初頭頃の杯、1684～1698は8世紀後半の蓋と杯である。1704・1705は皿、1715は鉄鉢である。1716～1721は椀で、1716・1717は黒色土器、1718は灰釉陶器、1719は緑釉陶器、1720・1721は白磁椀の口縁部と底部である。1729・1730は平瓦片である。1731～1733は石器である。1732は横断面から楔形石器に分類した。1733は端部にある敲打痕から大型の砂岩をもちいた敲石に分類した。1731は緑色片岩製の石器で、刃部を片側縁に刃部もつことから磨製石剣状の石器の可能性はある。

1734～1763はE6区の包含層出土遺物で、1734～1740は弥生時代後期後半新相頃の土器である。1734～1736は壺、1737～1739は甕、1740は高杯脚部である。1741～1749は須恵器杯である。1741は7世紀初頭、1742～1747は8～9世紀の蓋と杯である。1752～1755は椀の資料で、1752は土師器、1753・1754は黒色土器、1755は白磁椀の口縁部片である。1756・1757は須恵器甕の口縁部片である。1758・1759は土錘、1760は平瓦片である。1761はE6区の機械掘削の際に出土した陶印である。陶印は奈良時代から平安時代の地方豪族が役所の公印である銅印を模倣した一種の私印であり、県下でも事例はあるが希少な資料である。西末則周辺を拠点とする地方豪族を推測する上で重要な資料になる。四角錐状の形状を呈し方形の印面をもち、上半部には二条の貫通痕がある。印面には一文字で「大」と「十」が組み合わされた文字の線刻があり、この線刻は「奉」の略字もしくは「本」の可能性が考えられる(註2)。1762はサヌカイトの石鎌、1763は槍先状の形状であるが石核に分類した。

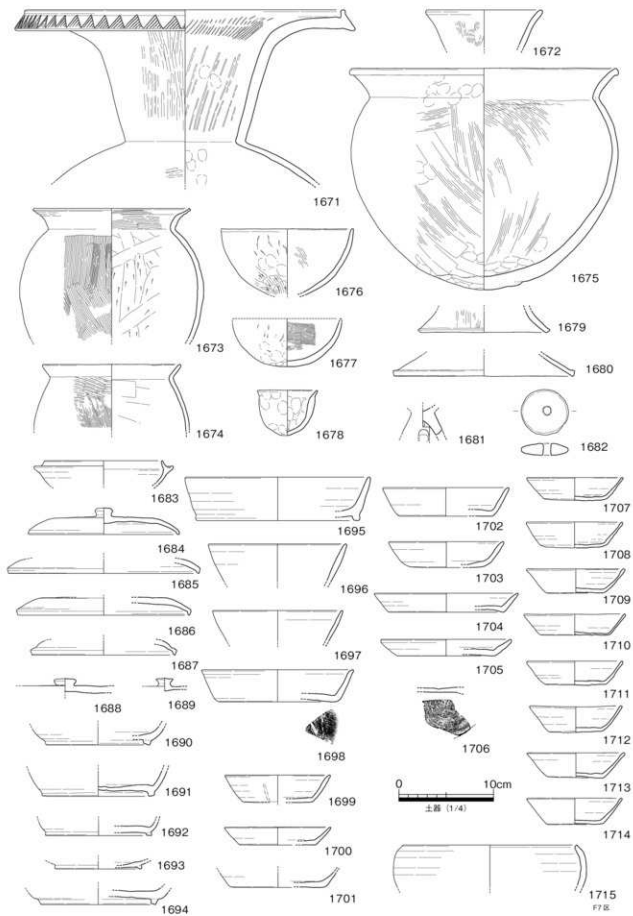
1764～1793はF6区の包含層出土遺物で、1764～1778は弥生後期後半の土器である。1764～1768は壺、1769～1775は甕、1776～1778は高杯である。1779～1783は8～9世紀頃の須恵器蓋・杯である。1789は須恵器高杯の脚部と杯部の接合部分にあたり、内面には「十」字の線刻が認められる。1790・1791はサヌカイトの石鎌、1792はサヌカイトの石庖丁片である。1793は磨減痕が顕著に認められるため磨石に分類した。

1794・1795はB5区の包含層出土遺物で、1794は弥生時代後期後半の口縁部と底部を欠く甕体部である。1795は平瓦片である。

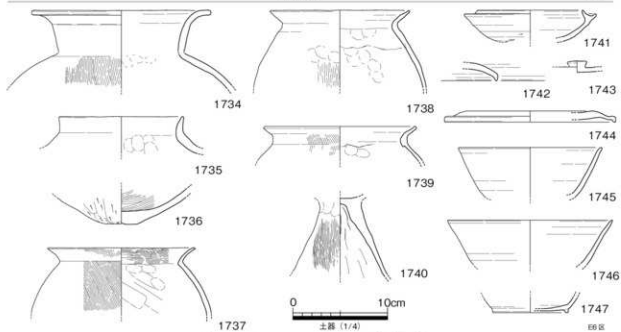
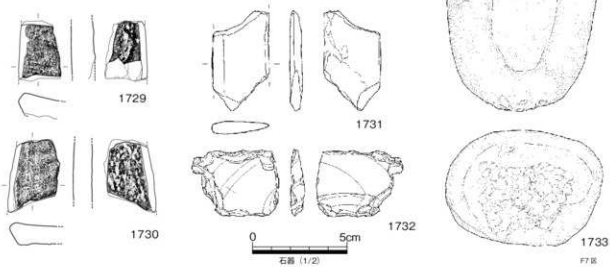
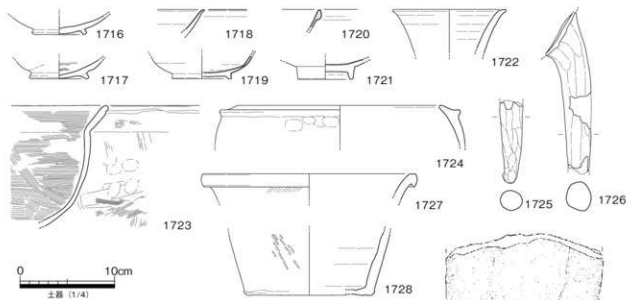


第 198 图 F6 区柱穴出土遺物

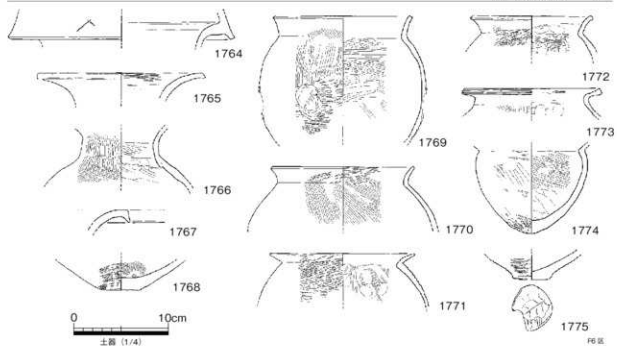
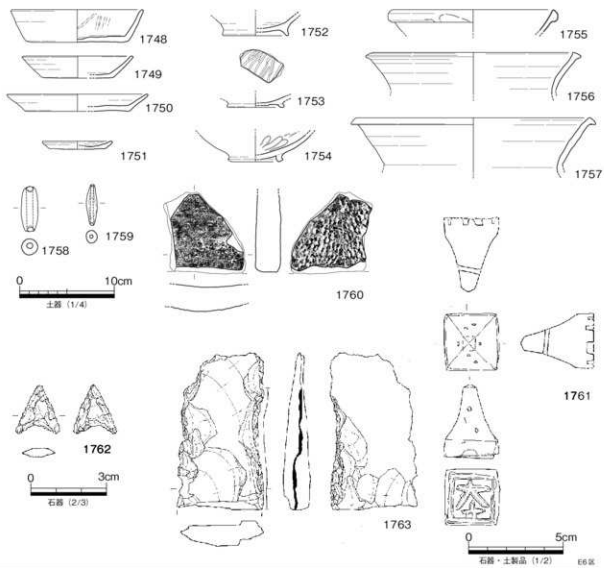




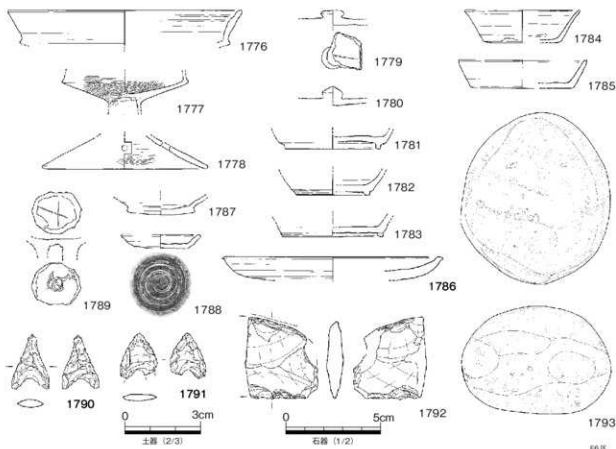
第 199 图 F7 区包含层出土遗物



第 200 图 F7·E6 区包含層出土遺物



第201图 E6・F6区包含層出土遺物



第 202 図 F6・B5 区包含層出土遺物

(補註)

1. 西村尋文 2005 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末開道跡Ⅰ』香川県教育委員会
- 小野秀幸 2014 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 西末開道跡Ⅳ』香川県教育委員会
2. 北山健一郎 2005 『西末開道跡 4. その他の成果』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』香川県教育委員会(参考文献)
- 田辺 昭三 1966 『陶器古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ
- 中世土器研究会 1995 『概説 中世土器・陶磁器』真福社
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2002 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末開道跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2003 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末開道跡』
- 香川県教育委員会 2005 『西末開道跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成15年度』
- 香川県教育委員会 2005 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末開道跡Ⅰ』
- 香川県教育委員会 2005 『西末開道跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』
- 香川県教育委員会 2006 『西末開道跡』『香川県埋蔵文化財センター年報 平成17年度』
- 香川県教育委員会 2007 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西末開道跡Ⅱ』
- 香川県教育委員会 2012 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 西末開道跡Ⅲ』
- 香川県教育委員会 2014 『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 西末開道跡Ⅳ』

第5表 西木剛遺跡V出土土器観察表(1)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		口径	器高	底径	その他	備考
						内周	外周	内部	石炭、石灰、白灰、向石	窯母	砂粒					
1	SD001	B16	弥生土器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR7/4に 5YR7/6に 5YR7/4に 5YR7/6に	10YR7/4に 5YR7/6に 5YR7/4に 5YR7/6に	中・多 中・多 中・多 中・多	中・多 中・多 中・多 中・多	6.0				6.8
2	SD001	B16	弥生土器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR7/4に 5YR7/6に 5YR7/4に 5YR7/6に	10YR7/4に 5YR7/6に 5YR7/4に 5YR7/6に	中・多 中・多 中・多 中・多	中・多 中・多 中・多 中・多	9.6				3.8
3	SD001	B17	弥生土器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR7/3に 5YR6/6に 10YR7/3に 5YR6/6に	10YR7/3に 5YR6/6に 10YR7/3に 5YR6/6に	中・多 中・多 中・多 中・多	中・多 中・多 中・多 中・多	(7.2)				1.8
4	SD001	B16	弥生土器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR7/3に 5YR6/6に 10YR7/3に 5YR6/6に	10YR7/3に 5YR6/6に 10YR7/3に 5YR6/6に	中・多 中・多 中・多 中・多	中・多 中・多 中・多 中・多	(16.8)				1.8
5	SD001	B16	弥生土器	高杯	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR6/8に N5/灰 10YR6/1に N6/灰	10YR6/8に N5/灰 10YR6/1に N6/灰	中・多 中・多 中・多 中・多	中・多 中・多 中・多 中・多	19.0	14.6	(12.4)		6.8
8	SD001	B17	須恵器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	N6/灰 10YR6/1に N6/灰	N6/灰 10YR6/1に N6/灰	中・多 中・多 中・多	中・多 中・多 中・多	(14.4)				1.8
9	SD001	B17	須恵器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	N6/灰 10YR6/1に N6/灰	N6/灰 10YR6/1に N6/灰	中・多 中・多 中・多	中・多 中・多 中・多	(14.8)				2.8
10	SD001	B17	須恵器	杯	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	N7/灰 7.5YR6/6に マメ	N7/灰 7.5YR6/6に マメ	中・多 中・多 中・多	中・多 中・多 中・多	(13.4)				1.8
12	SH001	B17	弥生土器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	7.5YR6/8に N7/灰	7.5YR6/8に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(17.8)				1.8
13	SH001	B17	弥生土器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR6/6に N5/灰	10YR6/6に N5/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	14.0	4.5			4.8
14	SH001	B17	須恵器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	5Y6/1灰 N6/灰	5Y6/1灰 N6/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(10.1)				2.8
15	SH001	B17	須恵器	杯	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	N7/灰 N6/灰	N7/灰 N6/灰	中・多 中・多	中・多 中・多					5.8
16	SH001	B17	須恵器	杯	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR7/3に N7/灰	10YR7/3に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(20.0)				1.8
17	SH001	B17	土師器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	2.5YR3/3に N7/灰	2.5YR3/3に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	13.2	4.1			破片
18	SH001	B17	土師器	把手	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR7/3に N7/灰	10YR7/3に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(28.0)	27.5			4.8
19	SD002	B17	須恵器	杯	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	N8/灰 10YR6/3に N7/灰	N8/灰 10YR6/3に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	13.6	4.1			4.8
20	SD002	B17	土師器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR6/3に N6/灰	10YR6/3に N6/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(29.4)				1.8
21	SH002	B16	須恵器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR7/3に N6/灰	10YR7/3に N6/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(19.6)				1.8
22	SH002	B16	土師器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR7/3に N6/灰	10YR7/3に N6/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(13.6)				1.8
23	SH002	B16	土師器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	7.5YR8/1に N6/灰	7.5YR8/1に N6/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	18.2	3.2	15.2		8.8
24	SH002	B16	須恵器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	7.5YR8/1に N7/灰	7.5YR8/1に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	18.2	3.2	15.2		4.8
25	SE002/SP01	B17	須恵器	皿	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	5F6/1に N7/灰	5F6/1に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(11.6)	3.8	(8.4)		1.8
26	SE002/SP01	B17	須恵器	皿	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	2.5YR3/3に N7/灰	2.5YR3/3に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(10.0)	5.0	(10.0)		2.8
27	SE002/SP02	B17	須恵器	杯	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	2.5YR3/3に N7/灰	2.5YR3/3に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	6.0	9.9			2.8
28	SE002/SP03	B17	土師器	杯	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	2.5YR3/3に N7/灰	2.5YR3/3に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(17.8)				2.8
29	SE002/SP03	B17	土師器	皿	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR8/4に N7/灰	10YR8/4に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(13.8)				破片
30	SE002/SP04	B17	土師器	皿	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR8/4に N7/灰	10YR8/4に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(17.8)				破片
31	SE002/SP04	B17	土師器	皿	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	10YR8/4に N7/灰	10YR8/4に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多	(17.8)				破片
32	SE002/SP04	B17	須恵器	蓋	ツギハケ ツグハケ ヘラ刷り	ナブ 指ナブ 指ナブ	ナブ 指ナブ 指ナブ	2.5Y7/1に N7/灰	2.5Y7/1に N7/灰	中・多 中・多	中・多 中・多					破片

第5表 西木剛遺跡V出土器観表(2)

第1分冊

器文番号	報告遺跡名	地区名	器位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量(cm)		備考
						外国	内国	外部	内部	石灰・雲白	赤色粒・内四石	口径	器高	
33	SE602-SP04	B17	須臾器	杯	同転ナデ	同転ナデ	50G6/1青灰	50Y7/1明ナリ青灰			細・少	(13g)	1/8	
34	SE602-SP04	B17	須臾器	杯	同転ナデ	同転ナデ	5Y6/1灰	5Y6/1灰			細・少	(15.2)	1/8	
35	SE602-SP04	B17	土師器	葉	ヨコナデ ハテ	ナデ	10YR7/4にふい青殻	7.5YR6/6靑			中・多	(21g)	1/8	
36	SE602-SP05	B17	須臾器	杯	同転ナデ	同転ナデ	5Y6/1灰	N8/灰白			細・少	(15g)	1/8	
37	SD002-SP002	B17	土師器	把手	指オサエ ナデ	指オサエ ナデ	2.5YR.3赤黄	2.5YR.4赤黄			中・多		8/8	
38	SE602-SP11	B17	須臾器	杯	同転ナデ	同転ナデ	5Y6/1灰	N5/灰			中・少	(9.2)	4/8	
39	SE602-SP17	B17	須臾器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N5/灰			細・少	(11g)	1/8	
40	SE602-SP17	B17	土師器	葉	ヨコナデ ハテ	ヨコナデ ナデ	7.5YR6/6靑	10YR2.2灰黄靑			中・多	(17.4)	1/8	
41	SE602-SP18	B17	須臾器	葉	同転ナデ	同転ナデ	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白			細・少		2/8	
42	SD004	B17	須臾器	葉	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰			中・少	(11)	2/8	
43	SD004	B17	土師器	葉	ヨコナデ 指オ	ヨコナデ ハテ	10YR7/4にふい青殻	10YR6.3にふい青殻			中・多	(20g)	3/8	
44	SD004	B17	土師器	葉	ヨコナデ 瓶ナ	ヨコナデ ナデ	10YR7/4にふい青殻	10YR6.3にふい青殻			中・多	(34g)	1/8	
45	SE602-SP10	B17	須臾器	杯	同転ナデ	同転ナデ	10G65/1青灰	10G67/1明青灰			細・少	(14g)	1/8	
46	SE602-SP09	B17	須臾器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N7/灰白	N8/灰白			細・少	長さ 4.2	8/8	
47	SE604	B16	須臾器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N6/灰			細・少		破片	
48	SE604-SP04	B16	須臾器	高杯	同転ナデ	同転ナデ	N8/灰白	N6/灰			細・少		3/8	下山津B 類
50	SE606-SP02	B16	須臾器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰			細・少		破片	
51	SE606-SP04	B16	須臾器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰			細・少		破片	
52	SE606-SP07	B16	土師器	葉	ハテ(マヌフ)	マヌフ	2.5Y7.2灰黄	10YR7/3にふい青殻			中・多	(29.4)	1/8	
53	SE606-SP07	B16	須臾器	葉	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰			中・少		破片	焼成不良
54	SP001	B17	須臾器	杯	同転ナデ	同転ナデ	5B65/1青灰	5B66/1青灰			細・少	(4.6)	1/8	
55	SD006	B16	下層	須臾器	杯	同転ナデ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白			細・少		破片	
56	SD006	B16	下層	須臾器	杯	同転ナデ	N5/灰	7.5Y3.1灰			細・少	(12.8)	1/8	
57	SD006	B16	下層	須臾器	葉	同転ナデ高付粘 付	N5/灰	N8/灰白			中・少	(6.2)	2/8	
58	SD006	B17	下層	須臾器	把手	指オサエ ナデ	N6/灰	N6/灰			細・少	(16g)	1/8	
59	SD006	B16	下層	土師器	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白			中・多		8/8	
64	SD006	B16	上層	須臾器	蓋	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白			中・少	(12g)	4/8	
65	SD006	B16	上層	須臾器	蓋	同転ナデ	2.5YR.1灰白	2.5YR.2灰白			細・少	(12g)	2/8	焼成不良

第5表 西木剛遺跡V出土器観表(3)

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量(cm)		備考
						外周	内周	外部	内部	石炭、灰白	赤色粒、向四石	砂粒	口径	
66	SD066	B17	上層	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N6/灰			細・少	(15.5)	1/8
67	SD066	B17	上層	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N8/灰白	N8/灰白			細・少	(18.6)	2/8
68	SD066	B17	上層	須恵器	盃	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰			中・少		4/8
69	SD066	B17	上層	須恵器	盃	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N5/灰			細・少	(20.4)	3/8
70	SD066	B17	上層	土師器	把手ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3黄赤橙	10YR8.3黄赤橙			中・多		8/8
72	SD066	B17	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3黄赤橙	2.5YR6.8橙	2.5YR6.8橙			中・少	(20.2)	1/8
73	SD066	B17	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	7.5Y7.1灰白	7.5Y7.1灰白	N8/灰白			細・少	3.3	4/8
74	SD066	B16	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N7/灰白	N7/灰白			中・少	3.3	1.49
75	SD066	B17	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N7/灰白	2.5GY7.1明青リ	2.5GY7.1明青リ			細・少	4.2	2/8
76	SD066	B17	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	10B6.5/1黄灰	10B6.5/1明青灰	10B6.5/1明青灰			中・少	(11.4)	(15)
77	SD066	B17	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N6/灰	N7/灰白			細・少	(14.5)	2/8
78	SD066	B16	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N6/灰	N7/灰白			細・少	(13.2)	8/8
79	SD066	B17	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N7/灰白	N7/灰白			細・少		破片
80	SD066	B17	須恵器	杯	同転ナデ	高台ナデ	ナデ	7.5Y8.1灰白	7.5Y8.1灰白			細・少	(10.4)	
81	SD066	B16	須恵器	皿	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白			中・少	(15.9)	4/8
82	SD066	B17	須恵器	盃	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	5Y7.1灰白	5Y6.1灰			中・少	9.8	3/8
83	SD066	B17	須恵器	盃	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	5Y7.1灰白	5Y6.1灰			中・少	(6.6)	1/8
84	SD066	B17	土師器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白			中・多	(26.0)	1/8
85	SD066	B16	土師器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	2.5Y6.2黄	10YR8.4にぶい黄橙	10YR8.4にぶい黄橙			中・多	(20.4)	1/8
86	SD067	B16	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR7.4にぶい黄橙	10YR7.4にぶい黄橙			中・多	14.0	8/8
87	SD067	B16	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	10B6.7/1明青灰	10B6.7/1明青灰			細・少	(14.0)	1/8
88	SD068	B16	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	5Y7.1灰白	2.5Y7.3黄	2.5Y7.3黄			細・少		破片
89	SD068	B16	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	5B6.1青灰	5B7.1明青灰	5B7.1明青灰			細・少	(12.8)	1/8
89	SD068	B16	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	10G7.1明緑灰	5G7.1明青リ	5G7.1明青リ			細・少	(12.8)	1/8
90	SD068	B16	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N4/灰	N4/灰	N4/灰			細・少	(9.9)	1/8
91	SD068	B16	土師器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	ハケ	5Y6.5/1にぶい赤橙	7.5Y6.5/1にぶい黄			中・多	(18.9)	1/8
92	SD067	B16	須恵器	盃	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	N6/灰			細・少	(7.7)	2/8

第5表 西木剛遺跡V出土器観表(4)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量(cm)			備考		
						外周	内周	外部	内部	石灰・灰白	赤色胚	向四石	雲母	砂粒		口径	器高
93	SD069	B17	須恵器	杯	同転ナテ ヘラ切り後ナテ 高付船付	同転ナテ	N7/灰白	M6/灰				細・少	12.8	4.3	10.0	2.8	
94	SD069	B17	須恵器	高杯	同転ナテ ヘラ切り後ナテ	同転ナテ	5YR7.3に赤い層	5YR5.1緑灰				細・少				7.8	壊成不良
95	SD068	B17	須恵器	杯	同転ナテ ヘラ切り後ナテ	同転ナテ	N8/灰白	N8/灰白				細・少	19.6	3.1	16.8	1.8	壊成不良
96	SD017	B17	須恵器	壺	同転ナテ	同転ナテ ナテ	N8/灰白	N6/灰				細・少			6.2	3.8	
99	SX001	B17	須恵器	壺	同転ナテ	同転ナテ	N4/灰	N5/灰				中・少	14.2			1.8	
100	SX001	B17	須恵器	杯	同転ナテ ヘラ切り後ナテ 高付	同転ナテ	10R65.1青灰	2.5Y7.6(1)青リーズ				中・少	12.8	3.9	6.0	3.8	
101	SX001	B17	須恵器	杯	同転ナテ ヘラ切り後ナテ	同転ナテ	N5/灰	N5/灰				細・少	13.5	4.0	10.0	2.8	
102	SX001	B17	土師器	壺	ヨコナテ 高付船付	ヨコナテ	7.5YR4.4黒	7.5YR6.6橙				中・多					破片
103	SX001	B17	土師器	杯	ヨコナテ ハケナテ	ハケ ハケ後ナテ	2.5Y7.4黄	5YR5.6明緑				中・多	69.4			1.8	
104	SK001	D15b	土師器	高杯	ナテ	ナテ	5Y8.1灰白	5Y8.1灰白				細・少					破片
105	SK001	D15b	須恵器	壺	同転ナテ	同転ナテ	N7/灰白	7.5Y6.1灰				細・少	19.2			1.8	
107	SD010	B16	須恵器	壺	同転ナテ	同転ナテ	N5/灰	N5/灰				細・少	16.4			1.8	
108	SD010	B16	須恵器	杯	同転ナテ	同転ナテ	5B15.1赤灰	N7/灰白				細・少	12.8			1.8	
109	SD010&27	B16	土師器	杯	ナテ 板状瓦直	ナテ	10YR8.4黄黄	10YR8.4黄黄				中・少	11.1	2.4	6.5	1.8	
110	SD010	B16	土師器	杯	同転ナテ	同転ナテ	7.5YR8.4黄黄	7.5YR8.4黄黄				中・少	12.4	2.6	7.8	1.8	
111	SD011	B16	土師器	足蓋	指ナテ 高付	同転ナテ	2.5Y7.3黄					中・多				8.8	
112	SD011	B16	土師器	小皿	同転ナテ	同転ナテ	10YR8.3黄黄	10YR8.3黄黄				細・少	7.0			1.8	
113	SD011	B16	土師器	足蓋	指ナテ 高付	指ナテ 高付	2.5YR6.6橙	7.5YR5.2灰黒				中・多	22.8			1.8	
114	SD011	B16	土師器	足蓋	指ナテ 高付	指ナテ 高付	10YR5.2灰黄					中・多				8.8	
115	SD011	B16	亀山焼	壺	マメフ	マメフ	2.5Y8.1灰白					中・少	17.6			1.8	
116	SD022	B16	須恵器	壺	同転ナテ	同転ナテ	N7/灰白	N7/灰白				細・少	10.0			1.8	
117	SD022	B16	須恵器	壺	同転ナテ	同転ナテ	7.5Y5.1灰	7.5Y5.1灰				細・少	23.4			1.8	
118	SD025	B16	土師器	小皿	同転ナテ ヘラ切り	同転ナテ	10YR8.4黄黄	10YR8.4黄黄				細・少	5.4			2.8	
119	SD024	B16	土師器	小皿	ナテ ヘラ切り	ナテ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白				中・少	6.8	1.0	4.8	3.8	
120	SD024	B16	土師器	椀	ナテ 高付船付	マメフ	5Y8.2灰白	5Y8.2灰白				中・少			4.8	2.8	
121	SD027	B16	須恵器	椀	同転ナテ	同転ナテ ナテ	N8/灰白	N8/灰白				細・少	14.0			1.8	壊成不良
122	SD029	D15b	須恵器	壺	同転ナテ ヘラ切り	同転ナテ	5B6.1青灰	5B6.1青灰				中・少	16.8			1.8	
123	SD029	D15b	須恵器	杯	同転ナテ 高付	同転ナテ ナテ	5P6.1青灰	5P6.1青灰				中・少			6.2	2.8	





第5表 西木則遺跡V出土器観表(6)

第1分冊

器文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査	内蔵	外部	色調	内部	石炭、灰白	赤色粒	向四石	雲母	砂粒	口径	器高	底径	その他	備考	
155	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	N7/灰白	2.5GY6.1オリーブ 灰						細・少	11.4	4.2	8.4		1.8	
156	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	N6/灰		N7/灰白					細・少	12.7	4.3	9.6		2.8	
157	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	10Y4.1灰		N8/灰白					細・少	13.0	4.1	9.6		3.8	
158	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	N5/灰		N6/灰					細・少	13.4	5.3	9.0		2.8	
159	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	2.5GY5.1オリーブ 灰		2.5GY6.1オリーブ 灰					中・少	14.2	4.0	9.4		3.8	
160	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	7.5Y8.1灰白		7.5Y8.1灰白					中・少	14.8	4.5	11.2		3.8 焼成不良	
161	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	N7/灰白		N7/灰白					中・少	17.9	6.6	12.6		6.8	
162	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	5Y8.2灰白		5Y8.1灰白		中・少						10.0			6.8 焼成不良
163	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	N6/灰		N7/灰白					細・少	10.8	3.5	8.2		3.8	
164	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	N7/灰白		N7/灰白					細・少	13.8	3.8	6.1		2.8	
165	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	10Y6.1灰		10Y6.1灰					細・少	18.8	3.2	15.6		2.8	
166	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	7.5Y5.1灰		N7/灰白					細・少	19.8				1.8	
167	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	5Y8.2灰白		5Y8.1灰白		中・少	中・量			19.8	7.0	12.4		3.8	
168	包含層①	B17		須臾器	杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	5B5.1青灰		5B5.1青灰					中・少			6.0		3.8 *3記号	
169	包含層①	B17		須臾器	皿	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	N7/灰白		N6/灰						20.6	2.5	16.4		1.8 焼成不良	
170	包含層①	B17		須臾器	高杯	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	5Y7.1灰白		N8/灰白					細・少			12.4		1.8	
171	包含層①	B17		土師器	裏	ヨコナテ ハテ	ヨコナテ ハテ	5Y8.6青		7.5Y8.7.4にぶい青 10Y8.7.4にぶい青				中・多	25.4					1.8	
172	包含層①	B17		土師器	裏	ヨコナテ ハテ	ヨコナテ ハテ	10Y8.7.4にぶい青		10Y8.7.4にぶい青					中・多	24.4				1.8	
178	包含層②	B16		須臾器	蓋	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	10Y8.5.1黒灰		N8/灰白					細・少	14.4				2.8 破片	
179	包含層②	B17		須臾器	蓋	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	N6/灰		N7/灰白					中・少					1.8	
180	包含層②	B17		須臾器	蓋	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	5P6.1青灰		5P8.7.1黒青灰					細・少	13.8	2.7			1.8	
181	包含層②	B17		須臾器	蓋	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	7.5Y7.1灰白		N6/灰					細・少	12.8				2.8	
182	包含層②	B17		須臾器	蓋	同転ナブ 高付	同転ナブ 高付	10Y5.1灰		10Y6.1灰					細・少					2.8 *3記号	

第5表 西木副遺跡V出土器観表(7)

第1分冊

器名 番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量 (cm)			備考	
						外国	内国	外部	内部	石灰・ 雲石	赤色胚	向四石	雲母	砂粒		口径
183	包含層C2	B16		須臾器	杯	回転ナア ヘラ切り後ナア	回転ナア ナア	N7/灰白	N6/灰			細・少	(12.3)	3.5	(9.0)	3.8
184	包含層C2	B17		須臾器	杯	回転ナア ヘラ切り 高台	回転ナア ナア	5Y8.1灰白	5Y8.1灰白	中・並			(13.7)	4.7	(9.6)	1.8 焼成不良
185	包含層C2	B16		須臾器	杯	回転ナア ヘラ切り 高台	回転ナア ナア	N7/灰白	N8/灰白			細・少	(17.0)	5.9	(10.8)	2.8
186	包含層C2	B16		須臾器	皿	回転ナア ヘラ切り後ナア	回転ナア ナア	N7/灰白	N7/灰白			中・少	(18.6)	2.2		2.8
187	包含層C2	B17		須臾器	杯	回転ナア ヘラ切り 高台	回転ナア ナア	N8/灰白	N8/灰白			細・少	(18.9)	3.5	(16.0)	2.8
188	包含層C2	B16		須臾器	杯	回転ナア ヘラ切り 高台	回転ナア ナア	N6/灰	N6/灰			細・少	(19.8)	3.0		1.8
189	包含層C2	B17		土師器	甕	ヨコナア ハケ	ハケ	10Y8.4浅黄緑	10Y8.4浅黄緑			中・並	(23.6)			1.8
190	包含層C2	B17		須臾器	甕	回転ナア	回転ナア	N7/灰白	N7/灰白			中・少	(20.0)			1.8
191	包含層C2	B17		須臾器	甕	回転ナア	回転ナア	N6/灰	N7/灰白			中・少	(22.4)			1.8
192	包含層C2	B16		須臾器	甕	回転ナア	回転ナア	N6/灰	N6/灰			細・少				破片
197	包含層C2	B17		須臾器	杯	回転ナア ヘラ切り後ナア 高台	回転ナア ナア	7.5Y7.1灰白	N6/灰			中・少	(13.2)	4.2	(8.9)	2.8
198	包含層C2	B17		須臾器	杯	回転ナア ヘラ切り 高台	回転ナア ナア	N7/灰白	N7/灰白			細・少	(17.3)	5.7	(12.1)	1.8
199	包含層C2	B16		須臾器	甕	回転ナア カキ 後洗滌文 洗 焼入文 カキ目 洗滌文 洗滌文 洗滌文 洗滌文 洗滌文	回転ナア 普海 灰文	N4/灰	7.5Y5.1灰			中・少	(41.8)			1.8
200	包含層C2	B16		亀山焼	甕	マメフ タテ目	マメフ 当て目 灰	10Y8.1黒灰	10Y8.2灰表面			中・少	(8.6)			1.8
203	遺構検出	B17		須臾器	甕	回転ナア	回転ナア ヘラ 高台	10Y6.1灰	3B/G.1青灰			細・少				1.8
204	遺構検出	C17		須臾器	杯	回転ナア ヘラ 高台	回転ナア ナア	N6/灰	N6/灰			細・少	10.9	3.7	7.2	5.8
205	遺構検出	B17		須臾器	杯	回転ナア ヘラ 高台	回転ナア ナア	N6/灰	5Y8.1灰白			中・少			(6.6)	3.8
206	遺構検出	B17		須臾器	杯	回転ナア ヘラ 高台	回転ナア ナア	N5/灰	N5/灰			中・少			13.2	3.8 ※記号
207	遺構検出	D15a		須臾器	甕	回転ナア ヘラ 高台	回転ナア ナア	N7/灰白	N7/灰白			中・少			2.5	8.8
208	遺構検出	B16		須臾器	甕	回転ナア ナア	回転ナア ナア	N6/灰	N6/灰			細・少	(20.8)			2.8
209	遺構検出	C17		土師器	土糠ナア	回転ナア ナア	回転ナア ナア	5Y8.6赤	-			細・少	長1.9	幅0.7	厚0.6	8.8
226	SDa01	C13		土師器	甕	回転ナア ナア	回転ナア ナア	7.5Y8.5/4に赤い帯	10Y8.6/4に赤い帯	細・並		(17.7)				1.8

第5表 西木剛遺跡V出土器物観察表(8)

第1分冊

報告 番号	遺物 番号	地区名	層位	種類	器種	数量	内面	外面	色調	胎土	胎石	胎母	砂粒	口径	器高	底径	その他	備考
227	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	2	ココナテ・凹線 2条	7.5YR5.4に ハケ	7.5YR5.4に ハケ	内部	石炭・ 石灰	向四石	中・少	—	—	—	—	破片
228	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	7.5YR 5.4に ハケ	7.5YR 5.4に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
229	SDe01	C13	下層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	10YR6.3に ハケ	10YR6.3に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
230	SDe01	C13	下層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	10YR5.4に ハケ	10YR5.4に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
231	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	5YR6.6に ハケ	5YR6.6に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
232	SDe01	C13	下層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	10YR3.1に ハケ	10YR3.1に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
233	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	5YR5.6に ハケ	5YR5.6に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
234	SDe01	C13	下層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	10YR5.3に ハケ	10YR5.3に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
235	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	10YR2.1に ハケ	10YR2.1に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
236	SDe01	C13	下層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	10YR5.4に ハケ	10YR5.4に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
237	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	7.5YR6.6に ハケ	7.5YR6.6に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
238	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	5Y7.1に ハケ	5Y7.1に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
239	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	N5/ 灰	N5/ 灰	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
240	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	N6/ 灰	N6/ 灰	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
241	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	5Y6.1に ハケ	5Y6.1に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
242	SDe01	C13	上層 (原形)	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	N6/ 灰	N7/ 灰	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
252	SDe02	C13	上・ 下層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	7.5YR5.6に ハケ	7.5YR5.6に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
256	SDe04	C13	上層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	2.5Y7.3に ハケ	2.5Y7.3に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
257	SDe04	C13	上層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	2.5Y3.1に ハケ	2.5Y3.1に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
262	SDe04	C13	上層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	7.5YR7.4に ハケ	7.5YR7.4に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
268	SDe06	C13	上層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	N7/ 灰	N6/ 灰	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
269	SDe06	C13	上層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	7.5YR1.1に ハケ	7.5YR1.1に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
264	SDe06	C13	上層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	N7/ 灰	N7/ 灰	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
265	SDe06	C13	上層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	7.5YR2.1に ハケ	7.5YR2.1に ハケ	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
266	SDe06	C13	上層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	N5/ 灰	N6/ 灰	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
271	SDe01	C13	上層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	N7/ 灰	N7/ 灰	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片
272	SDe01	C13	上層	須恵器	ココナテ	1	ココナテ	N6/ 灰	N6/ 灰	内部	中・少	—	—	—	—	—	—	破片



第5表 西木剛遺跡V出土土器観察表 (10)

第1分冊

報告書番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	外周	内周	色調	胎土	口径	高さ	底径	その他	備考
318	SPX3	D12	土器器	杯	回転ナア 回転ナア ヘラ ヘラ	回転ナア	回転ナア	10YR8/3浅黄橙	中・少	(7.0)	11	(5.0)	—	4/8
319	SPX3	D12	土器器	杯	回転ナア 回転ナア ヘラ 切刃後ナア	回転ナア	回転ナア	10YR8/3浅黄橙	中・少	—	—	—	—	破片
320	包含層	C13	青磁	碗	施釉	施釉	施釉	胎: 10YR7/2灰白 胎: 2.5Y7/1灰白	無	17.0	—	—	—	破片
321	包含層	C13	青磁	碗	施釉	施釉	施釉	胎: 2.5Y6/3オリーブ 胎: 7.5Y5/3灰オリーブ	無	—	—	—	—	2/8
322	包含層	C13	白磁	碗	施釉	施釉	施釉	胎: 5Y7/1灰白 胎: 5Y8/1灰白	細・少	(16.1)	—	—	—	1/8
323	包含層	C13	白磁	碗	施釉	施釉	施釉	胎: 5Y8/1灰白 胎: 5Y8/1灰白	細・少	—	—	(7.0)	—	1/8
324	包含層	C13	白磁	碗	高台脚り出し 露胎	施釉	施釉	N7/灰白	細・並	(16.4)	1.8	(13.4)	—	1/8
329	包含層	D15a	須恵器	皿	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	N6/灰白	細・少	—	—	(6.8)	—	3/8
330	包含層	D15a	須恵器	杯	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	N6/灰	細・少	—	—	(6.8)	—	1/8
331	包含層	D15a	須恵器	碗	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	5Y9/6/1青灰	細・少	—	—	(6.8)	—	1/8
334	包含層	D12	須恵器	蓋	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	10YR7/4に赤い黄橙	中・多	—	—	6.7	—	6/8
335	包含層	D12	須恵器	蓋	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	N6/灰	細・少	—	—	—	—	破片
336	包含層	D12	須恵器	杯	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	N5/灰	細・多	—	—	(6.6)	—	2/8
337	包含層	D12	須恵器	杯	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	N6/灰	細・多	—	—	(7.4)	—	2/8
338	包含層	D12	須恵器	杯	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	N6/灰	細・少	—	—	—	—	1/8
339	包含層	D12	須恵器	蓋	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	N6/灰	細・少	—	—	(12.7)	—	1/8
353	SDa20	E14	須恵器	蓋	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	7.5YR5/6明褐	中・並	中・少	—	—	—	破片
357	SDa29	F12	土器器	杯	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	10YR7/3に赤い黄橙	細・少	(10.2)	2.4	(5.2)	—	2/8
358	SDa29	F12	土器器	杯	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	7.5YR7/4に赤い黄橙	中・並	(9.8)	1.9	(5.4)	—	2/8
359	SDa29	F12	土器器	杯	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	10YR8/4浅黄橙	細・並	(9.6)	1.8	(6.3)	—	3/8
360	SDa29	F12	土器器	杯	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	10YR8/2灰黄褐	中・少	(8.6)	1.5	(5.0)	—	2/8
361	SDa29	F12	土器器	足高 オコナ	回転ナア 回転ナア オコナ	回転ナア	回転ナア	10YR8/2灰白	中・並	—	—	—	—	破片
362	SDa29	F12	須生土器	蓋	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	7.5YR6/4に赤い黄橙	中・並	(19.6)	—	—	—	1/8
363	SDa29	F12	須生土器	蓋	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	2.5Y5/1灰灰	細・並	—	—	5.0	—	2/8
364	SDa29	F12	須生土器	蓋	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	5YR3/1明褐	細・少	—	—	—	—	1/8
365	SBa01-02	F12	須生土器	蓋	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	10 Y R 5.6 黄褐	中・並	(14.4)	—	—	—	2/8
366	SBa01-02	E13	須生土器	蓋	回転ナア 回転ナア ヘラ	回転ナア	回転ナア	7.5YR7/4に赤い黄橙	細・多	—	—	9.1	—	4/8

下川津呂  
掘に類似

第5表 西木剛遺跡V出土器物観察表 (11)

第1分冊

標本番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内蔵	外部	色調	内部	石炭、 白灰石、 赤色砂	胎土	胎母	砂粒	口径	高さ	底径	その他	備考
367	SBa01-02	F12		尖生土器	葉	ヨコナガ ハケ 後出ナナエ	ハケ ヨコナガ ハケ 後出ナナエ	7.5 Y R 7.4 に近い 7.5 Y R 7.4 に近い	7.5 Y R 7.4 に近い 7.5 Y R 7.4 に近い	2.5 Y R 7.4 に近い 2.5 Y R 7.4 に近い	中・多	細・少	細・少	(15.2)	—	—	—	1.8	
368	SBa01-02	F12		尖生土器	葉	マノタ	マノタ	5. Y R 6.6 程度 10. Y 6.1 灰	2.5 Y R 6.6 程度 2.5 Y 7.1 灰白	2.5 Y R 6.6 程度 2.5 Y 7.1 灰白	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	つみみ 底21	4.8
369	SBa02SP03	E13		須恵器	葉	回転ナナエ	回転ナナエ	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	4.8
370	SBa02SP29	E13		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	1.8
371	SBa02SP31	E13		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	3.8
372	SBa03SP03	E13		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	2.5Y4.2 灰黄 10YR7.4 に近い黄緑	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	1.8
373	SBa02SP14	E13		陶器	瓶	ヨコナガ ナナエ	ヨコナガ ナナエ	7.5 Y R 8.4 程度 10YR7.4 に近い黄緑	7.5 Y R 8.4 程度 10YR7.4 に近い黄緑	7.5 Y R 8.4 程度 10YR7.4 に近い黄緑	細・多	細・少	細・多	—	—	—	—	—	4.8
374	SBa02SP14	E13		土師器	足臺	ヨコナガ ナナエ	ヨコナガ ナナエ	10YR7.4 に近い黄緑	10YR7.4 に近い黄緑	10YR7.4 に近い黄緑	細・多	細・少	細・多	—	—	—	—	—	4.8
375	SBa02SP11	E13		土師器	足臺	ヨコナガ ナナエ	ヨコナガ ナナエ	10YR7.4 に近い黄緑	10YR7.4 に近い黄緑	10YR7.4 に近い黄緑	細・多	細・少	細・多	—	—	—	—	—	4.8
376	SBa02SP28	E13		土師器	足臺	ヨコナガ ナナエ	ヨコナガ ナナエ	10YR7.4 に近い黄緑	10YR7.4 に近い黄緑	10YR7.4 に近い黄緑	細・多	細・少	細・多	—	—	—	—	—	4.8
377	SBa02SP10	E13		土師器	足臺	ヨコナガ ナナエ	ヨコナガ ナナエ	10YR7.4 に近い黄緑	10YR7.4 に近い黄緑	10YR7.4 に近い黄緑	細・多	細・少	細・多	—	—	—	—	—	4.8
378	SBa02SP10	E13		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	7.5 Y R 8.4 程度	7.5 Y R 8.4 程度	7.5 Y R 8.4 程度	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	4.8
379	SBa02SP24	E13		須恵器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	N 5 灰	N 5 灰	N 5 灰	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	1.8
380	SBa02SP23	E13		陶器	皿	輪	輪	7.5YR6.4 に近い黄 7.5 Y R 8.4 程度	7.5YR6.4 に近い黄 7.5 Y R 8.4 程度	7.5YR6.4 に近い黄 7.5 Y R 8.4 程度	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	4.8
381	SBa02SP23	E13		青磁	碗	輪	輪	7.5 Y R 8.4 程度	7.5 Y R 8.4 程度	7.5 Y R 8.4 程度	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	4.8
382	SBa02SP23	E13		土師器	酒杯	ヨコナガ ナナエ	ヨコナガ ナナエ	7.5 Y R 6.4 に近い黄 10YR7.4 に近い黄緑	7.5 Y R 6.4 に近い黄 10YR7.4 に近い黄緑	7.5 Y R 6.4 に近い黄 10YR7.4 に近い黄緑	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	3.8
383	SBa07SP05	F12		土師器	鉢	ヨコナガ ナナエ	ヨコナガ ナナエ	10YR8.4 程度	10YR8.4 程度	10YR8.4 程度	細・多	細・少	細・多	—	—	—	—	—	4.8
384	SBa02SP17	F12		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	10YR8.3 程度	10YR8.3 程度	10YR8.2 灰黄	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	4.8
385	SBa02SP16	F12		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	5YR7.6 程度	5YR7.6 程度	5YR7.6 程度	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	4.8
386	SBa02SP12	F12		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	7.5YR7.6 程度	7.5YR7.6 程度	7.5YR7.6 程度	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	3.8
387	SBa02SP03	F12		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	10YR8.2 灰白	10YR8.2 に近い黄緑	10YR8.2 に近い黄緑	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	1.8
388	SBa02SP12	F12		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	5YR7.6 程度 7.5YR7.4 に近い黄	5YR7.6 程度 7.5YR7.4 に近い黄	5YR7.6 程度 7.5YR7.4 に近い黄	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	2.8
389	SBa02SP14	F12		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	5YR7.6 程度	5YR7.6 程度	5YR7.6 程度	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	2.8
390	SBa02SP12	F12		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	5YR7.6 程度	5YR7.6 程度	5YR7.6 程度	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	1.8
391	SBa02SP12	F12		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	10YR8.3 程度	2.5X8.2 灰白	2.5X8.2 灰白	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	2.8
392	SBa02SP09	F12		青磁	碗	輪	輪	10Y5.2 オリーブ 灰	10Y5.2 オリーブ 灰	10Y5.2 オリーブ 灰	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	2.8
393	SBa02SP16	F12		瓦葺土器	甕	輪	輪	2.5Y8.1 黄底 7.5YR7.4 に近い黄	10YR7.3 に近い黄緑 5YR7.6 程度	10YR7.3 に近い黄緑 5YR7.6 程度	細・多	細・少	細・多	—	—	—	—	—	4.8
394	SBa02SP20	F12		土師器	杯	回転ナナエ	回転ナナエ	7.5YR7.4 に近い黄	7.5YR7.4 に近い黄	7.5YR7.4 に近い黄	細・多	細・少	細・少	—	—	—	—	—	4.8

口縁部に  
スズ付着、  
不明量

第5表 西木則遺跡V出土石器観察表 (12)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量 (cm)			備考	
						外国	内国	外部	内部	石灰・玉石	赤色粒・内四石	雲母	砂粒	口径		器高
395	SE-06SP19	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ ナア後仕上げナ	同転ナナ 同転ナナ	7.5YR8.4黄褐色	5YR7.6黄	中・少	中・少	8.0	1.2	4.8	—	2.8
396	SE-06SP20	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナア	同転ナナ	7.5YR8.4黄褐色	5YR7.6黄	中・少	中・少	9.2	1.9	2.4	—	1.8	—
397	SE-06SP16	F12	土器器	杯	同転ナナ ナア	同転ナナ	7.5YR8.6黄褐色	7.5YR8.6黄褐色	中・多	中・多	9.0	—	—	—	1.8	—
398	SE-06SP11	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナア	同転ナナ	7.5YR8.6黄褐色	7.5YR8.6黄褐色	中・多	中・多	10.0	—	—	—	1.8	—
399	SE-06SP13	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナア	同転ナナ	7.5YR8.3黄褐色	5YR7.8黄	中・多	中・多	9.0	1.5	5.0	—	1.8	—
400	SE-06SP18	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ	7.5YR8.6黄褐色	7.5YR8.4黄褐色	中・多	中・多	9.0	1.5	5.6	—	1.8	—
401	SE-06SP20	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ	7.5YR8.4黄褐色	7.5YR8.4黄褐色	中・少	中・少	9.0	1.4	6.5	—	1.8	—
402	SE-06SP18	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ ナア後仕上げナ	10YR7.3に多い黄褐色	2.5Y7.2灰黄	中・多	中・多	9.0	1.8	4.4	—	7.8	—
403	SE-06SP12	F12	土器器	杯	同転ナナ	同転ナナ	2.5YR7.6黄	5YR7.6黄	中・少	中・少	9.0	—	—	—	2.8	—
404	SE-06SP05	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ	5YR6.6黄	7.5YR6.6黄	中・少	中・少	8.1	1.9	4.3	—	2.8	—
405	SE-06SP18	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ ナア後仕上げナ	10YR8.4黄褐色	7.5YR7.4に多い黄	中・多	中・多	9.7	1.9	4.2	—	5.8	—
406	SE-06SP18	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ	10YR8.4黄褐色	10YR8.4黄褐色	中・多	中・多	12.0	2.8	5.8	—	1.8	—
407	SE-06SP12	F12	土器器	杯	同転ナナ	同転ナナ	5YR7.6黄	10YR8.2灰白	中・多	中・多	12.0	—	—	—	1.8	—
408	SE-06SP05	F12	土器器	杯	同転ナナ	同転ナナ	10YR7.3に多い黄褐色	7.5YR7.4に多い黄	中・多	中・多	12.8	—	—	—	1.8	—
409	SE-06SP20	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ	10YR8.3黄褐色	10YR8.3黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	—	—	—
410	SE-06SP19	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ	7.5YR8.4黄褐色	7.5YR8.4黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	—	—	—
411	SE-06SP19	F12	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ	5YR7.6黄	5YR7.6黄	中・多	中・多	—	2.7	—	—	—	—
412	SE-06SP19	F12	須臾器	杯	同転ナナ ヘラ切り後現状 圧痕	同転ナナ ナア後仕上げナ	2.5YR2.2灰白	10YR4.2灰黄褐色	中・多	中・多	13.0	2.9	7.0	—	1.8	—
413	SE-06SP16	F12	須臾器	葉	同転ナナ ヨコナナ後ナア	同転ナナ ヨコナナ後ナア	10YR8.6黄褐色	7.5YR8.4黄褐色	中・多	中・多	—	—	—	—	—	—
414	SE-06SP20	F12	土器器	罌鉢	同転ナナ ヨコナナ後ナア	同転ナナ ヨコナナ後ナア	10YR8.2灰黄褐色	2.5Y4.2灰黄	中・多	中・多	—	—	—	—	—	—
415	SE-06SP18	F12	土器器	罌鉢	同転ナナ ナア・割履	同転ナナ ナア・割履	10YR8.3に多い黄褐色	10YR7.3に多い黄褐色	中・多	中・多	—	—	—	—	—	—
419	SE-06SP06	F12	土器器	鉢	同転ナナ ヘラ切り後ナア	同転ナナ	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白	中・少	中・少	7.0	—	—	—	1.8	—
420	SE-01	F12	土器器	小皿	同転ナナ ヘラ切り後ナア	同転ナナ	5YR7.6黄	5YR7.6黄	中・多	中・多	7.5	1.6	6.6	—	5.8	—
421	SE-01	F12	須臾器	椀	同転ナナ ミガキ	同転ナナ ミガキ	NS/灰	5YR1.1灰白	中・少	中・少	15.0	—	—	—	1.8	—
422	SE-01	F12	黒色土器	罌	同転ナナ 同転ナナ	同転ナナ	7.5YR7.4に多い黄褐色	10YR7.2に多い黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	—	—	—



第5表 西木剛遺跡V出土器観察表 (13)

第1分冊

器文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査	内面	外面	色調	胎土	口徑	底径	高さ	重量 (cm)	備考
423	SEe01	F12	須臾器	碗	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ 同転 へう切り後状	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白	中・少	—	—	62	—	6.8
424	SKe03	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	0.9	1.5	60.6	—	2.8
425	SKe03	E13	青磁	碗	施釉	施釉	黄・2.5GY6.1オリー フ灰	黄・2.5GY6.1オリー フ灰	黄・2.5GY6.1オリー フ灰	中・少	—	—	—	—	破片
426	SKe04	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	0.4	1.7	65.0	—	3.8
427	SKe04	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	8.1	1.7	5.6	—	6.8
428	SKe04	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	5YR7.4 に近い 黄	5YR7.4 に近い 黄	5YR7.4 に近い 黄	中・少	8.1	1.6	5.4	—	7.8
429	SKe04	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	7.8	1.6	4.6	—	2.8
430	SKe04	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 8.3 黄黄	7.5 Y R 8.2 灰白	2.5 Y R 8.2 灰白	中・少	6.0	1.5	3.8	—	4.8
431	SKe04	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ 同転 ナナ 黄化上げナ ナ	10 Y R 8.2 灰白	10 Y R 8.2 灰白	5 Y R 7.6 黄	中・少	0.7	—	6.7	—	3.8
432	SKe04	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 6.4 に近い 黄	7.5 Y R 6.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	9.2	1.6	6.0	—	7.8
433	SKe04	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	8.8	1.6	6.6	—	2.8
434	SKe04	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	8.0	1.7	5.4	—	5.8
439	SKe05	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	5 Y R 6.6 黄	5 Y R 6.6 黄	5 Y R 6.6 黄	中・少	—	—	—	—	破片
440	SKe06	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ 同転 ナナ 黄化上げナ ナ	10 Y R 8.3 黄黄	10 Y R 8.3 黄黄	10 Y R 8.3 黄黄	中・少	6.8	2.0	4.8	—	3.8
441	SKe06	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	8.8	1.9	5.2	—	8.8
442	SKe06	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	5 Y R 7.6 黄	5 Y R 7.6 黄	10 Y R 7.3 に近い 黄	中・少	8.6	1.7	6.0	—	7.8
443	SKe06	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ 同転 ナナ 黄化上げナ ナ	5 Y R 7.6 黄	5 Y R 7.6 黄	5 Y R 7.6 黄	中・少	8.7	1.8	5.3	—	7.8
444	SKe06	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	0.0	1.6	6.1	—	4.8
445	SKe06	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	8.7	1.6	5.7	—	6.8
446	SKe06	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 6.4 に近い 黄	7.5 Y R 6.4 に近い 黄	7.5 Y R 6.4 に近い 黄	中・少	9.2	1.7	5.4	—	8.8
447	SKe06	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	6.8	1.6	6.0	—	2.8
448	SKe06	E13	土師器	杯	同転ナナ 同転 へう切り後状	同転ナナ	2.5 Y R 6.8 黄	2.5 Y R 6.8 黄	5 Y R 7.4 に近い 黄	中・少	9.1	1.7	3.7	—	6.8

口縁部に  
高肉瘤、  
高肉瘤



第5表 西木別遺跡V出土器観表 (15)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量 (cm)		備考			
						外国	内国	外部	内部	石炭、灰白	赤色粒、向四石	窯母	砂粒		口径	高さ	底径
479	SF-e05	E15	須恵器	皿	同転ナ字・マメ 同転ナ字・ヘラ 切り後状	同転ナ字・マメ 同転ナ字	5Y8/1灰白 7.5Y8/7.6黄	5Y8/1灰白 10Y8/7.3にぶい黄緑	—	—	中・少	—	—	—	破片		
480	SF-e06	F12	土師器	杯	同転ナ字 圧痕	同転ナ字	7.5Y8/7.6黄	10Y8/7.3にぶい黄緑	—	—	中・中	7.7	1.9	4.5	—	8.8	
481	SF-e06	F12	土師器	杯	同転ナ字 ヘラ切り後ナ字	同転ナ字	7.5Y8/7.4にぶい黄	7.5Y8/7.4にぶい黄	—	—	中・中	(13.1)	3.1	(8.6)	—	2.8	
482	SF-e06	F12	土師器	杯	同転ナ字 ヘラ切り後ナ字	同転ナ字	7.5Y8/7.4にぶい黄	7.5Y8/7.4にぶい黄	—	—	中・中	(13.0)	3.3	(8.5)	—	1.8	
483	SF-e06	F12	土師器	杯	同転ナ字 ヘラ切り	同転ナ字	10Y8/7.3にぶい黄 5Y8/1灰白	10Y8/7.3にぶい黄 5Y8/1灰白	—	—	中・中	(14.2)	5.0	5.4	—	4.8	
484	SF-e06	F12	須恵器	瓶	同転ナ字 ヘラ切り	同転ナ字	5Y7/2灰白	5Y7/2灰白	—	—	中・少	14.0	4.5	4.6	—	6.8	西村産
486	SF-e06	F12	須恵器	瓶	同転ナ字 ヘラ切り	同転ナ字	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	—	—	中・少	—	—	6.0	—	2.8	
488	SF-e06	F12	須恵器	瓶	同転ナ字 ヘラ切り後ナ字	同転ナ字	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	—	—	中・少	—	—	—	—	破片	
489	SF-e06	F12	上層	黒色土器	同転ナ字 ヘラ切り後ナ字	同転ナ字	2.5Y8/2灰白	2.5Y2/1黒	—	—	中・少	—	—	—	—	破片 A類	
490	SF-e06	F12	丸器	瓶	同転ナ字 ヘラ切り後ナ字	同転ナ字	5Y7/1灰白	N6/灰	—	—	中・少	—	—	—	—	破片	
491	SD-e23	E14	土師器	杯	同転ナ字 瓶状圧痕	同転ナ字	10Y8/8.2灰白	10Y8/8.2灰白	—	—	中・少	8.5	2.6	5.4	—	8.8	
492	SD-e23	E14	須恵器	杯	同転ナ字 切り後ナ字	同転ナ字	N6/灰	N6/灰	—	—	中・少	—	—	6.8	—	1.8	
493	SD-e24	E15	3層	須恵器	蓋	同転ナ字	N7/灰白	N6/灰	—	—	中・少	(14.0)	—	—	—	1.8	
494	SD-e24	E14	1層	須恵器	蓋	同転ナ字	N4/灰	N6/灰	—	—	中・少	(18.2)	—	—	—	1.8	
495	SD-e24	E14	須恵器	杯	同転ナ字 同転ナ字 ヘラ切り	同転ナ字	10Y7/1灰白	5Y7/4浅黄	—	—	中・少	(17.4)	—	—	—	1.8	
496	SD-e24	E14	3層	須恵器	杯	同転ナ字 ヘラ 切り後ナ字	N6/灰	N6/灰	—	—	中・少	—	—	6.2	—	1.8	
497	SD-e24	E14	3層	須恵器	杯	同転ナ字 ヘラ 切り後ナ字	N6/灰	N6/灰	—	—	中・少	—	—	7.0	—	2.8	
498	SD-e24	E14	2層	須恵器	杯	同転ナ字 ヘラ 切り後ナ字	N6/灰	N6/灰	—	—	中・少	—	—	6.8	—	3.8	
499	SD-e24	E14	2層	須恵器	杯	同転ナ字 ヘラ 切り後ナ字	N7/灰白	N7/灰白	—	—	中・少	(11.0)	3.1	(7.8)	—	1.8	
500	SD-e24	E14	1層	須恵器	杯	同転ナ字 ヘラ 切り後ナ字	N5/灰	N5/灰	—	—	中・少	—	—	6.0	—	3.8	
501	SD-e24	E14	2層	土師器	杯	同転ナ字 ヘラ 切り後ナ字	7.5Y8/8.2灰白	7.5Y8/8.2灰白	—	—	中・少	(11.2)	2.8	6.8	—	1.8	
502	SD-e24	E15	3層	土師器	杯	同転ナ字 ヘラ 切り後ナ字	10Y8/8.3浅黄緑	10Y8/8.3浅黄緑	—	—	中・中	(14.2)	4.4	(7.0)	—	2.8	
503	SD-e24	E14	3層	土師器	小皿	同転ナ字 ヘラ 切り後ナ字	7.5Y8/8.4浅黄	7.5Y8/8.4浅黄	—	—	中・少	(7.6)	1.2	(5.7)	—	2.8	
504	SD-e24	E15	1層	須恵器	瓶	同転ナ字 ヘラ 切り	N7/灰白	N7/灰白	—	—	中・少	—	—	6.0	—	2.8	
505	SD-e24	E14	2層	須恵器	瓶	同転ナ字 ヘラ 切り	N5/灰	N5/灰	—	—	中・少	(14.5)	4.6	(5.4)	—	3.8	

第5表 西木剛遺跡V出土石器観察表 (16)

第1分冊

報告 番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査	内蔵	外部	色調	内部	石質、 灰白	胎土	胎石	胎母	鈔粒	口径	器高	底径	その他	備考	
506	SDa24	E14	1・3層	須臾器	鏡	同胎ナア 高台 胎付・ナア	同胎ナア	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白					中・少	(15.5)	5.4	(5.1)	—	2/8	
507	SDa24	E14	3層	須臾器	鏡	同胎ナア 高台 胎付・ナア	同胎ナア	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白					細・少	—	—	(5.0)	—	1/8	
508	SDa24	E14	3層	須臾器	鏡	同胎ナア ナア	同胎ナア	10Y82/2灰白	N3/黒灰	N3/黒灰					細・少	—	(6.4)	—	2/8 A類		
509	SDa24	E14	2層	白磁	須臾器	同胎ナア ナア	同胎ナア	胎: 75Y8/2灰白 輪: 75Y8/2灰白	胎: 75Y8/2灰白	胎: 75Y8/2灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
510	SDa24	E14	3層	白磁	須臾器	同胎ナア ナア	同胎ナア	胎: 75Y7/2灰白 輪: 75Y8/2灰白	胎: 75Y7/2灰白	胎: 75Y8/2灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
511	SDa24	E14	3層	白磁	須臾器	同胎ナア ナア	同胎ナア	胎: 75Y8/2灰白 輪: 75Y8/2灰白	胎: 75Y8/2灰白	胎: 75Y8/2灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
512	SDa24	E14	3層	白磁	須臾器	同胎ナア ナア	同胎ナア	胎: 10Y8/1灰白 輪: 10Y8/1灰白	胎: N2/灰白	胎: N2/灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
513	SDa24	E14	3層	白磁	須臾器	同胎ナア ナア	同胎ナア	胎: 75Y7/1灰白 輪: 75Y7/1灰白	胎: 75Y7/1灰白	胎: 75Y7/1灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
514	SDa24	E15	1層	青磁	鏡	同胎ナア ナア	同胎ナア	胎: 75Y5/2灰青 輪: 75Y5/2灰青	胎: 75Y5/2灰青	胎: 75Y5/2灰青					細・少	—	—	—	高台部 6.09	1/8	
515	SDa24	E14	3層	須臾器	鉢	ヨコナア ヘラ ミガキ・ナア	同胎ナア	N8/灰白	N6/灰	N6/灰					中・少	(17.8)	6.1	(11.0)	—	3/8	
516	SDa24	E14	2・3層	須臾器	鉢	同胎ナア ナア	同胎ナア	N5/灰	N5/灰	N5/灰					細・差	(27.5)	—	—	—	1/8	
517	SDa24	E15	4層	須臾器	飯	同胎ナア ナア	同胎ナア	10Y5/1灰	10Y5/1灰	10Y5/1灰					細・少	—	(5.0)	—	—	3/8	
518	SDa24	E15	2層	須臾器	水風	同胎ナア ナア	同胎ナア	N4/灰	N4/灰	N4/灰					細・少	—	—	—	頸部 2.7	3/8	
519	SDa24	E14	2層	須臾器	蓋	同胎ナア ナア	同胎ナア	5Y6/1灰	N6/灰	N6/灰					細・少	(15.4)	—	—	—	1/8	
520	SDa24	E14	2層	須臾器	蓋	同胎ナア ナア	同胎ナア	N6/灰	N6/灰	N6/灰					中・少	—	—	—	—	破片	
521	SDa24	E14	2層	須臾器	蓋	ヨコナア ナア	同胎ナア	N6/灰	N7/灰白	N7/灰白					中・少	—	—	—	—	破片	
522	SDa24	E14	2層	須臾器	蓋	ヨコナア ナア	同胎ナア	N6/灰	N7/灰白	N7/灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
523	SDa24	E14	1層	土師器	土罎	同胎ナア ナア	同胎ナア	25Y6/3に赤黄	—	—					細・少	—	—	—	—	8/8	
524	SDa24	E15	1層	土師器	土罎	同胎ナア ナア	同胎ナア	10Y82/2灰白	—	—					中・少	—	—	—	—	8/8	
547	SDa28a	E13		土師器	杯	同胎ナア ナア	同胎ナア	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白					中・少	(8.7)	—	(5.8)	—	3/8	
548	SDa28a	E14	2層	陶器	杯	同胎ナア ナア	同胎ナア	5Y8/1黒灰	5Y8/1黒灰	5Y8/1に赤黄					細・少	(8.8)	—	—	—	1/8	
549	SDa28a	E14	3層	土師器	杯	同胎ナア ナア	同胎ナア	10Y82/2灰白	10Y82/2灰白	10Y82/2灰白					細・少	(11.8)	2.3	(7.2)	—	3/8	
550	SDa28a	E14	1層	須臾器	杯	同胎ナア ナア	同胎ナア	N6/灰	N6/灰	N6/灰					細・差	—	(9.4)	—	—	1/8	
551	SDa28a	E14	2層	須臾器	蓋	同胎ナア ナア	同胎ナア	N5/灰	N6/灰	N6/灰					細・少	(20.2)	—	—	—	1/8	
552	SDa28a	E14	2層	須臾器	蓋	同胎ナア ナア	同胎ナア	N6/灰	N6/灰	N6/灰					細・少	(6.8)	—	—	—	1/8	
553	SDa28a	E14	1層	白磁	須臾器	同胎ナア ナア	同胎ナア	胎: 25Y7/3灰黄 輪: 25Y7/3灰黄	胎: 25Y7/3灰黄	胎: 25Y7/3灰黄					細・少	—	—	—	—	破片	
554	SDa28a	E14	1層	須臾器	蓋	同胎ナア ナア	同胎ナア	胎: 75Y8/2灰白 輪: 75Y8/2灰白	胎: 75Y8/2灰白	胎: 75Y8/2灰白					細・少	—	—	(7.2)	—	—	1/8 A類
555	SDa28a	E14	1層	青磁	鏡	同胎ナア ナア	同胎ナア	胎: 75Y7/2灰白 輪: 75Y7/2灰白	胎: 75Y7/2灰白	胎: 75Y7/2灰白					細・少	—	—	—	—	破片	
556	SDa28a	E14	3層	白磁	鏡	同胎ナア ナア	同胎ナア	胎: 25Y8/4灰白 輪: 25Y8/4灰白	胎: 25Y8/4灰白	胎: 25Y8/4灰白					細・少	—	—	2.7	—	6/8	

第5表 西木別遺跡V出土土器観察表 (17)

第1分冊

報告書番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量 (cm)		備考			
						外国	内国	外部	内部	石灰、 雲白	赤色粒、 内四石、 雲母	砂粒	口径		高さ	底径	その他
557	SDc26a	E14	1層	白磁	碗	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 5Y7.2灰白	胎: 5Y8.2灰白		細・少	—	—	4.6	—	1.8	
558	SDc26a	E14	3層	白磁	碗	同胎土ナ、 高台削り出し	同胎土 胎	胎: 7.5Y7.2灰白	胎: 7.5Y7.2灰白		細・少	—	—	6.8	—	2.8	
559	SDc26a	E14	2層	磁器	碗	同胎土ナ、 高台削り出し	同胎土 胎	胎: 5Y7.1明緑灰	胎: 7.5Y8.3赤黄		細・少	0.24	—	—	—	破片	
560	SDc26a	E14	3層	土器器	罐	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 5Y8.3赤黄	胎: 5Y8.3赤黄		中・少	0.28	—	—	—	3.8	
561	SDc26a	E14	3層	土器器	罐	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 2.5Y8.2灰白	胎: 2.5Y8.2灰白		中・並	—	—	6.8	—	2.8	
562	SDc26a	E14	3層	土器器	瓶	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 2.5Y5.2暗灰黄	胎: 2.5Y7.2灰黄		中・並	—	—	—	—	破片	
563	SDc26a	E14	2・3層	土器器	瓶	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 10Y8.2灰白	胎: 10Y8.2灰白		中・並	0.29	—	—	—	2.8	
564	SDc26a	E14	2・3層	土器器	付属	同胎土ナ、 付属	同胎土 胎	胎: 10Y8.2灰白	胎: 10Y8.2灰白		中・並	0.58	—	—	—	4.8	
565	SDc26a	E14	2層	土器器	瓶	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 2.5Y8.2灰白	胎: 2.5Y8.2灰白		中・少	0.14	—	—	—	3.8	
566	SDc26a	E14	3層	土器器	足袋	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 10Y8.3にふい黄緑	胎: 10Y8.3にふい黄緑		中・並	現存 長13.0	幅3.0 厚さ 3.2	—	—	破片	
567	SDc26a	E14	1層	備前焼	瓶	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 10Y8.2灰白	胎: 10Y8.2灰白		細・多	現存 長7.3	幅5.1 厚さ 3.8	—	—	破片	
568	SDc26a	E14	1層	備前焼	瓶	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 7.5Y8.1黒陶	胎: 7.5Y8.1黒陶		中・少	現存 長6.1	幅6.3 厚さ 1.0	—	—	8.8	
569	SDc26a	E14	1層	土器器	皿	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 2.5Y7.3赤黄	胎: 10Y8.7.6明黄陶		中・並	現存 長3.5	幅3.5 厚さ 0.8	—	—	8.8	
578	SDc26b	E13	2層	陶器	皿	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 5Y7.3灰黄	胎: 5Y7.3灰黄		細・少	0.16	2.8	0.26	—	3.8	
579	SDc26b	E13	3層	白磁	皿	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 7.5Y8.1明緑灰	胎: 7.5Y8.1明緑灰		細・少	0.19	2.8	0.11	—	3.8	
580	SDc26b	E13	2層	土器器	杯	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 7.5Y8.3赤黄	胎: 7.5Y8.3赤黄		細・少	0.14	2.8	0.88	—	1.8	
581	SDc26b	E13	2・3層	須恵器	杯	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 5Y7.1灰白	胎: 5Y7.1灰白		細・少	0.20	3.7	0.72	—	2.8	
582	SDc26b	E13	2層	黒色土器	瓶	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 7.5Y R 7.3にふい、 2.5 Y 3.2暗灰黄	胎: 7.5Y R 7.3にふい、 2.5 Y 3.2暗灰黄		細・並	—	—	6.0	—	6.8 A皿	
583	SDc26b	E13	1層	陶器	瓶	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 7.5Y8.4.3褐	胎: 7.5Y8.4.3褐		細・少	0.26	—	—	6.0	—	破片
584	SDc26b	E13	1層	陶器	瓶	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 5Y6.2灰ナリーブ	胎: 5Y7.1灰白		細・少	—	—	—	—	1.8	
585	SDc26b	E13	2層	陶器	瓶	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 2.5GY6.1ナリー 7.5Y8.6黄	胎: 7.5Y8.6黄		細・少	—	—	—	—	高台部 (B)	
586	SDc26b	E13	2層	土器器	罐	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 2.5 Y 8.2灰白	胎: 2.5 Y 7.1灰白		中・並	0.35	—	—	—	破片	
587	SDc26b	E13	2層	土器器	罐	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 2.5 Y 8.2灰白	胎: 2.5 Y 7.1灰白		中・並	0.81	—	—	—	1.8	
588	SDc26b	E13	2層	土器器	罐	同胎土ナ、 ヘラ切り	同胎土 胎	胎: 2.5Y8.2灰白	胎: 2.5Y7.2灰黄		中・並	—	—	—	—	破片	

第5表 西木剛遺跡V出土器観察表 (18)

第1分冊

報告 番号	報告 遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内面	外面	色調	内部	胎土	胎粒	口径	高さ	底径	その他	備考
589	SDa26b	E13	1層	須置器	同転ナデ ナデ	同転ナデ後ナ 目	5Y5.1灰		外部	7.5Y4.1灰	内部	中・並	—	—	—	—	破片
590	SDa26b	E13	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 指オ ヨコナデ ナデ	2.5 Y 8.2 灰白		外部	10 Y 8.2 灰白	内部	粗・少	(24.2)	—	—	—	3.8 体部外縁 にスス付 着
591	SDa26b	E13	2層	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ	10 Y R 8.2 浅黄緑		外部	10 Y R 8.2 浅黄緑	内部	中・並	(26.4)	—	—	—	1.8
592	SDa26b	E13	2層	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ ヨコナデ ナデ	2.5 Y 8.3 淡黄		外部	10 Y R 8.3 淡黄	内部	中・多	(27.8)	—	—	—	3.8
593	SDa26b	E13	2層	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ ヨコナデ ナデ	10 Y R 8.2 灰白		外部	10 Y R 8.2 灰白	内部	中・少	27.2	—	—	—	5.8
594	SDa26b	E13	2層	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ	10 Y R 4.1 細灰		外部	7.5 Y R 5.3 に近い	内部	中・並	(24.6)	—	—	—	6.8
595	SDa26b	E13	3層	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ	10 Y R 3.1 黒陶		外部	5 Y 7.1 灰白	内部	中・並	(22.8)	—	—	—	2.8 外部スス 付着
596	SDa26b	E13	2層	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ ヨコナデ ナデ	10 Y R 8.3 浅黄緑		外部	10 Y R 8.3 浅黄緑	内部	中・並	(25.3)	—	—	—	3.8
597	SDa26b	E13	2層	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ ヨコナデ ナデ	10 Y R 8.4 浅黄緑		外部	10 Y R 8.3 浅黄緑	内部	粗・少	(27.0)	—	—	—	4.8 体部外縁 にスス付 着
598	SDa26b	E13	2層	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ	10 Y R 8.2 浅黄緑		外部	10 Y R 8.2 浅黄緑	内部	中・並	(27.8)	—	—	—	2.8
599	SDa26b	E13	2層	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ	2.5 Y 7.2 灰黄		外部	2.5 Y 7.2 灰黄	内部	中・並	現存 長15.3	幅2.9	厚さ 3.0	—	破片
600	SDa26b	E13	2・3層	須置器	須置器	同転ナデ ナデ	10Y86.3に近い黄緑 5Y85.6黒赤陶		外部	2.5 Y 8.2 灰白	内部	粗・多	(10.0)	—	—	—	3.8 備前焼
601	SDa26b	E13	2層	土師器	土師器	ヨコナデ 指オ	2.5 Y 8.2 灰白		外部	2.5 Y 8.2 灰白	内部	粗・多	(21.2)	—	—	—	1.8
602	SDa26b	E13	1層	須置器	須置器	同転ナデ ナデ	N 6. 灰		外部	N 7. 灰白	内部	中・少	—	—	—	—	2.8
606	SDa27	E13	土師器	土師器	小皿	同転ナデ ナデ	10 Y R 8.2 灰白		外部	10 Y R 8.2 灰白	内部	細・少	7.6	1.0	5.8	—	7.8 内面にス ス付着、灯 明皿
607	SDa27	E13	土師器	土師器	杯	同転ナデ ナデ	7.5 Y R 6.4 に近い 黄		外部	7.5 Y R 6.4 に近い 黄	内部	中・少	(13.7)	3.1	(7.6)	—	2.8
608	SDa27	E13	3層	土師器	土師器	同転ナデ ナデ	10 Y R 8.3 浅黄緑		外部	10 Y R 8.3 浅黄緑	内部	中・少	(13.8)	3.2	(7.2)	—	2.8
609	SDa27	E13	2層	土師器	土師器	同転ナデ ナデ	7.5 Y R 8.4 浅黄緑		外部	7.5 Y R 8.4 浅黄緑	内部	中・並	(20.0)	—	—	—	1.8
610	SDa27	E13	土師器	土師器	足釜	同転ナデ ナデ	2.5 Y 7.2 灰黄		外部	2.5 Y 7.2 灰黄	内部	中・並	現存 幅3.3 厚さ 3.1	—	—	—	破片
611	SDa27	E13	2層	陶器	陶器	ヨコナデ ハケ	2.5 Y 3.1 黒陶		外部	2.5 Y 3.1 黒陶	内部	中・並	—	—	—	—	破片
612	SDa27	E13	2層	白磁	陶器	ヨコナデ ハケ	10 Y 8.1 灰白		外部	10 Y 8.1 灰白	内部	細・少	—	—	—	—	破片
613	SDa27	E13	1層	弥生土器	土師器	同転ナデ ナデ	5 Y R 5.8 明赤陶		外部	5 Y R 5.8 明赤陶	内部	中・並	(17.7)	—	—	—	1.8
616	SDa33	E13	弥生土器	土師器	同転ナデ ナデ	10 Y R 6.3 に近い 黄		外部	10 Y R 6.3 に近い 黄	内部	中・並	中・少	—	—	—	—	1.8

第5表 西木別遺跡V出土器観表 (19)

第1分冊

器文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調	内部	石片、土片	胎土		口径	器高	底径	その他	備考
						内周	外周				形状	向					
617	SDe0	F12	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後瓶状 仕組	回転ナデ	10YR8/3浅黄緑	5YR7/6緑			細・少	8.0	1.3	6.2	—	1/8	
618	SDe0	F12	土師器	瓶	ヨコナデ ヨコナデ 中・少	瓶ナ 瓶ナ	7.5YR7/4にぶい、黄	10YR8/2灰黄褐			粗・中	—	—	—	—	破片	
619	SDe0	F12	土師器	瓶	ヨコナデ ヨコナデ 中・少	ハケ ハケ	10YR8/1黒灰	10YR7/4にぶい、黄粉			中・中	—	—	—	—	破片	
620	SDe0	F12	土師器	瓶	ヨコナデ ヨコナデ 中・少	指オ 指オ 中・少	7.5YR7/6緑	7.5YR7/4にぶい、黄			中・中	23.4	—	—	—	1/8	体部外周にスス入付
621	SDe0	F12	土師器	槍筒	指オ中・少後瓶ナ	指オ中・少後瓶ナ	10YR8/4浅黄緑	10YR8/4浅黄緑			中・中	—	—	—	—	破片	
622	SDe0	F12	土師器	瓶	ヨコナデ ヨコナデ 中・少	指オ 指オ 中・少	10YR8/3浅黄緑	10YR8/3浅黄緑			中・中	—	—	—	—	破片	体部外周にスス入付
623	SDe0	F12	土師器	瓶	ヨコナデ ヨコナデ 中・少	指オ 指オ 中・少	7.5YR8/2灰褐	7.5YR7/4にぶい、黄			中・中	—	—	—	—	破片	体部外周にスス入付
624	SDe0	F12	土師器	瓶	ヨコナデ ヨコナデ 中・少	指オ 指オ 中・少	10YR8/3浅黄緑	10YR8/3浅黄緑			中・中	—	—	—	—	破片	
625	SDe0	F12	土師器	足袋	ナデ	—	10YR8/4浅黄緑	—			中・多	長さ9.7	太さ3.0	3.0	—	破片	
626	SDe1	F12	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR7/6緑			中・多	13.1	4.2	7.1	—	5/8	
627	SDe1	F12	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/6浅黄緑			中・中	—	—	—	—	破片	
628	SDe1	F12	土師器	杯	回転ナデ ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	NS/灰	NS/灰			中・少	15.6	—	—	—	1/8	
629	SDe1	F12	須置器	杖	須置器	須置器	2.5YR2灰白	2.5YR2灰白			細・少	14.8	4.9	6.2	—	2/8	西村産
630	SDe1	F12	土師器	杖	回転ナデ ヘラ切り後瓶状 仕組	回転ナデ	2.5YR1灰白	2.5YR2灰白			細・少	—	—	6.6	—	6/8	
631	SDe1	F12	土師器	杖	回転ナデ ヘラ切り後瓶状 仕組	ヘラミナギ	10YR7/3にぶい、黄緑	5YR3/1黒褐			細・少	—	—	6.2	—	8/8	A類
632	SDe1	F12	青磁	瓶	瓶	瓶	黄・7.5Y6/2灰オリーブ	黄・7.5Y6/2灰オリーブ			細・少	—	—	—	—	破片	
633	SDe1	F12	青磁	瓶	瓶	瓶	黄・10YR1灰白	黄・10YR1灰白			細・少	—	—	6.8	—	2/8	
634	SDe1	F12	土師器	瓦質土器	ヨコナデ 子後ヨコナデ	ヨコナデ	5YR1灰白	5YR1灰白			中・少	28.4	—	—	—	1/8	
635	SDe1	F12	土師器	罐	ヨコナデ ヨコナデ 中・少	瓶ナ 瓶ナ 中・少	7.5YR8/3浅黄緑	7.5YR8/4浅黄緑			粗・多	28.0	—	—	—	1/8	
636	SDe1	F12	土師器	瓦質土器	ヨコナデ ヨコナデ 中・少	指オ 指オ 中・少	2.5Y1黒灰	2.5Y7/2灰黄			中・少	—	—	—	—	破片	
637	SDe1	F12	土師器	瓶	指オ 指オ 中・少	指オ中・少後ナデ 指オ中・少後ナデ	10YR4/2灰黄緑	10YR8/4浅黄緑			中・中	41.8	—	—	—	4/8	
638	SDe1	F12	土師器	瓶	指オ中・少 指オ中・少 指オ中・少 指オ中・少	指オ中・少 指オ中・少 指オ中・少 指オ中・少	10YR7/3にぶい、黄粉	10YR7/3にぶい、黄粉			中・中	44.2	—	—	—	3/8	

第5表 西木別遺跡V出土器観察表(20)

第1分冊

器文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量(cm)		備考		
						内面	外面	内部	外部	石炭、灰白	赤色砂、向四石	砂粒	口径		器高	底径
639	SDe1	F12	土師器	釜	ヨコナテ 同転 文1条、ハエ ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR8.4 浅黄緑	10YR8.4 浅黄緑	中・少	中・少	—	—	1.8 外周にス ス付着		
640	SDe1	F12	土師器	鍋	ヨコナテ 指オ ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	7.5YR7.6 黄	7.5YR7.6 黄	中・多	中・多	—	—	1.8 体部外周 にスス付 着		
641	SDe1	F12	土師器	足釜	指オ中ニ後ナテ	指オ中ニ後ナテ	指オ中ニ後ナテ	10YR8.2 灰黄褐	10YR8.2 灰黄褐	中・少	中・少	—	—	破片		
642	SDe1	F12	土師器	足釜	指オ中ニ後ナテ	指オ中ニ後ナテ	指オ中ニ後ナテ	10YR8.3 上赤い黄褐	10YR8.3 上赤い黄褐	中・少	中・少	—	—	破片		
643	SDe1	F12	土師器	足釜	指オ中ニ後ナテ	指オ中ニ後ナテ	指オ中ニ後ナテ	10YR8.2 灰黄褐	10YR8.1 黄灰	中・多	中・多	—	—	破片		
644	SDe1	F12	土師器	足釜	指オ中ニ後ナテ	指オ中ニ後ナテ	指オ中ニ後ナテ	7.5YR4.1 黄灰	10YR8.6 黄緑	中・少	中・少	—	—	破片		
646	SDe2	F12	土師器	鍋	ヨコナテ 指オ ヨコナテ	指オ中 中ニ後ナテ	指オ中 中ニ後ナテ	10YR8.2 灰黄褐	10YR8.3 浅黄緑	中・少	中・少	—	—	破片		
647	SDe2	F12	土師器	杯	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	7.5YR8.4 浅黄緑	7.5YR8.4 浅黄緑	中・少	中・少	8.8	2.2	5.1	—	8.8 スス付着、 口内黒
648	SDe2	F12	土師器	杯	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	10YR8.3 浅黄緑	10YR8.2 灰白	中・少	中・少	—	—	—	破片	
649	SDe2	F12	土師器	足釜	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	2.5YR6.6 黄	2.5YR6.6 黄	中・多	中・多	—	—	—	破片	
650	SDe2	F12	土師器	足釜	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	7.5YR8.6 浅黄緑	5YR7.8 黄	中・少	中・少	—	—	—	1.8	
653	SDe3	F12	土師器	杯	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	5YR8.4 浅黄	7.5YR8.3 浅黄緑	中・少	中・少	—	—	—	2.8	
654	SDe3	F12	土師器	杯	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	10YR8.4 浅黄緑	10YR8.4 浅黄緑	中・少	中・少	—	—	—	2.8	
655	SDe3	F12	土師器	杯	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	10YR8.2 灰白	10YR8.3 浅黄緑	中・少	中・少	—	—	—	4.8	
656	SDe3	F12	土師器	碗	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	10YR8.4 浅黄緑	10YR8.4 浅黄緑	中・少	中・少	—	—	—	破片	
657	SDe3	F12	土師器	碗	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	2.5Y7.2 灰黄	2.5Y7.1 灰白	中・少	中・少	—	—	—	破片	
658	SDe3	F12	土師	須臾器	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	7.5Y7.1 灰白	5Y6.0 灰	中・少	中・少	—	—	—	1.8	
659	SDe3	F12	土師	青磁	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	輪: 10GY8.1 明緑灰 輪: 7.5Y6.3 オリー テ黄	輪: 7.5Y8.1 灰白 輪: NS/ 灰白	中・少	中・少	—	—	—	1.8	
660	SDe3	F12	土師	青磁	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	10YR8.3 浅黄緑	10YR8.3 浅黄緑	中・少	中・少	—	—	—	1.8	
661	SDe3	F12	土師器	罐	ヨコナテ ナテ 指オ中ニ後 ナテ	指オ中ニ後 ナテ	指オ中ニ後 ナテ	10YR8.3 浅黄緑	10YR8.3 浅黄緑	中・少	中・少	—	—	—	1.8	
662	SDe3	F12	土師器	足釜	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR8.3 浅黄緑	10YR8.3 浅黄緑	中・少	中・少	—	—	—	1.8	
663	SDe3	F12	土師器	足釜	指オ中ニ後 ナテ	指オ中ニ ナテ	指オ中ニ ナテ	10YR8.3 浅黄緑	10YR8.3 浅黄緑	中・多	中・多	—	—	—	破片	
664	SDe3	F12	土師器	変	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	2.5Y4.1 黄灰	5B5.1 青灰	中・少	中・少	—	—	—	1.8	
666	SDe3	F12	土師器	杯	同転ナテ 同転 ヘラ知り	同転ナテ	同転ナテ	10YR8.3 浅黄緑	10YR8.3 浅黄緑	中・少	中・少	12.1	3.3	7.7	—	8.8



第5表 西木別遺跡V出土器観察表(21)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量(cm)		備考		
						外周	内周	外部	内部	石炭、灰白	赤色胚、内灰石	口径	器高		底径	その他
667	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	10YR8/2灰黄褐	7.5YR7/4にぶい橙			口径 器高	2.3 6.6	—	4.8	
668	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙			口径 器高	1.22 2.6	7.5	—	8.8
669	SDe45	F12	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	地上	10YR8/2灰白	2.5Y8/2灰白				口径 器高	1.11 2.1	6.7	—	5.8
670	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	10YR8/2灰黄褐	10YR8/2灰黄褐			口径 器高	1.16 2.1	7.8	—	3.8
671	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8/6浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙			口径 器高	1.17 2.4	7.0	—	2.8
672	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙			口径 器高	1.18 2.5	7.0	—	4.8
673	SDe45	F12	下層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙			口径 器高	1.19 2.4	7.5	—	5.8
674	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙			口径 器高	1.20 2.3	7.9	—	4.8
675	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙			口径 器高	1.19 2.4	7.2	—	5.8
676	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙			口径 器高	1.20 2.5	7.4	—	3.8
677	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/2灰黄褐			口径 器高	1.20 2.6	7.4	—	3.8
678	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙			口径 器高	1.22 2.3	7.9	—	6.8
679	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/2灰白			口径 器高	1.24 2.9	6.8	—	1.8
680	SDe45	F12	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	地上	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/3浅黄橙				口径 器高	1.25 2.6	8.2	—	8.8
681	SDe45	F12	下層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙			口径 器高	1.34 2.7	6.6	—	1.8
682	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	5YR7/6橙	5YR7/6橙			口径 器高	1.19 6.0	6.1	—	2.8
683	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/2灰白			口径 器高	1.24 2.1	7.8	—	1.8
684	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙			口径 器高	8.5 2.7	5.8	—	7.8
685	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	5YR7/6橙	10YR8/3浅黄橙			口径 器高	8.7 3.1	6.0	—	5.8
686	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/4浅黄橙			口径 器高	6.8 2.7	6.8	—	3.8
687	SDe45	F12	上層	土師器	杯 回転ナナ ヘラ切り後脱状 注頭	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙			口径 器高	6.4 2.5	6.0	—	2.8

第5表 西木副遺跡V出土器観表 (22)

第1分冊

報告書番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量		色調	内部	胎土		口径	底径	底任	その他	備考
						外国	内国			石炭、灰白	赤色砂、向四石					
688	SDe45	F12	上層	土師器	杯	同転ナテ ヘラ切り後ナテ	同転ナテ	7.5YR8/4浅黄緑	5YR7/6黄	中・多	中・少	0.1	2.3	6.0	—	3.8
689	SDe45	F12	上層	土師器	杯	同転ナテ ヘラ切り後瓶状	同転ナテ	7.5YR7/4に赤い黄	10YR8/3浅黄緑	中・多	中・少	0.8	3.0	6.9	—	4.8
690	SDe45	F12	上層	陶器	碗	同転ナテ後編輪 圧痕	同転ナテ後編輪 ナテ	赤・7.5YR2/1黒	赤・5.8/1灰白	細・少	—	—	—	—	—	破片
691	SDe45	F12	上層	土師器	罐鉢	ヨコナテ ナテ後ナテ	ヨコナテ ナテ後ナテ	10YR5/1黒灰	10YR8/2灰白	中・多	中・少	0.0.2	—	—	—	破片
692	SDe45	F12	上層	土師器	罐鉢	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR5/1黒灰	10YR4/1黒灰	細・多	中・多	0.2.4	—	—	—	1.8
693	SDe45	F12	上層	土師器	足臺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR5/2灰黄緑	10YR8/3浅黄緑	中・多	中・少	—	—	—	—	破片
694	SDe45	F12	上層	土師器	足臺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	7.5YR7/6黄	7.5YR5/6浅黄緑	中・多	中・少	—	—	—	—	破片
695	SDe45	F12	上層	土師器	足臺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	7.5YR6/4に赤い黄	10YR7/4に赤い黄緑	中・多	中・少	—	—	—	—	破片
696	SDe45	F12	上層	土師器	足臺	ナテ・指オナテ	ナテ	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/4浅黄緑	中・多	中・少	長さ 3.0	太さ 1.0	—	—	破片
697	SDe45	F12	上層	弥生土器	甕	マメツ	マメツ	10YR8/3浅黄緑	10YR3/1黒	細・多	中・多	—	—	1.00	—	2.8
698	SDe45	F12	上層	弥生土器	鉢	ハケ	ハケ	7.5YR6/4に赤い黄	7.5YR6/6黄	中・多	中・少	—	—	—	—	破片
703	SDe46	F12		瓦器	椀	同転ナテ ミガキ	同転ナテ	N6/灰	N6/灰	細・少	—	—	—	—	—	破片
704	SDe46	F12		土師器	捏鉢	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	5YR7/8黄	5YR7/6黄	中・多	中・多	22.4	—	—	—	1.8
705	SDe46	F12		土師器	足臺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	5YR6/6黄	5YR6/6黄	中・多	中・多	—	—	—	—	破片
706	SDe46	F12		土師器	足臺	同転ナテ	指オナテ	10YR7/2に赤い黄	2.5YR2/2灰黄	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
707	SDe47	F12		土師器	杯	同転ナテ ヘラ切り	同転ナテ	2.5YR3淡黄	2.5YR2/2灰白	中・多	中・少	長さ 6.2	—	—	—	破片
708	SDe47	F12		土師器	杯	同転ナテ ヘラ切り	同転ナテ	10YR2/1黒	2.5Y7/1灰白	中・少	中・少	7.4	1.1	6.6	—	1.8
709	SDe48	F12		土師器	杯	同転ナテ ヘラ切り	同転ナテ	7.5YR8/4浅黄緑	10YR6/3浅黄緑	中・少	中・少	7.0	1.3	6.0	—	1.8
710	SDe48	F12		土師器	杯	同転ナテ	同転ナテ	10YR8/3浅黄緑	10YR8/3浅黄緑	細・少	細・少	7.8	1.2	6.0	—	1.8
711	SDe48	F12		土師器	杯	同転ナテ	同転ナテ	7.5YR7/3に赤い黄	10YR6/2灰黄緑	細・少	細・少	—	—	—	—	破片
712	SDe48	F12		土師器	罐鉢	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR7/4に赤い黄	10YR8/3浅黄緑	中・多	中・多	—	—	—	—	破片
713	SDe48	F12		土師器	眞	ヨコナテ ナテ	板	10YR4/1黒灰	2.5YR2/2灰白	中・少	中・少	6.9.4	—	—	—	1.8
714	SDe48	F12		土師器	足臺	ヨコナテ ナテ	指オ ナテ	2.5YR2/2灰白	2.5YR2/2灰白	中・多	中・多	—	—	—	—	破片
715	SDe48	F12		土師器	足臺	指オナテ ナテ	指オナテ ナテ	10YR7/3に赤い黄	10YR7/2に赤い黄緑	中・多	中・多	長さ 7.4	太さ 3.1	—	—	破片
716	SDe49	F12		土師器	鉢	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	2.5YR2/2灰白	2.5YR2/2灰白	細・多	中・多	—	—	—	—	破片
717	SDe49	F12		土師器	足臺	板	板	5YR7/6黄	—	中・多	中・多	長さ 8.2	太さ 2.3	—	—	破片
718	SK06	F12		土師器	杯	同転ナテ	同転ナテ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	細・少	細・少	6.8	—	—	—	2.8

外部刻  
文体部外刻  
文

スラス六片

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

第5表 西木則遺跡V出土石器観察表 (23)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	標位	種類	器種	調整		色調		胎土		法量 (cm)		備考		
						内面	外面	内部	外部	石片、灰白	赤色粒、向四石	口径	底径		高さ	底径
719	SKe06	F12	土器器	杯	回転ナナ ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	7.5YR8.3 黄褐色	7.5YR8.3 黄褐色	中・少	中・少	10.0	2.1	7.0	—	1.8
720	SKe06	F12	白磁	碗	回転ナナ ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	胎: 5Y7.1 灰白	胎: 5Y7.1 灰白	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
721	SKe06	F12	土器器	足楽	ヨコナナ 高台	ヨコナナ 高台	ヨコナナ	2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.2 灰白	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
722	SKe07-08	F12	須恵器	蓋	回転ヘラ 切り	回転 ナナ	回転ナナ	5YR7.6 黄	5YR7.6 黄	中・少	中・少	8.0	1.1	6.4	—	2.8
723	SKe07-08	F12	灰色砂質土	土器器	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	7.5YR8.6 黄褐色	7.5YR8.6 黄褐色	中・多	中・多	8.3	1.4	6.0	—	7.8
724	SKe07-08	F12	土器器	杯	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	10YR8.3 黄褐色	10YR8.4 黄褐色	中・多	中・多	6.8	1.2	6.2	—	2.8
725	SKe07-08	F12	灰色砂質土	土器器	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	7.5YR8.4 黄褐色	7.5YR8.4 黄褐色	中・少	中・少	8.0	1.5	5.3	—	5.8
726	SKe07-08	F12	土器器	小皿	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	7.5YR8.4 黄褐色	7.5YR8.4 黄褐色	中・少	中・少	8.0	1.5	5.3	—	5.8
727	SKe07-08	F12	灰色砂質土	土器器	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	7.5YR8.4 黄褐色	7.5YR8.4 黄褐色	中・少	中・少	11.4	2.1	7.1	—	6.8
728	SKe07-08	F12	褐色色粘土	土器器	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	10YR8.4 黄褐色	2.5Y8.2 灰白	中・少	中・少	7.8	1.3	6.9	—	2.8
729	SKe07-08	F12	灰色砂質土	土器器	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	10YR8.3 黄褐色	10YR8.3 黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
730	SKe07-08	F12	須恵器	杯	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	2.5Y7.1 灰白	5Y7.1 灰白	中・少	中・少	—	2.9	—	—	破片
731	SKe07-08	F12	陶器	杯	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	2.5Y6.1 黄灰	N6/ 灰	中・少	中・少	—	3.0	—	—	2.8
732	SKe07-08	F12	上層	杯	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	2.5YR6.6 黄	2.5YR6.6 黄	中・少	中・少	10.4	2.7	6.8	—	1.8
733	SKe07-08	F12	白磁	碗	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	胎: 5Y7.2 灰白	胎: 5Y7.2 灰白	中・少	中・少	19.0	—	—	—	破片
734	SKe07-08	F12	灰色砂質土	青磁	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	胎: 5Y6.3 オリーブ黄	胎: 7.5YR7.4 灰黄	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
735	SKe07-08	F12	灰色砂質土	青磁	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	胎: 2.5Y6.1 オリーブ灰	胎: 5Y6.1 灰	中・少	中・少	—	—	6.8	—	3.8
736	SKe07-08	F12	青磁	碗	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	胎: 5Y7.3 灰黄	胎: 2.5Y8.2 灰白	中・少	中・少	—	—	—	—	8.8
737	SKe07-08	F12	灰色砂質土	白磁	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	胎: 2.5Y8.2 灰白	胎: 2.5Y8.2 灰白	中・少	中・少	—	—	3.6	—	5.8
738	SKe07-08	F12	白磁	碗	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	胎: 5Y8.2 灰白	胎: 5Y8.1 灰白	中・多	中・多	0.4	—	—	—	2.8
739	SKe07-08	F12	灰色砂質土	土器器	回転 ヘラ切り	回転 ナナ	回転ナナ	10YR8.4 黄褐色	10YR8.4 黄褐色	中・多	中・多	0.4	—	—	—	2.8

第5表 西木剛遺跡V出土器観察表(24)

第1分冊

報告書番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	外周	内周	色澤	内部	胎土	口径	高さ	底径	その他	備考
740	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ ナア 後オロシ目	ヨコナガ ナア 後オロシ目	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色		胎・多 (20.0)	—	—	—	—	横切半
741	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ 胎オ ナア後オロシ目	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/2 灰白		中・多 (28.4)	—	(13.4)	—	—	2.8
742	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ 胎オ ナア後オロシ目	2.5YR2/2 灰白	2.5YR2/2 灰白		胎・少 (20.0)	—	—	—	—	1.8
743	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ ナア ナア後オロシ目	10YR8/3 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色		胎・多 (21.4)	—	(10.0)	—	—	2.8
744	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ 胎オ ナア後オロシ目	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		中・多 (22.0)	—	(10.8)	—	—	4.8
745	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ 胎オ ナア後オロシ目	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色		胎・多 (23.8)	—	(12.0)	—	—	2.8
746	SX607-08	F12	暗灰色色粘土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ ナア ナア後オロシ目	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色		中・多 (18.8)	—	—	—	—	1.8
747	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ ナア ナア後オロシ目	10YR8/3 浅黄褐色	10YR7/3 に近い黄褐色		胎・多 (34.4)	—	—	—	—	3.8
748	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ ナア 後オロシ目	2.5YR2/2 灰白	2.5YR2/2 灰白		中・多 (28.8)	—	—	—	—	2.8
749	SX607-08	F12	暗灰色色粘土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ ナア 後オロシ目	2.5YR2/2 灰白	2.5YR2/2 灰白		中・多 (28.8)	—	—	—	—	2.8
750	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ ナア 後オロシ目	7.5YR8/4 に近い黄褐色	7.5YR7/4 に近い黄褐色		中・多 (28.8)	—	—	—	—	破片
751	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ ナア 後オロシ目	N5/ 灰	N5/ 灰		胎・少 (28.8)	—	(9.8)	—	—	2.8
752	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ ナア 後オロシ目	2.5YR2/2 灰白	2.5YR2/2 灰白		胎・多 (28.8)	—	(11.8)	—	—	8.8
753	SX607-08	F12	暗灰色色粘土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ ナア 後オロシ目	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		胎・多 (28.8)	—	(13.0)	—	—	2.8
754	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ ナア 後オロシ目	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白		中・多 (28.8)	—	(12.8)	—	—	8.8
755	SX607-08	F12	暗灰色色粘土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ 胎オ ナア後オロシ目	2.5YR2/2 灰白	2.5YR2/2 灰白		中・多 (18.2)	—	—	—	—	3.8
756	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ 胎オ ナア後オロシ目									
757	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ 胎オ ナア後オロシ目	10YR8/2 灰黄褐色	10YR8/2 灰白		中・多 (45.4)	—	—	—	—	4.8 体部にス ズ付着
758	SX607-08	F12	灰色砂土	土師器	甕 ヨコナガ 胎オ サエ 胎オロシ目	ヨコナガ 胎オ ナア後オロシ目	10YR8/2 灰黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色		中・多 (28.8)	—	—	—	—	破片

第5表 西木剛遺跡V出土器観表(25)

第1分冊

器文番号	報告遺跡名	地区名	部位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量(cm)		備考
						外国	内国	外部	内部	石炭、灰白	赤色紅、向四石	窯母	砂粒	
759	SXc07-08	F12	灰色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテハ ナ	ヨコナテ 柄ナ 中工後ナテハ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	7.5YR7/4にふい散	10YR8/3浅黄橙	中・差	—	—	—	破片 体部にス ス付着
760	SXc07-08	F12	褐色土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	10YR4/1 靑灰	2.5YR2/2 灰白	10YR8/3浅黄橙	中・差	—	—	—	2.8 穿孔あり
761	SXc07-08	F12	褐色土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	10YR2/1 黒濁	10YR7/2にふい黄橙	10YR8/3浅黄橙	中・差	24.0	—	—	2.8 穿孔あり
762	SXc07-08	F12	灰色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	7.5YR8/3浅黄橙	2.5YR2/2 灰白	10YR8/3浅黄橙	中・差	24.0	—	—	1.8 体部にス ス付着
763	SXc07-08	F12	土層	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	中・差	23.0	—	—	2.8 穿孔あり
764	SXc07-08	F12	土層	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	10YR5/2灰黄濁	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	中・差	22.2	—	—	1.8 体部にス ス付着
765	SXc07-08	F12	土層	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	中・少	26.4	—	—	4.8 穿孔あり
766	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	10YR8/2灰白	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	中・多	23.0	—	—	1.8
767	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	10YR7/3にふい黄橙	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	中・差	27.4	—	—	1.8
768	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	7.5YR8/2灰白	10YR5/2灰黄濁	10YR5/2灰黄濁	中・多	25.0	—	—	1.8
769	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	2.5Y7/2灰黄	2.5YR2/2 灰白	2.5YR2/2 灰白	細・少	22.8	—	—	1.8
770	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	中・差	—	—	—	破片
771	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	中・多	長さ 11.5	長さ 3.2	—	破片
772	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	2.5YR3/淡黄	—	—	中・差	長さ 10.0	長さ 3.6	—	破片
773	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	10YR7/2にふい黄橙	10YR7/2にふい黄橙	10YR7/2にふい黄橙	中・差	長さ 10.8	長さ 3.1	—	破片
774	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	5YR6/6 橙	—	—	中・多	長さ 12.4	長さ 2.4	—	破片
775	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	2.5YR2/2 灰白	2.5YR2/2 灰白	2.5YR2/2 灰白	細・少	—	—	—	1.8
776	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	10YR8/2灰白	2.5YR1/2 灰白	2.5YR1/2 灰白	中・多	23.2	—	—	1.8
777	SXc07-08	F12	褐色砂質土	土師器	柄ナ ヨコナテ 中工後ナテ ナ	柄ナ ヨコナテ ハケ	—	—	—	中・多	—	—	—	1.8

第5表 西木剛遺跡V出土器観表(26)

第1分冊

器文番号	報告・遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内面	外面	色調	内部	胎土	砂粒	口径	高さ	法量(cm)	底径	その他	備考
778	SXc07-08	F12	灰色砂質土	土師器 壺	ヨコナガ 胎子 ヨコナガ(マフ ア)	瓶ナア	10YR8/3浅黄緑	10YR8/3浅黄緑	10YR8/3浅黄緑	中・並	—	—	—	—	—	—	—	破片
779	SXc07-08	F12	灰色砂質土	土師器 壺	ヨコナガ 胎子 ヨコナガ(マフ ア)	瓶ナア	2.5Y6/2灰黄	2.5Y6/2灰黄	2.5Y5/1黄灰	中・多	—	—	—	—	—	—	—	破片
780	SXc07-08	F12	灰色砂質土	土師器 壺	ヨコナガ 胎子 ヨコナガ(マフ ア)	瓶ナア	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR6/6浅黄緑	瓶・並	0.1.0	—	—	—	—	—	—	2.8 備前焼
781	SXc07-08	F12	灰色砂質土	陶器 壺	指オサエ 胎子 指オサエ(後板 ナア)	指オサエ(後板 ナア)	10YR8/4浅黄緑	10YR8/4浅黄緑	10YR8/4浅黄緑	瓶・少	—	—	—	—	—	—	—	2.8 備前焼
782	SXc07-08	F12	灰色砂質土	土師器 火鉢	ヨコナガ 胎子 ヨコナガ(マフ ア)	瓶ナア	10YR8/4浅黄緑	10YR8/4浅黄緑	10YR8/4浅黄緑	瓶・並	0.1.0	—	—	—	—	—	—	1.8
783	SXc07-08	F12	灰色砂質土	土師器 火鉢	指オサエ ナア	瓶ナア	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片
784	SXc07-08	F12	褐色包土	不明 土師器	指オサエ ナア	瓶ナア	10YR7/4に深い黄緑	10YR7/4に深い黄緑	10YR7/4に深い黄緑	中・並	長さ 4.2	太さ 3.1	—	—	—	—	—	破片
790	SXc09-10	F12	褐色包土	土師器 罎	指オサエ 胎子 指オサエ(後板 ナア)	瓶ナア	7.5 Y R 8.6 浅黄緑	7.5 Y R 8.6 浅黄緑	7.5 Y R 8.4 浅黄緑	中・並	長さ 4.2	太さ 3.1	—	—	—	—	—	破片
791	SXc09-10	F12	黄土層	土師器 小皿	指オサエ 胎子 指オサエ(後板 ナア)	瓶ナア	7.5 Y R 8.4 浅黄緑	7.5 Y R 8.4 浅黄緑	7.5 Y R 8.4 浅黄緑	瓶・並	0.2.1	6.4	—	—	—	—	—	3.8
792	SXc09-10	F12	黄土層	土師器 杯	指オサエ 胎子 指オサエ(後板 ナア)	瓶ナア	7.5 Y R 8.4 浅黄緑	7.5 Y R 8.4 浅黄緑	7.5 Y R 8.4 浅黄緑	瓶・少	1.06	1.5	6.6	—	—	—	—	7.8
793	SXc09-10	F12	黄土層	土師器 長	ヨコナガ 胎子 ヨコナガ(マフ ア)	瓶ナア	2.5 Y R 7.4 灰赤	2.5 Y R 7.4 灰赤	2.5 Y R 7.4 灰赤	瓶・少	—	—	—	—	—	—	—	7.8
794	SXc09-10	F12	黄土層	土師器 罎	ヨコナガ 胎子 ヨコナガ(マフ ア)	瓶ナア	10 Y R 8.2 灰白	10 Y R 8.2 灰白	10 Y R 8.2 灰白	瓶・少	—	—	—	—	—	—	—	破片
795	SXc09-10	F12	須恵器	土師器 罎	ヨコナガ 胎子 ヨコナガ(マフ ア)	瓶ナア	N 6 灰	N 6 灰	5 Y 6/1 灰	中・並	0.6.0	—	—	—	—	—	—	1.8
796	SXc09-10	F12	土師器	足袋	ヨコナガ 胎子 ヨコナガ(マフ ア)	瓶ナア	10 Y R 6.3 に深い黄緑	10 Y R 6.3 に深い黄緑	10 Y R 7.3 に深い黄緑	中・並	0.0.4	—	—	—	—	—	—	2.8
797	SXc09-10	F12	土師器	足袋	指オサエ 胎子 指オサエ(後板 ナア)	瓶ナア	10 Y R 7.4 に深い黄緑	10 Y R 7.4 に深い黄緑	—	中・少	長さ 15.6	太さ 2.6	—	—	—	—	—	破片
798	SXc09-10	F12	土師器	罎	指オサエ 胎子 指オサエ(後板 ナア)	瓶ナア	10 Y R 4.1 靑灰	10 Y R 4.1 靑灰	2.5 Y 6.2 灰黄	瓶・並	—	—	—	—	—	—	—	破片
799	SXc09-10	F12	土師器	罎	指オサエ 胎子 指オサエ(後板 ナア)	瓶ナア	2.5 Y 8.2 灰白	2.5 Y 8.2 灰白	2.5 Y 8.2 灰白	中・少	0.1.2	—	—	—	—	—	—	2.8
800	SXc09-10	F12	須生土器	高杯	ヨコナガ	瓶ナア	2.5 Y 7/1 灰白	2.5 Y 7/1 灰白	10 Y R 7.3 に深い黄緑	瓶・少	—	—	—	—	—	—	—	破片
801	SXc05	E13	土師器	杯	指オサエ 胎子 指オサエ(後板 ナア)	瓶ナア	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	2.5Y8/2灰白	瓶・並	0.1.3	—	—	—	—	—	—	1.8
802	SXc11	F12	土師器	杯	指オサエ 胎子 指オサエ(後板 ナア)	瓶ナア	7.5 Y R 8.3 浅黄緑	7.5 Y R 8.3 浅黄緑	10 Y R 8.2 灰白	瓶・少	0.2.2	2.2	6.8	—	—	—	—	3.8
803	SXc11	F12	土師器	杯	指オサエ 胎子 指オサエ(後板 ナア)	瓶ナア	10 Y R 8.2 灰白	10 Y R 8.2 灰白	10 Y R 8.2 灰白	中・少	9.1	1.7	4.9	—	—	—	—	4.8

第5表 西木剛遺跡V出土器観表(27)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査	内面	外面	色調	内部	胎土	胎母	鈔粒	口径	器高	底径	その他	備考
894	SXel1	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 7.2に赤い黄褐色	10 Y R 7.2に赤い黄褐色	10 Y R 7.2に赤い黄褐色	無	無	細・少	8.0	1.7	4.4	—	破片
895	SXel1	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	無	無	細・少	8.0	1.4	6.8	—	5.8
896	SXel1	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.2灰白	10 Y R 8.2灰白	10 Y R 8.2灰白	無	無	中・少	8.8	2.0	5.5	—	6.8
897	SXel1	F12	煮皿	鉢	輪	同転ナデ	同転ナデ	輪・GY6.1オリーブ	輪・N7/灰白	—	—	—	—	—	—	—	—	破片
898	SXel1	F12	土師器	鍋	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 3.7黒褐色	10 Y R 7.3に赤い黄褐色	10 Y R 7.3に赤い黄褐色	無	無	細・少	8.0	—	—	—	破片
899	SXel1	F12	土師器	足釜	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3に赤い黄褐色	10 Y R 8.3に赤い黄褐色	無	無	中・少	—	—	—	—	破片
899	SXel1	F12	土師器	足釜	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3に赤い黄褐色	10 Y R 8.3に赤い黄褐色	無	無	中・少	長さ 12.1 3.2	—	—	—	破片
899	SXel1	F12	土師器	足釜	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3に赤い黄褐色	10 Y R 8.3に赤い黄褐色	無	無	中・少	—	—	—	—	破片
899	SXel1	F12	陶器	甕	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	2.5 Y 6.3に赤い黄褐色	2.5 Y 6.3に赤い黄褐色	2.5 Y 6.3に赤い黄褐色	無	無	中・少	—	—	—	—	破片
899	SXel1	F12	須恵貫土製品	土師器	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N 8/灰白	—	—	—	—	—	—	—	—	—	破片
899	SXel1	F12	土師器	小皿	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.4浅黄褐色	10 Y R 8.4浅黄褐色	10 Y R 8.4浅黄褐色	無	無	中・少	7.0	1.1	4.9	—	5.8
899	SXel2	F12	土師器	小皿	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	無	無	細・少	7.1	2.1	6.1	—	3.8
899	SXel2	F12	土師器	小皿	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	7.5 Y R 8.4浅黄褐色	7.5 Y R 8.4浅黄褐色	7.5 Y R 8.4浅黄褐色	無	無	中・少	7.2	1.5	5.5	—	3.8
899	SXel2	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.4浅黄褐色	10 Y R 8.4浅黄褐色	10 Y R 8.4浅黄褐色	無	無	細・少	7.9	1.8	4.7	—	3.8
899	SXel2	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	無	無	中・少	8.2	1.4	6.0	—	5.8
899	SXel2	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	7.5 Y R 7.3に赤い黄褐色	10 Y R 8.2灰黄褐色	10 Y R 8.2灰黄褐色	無	無	中・少	8.4	1.8	4.8	—	7.8
899	SXel2	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 7.3に赤い黄褐色	10 Y R 7.2灰黄褐色	10 Y R 7.2灰黄褐色	無	無	中・少	8.5	1.7	4.2	—	7.8
899	SXel2	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	無	無	中・少	8.3	2.2	5.1	—	7.8
899	SXel2	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	無	無	中・少	6.0	1.6	4.7	—	3.8
899	SXel2	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	10 Y R 8.3浅黄褐色	無	無	中・少	11.7	2.7	6.7	—	6.8
899	SXel2	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	7.5 Y R 8.4浅黄褐色	7.5 Y R 8.4浅黄褐色	7.5 Y R 8.4浅黄褐色	無	無	細・少	11.8	2.2	6.8	—	2.8
899	SXel2	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	5 Y R 7.6 輪	5 Y R 7.6 輪	5 Y R 7.6 輪	無	無	細・少	11.5	—	—	—	1.8
899	SXel2	F12	陶器	皿	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	輪・5 Y R 7.3浅黄褐色	輪・5 Y R 7.3浅黄褐色	輪・5 Y R 7.3浅黄褐色	無	無	細・少	13.6	—	—	—	破片
899	SXel2	F12	白磁	碗	同転ナデ ヘラ 切り後脱状	同転ナデ	同転ナデ	輪・7.5 Y R 8.1灰白	輪・7.5 Y R 8.1灰白	輪・7.5 Y R 8.1灰白	無	無	細・少	—	—	—	—	破片

第5表 西木別遺跡V出土器観表(28)

第1分冊

器文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量(cm)		備考		
						外周	内周	外部	内部	石灰・雲白	赤色胚・向四石	窯母	鈔粒		口径	器高
829	SKel2	F12		青磁	碗	施釉	施釉	輪・25GY6.1オリー ア灰	輪・25GY6.1オリー ア灰	—	—	—	—	—	1/8	
830	SKel2	F12		青磁	碗	施釉	施釉	輪・10Y6.2オリー ア灰	輪・10Y6.2オリー ア灰	—	—	—	—	—	—	破片
831	SKel2	F12		青磁	碗	施釉	施釉	輪・25GY7.1明オ リーア灰	輪・N7/灰白	—	—	—	—	—	—	破片
832	SKel2	F12		土師器	鉢鉢	ナア・指オサエ	ナア後オロシ目	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	—	—	—	—	—	—	2.8
833	SKel2	F12		土師器	鉢鉢	ヨコナア・指オ サエ・ナア	ヨコナア・ハケ 底オロシ目	10 Y R 8.2 浅黄橙	10 Y R 8.3 浅黄橙	—	—	—	—	—	—	4.8
834	SKel2	F12		土師器	鉢鉢	ナア・指オサエ	ナア後オロシ目	2.5 Y 4.1 黄灰	2.5 Y R 6.4 に近い 黄	—	—	—	—	—	—	1.8
835	SKel2	F12		土師器	碗	指オサエ・ナア・ハケ	指オサエ・ハケ	10 Y R 7.2 に近い 黄橙	10 Y R 7.2 に近い 黄橙	—	—	—	—	—	—	1.8
836	SKel2	F12		土師器	足臺	ヨコナア・指オ サエ・ナア	ヨコナア・指オ サエ・ナア	10 Y R 8.2 灰白	10 Y R 8.2 灰白	—	—	—	—	—	—	1.8
837	SKel2	F12		土師器	足臺	ヨコナア・指オ サエ・ナア	ヨコナア・オサ エ・ハケ	10 Y R 7.3 に近い 黄	10 Y R 7.3 に近い 黄	—	—	—	—	—	—	6.8
838	SKel2	F12		土師器	足臺	ナア・指オサエ	ナア・指オサエ	10YR5.2 灰黄橙	—	—	—	—	—	—	—	破片
839	SKel2	F12		土師器	焙烙	ナア・指オサエ	ナア・指オサエ	10 Y R 4.1 黒灰	10 Y R 4.1 黒灰	—	—	—	—	—	—	破片
840	SKel2	F12		須恵器	葉	ヨコナア・指オ サエ	ヨコナア・指オ サエ	10 Y R 8.3 浅黄橙	10 Y R 8.3 浅黄橙	—	—	—	—	—	—	2.8
842	SDa07	E13		青磁	碗	施釉	施釉	輪・25 G Y 6.1 オ リーア灰	輪・25 G Y 6.1 オ リーア灰	—	—	—	—	—	—	1.8
843	SDa07	E13		青磁	碗	施釉	施釉	輪・25 G Y 6.1 オ リーア灰	輪・25 G Y 6.1 オ リーア灰	—	—	—	—	—	—	破片
844	SDa07	E13		土師器	萬	ヨコナア後ハケ	ヨコナア後ハケ	10 Y R 5.1 黒灰	10 Y R 4.1 黒灰	—	—	—	—	—	—	破片
845	SDa07	E13		土師器	鉢鉢	ヨコナア・指オ サエ・ナア	ヨコナア・指オ サエ・ナア	7.5 Y R 8.4 浅黄橙	7.5 Y R 8.4 浅黄橙	—	—	—	—	—	—	破片
846	SDa07	E13		土師器	鉢鉢	ヨコナア後オロ シ目	ヨコナア後オロ シ目	10 Y R 8.2 灰白	10 Y R 8.2 灰白	—	—	—	—	—	—	2.8
847	SDa07	E13		土師器	足臺	ヨコナア・指オ サエ・ナア	ヨコナア・指オ サエ・ナア	10 Y R 8.2 灰白	10 Y R 8.2 灰白	—	—	—	—	—	—	1.8
848	SDa07	E13		土師器	碗	ヨコナア・指オ サエ・ナア	ヨコナア・指オ サエ・ナア	2.5 Y 8.2 灰白	2.5 Y 8.2 灰白	—	—	—	—	—	—	破片
850	SDa03	F12	Y層	土師器	小皿	同転ナア	同転ナア	10YR8.4 浅黄橙	10YR8.4 浅黄橙	—	—	—	—	—	2.8	
851	SDa03	F12		土師器	杯	同転ナア	同転ナア	7.5YR8.6 浅黄橙	7.5YR8.6 浅黄橙	—	—	—	—	—	2.8	
852	SDa03	F12		黒色土師器	碗	ナア・ヨコナア	ナア・ヨコナア	10YR8.2 灰白	2.5Y4.1 黄灰	—	—	—	—	—	—	3.8 A類
853	SDa03	F12	Y層	土師器	足臺	指ナア	—	7.5YR6.6 黄	—	—	—	—	—	—	—	破片
854	13F_SP12	E13		陶器	碗	同転ナア後施釉	同転ナア後施釉	輪・5 G Y 6.1 オリー ア灰	輪・5 G Y 6.1 オリー ア灰	—	—	—	—	—	—	4.8
855	13F_SP12	E13		土師器	足臺	指ナア後ナア	指ナア後ナア	10 Y R 8.2 灰白	—	—	—	—	—	—	—	破片

現存  
長36

現存  
幅31

現存  
厚さ  
3.1



第5表 西木則遺跡V出土器観表(29)

第1分冊

器文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	外周	内周	外部	色調	胎土	胎石	口径	高さ	底径	その他	備考	
856	13F_SP51	E13	尖生土器	蓋	マリア	7.5 Y R 6.4 に近い リニア灰	7.5 Y R 6.4 に近い リニア灰		7.5 Y R 6.4 に近い	内部	石灰、 雲石	砂粒	—	—	—	破片	
857	13F_SP53	E13	青磁	椀	施釉	釉: 2.5 G Y 6.1 リニア灰						細・少	(138)	—	—	1/8	
859	13F_SP140	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り後状 任直	回転ナナ 回転切り後状 任直	10YR8.4 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙				細・多	8.4	1.5	4.4	—	2/8
860	13F_SP182	E13	土師器	杯	回転ナナ 回転切り後ナナ 任直	回転ナナ 回転切り後ナナ 任直	7.5 Y R 8.4 浅黄橙	7.5 Y R 8.4 浅黄橙				中・少	(11.9)	2.1	(7.5)	—	1/8 口縁部に ス付着、灯 明直
861	13F_SP182	E13	土師器	杯	回転ナナ 回転切り後ナナ 任直	回転ナナ 回転切り後ナナ 任直	10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰白				細・少	(13.0)	2.4	(9.2)	—	1/8 内面にス 付着、灯 明直
862	13F_SP182	E13	陶器	灯明 灯	施釉 任直	施釉 任直	釉: 10 Y R 2.1 黒	釉: 2.5 Y 8.2 灰白				細・少	—	—	5.0	—	6/8
863	13F_SP182	E13	青磁	椀	施釉	釉: 7.5GY6.1 緑灰						細・少	—	—	—	—	破片
866	13F_SP209	E13	土師器	足臺	サエナナ 回転ナナ	2.5Y6.1 黄灰	2.5Y6.1 黄灰					中・多	—	—	—	—	破片
867	13F_SP296	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り	回転ナナ 回転切り	7.5YR8.4 浅黄橙	10YR8.2 灰白				細・少	(8.1)	1.3	(6.5)	—	1/8
868	13F_SP131	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り	回転ナナ 回転切り	5YR7.6 橙	5YR7.6 橙				中・少	(8.9)	1.4	(4.4)	—	1/8
869	13F_SP313	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り	回転ナナ 回転切り	2.5YR7.6 橙	2.5YR7.6 橙				中・多	(8.5)	—	(6.2)	—	2/8
870	13F_SP234	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り後ナナ	回転ナナ 回転切り後ナナ	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙				細・少	(9.2)	1.3	(4.4)	—	1/8
871	13F_SP225	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り	回転ナナ 回転切り	10YR5.2 灰黄緑	10YR5.1 緑灰				中・少	(8.8)	1.7	(4.1)	—	1/8
872	13F_SP225	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り	回転ナナ 回転切り	2.5Y7.3 浅黄	5YR7.4 に近い 10 Y R 8.2 灰白				中・少	(8.3)	—	—	—	2/8
873	13F_SP234	E13	土師器	杯	回転ナナ 回転切り後ナナ	回転ナナ 回転切り後ナナ	5 Y R 7.6 橙	10 Y R 8.2 灰白				中・多	(8.5)	1.7	5.9	—	6/8 内面にス 付着、灯 明直
874	13F_SP148	E13	土師器	足臺	ヨコナナ サエナナ 任直	ヨコナナ サエナナ 任直	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙				中・少	—	—	—	—	破片 底部外周 ス付
875	13F_SP145	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り後状任直	回転ナナ 回転切り後状任直	5YR6.4 に近い 10YR8.2 灰白	5YR6.4 に近い 10YR8.2 灰白				細・少	(9.0)	1.3	(6.5)	—	1/8
876	13F_SP273	E13	土師器	漆林	ヨコナナ ハク ハク後オロシ 日	ヨコナナ ハク ハク後オロシ 日	10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰白				中・多	(31.1)	14.3	(12.2)	—	2/8
878	13F_SP431	E13	土師器	足臺	ヨコナナ サエナナ 任直	ヨコナナ サエナナ 任直	10YR8.2 灰白	10YR7.3 に近い 黄橙				細・少	—	—	—	—	破片
880	13E_SP76	E13	土師器	足臺	ヨコナナ サエナナ 任直	ヨコナナ サエナナ 任直	7.5 Y R 6.3 に近い 黄	7.5 Y R 6.3 に近い 黄				中・多	現存 厚さ 長92	幅27	高さ 26	—	破片
881	13E_SP108	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り後ナナ 任直	回転ナナ 回転切り後ナナ 任直	2.5YR 2 灰白	10YR8.3 浅黄橙				細・少	(6.0)	0.9	(5.2)	—	1/8
882	13E_SP122	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り後ナナ 任直	回転ナナ 回転切り後ナナ 任直	7.5 Y R 7.4 に近い 黄	7.5 Y R 7.4 に近い 黄				細・少	(8.0)	1.4	(6.2)	—	2/8
883	13E_SP176	E13	土師器	小皿	回転ナナ 回転切り後ナナ 任直	回転ナナ 回転切り後ナナ 任直	5YR7.5 に近い 黄	5YR7.5 に近い 黄				細・少	(8.9)	1.4	(6.8)	—	1/9
886	13E_SP194	E13	陶器	椀	施釉	釉: 2.5 G Y 5.1 リニア灰	釉: 2.5 G Y 5.1 リニア灰					細・少	—	—	—	—	破片

第5表 西木副遺跡V出土器観察表(30)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	墓位	種類	器種	調査		色調		胎土	法量(cm)		備考
						内面	外面	内部	外部		口径	器高	
887	13E_SP229	E13	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	7.5 Y R 8.6 浅黄褐色	7.5 Y R 8.6 浅黄褐色	—	—	—	—	1.8 口縁部にスズ付着、灯明重
888	13E_SP272	E13	土師器	小皿	同転ナナ	同転ナナ	10 Y R 7.4 に近い黄褐色	10 Y R 7.4 に近い黄褐色	—	—	—	—	1.8 口縁部にスズ付着、灯明重
889	13E_SP285	E13	土師器	足臺	同転ナナ	同転ナナ	5 Y R 6.6 褐色	5 Y R 6.6 褐色	—	—	—	—	—
890	13E_SP287	E13	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	5 Y R 6.6 褐色	5 Y R 6.6 褐色	—	—	—	—	—
891	13E_SP300	E13	白磁	浅鉢	同転ナナ	同転ナナ	7.5 Y R 7.4 に近い黄褐色	7.5 Y R 7.4 に近い黄褐色	—	—	—	—	—
892	13E_SP353	E13	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	2.5 Y 7.2 灰白	2.5 Y 7.2 灰白	—	—	—	—	—
893	13G_SP10	F12	土師器	足臺	同転ナナ	同転ナナ	2.5 Y 7.2 灰白	2.5 Y 7.2 灰白	—	—	—	—	—
894	13G_SP91	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	2.5 Y 7.2 灰白	2.5 Y 7.2 灰白	—	—	—	—	—
895	13G_SP133	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	2.5 Y 7.2 灰白	2.5 Y 7.2 灰白	—	—	—	—	—
896	13G_SP237	F12	土師器	小皿	同転ナナ	同転ナナ	2.5 Y 7.2 灰白	2.5 Y 7.2 灰白	—	—	—	—	—
897	13G_SP255	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	2.5 Y 7.2 灰白	2.5 Y 7.2 灰白	—	—	—	—	—
898	13G_SP296	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	2.5 Y 7.2 灰白	2.5 Y 7.2 灰白	—	—	—	—	—
899	13G_SP312	F12	須恵器	葉形豆丁タテ	同転ナナ	同転ナナ	5 Y R 7.6 褐色	5 Y R 7.6 褐色	—	—	—	—	—
900	13G_SP313	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	5 Y R 7.6 褐色	5 Y R 7.6 褐色	—	—	—	—	—
901	13G_SP331	F12	土師器	浅鉢	同転ナナ	同転ナナ	10 Y R 7.4 に近い黄褐色	10 Y R 7.4 に近い黄褐色	—	—	—	—	—
902	13G_SP370	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	7.5 Y R 8.4 浅黄褐色	7.5 Y R 8.4 浅黄褐色	—	—	—	—	—
903	13G_SP371	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	10 Y R 8.2 灰白	10 Y R 8.2 灰白	—	—	—	—	—
906	13F_SP32	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	7.5 Y R 8.3 浅黄褐色	7.5 Y R 8.3 浅黄褐色	—	—	—	—	—
908	12F_SP41	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	7.5 Y R 8.6 浅黄褐色	7.5 Y R 8.6 浅黄褐色	—	—	—	—	—
909	12F_SP41	F12	陶器	葉形豆丁タテ	同転ナナ	同転ナナ	5 Y R 3 に近い黄褐色	5 Y R 3 に近い黄褐色	—	—	—	—	—
910	12F_SP42	F12	土師器	足臺	同転ナナ	同転ナナ	10 Y R 5.3 に近い黄褐色	10 Y R 5.3 に近い黄褐色	—	—	—	—	—
911	12F_SP72	F12	磁器	浅鉢	同転ナナ	同転ナナ	赤・黒・灰白	赤・黒・灰白	—	—	—	—	—
912	12F_SP78	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	7.5 Y R 8.6 浅黄褐色	7.5 Y R 8.6 浅黄褐色	—	—	—	—	—
913	12F_SP78	F12	土師器	杯	同転ナナ	同転ナナ	7.5 Y R 8.6 浅黄褐色	7.5 Y R 8.6 浅黄褐色	—	—	—	—	—
914	12F_SP84	F12	青磁	浅鉢	同転ナナ	同転ナナ	赤・7.5 Y 6.2 灰ナリ	赤・7.5 Y 6.2 灰ナリ	—	—	—	—	—

第5表 西木剛遺跡V出土器観表 (31)

第1分冊

器文番号	報告遺跡名	地区名	部位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量 (cm)		備考		
						外国	内国	外部	内部	石灰、灰白	赤色紅、内四石	砂粒	口径		器高	底径
915	12F_SP174	F12	土師器	小皿	同転ナデ ハケ ヘラ ヘラ コナ ナデ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR8.4 黄褐色	7.5YR8.4 黄褐色	中・少	中・少	8.2	1.1	5.6	—	1.8
920	12F_SP227	F12	黒色土器	椀	同転ナデ コナ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	2.5YR3.3 淡黄	2.5Y2.1 黒	中・少	中・少	(15.0)	5.0	6.0	—	1.8 A類
921	12F_SP272	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ ヘラ ヘラ ヘラ	同転ナデ	同転ナデ	5YR7.6 橙	5YR7.6 橙	中・少	中・少	—	—	6.8	—	5.8
922	12F_SP272	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR8.4 黄褐色	7.5YR8.4 黄褐色	中・多	中・多	—	—	—	—	破片
923	12F_SP297	F12	須恵器	钵	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	5Y7.1 灰白	5Y7.1 灰白	中・多	中・多	—	—	—	—	破片
934	12F_SP297	F12	土師器	足臺	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3 淡黄	7.5YR7.4 に近い橙	中・少	中・少	長さ 7.9	長さ 3.6	—	—	破片
925	12F_SP308	F12	土師器	鉢	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	2.5YR3.3 淡黄	2.5YR3.3 淡黄	中・少	中・少	(17.8)	8.9	(12.0)	—	3.8
926	12F_SP320	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR7.6 橙	7.5YR7.6 橙	中・少	中・少	(8.4)	1.4	6.3	—	3.8
927	12F_SP328	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR8.4 黄褐色	5YR7.6 橙	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
928	12F_SP328	F12	土師器	鉢	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	10YR7.3 に近い黄褐色	10YR7.3 に近い黄褐色	中・多	中・多	—	—	—	—	破片
930	12F_SP373	F12	土師器	足臺	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.2 黄褐色	—	中・少	中・少	長さ 7.0	長さ 1.9	—	—	破片
931	12F_SP392	F12	青磁	碗	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	胎: 5Y7.2 灰白	胎: 5Y7.2 灰白	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
932	12F_SP392	F12	青磁	碗	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	胎: 5Y7.2 灰白	胎: 5Y7.2 灰白	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
933	12F_SP392	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR8.4 黄褐色	7.5YR8.6 黄褐色	中・少	中・少	10.2	2.6	6.3	—	8.8
934	12F_SP414	F12	須恵器	皿	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	2.5Y6.1 黄灰	2.5Y6.1 黄灰	中・少	中・少	(7.4)	—	—	—	2.8
935	12F_SP415	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	5YR7.6 橙	5YR7.6 橙	中・少	中・少	(9.2)	1.5	6.0	—	3.8
936	12F_SP425	F12	青磁	碗	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	胎: 10Y6.2 オリー フ灰	胎: 10Y6.2 オリー フ灰	中・少	中・少	—	—	6.0	—	2.8
937	12F_SP429	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR7.6 橙	10YR8.3 淡黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
938	12F_SP436	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR8.4 黄褐色	7.5YR8.4 黄褐色	中・少	中・少	(6.5)	1.8	5.6	—	2.8
939	12F_SP436	F12	土師器	足臺	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	10YR7.3 に近い黄褐色	10YR7.4 に近い黄褐色	中・少	中・少	長さ 13.5	長さ 3.0	—	—	—
940	12F_SP438	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰白	中・少	中・少	(9.0)	1.9	6.8	—	3.8
941	12F_SP442	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	5YR7.8 橙	7.5YR8.4 黄褐色	中・少	中・少	(7.8)	1.8	(4.2)	—	1.8
942	12F_SP442	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR8.6 黄褐色	7.5YR8.6 黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
943	12F_SP453	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	5YR7.6 橙	5YR7.3 に近い橙	中・少	中・少	(12.2)	2.4	(7.6)	—	2.8
944	12F_SP472	F12	土師器	杯	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR8.4 黄褐色	10YR8.4 黄褐色	中・少	中・少	(7.9)	1.7	6.0	—	3.8
945	12F_SP487	F12	土師器	足臺	同転ナデ コナ コナ コナ コナ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.4 黄褐色	10YR8.3 黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	—	破片

口縁部に又ス付物、打明り下

第5表 西木剛遺跡V出土器観察表(32)

第1分冊

前文番号	報告遺跡名	地区名	部位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量(cm)		備考
						外周	内周	外部	内部	形状	厚	口径	底径	
946	12F_SP900	F12	土師器	罐鉢	指オコエ後ナ	ナ	ハケ後オコエ目	10YR8.4黄褐色	10YR8.4黄褐色	中・並	—	—	—	破片
947	12F_SP965	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	5YR7.6橙	5YR7.6橙	中・少	8.8	1.9	6.0	—	2.8
948	12E_SP540	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	5YR7.6橙	5YR7.6橙	中・多	—	—	—	—	3.8
949	12F_SP546	F12	土師器	足差	指オコエ後ナ	指オコエ後ナ	10YR5.3にぶい黄褐色	10YR5.3にぶい黄褐色	中・多	—	—	—	—	破片
950	12F_SP558	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	7.5YR8.4黄褐色	7.5YR8.4黄褐色	中・多	—	—	—	—	破片
951	12F_SP691	F12	土師器	足差	指オコエ後ナ	指オコエ後ナ	7.5YR7.6橙	10YR7.4にぶい黄褐色	中・少	22.2	—	—	—	1.8
952	12F_SP900	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	5YR7.6橙	5YR7.4にぶい黄褐色	中・並	6.8	1.8	6.2	—	3.8
953	12F_SP900	F12	磁器	小皿	同転ナ	同転ナ	藍・5B8.1灰白	藍・5B8.1灰白	細・少	—	—	—	—	破片
954	12F_SP962	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	7.5YR7.4にぶい黄褐色	7.5YR7.3にぶい黄褐色	細・少	8.6	1.5	6.8	—	3.8
955	12F_SP962	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	7.5YR7.4にぶい黄褐色	7.5YR7.4にぶい黄褐色	細・少	10.2	2.2	6.9	—	1.8
956	12F_SP970	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	7.5YR8.4黄褐色	7.5YR8.4黄褐色	中・並	9.2	2.1	6.0	—	4.8
957	12F_SP971	F12	土師器	足差	指オコエ後ナ	指オコエ後ナ	10YR8.3黄褐色	10YR8.3黄褐色	細・並	—	—	—	—	破片
960	12F_SP811	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	10YR8.4黄褐色	10YR8.3黄褐色	細・少	12.7	2.3	6.0	—	1.8
962	12E_SP71	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	7.5YR8.4黄褐色	7.5YR8.6黄褐色	中・並	9.0	1.8	4.7	—	8.8
963	12E_SP71	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	10YR8.4黄褐色	10YR8.4黄褐色	細・多	11.4	2.6	6.2	—	2.8
964	12E_SP72	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	10YR8.4黄褐色	7.5YR8.6黄褐色	中・並	6.5	1.7	6.0	—	1.8
965	12E_SP72	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	10YR8.3黄褐色	10YR8.2灰白	中・少	9.1	1.7	4.8	—	2.8
966	12E_SP72	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	7.5YR7.6橙	5YR8.6橙	細・少	10.0	1.7	6.8	—	1.8
967	12E_SP72	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	7.5YR7.6橙	10YR7.4にぶい黄褐色	細・少	12.6	2.1	6.9	—	3.8
968	12E_SP72	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	7.5YR8.4にぶい黄褐色	7.5YR8.4にぶい黄褐色	細・少	12.2	—	—	—	2.8
969	12E_SP72	F12	土師器	足差	ナ	—	10YR5.3にぶい黄褐色	—	細・多	長さ 8.3	太さ 2.1	—	—	破片
970	12E_SP75	F12	土師器	小皿	同転ナ	同転ナ	7.5YR8.6黄褐色	7.5YR8.4黄褐色	中・並	—	—	—	—	破片
972	12E_SP77	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	2.5YR7.6橙	2.5YR7.4淡赤橙	中・並	10.6	2.0	6.4	—	2.8
973	12E_SP90	F12	土師器	杯	同転ナ	同転ナ	7.5YR8.6黄褐色	10YR8.4黄褐色	中・並	11.4	2.1	6.5	—	1.8

第5表 西木剛遺跡V出土器観表 (33)

第1分冊

前文番号	報告遺跡名	地区名	墓位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量 (cm)			備考	
						内面	外面	内部	外部	石炭、灰白	赤色粒、向四石	窯母	砂粒	口径		器高
974	12E_SP96	F12	土師器	杯	同転ナデ ヘラ切り後ナデ	同転ナデ	同転ナデ	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙	5YR7.8 橙	中・少	0.0	3.7	7.5	—	2.8
975	12E_SP96	F12	須恵器	杯	同転ナデ ヘラ切り後ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰	N5/灰	中・少	—	—	1.00	—	1.8
976	12E_SP96	F12	土師器	足差	ヨコナデ 指オ	ヨコナデ	ナデ	2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.2 灰白	中・多	—	—	—	—	破片
977	12E_SP139	F12	土師器	足差	指オサエ 指ナ	指オサエ	指オサエ	7.5Y8.3 におい黄	7.5Y8.3 におい黄	5YR4.3 におい黄	中・多	—	—	—	—	破片
978	12E_SP170	F12	土師器	火鉢	ナデ(マウス) 底ナデ	ナデ(マウス) 底ナデ	底ナデ	5Y3.1 オリーブ黒	5Y3.1 オリーブ黒	5Y3.1 オリーブ黒	中・多	24.3	—	—	—	5.8
979	12E_SP174	F12	陶器	内 蓋	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	輪: 2.5Y8.2 灰白 7.5Y7.7/4 におい黄	輪: 2.5Y8.2 灰白 7.5Y7.7/4 におい黄	10YR7.3 におい黄	黒	—	—	—	—	破片
980	12E_SP174	F12	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	2.5Y5.2 黒灰黄	2.5Y5.2 黒灰黄	10YR7.3 におい黄	中・多	—	—	1.62	—	4.8
981	12E_SP212	F12	土師器	火鉢	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	7.5Y8.4 浅黄橙	7.5Y8.4 浅黄橙	7.5Y8.3 浅黄橙	中・多	—	2.5	—	—	破片
982	12E_SP219	F12	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	中・多	—	—	—	—	破片
983	12E_SP219	F12	土師器	足差	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	7.5Y7.6 橙	7.5Y7.6 橙	7.5Y7.6 橙	中・多	8.2	1.3	0.9	—	1.8
984	12E_SP242	F12	土師器	小皿	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	7.5Y7.1 灰白	7.5Y7.1 灰白	7.5Y7.1 灰白	中・少	—	—	1.6	—	2.8
985	12E_SP242	F12	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR7.2 におい黄	10YR7.2 におい黄	10YR5.2 灰黄陶	中・少	—	—	—	—	破片
986	12E_SP245	F12	土師器	足差	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR7.1 黒陶	10YR7.1 黒陶	10YR5.2 灰白	中・少	19.0	17.4	14.8	—	3.8
987	12E_SP245	F12	土師器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	7.5Y7.1 灰白	7.5Y7.1 灰白	7.5Y7.1 灰白	中・少	長3 3.4	幅1.3	厚さ 1.2	—	8.8
988	12E_SP249	F12	土師器	土師ナデ	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR7.6 橙	7.5YR7.6 橙	5YR6.6 橙	中・多	—	—	—	—	破片
989	12E_SP274	F12	土師器	把手ナデ	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	10YR8.3 浅黄橙	中・多	12.0	3.4	7.3	—	2.8
990	包合層	E15	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	N6/灰	中・多	—	—	—	—	1.8
991	包合層	E15	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	N6/灰	中・多	—	—	—	—	2.8
992	包合層	E15	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白	N6/灰	中・多	—	—	—	—	1.8
998	包合層	E14	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	N6/灰	中・多	—	—	—	—	1.8
999	包合層	E14	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	N6/灰	中・多	—	—	—	—	1.8
1000	包合層	E14	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N6/灰	N6/灰	中・多	—	—	—	—	2.8
1001	包合層	E14	須恵器	高杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白	中・少	—	—	—	—	1.8
1002	包合層	E14	須恵器	高杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	輪: 7.5Y6.2 灰オリーブ 黒	輪: 7.5Y6.2 灰オリーブ 黒	7.5Y7.1 灰白	黒	—	—	—	—	1.8
1009	包合層	E13	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰	N6/灰	中・少	—	—	—	—	2.8



第5表 西木剛遺跡V出土器観表 (35)

第1分冊

報告書番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	調査		色調		胎土		法量 (cm)		備考				
					外周	内周	外部	内部	石炭・灰白	赤色胚・向四石	口径	底径		高さ	その他		
1037	包含層	F12	磁胎陶器	皿	磁輪	輪	輪・25Y7/7明オリーブ灰	胎・7.5Y8.1灰白	内塗			口径 (11.0)	—	—	磁片		
1038	包含層	F12	磁胎陶器	皿	高台脚り出し	磁輪	輪・5Y5.5灰オリーブ灰	胎・5Y5.3灰オリーブ灰				—	—	(6.7)	—	1.8	
1039	包含層	F12	磁胎陶器	碗	磁輪 高台脚り出し 磁胎	磁輪	輪・10Y6.2オリーブ灰	胎・N8/灰白				—	—	(4.9)	—	2.8	
1040	包含層	F12	磁胎陶器	碗	回転ナブ	回転ナブ	7.5Y8.1灰白	N8/灰白				—	—	(4.0)	—	1.8	
1041	包含層	F12	須恵器	碗	回転ナブ	回転ナブ	N8/灰白	N8/灰白				—	—	(14.1)	—	2.8	
1042	包含層	F12	青磁	碗	連弁蓋輪	磁輪	輪・2.5GY6.1オリーブ灰	胎・2.5GY6.1オリーブ灰				—	—	—	—	—	—
1043	包含層	F12	青磁	碗	蓋付高台脚り出し	磁輪	輪・10Y6.2オリーブ灰	胎・5Y8.1灰白				—	—	(6.6)	—	3.8	
1044	包含層	F12	土師器	鍋	ハケ 蓋付高台脚り出し	ハケ	2.5Y7.4灰黄	2.5Y7.4灰黄				中・並 (42.6)	—	—	—	1.8	
1045	包含層	F12	土師器	鍋	ヨコナブ	ハケ	10Y8.2黒褐	10Y8.3灰黄橙				中・並 (20.4)	—	—	—	2.8	
1046	包含層	F12	土師器	鍋	ヨコナブ	ナブ	10Y8.3灰黄橙	10Y8.3灰黄橙				—	—	—	—	—	
1047	包含層	F12	土師器	足臺	ハケ後ナブ	ハケ後ナブ	10Y8.3灰黄	10Y8.3に灰黄橙				—	—	—	—	—	
1048	包含層	F12	陶器	蓋	回転ナブ	回転ナブ	7.5Y8.4灰褐	2.5Y5.2暗灰黄				中・並	—	—	—	—	—
1049	包含層	F12	土師器	管状土埴	管状土埴	—	5Y7.1灰白	—				長 <sup>2</sup> 4.4	幅 <sup>2</sup> 1.3	厚 <sup>2</sup> 1.2	—	8.8	
1050	包含層	F12	土師器	管状土埴	管状土埴	—	5Y7.1灰白	—				長 <sup>2</sup> 4.3	幅 <sup>2</sup> 1.5	厚 <sup>2</sup> 1.3	—	7.8	
1074	SK06	E 9	弥生土器	蓋	ナブ	ハケ ナブ	10Y8.7/4に灰黄橙	2.5Y7.3灰黄	中・多			口径 (14.0)	21.2	2.8	—	5.8	
1075	SK06	E 9	弥生土器	蓋	ナブ	ハケ ナブ	10Y8.7/4に灰黄橙	2.5Y7.3に灰黄橙	中・多			口径 (13.0)	—	—	—	2.8	
1076	SK06	E 9	弥生土器	鉢	ナブ	ハケ ナブ	10Y8.6/4に灰黄橙	10Y8.7/4に灰黄橙	中・並			口径 (21.0)	7.8	3.4	—	3.8	
1077	SK06	E 9	弥生土器	鉢	ナブ	ハケ ナブ	5Y8.6灰黄	5Y8.6灰黄	中・並			口径 (18.4)	8.2	2.0	—	4.8	
1078	SK06	E 9	弥生土器	鉢	ナブ	ハケ ナブ	5Y8.7/6灰黄	5Y8.7/6灰黄	中・多			—	—	—	—	—	
1079	SK06	E 9	弥生土器	付付鉢	ナブ	指オサエ	2.5Y8.2灰白	7.5Y8.7/4に灰黄橙	中・並			—	—	5.6	—	7.8	
1081	SD000	C9	弥生土器	埴	ヨコナブ	ナブ	7.5Y8.6灰黄	7.5Y8.6灰黄	中・並			—	—	—	—	—	
1082	SD000	C9	弥生土器	高杯	ヨコナブ	ハケ ナブ	10Y8.7/3に灰黄橙	10Y8.7/4に灰黄橙	中・多			—	—	—	—	—	
1083	SD001	C9	弥生土器	変	ヨコナブ	ハケ ナブ	7.5Y8.7/4に灰黄橙	7.5Y8.7/4に灰黄橙	中・並			口径 (11.2)	—	—	—	3.8	
1084	SD001	C9	弥生土器	変	ヨコナブ	ハケ ナブ	10Y8.8/4に灰黄橙	10Y8.8/4に灰黄橙	中・並	中・少		口径 (13.7)	—	—	—	2.8	

第5表 西木別遺跡V出土器観表(36)

第1分冊

報告書番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	外国	調査	内面	外面	色調	胎土	口径	器高	底径	その他	備考
1085	SD001	C9	上層	弥生土器	甕	マメフ ヨコナ マメフ	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	10YR8.4 浅黄褐色	2.5Y8.3 淡黄	中・少	0.8(0)	—	—	—	破片
1086	SD001	C9	上層	弥生土器	甕	ヨコナフ ハケ (マメフ)	ハケ(マメフ)	ハケ(マメフ)	7.5YR7.6 橙	7.5YR7.6 橙	中・並	0.5(8)	—	—	—	破片
1087	SD001	C9	下層	弥生土器	甕	ヨコナフ	ヨコナフ	ヨコナフ	7.5YR5.4 に近い 7.5YR6.4 に近い	7.5YR5.4 に近い 7.5YR6.4 に近い	中・並	0.6(4)	—	—	—	破片
1088	SD001	C9	下層	弥生土器	甕	胎内面後部のみ ヨコナフ	胎ナフ	胎ナフ	7.5YR6.4 に近い	10YR6.4 に近い	中・多	—	—	—	—	1.8
1089	SD001	C9	上層	弥生土器	甕	ヨコナフ ハケ	板ナフ	板ナフ	10YR4.1 黒灰	5YR6.6 橙	中・多	—	—	—	—	破片
1090	SD001	C9	下層	弥生土器	甕	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	7.5YR6.4 に近い	7.5YR6.4 に近い	中・並	0.5(0)	—	—	—	破片
1091	SD001	C9	上層	弥生土器	甕	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	10YR6.4 に近い 2.5Y6.2 灰黄	2.5Y6.2 灰黄	中・多	—	—	—	—	破片
1092	SD001	C9	下層	弥生土器	鉢	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	7.5YR7.6 橙	7.5YR6.6 橙	中・並	—	—	—	—	8.8
1093	SD001	C9	下層	弥生土器	鉢	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	2.5Y8.2 灰白	2.5Y8.2 灰白	中・並	—	—	—	—	6.8
1094	SD001	C9	下層	弥生土器	高杯	マメフ ヘラミ ガキ(マメフ)	マメフ ヘラミ ガキ(マメフ)	マメフ ヘラミ ガキ(マメフ)	5YR6.6 橙	5YR6.6 橙	中・並	0.5(9)	—	—	—	2.8
1095	SD001	C9	下層	弥生土器	高杯	ナフ	指ササ ナフ	指ササ ナフ	2.5Y7.4 淡黄	2.5Y8.3 淡黄	中・並	—	—	—	—	8.8
1096	SD001	C9	下層	弥生土器	甕	ハケ(刺繍)	板ナフ	板ナフ	7.5YR6.4 に近い	7.5YR5.4 に近い	中・並	—	—	—	—	8.8
1099	SD002	C9	上層	弥生土器	甕	ヨコナフ	ヨコナフ	ヨコナフ	7.5YR6.6 橙	7.5YR6.6 橙	中・並	0.9(2)	—	—	—	破片
1100	SD003	C9	上層	弥生土器	甕	ヨコナフ	ヨコナフ	ヨコナフ	10YR6.4 に近い	10YR6.3 に近い	中・並	0.6(4)	—	—	—	1.8
1101	SD003	C9	上層	弥生土器	甕	マメフ	マメフ	マメフ	2.5Y7.3 淡黄	2.5Y7.3 淡黄	中・少	—	—	—	—	破片
1103	SD004	E10	下層	弥生土器	甕	マメフ	マメフ	マメフ	7.5YR6.4 に近い	7.5YR6.4 に近い	中・並	0.5(0)	—	—	—	1.8
1104	SD004	E10	下層	弥生土器	甕	マメフ 後割 マメフ	マメフ 後割 マメフ	マメフ 後割 マメフ	10YR5.3 に近い	10YR5.3 に近い	中・並	0.4(2)	—	—	—	1.8
1105	SD004	E10	下層	弥生土器	甕	ハケ 刺繍 ナ ハケ 刺繍 ナ	ハケ 刺繍 ナ ハケ 刺繍 ナ	ハケ 刺繍 ナ ハケ 刺繍 ナ	10YR7.3 に近い	10YR8.3 淡黄褐色	中・並	—	—	—	—	4.8
1106	SD004	E10	上層	弥生土器	甕	ハケ ナフ	ナフ	ナフ	7.5YR5.4 に近い	7.5YR5.4 に近い	中・並	—	—	—	—	5.8
1107	SD004	E10	上層	弥生土器	甕	ヨコナフ	ヨコナフ	ヨコナフ	2.5Y4.1 黄灰	7.5YR7.4 に近い	中・並	0.2(8)	—	—	—	1.8
1108	SD004	E10	下層	土器	杯	ヨコナフ 指サ サ	ヨコナフ 指サ サ	ヨコナフ 指サ サ	10YR5.2 灰黄褐色	10YR7.3 に近い	中・少	—	—	—	—	破片
1109	SD028	E 9	—	縄文土器	浅鉢	ヨコナフ 桑織 文	ヨコナフ 桑織 文	ヨコナフ 桑織 文	10YR8.2 灰白	10YR6.3 に近い	中・並	—	—	—	—	破片
1110	SD029	E 9	最上層	弥生土器	甕	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	10YR8.2 灰白	10YR8.2 灰白	中・並	—	—	—	—	6.1
1111	SD029	E 9	1層	弥生土器	甕	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	マメフ 指ササ エ	7.5YR7.6 橙	7.5YR7.4 に近い	中・多	—	—	—	—	8.8
1112	SD029	E 9	1層	弥生土器	甕	マメフ ハケ	マメフ ハケ	マメフ ハケ	5YR5.8 明赤褐色	5YR5.8 明赤褐色	中・並	0.4(5)	13.3	4.1	—	6.8
1113	SD029	E 9	1層	弥生土器	甕	ヨコナフ ハケ (マメフ)	ヨコナフ ハケ (マメフ)	ヨコナフ ハケ (マメフ)	7.5YR6.4 に近い	7.5YR6.4 に近い	中・並	0.3(2)	—	—	—	1.8
1114	SD029	E 9	1層	弥生土器	甕	ヨコナフ 指サ サ	ヨコナフ 指サ サ	ヨコナフ 指サ サ	10YR7.3 に近い	10YR7.3 に近い	中・多	0.9(5)	—	—	—	1.8
1115	SD029	E 9	—	弥生土器	甕	ハケ(マメフ)ナ フ	ハケ(マメフ)ナ フ	ハケ(マメフ)ナ フ	2.5Y7.1 黒	2.5Y7.1 黒	中・多	—	—	—	—	4.8



第5表 西木剛遺跡V出土器観表 (37)

第1分冊

報告 番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内面	外面	色調	内部	石痕・ 白土	胎土	砂粒	口径	器高	底径	その他	備考	
1116	SDa29	E9	表生土器	鉢	指オキ後ハケナナ	ハケナナ	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/4に赤い黄褐色	中・並	中・並	中・少	細・多	(17.2)	8.0	3.9	—	破片	8・8
1117	SR601	C9南	縄文土器	浅鉢	ナナ	ナナ	2.5Y5.3黄褐色	2.5Y5.3黄褐色	10YR8/3に赤い黄褐色	細・多	中・少	細・少	—	—	—	—	—	破片	—
1118	SR601	C9南	縄文土器	浅鉢	ナナ	ナナ	10YR6/2灰黄褐色	10YR6/2灰黄褐色	10YR6/3に赤い黄褐色	細・多	中・少	細・少	—	—	—	—	—	破片	—
1119	SR601	C9南	縄文土器	浅鉢	ナナ	ナナ	2.5Y5.3黄褐色	2.5Y5.3黄褐色	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	中・少	細・少	—	—	—	—	—	破片	—
1120	SR603	E9	縄文土器	蓋	糸類文ヘラミガキ	ナナ	2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	2.5Y3.1黒褐色	中・並	中・並	細・少	—	—	—	—	—	破片	—
1121	SR603	E9e	縄文土器	深鉢	穴帯文後刷込目糸類文ナナ	糸類文ナナ	10YR6/2灰黄褐色	10YR6/2灰黄褐色	10YR6/2灰黄褐色	細・多	細・少	—	—	—	—	—	—	破片	—
1122	SR603	E9e	下層	縄文土器	糸類文	マツフ	2.5Y4.1黄灰	2.5Y4.1黄灰	2.5Y6.2灰黄褐色	中・並	中・少	—	—	—	—	—	—	破片	—
1123	SR603	E9e	縄文土器	浅鉢	糸類文	マツフ	10YR6/3に赤い黄褐色	10YR6/2灰黄褐色	10YR6/2灰黄褐色	中・多	中・少	細・多	—	—	—	—	—	破片	—
1124	SR603	E9e	中層	縄文土器	浅鉢	マツフ	10YR6/3に赤い黄褐色	2.5Y5.2黄灰黄褐色	2.5Y5.2黄灰黄褐色	中・多	中・少	細・多	—	—	—	—	—	破片	—
1125	SR603	E9e	最上層	縄文土器	浅鉢	ヨコナナ	7.5YR6/4に赤い黄褐色	7.5YR6/4に赤い黄褐色	7.5YR6/4に赤い黄褐色	中・少	中・少	細・少	—	0.3φ	—	—	—	2.8	—
1126	SR603	E9w	表生土器	蓋	ハケ類ヘラミガキ	指オキナナ	7.5YR6/4に赤い黄褐色	7.5YR6/4に赤い黄褐色	7.5YR6.4に赤い黄褐色	細・少	細・少	—	—	—	—	—	—	2.8	—
1127	SR603	E9e	表生土器	裏	ナナ	指オキナナ	7.5YR6/4に赤い黄褐色	7.5YR6.4に赤い黄褐色	7.5YR6.6明褐色	中・並	中・少	—	—	—	—	—	—	破片	—
1128	SR603	E9e	表生土器	裏	ヨコナナ	ヨコナナ	10YR2.1黒褐色	10YR2.1黒褐色	10YR2.1黒褐色	細・少	細・多	細・多	(13.5)	—	—	—	—	破片	—
1129	SR603	E9e	最上層	表生土器	明褐色後コヨコナナ	ヨコナナ	10YR6/3に赤い黄褐色	10YR6/3に赤い黄褐色	10YR6/3に赤い黄褐色	中・多	中・少	細・少	(20.2)	—	—	—	—	1.8	—
1130	SR603	E9e	下層	表生土器	マツフ	ナナ	2.5Y7.1灰白	2.5Y7.1灰白	2.5Y7.2灰黄褐色	細・多	細・少	細・少	—	—	9.2	—	—	7.8	—
1141	SR603	E9e	下層	表生土器	指オキナナ	マツフ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7.2に赤い黄褐色	中・多	中・少	中・少	—	—	—	6.5	—	7.8	—
1142	SR603	E9e	最上層	表生土器	マツフ	マツフ	2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	2.5YR8.2灰白	中・多	中・少	中・少	—	—	—	5.9	—	6.8	—
1143	SR603	E9e	最上層	表生土器	マツフ	マツフ	2.5Y7.2灰白	2.5Y7.2灰白	2.5Y5.1黄灰	中・多	中・並	中・多	—	—	—	5.8	—	6.8	—
1144	SR603	E9e	下層	表生土器	マツフ	マツフ	10YR7.3に赤い黄褐色	2.5Y6.1黄灰	2.5Y6.1黄灰	中・多	中・多	細・少	—	—	7.4	—	—	4.8	—
1145	SR603	E9e	最上層	表生土器	マツフ	マツフ	10YR8.2灰白	2.5YR8.2灰白	2.5YR8.2灰白	中・多	中・並	中・多	—	—	—	—	—	破片	—
1146	SR603	E9	表生土器	高杯	マツフ	マツフ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色	細・多	細・多	中・少	—	—	—	—	—	6.8	—
1148	SK602	C9	須恵器	裏	同転ナナ	同転ナナ	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白	—	—	細・少	24.5	—	—	—	—	破片	—
1149	SK602	C9	土師器	蓋	指オキナナ	指オキナナ	10YR8/3灰黄褐色	10YR8/3灰黄褐色	10YR8/3灰黄褐色	—	—	中・少	—	—	—	—	—	破片	—
1170	SDa65P10	E10	須恵器	裏	同転ナナ	同転ナナ	N6/灰	N6/灰	N6/灰	—	—	中・少	—	—	—	—	—	破片	—
1171	SDa65P10	E10	土師器	足臺	指オキナナ	指オキナナ	10YR7.2に赤い黄褐色	10YR7.2に赤い黄褐色	10YR7.2に赤い黄褐色	—	—	中・少	長さ40	—	—	—	—	破片	—
1173	SDa65P04	E10	土師器	深鉢	ヨコナナ	ヨコナナ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	—	—	中・並	—	—	—	—	—	破片	—
1174	SDa65P01	E10	土師器	鍋	ヨコナナ	ヨコナナ	7.5YR7/3に赤い黄褐色	7.5YR7/3に赤い黄褐色	7.5YR7/3に赤い黄褐色	—	—	中・少	—	—	—	—	—	1.8	—
1175	SDa28Y03	E9w	土師器	小皿	同転ナナ	同転ナナ	7.5YR7/4に赤い黄褐色	7.5YR7/4に赤い黄褐色	7.5YR7/4に赤い黄褐色	—	—	細・少	(6.2)	1.0	(4.2)	—	—	1.8	—

第5表 西木剛遺跡V出土器観表(38)

第1分冊

報告 番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内蔵	外部	色調	内部	石炭・ 灰白	赤色粘 土	胎土	鈔粒	口径	器高	法量(cm)	底径	その他	備考
1176	SD012S703	E9w		土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR7/4に赤い ヘラ切り		10YR8.2灰白				中・少	11.0	2.8	6.6	—	—	破片
1177	SA06S702	E10		土師器	深鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8.2灰白		10YR8.2灰白				中・多	(0.9)	—	—	—	—	破片
1178	SA06S706	E10		土師器	深鉢	ナデ	ハケ後ナデ	10YR8.2灰白		10YR8.2灰白				中・多	—	—	(10.4)	—	—	2.8
1179	SA06S707	E10		土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	10YR7/3に赤い黄褐色 2.5YR.2灰白		10YR7/3に赤い黄褐色 2.5YR.2灰白				細・少	0.8	—	—	—	—	1.8
1180	SA06S706	E10		土師器	付属	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.2灰白		10YR8.2灰白				細・少	6.9	0.9	5.2	—	—	7.8
1181	SE601	E9W		土師器	小皿	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3黄褐色		2.5YR.2灰白				細・少	10.4	3.2	7.3	—	—	4.8
1182	SE601	E9W		土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.2灰白		10YR8.2灰白				細・少	(11.2)	3.9	(7.2)	—	—	3.8
1183	SE601	E9W		土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N4.灰		—				細・少	—	—	—	—	—	破片
1184	SE601	E9W		須恵器	深鉢	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR7/3に赤い ヘラ切り後ナデ		10YR8.4に赤い黄褐色				細・多	—	—	—	—	—	破片
1185	SE601	E9W		須恵器	深鉢	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.2灰褐色		10YR8.4に赤い黄褐色				細・多	—	—	—	—	—	破片
1186	SK601	C9	下層	縄文土器	浅鉢	条痕ナデ	条痕ナデ	10YR7/2に赤い黄褐色		10YR7/3に赤い黄褐色				細・少	—	—	(23.2)	—	—	1.8
1188	SD604	C9		土師器	羽蓋	同転ナデ	同転ナデ	10YR7/2に赤い黄褐色		10YR7/3に赤い黄褐色				中・少	(6.9)	0.9	(5.6)	—	—	1.8
1189	SD605	C9	下層	土師器	小皿	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.4黄褐色		10YR7.6明黄褐色				中・少	—	—	—	—	—	破片
1190	SD605	C9	上層	土師器	小皿	マメフ	マメフ	10YR7.6明黄褐色		10YR7.6明黄褐色				中・少	—	—	—	—	—	破片
1191	SD605	C9	上層	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3黄褐色		10YR8.3黄褐色				中・少	—	—	—	—	—	破片
1192	SD605	C9	下層	須恵器	深鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR.1灰白		5YR.1灰白				細・少	—	—	60.0	—	—	破片
1193	SD605	C9	上層	瓦葺	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y5.1黄灰		2.5Y6.3に赤い黄				細・少	—	—	—	—	—	破片
1194	SD605	C9	上層	土師器	深鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR8.2灰褐色		10YR8.1極灰				細・少	—	—	—	—	—	破片
1195	SD605	C9	下層	土師器	足臺	同転ナデ(自然 剥)	同転ナデ(自然 剥)	10YR7.3に赤い黄褐色		—				中・少	—	—	—	—	—	破片
1196	SD605	C9	上層	須恵器	盆	同転ナデ(自然 剥)	同転ナデ(自然 剥)	5P6.1紫灰		3P66.1青灰				中・少	—	—	—	—	—	破片
1197	SD605	C9	上層	陶器	甕	同転ナデ	同転ナデ	2.5Y4.1黄灰		2.5Y5.1黄灰				細・多	—	—	(10.1)	—	—	破片
1198	SD605	C9	下層	須恵器	甕	同転ナデ	同転ナデ	2.5Y7.6/1オリーブ 灰		N6/灰				中・少	(15.0)	—	—	—	—	1.8
1199	SD606	C9		土師器	深鉢	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.4黄褐色		10YR8.4黄褐色				中・少	—	—	—	—	—	破片
1200	SD607	C9		須恵器	甕	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰		N6/灰				中・少	—	—	—	—	—	破片
1203	SD611	C9	下位	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	5YR7.6極		5YR7.6極				細・少	0.0	—	—	—	—	1.8
1204	SD611	C9	上層	土師器	深鉢	同転ナデ	同転ナデ	5YR7.4に赤い ヘラ切り後ナデ		7.5YR7.4に赤い ヘラ切り後ナデ				中・少	—	—	—	—	—	破片
1205	SD611	C9	上層	土師器	深鉢	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3黄褐色		10YR8.3黄褐色				中・少	—	—	—	—	—	破片
1206	SD611	C9	上位	土師器	深鉢	同転ナデ	同転ナデ	2.5Y8.3黄灰		2.5Y8.3黄灰				細・多	—	—	—	—	—	破片
1207	SD611	C9	下層	陶器	深鉢	同転ナデ	同転ナデ	2.5YR7.4灰黄褐色 ヘラ切り後ナ デ		2.5YR5.3に赤い黄 褐色				中・少	—	—	6.9	—	—	1.8

第5表 西木別遺跡V出土器観表(39)

第1分冊

報告 番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内面	外面	色調	胎土	口径	器高	底径	その他	備考	
1208	SDa1	C9	上層	土師器	足窯	ヨコナテ	ナテ	ヨコナテ	10YR8/3浅黄褐色	中・少	24.2	—	—	—	破片	
1209	SDa1	C9	下層	土師器	足窯	ヨコナテ	ナテ	ヨコナテ	10YR7/2にふい黄褐色	中・少	—	—	—	—	破片	
1210	SDa1	C9	下層	土師器	足窯	ヨコナテ	板ナ	ヨコナテ	10YR7/4にふい黄褐色	中・少	—	—	—	—	破片	
1211	SDa1	C9	下層	土師器	足窯	指ササ	指ササ	—	2.5YR.2灰白	中・多	—	—	—	—	破片	
1212	SDa1	C9	下層	土師器	風	板ナ	ナテ	マメフ	10YR7/4にふい黄褐色	中・多	—	—	—	—	破片	
1213	SDa1	C9	下層	須恵器	須恵器	板ナ	ナテ	同板ナ	N7/灰白	中・少	—	—	(7.6)	—	3.8	
1214	SDa1	C9	下層	須恵器	須恵器	同板ナ	ナテ	同板ナ	7.5B5.3にふい赤褐色	中・少	—	—	—	—	—	破片
1218	SDa2	C9	下層	須恵器	須恵器	同板ナ	ナテ	同板ナ	7.5YR8.4浅黄褐色	中・少	0.30	—	—	—	—	破片
1219	SDa2	C9	下層	須恵器	須恵器	同板ナ	ナテ	同板ナ	2.5YR.7.1灰白	中・少	—	—	—	—	—	破片
1221	SDa7	E10	上層	土師器	杯	同板ナ	ナテ	同板ナ	10YR8.2灰白	中・少	8.0	1.3	(6.8)	—	—	1.8
1222	SDa7	E10	上層	土師器	杯	同板ナ	ナテ	同板ナ	10YR7/2にふい黄褐色	中・少	—	—	—	—	—	5.8
1223	SDa7	E10	上層	土師器	碗	ナテ	ナテ	ナテ	10YR8.3浅黄褐色	中・少	0.50	—	—	—	—	2.8
1224	SDa7	E10	黒色土師器	碗	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	7.5YR8.3浅黄褐色	中・少	—	—	6.5	—	—	5.8
1226	SDa8	E10	上層	土師器	小皿	同板ナ	ナテ	同板ナ	7.5YR7/4にふい黄褐色	中・少	—	—	—	—	—	破片
1227	SDa8	E10	上層	土師器	盃	ナテ	ナテ	ナテ	10YR5.2灰黄褐色	中・多	—	—	—	—	—	破片
1228	SDa8	E10	赤生土師器	鉢	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	7.5YR7.4にふい黄褐色	中・多	—	—	—	—	—	破片
1229	SDa8	E10	赤生土師器	鉢	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	10YR5.2灰黄褐色	中・多	—	—	—	—	—	2.8
1230	SDa20	E10	上層	土師器	杯	同板ナ	ナテ	同板ナ	2.5YR.2灰白	中・少	—	—	—	—	—	破片
1232	SDa22	E10	須恵器	杯	同板ナ	ナテ	ナテ	ナテ	N6/灰	中・少	—	—	0.4	—	—	1.8
1233	SDa22	E10	須恵器	盃	同板ナ	ナテ	ナテ	ナテ	N7/灰白	中・少	—	—	(1.38)	—	—	1.8
1234	SDa22	E10	青磁	盃	同板ナ	ナテ	ナテ	ナテ	ナテ	中・多	0.4	—	—	—	—	破片
1235	SDa23	E10	土師器	小皿	同板ナ	ナテ	ナテ	ナテ	10YR8.2灰黄褐色	中・多	0.27	—	—	—	—	1.8
1236	SDa23	E10	上層	土師器	小皿	同板ナ	ナテ	ナテ	2.5YR.2灰白	中・少	—	—	—	—	—	破片
1237	SDa23	E10	下層	土師器	杯	同板ナ	ナテ	ナテ	N6/灰	中・少	—	—	—	—	—	1.8
1238	SDa23	E10	須恵器	杯	同板ナ	ナテ	ナテ	ナテ	N7/灰白	中・少	—	—	—	—	—	1.8
1239	SDa23	E10	上層	須恵器	碗	同板ナ	ナテ	ナテ	ナテ	中・多	—	—	—	—	—	破片
1240	SDa23	E10	下層	須恵器	碗	同板ナ	ナテ	ナテ	ナテ	中・多	—	—	—	—	—	破片
1241	SDa23	E10	下層	須恵器	碗	同板ナ	ナテ	ナテ	ナテ	中・多	—	—	—	—	—	1.8

第5表 西木別遺跡V出土器物観察表(40)

第1分冊

報告 番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査			色調		胎土			法量 (cm)			備考		
						外国	内国	内産	外部	内部	石灰・ 雲白	赤色粒	向四石	雲母	砂粒	口径		器高	底径
1242	SDa23	E10	上層	須恵器 瓶	同転ナデ ヘラ切り後ナデ 高土胎付	同転ナデ			5Y4.1灰	10Y5.1灰				中・並	—	4.1	—	5.8	
1243	SDa26-23	E10	上層	須恵器 瓶	同転ナデ ヘラ切り後ナデ 高土胎付	ハケ			7.5Y7.1灰白	7.5Y8.1灰白				細・少	—	6.2	—	3.8	
1244	SDa23	E10	下層	土師器 足菜	指オ 指オ付	ハケ			5Y8.6黄	5Y8.6黄				細・多	径高 3.3 3.3	—	—	破片	
1245	SDa23	E10	下層	須恵器 葉	同転ナデ 平行ナ ナキ 自然焼	同転ナデ 青海 成文後ナデ			N6灰	N6灰				細・少	—	—	—	4.8	
1246	SDa23	E10	下層	須恵器 葉	指オ目タタキ ナ	N3・須灰			N3・須灰	N3・須灰				細・少	—	—	—	破片 焼成不良	
1247	SDa23	E10	下層	須恵器 葉	指オ目タタキ ナ	N6灰			N6灰	N6灰				細・少	—	(16.4)	—	2.8 10.6焼	
1248	SDa23	E10	上層	須恵器 葉	ヘラミガキ ナ ナ	指オ ヘラ切り			10Y8.5.3に赤い黄緑	7.5Y8.6黄				細・並	細・並	—	—	6.8	
1254	SDa24	E10	土師器 小皿	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ			7.5Y8.7.4に赤い黄	7.5Y8.7.4に赤い黄				中・並	7.4	1.4	3.0	—	3.8
1255	SDa24	E10	瓦器 瓦	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ ナ ミガキ	ヨコナデ ナ ミガキ			N3・須灰	N3・須灰				細・多	9.0	1.8	(4.4)	—	2.8
1256	SDa24	E10	土師器 罎	ヨコナデ ナ ナ	ヨコナデ ナ ナ	ヨコナデ ナ ナ			2.5Y8.7.4黄赤	2.5Y8.7.6黄				細・多	61.0	—	—	—	1.8
1257	SDa24	E10	土師器 足菜	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			10Y8.7.4に赤い黄緑	7.5Y8.6黄				中・少	24.0	—	—	—	破片
1258	SDa24	E10	土師器 足菜	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			2.5Y8.6.4に赤い黄	10Y8.2灰白				中・並	—	—	—	—	破片
1259	SDa24	E10	土師器 罎	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			10Y8.7.3に赤い黄緑	7.5Y8.6.4黄赤				中・並	—	—	—	—	破片
1260	SDa24	E10	土師器 足菜	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			7.5Y8.7.6黄	—				中・多	—	—	—	—	破片
1261	SDa24	E10	土師器 足菜	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			10Y8.7.2に赤い黄緑	—				細・並	—	—	—	—	破片
1264	SDa25	E10	土師器 罎	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			7.5Y8.7.3に赤い黄	7.5Y8.4黄赤				中・並	—	—	—	—	破片
1265	SDa25	E10	土師器 罎	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			7.5Y8.7.3に赤い黄	7.5Y8.7.3に赤い黄				中・並	—	—	—	—	破片
1266	SDa25	E10	土師器 罎	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			7.5Y8.4.2灰褐	7.5Y8.4に赤い黄				中・多	67.1	—	—	—	破片
1267	SDa24, 25	E10	土師器 罎	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			10Y8.3黄赤	10Y8.3黄赤				中・少	67.2	—	—	—	破片
1268	SDa24, 25 文点	E10	土師器 罎	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			10Y8.3黄赤	10Y8.3黄赤				中・並	13.0	—	—	—	3.8
1269	SDa26	E10	土師器 杯	同転ナデ ヘラ切り	同転ナデ	同転ナデ			7.5Y8.6.6黄赤	7.5Y8.6.6黄赤				細・少	9.2	1.3	7.0	—	1.8
1270	SDa26	E10	青磁 瓶	同転ナデ 高土胎付	同転ナデ	同転ナデ			輪・2.5GY6.1オリ 子灰	輪・N7/灰白				細・少	13.0	—	—	—	1.8
1271	SDa26	E10	土師器 罎	指オ付 ナ	指オ付 ナ	指オ付 ナ			10Y8.5.2黄赤	10Y8.5.1黄赤				細・多	—	—	17.2	—	1.8
1272	SDa26	E10	土師器 罎	指オ付 ナ	指オ付 ナ	指オ付 ナ			7.5Y8.7.4に赤い黄	—				中・多	—	—	—	—	破片
1273	SDa26	E10	土師器 罎	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ	ヨコナデ 指オ ナ			7.5Y8.6.4黄赤	7.5Y8.6.4黄赤				中・並	26.3	—	—	—	1.8

第5表 西木別遺跡V出土器観表 (41)

第1分冊

順文番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	外周	内周	色調	胎土	胎母	鈔粒	口径	器高	底径	その他	備考	
1274	SDa26	E10	土師器	足差	指オサエ 指ナ	—	10YR7/3に赤い黄斑	—	—	—	細・少	長さ 9.2	太さ 2.4	—	—	破片	
1276	SKa02	C9	中層 黒色土器	椀	マメツ 同転ハヘラミガキ(マメツ)	同転ハヘラミガキ(マメツ)	2.5Y8赤黄	2.5Y7.3浅黄	—	—	中・少	—	—	6.8	—	2.8	
1277	SKa04	E10	須恵器	直	同転ナダ	同転ナダ	N4/灰	10YR3.1黒濁	—	—	中・多	—	—	—	—	破片	
1278	SKa05	E10	土師器	椀	同転ナダ	同転ナダ	7.5YR5.3に赤い濁	7.5YR5.3に赤い濁	—	—	中・多	—	—	—	—	破片	
1279	SKa05	E10	土師器	椀	同転ナダ	同転ナダ	7.5YR5.3に赤い濁	7.5YR5.3に赤い濁	—	—	中・多	—	—	—	—	破片	
1280	SKa05	E10	土師器	足差	指ナナ	指オサエ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	—	—	中・多	—	—	—	—	破片	
1281	SKa04	E9w	縄文土器	浅鉢	マメツ	マメツ	5Y5.1灰	2.5Y4.2黒灰黄	—	—	中・多	—	—	—	—	破片	
1282	SKa04	E9w	弥生土器	羹	マメツ	マメツ	2.5Y7.1灰白	2.5Y8.1灰白	—	—	中・多	—	—	7.0	—	1.8	
1285	SKa04	E9w	土師器	小皿	同転ナダ	同転ナダ	10YR8.4浅黄濁	10YR8.3浅黄濁	—	—	細・少	長さ 8.4	太さ 1.1	6.7	—	2.8	
1286	SKa04	E9w	青磁	皿	同転ナダ後縁輪	同転ナダ後縁輪	胎: 7.5Y5.1灰	胎: 2.5G7.5.1オリーブ	—	—	細・少	10.4	—	—	—	破片	
1287	SKa04	E9w	須恵器	杯	同転ナダ	同転ナダ	N6/灰	N6/灰	—	—	細・少	—	—	—	—	破片	
1288	SKa04	E9w	須恵器	盃	同転ナダ	同転ナダ	5YR5.1黒灰	5YR6.1黒灰	—	—	細・少	—	—	—	—	破片	
1291	SP15	C9	瓦器	椀	同転ナダ	同転ナダ	N5/灰	N4/灰	—	—	細・少	16.0	—	—	—	破片	
1292	SP060	E10	土師器	罎	同転ナダ	同転ナダ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	—	—	中・少	—	—	—	—	破片	
1293	SP072	E10	土師器	杯	同転ナダ	同転ナダ	7.5YR7.4に赤い黄	7.5YR7.4に赤い黄	—	—	細・少	10.0	1.7	6.2	—	1.8	
1295	SP169	E10	土師器	杯	同転ナダ	同転ナダ	10YR8.3浅黄濁	10YR8.3浅黄濁	—	—	細・少	7.6	1.4	6.1	—	1.8	
1296	SP177	E10	土師器	小皿	同転ナダ	同転ナダ	10YR7.4に赤い黄	7.5YR7.4に赤い黄	—	—	細・少	7.0	1.4	5.6	—	1.8	
1297	SP260	E10	土師器	火鉢	同転ナダ	—	2.5Y5.1黄灰	—	—	—	中・多	長さ 7.8	太さ 3.5	1.9	6.8	—	破片
1298	SP01	E9w	土師器	小皿	同転ナダ	同転ナダ	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	—	—	中・少	—	—	—	—	破片	
1299	SP08	E9w	土師器	罎	同転ナダ	同転ナダ	10YR5.2灰黄濁	10YR3.1黒濁	—	—	細・少	—	—	—	—	破片	
1300	SP10	E9w	土師器	須恵器	同転ナダ	同転ナダ	7.5YR7.4に赤い黄	7.5YR7.4に赤い黄	—	—	中・多	20.6	—	—	—	破片	
1301	SKa01	C9	須恵器	羹	同転ナダ	同転ナダ	N8/灰白	N8/灰白	—	—	中・少	10.0	—	—	—	破片	
1302	SKa01	C9	土師器	小皿	同転ナダ	同転ナダ	10YR8.3浅黄濁	10YR8.3浅黄濁	—	—	細・少	0.6	1.0	6.0	—	破片	
1311	SKa08	E10	須恵器	杯	同転ナダ	同転ナダ	7.5YR6.4に赤い黄	7.5YR6.4に赤い黄	—	—	中・少	—	—	—	—	破片	
1312	急合罎	E10	須恵器	杯	同転ナダ	同転ナダ	N6/灰	N6/灰	—	—	中・少	10.0	—	—	—	3.8	
1313	急合罎	E10	須恵器	杯	同転ナダ	同転ナダ	7.5YR6.4に赤い黄	7.5YR6.4に赤い黄	—	—	細・少	14.7	—	—	—	1.8	
1314	急合罎	E10	土師器	浅鉢	同転ナダ	同転ナダ	7.5YR8.4浅黄濁	7.5YR8.4浅黄濁	—	—	細・少	—	—	10.4	—	4.8	
1315	急合罎	E10	土師器	浅鉢	同転ナダ	同転ナダ	7.5YR8.6浅黄濁	7.5YR8.6浅黄濁	—	—	中・少	20.3	—	—	—	2.8	

第5表 西本則遺跡V出土器観表 (42)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内面	外面	色調	内部	石灰、云石	赤色粒	向石	葉母	砂粒	口径	器高	底径	その他	備考
1316	鬼合南	E10	土師器	罎	ヨコナテ 指オ	1	ヨコナテ	ナテ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色					中・多	22.0				1/8
1317	鬼合南	E9w・E10	土師器	罎	ヨコナテ 指オ	1	ヨコナテ	ナテ	10YR8/2灰青褐色	10YR5/3に赤い黄褐色					中・多			(17.9)		3/8
1319	SX08	E9w	須恵器	蓋	同転ナテ	1	同転ナテ	同転ナテ	N5/灰	N5/灰					細・少			5.6		破片
1322	SX09	F6	弥生土器	蓋	同転ナテ	1	同転ナテ	同転ナテ	7.5YR6/3に赤い黄褐色	7.5YR6/2灰青褐色					細・少					8/8
1323	SX09	F6	弥生土器	罎	ヨコナテ	1	ヨコナテ	ハケ	7.5YR5/4に赤い黄褐色	7.5YR5/4に赤い黄褐色					細・少	(15.7)				4/8
1324	SX09	F6	弥生土器	罎	ヨコナテ	1	ヨコナテ	ハケ	10YR6/4に赤い黄褐色	10YR6/3に赤い黄褐色					中・少	(9.2)				3/8
1325	SX09	F6	弥生土器	付木	ヨコナテ	1	ヨコナテ	ナテ	10YR6/4に赤い黄褐色	10YR6/4に赤い黄褐色					中・多	(6.6)				3/8
1326	SX09	F6	弥生土器	高杯	ヨコナテ	1	ヨコナテ	ハケ	5YR6/8褐色	5YR6/8褐色					細・少	(9.0)				破片
1327	SR05	F7	弥生土器	罎	ハケ	1	指オ	ナテ	10YR7/3に赤い黄褐色	10YR6/3に赤い黄褐色					細・少					8/8
1328	SR05	F7	弥生土器	罎	ハケ	1	指オ	ナテ	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/3に赤い黄褐色					細・少			7.0		6/8
1329	SR05	F7	弥生土器	罎	ヨコナテ	1	ヨコナテ	指オ	10YR4/2灰青褐色	10YR4/1褐色					細・少	(13.6)				4/8
1330	SR05	F7	弥生土器	罎	ヨコナテ	1	ヨコナテ	指オ	7.5YR6/6褐色	7.5YR6/6褐色					中・多	(18.0)				1/8
1331	SR05	F7	弥生土器	罎	ヨコナテ	1	ヨコナテ	指オ	5YR6/6褐色	5YR6/6褐色					細・少	(14.0)				1/8
1332	SR05	F7	弥生土器	鉢	ヨコナテ	1	ヨコナテ	指オ	10YR5/4に赤い黄褐色	10YR5/3に赤い黄褐色					中・多	(25.0)				1/8
1333	SR05	E6	弥生土器	鉢	ヨコナテ	1	ヨコナテ	指オ	10YR6/3に赤い黄褐色	10YR6/3に赤い黄褐色					中・多				3.6	6/8
1334	SR05	E6	上層 弥生土器	付木	指オ	1	指オ	ナテ	10YR6/4に赤い黄褐色	10YR6/4に赤い黄褐色					中・多				5.2	4/8
1335	SR05	F7	上層 弥生土器	高杯	ヨコナテ	1	ヨコナテ	ナテ	7.5YR6/4に赤い黄褐色	7.5YR6/4に赤い黄褐色					中・多					7/8
1336	SR05	F7	下層 土師器	罎	ヨコナテ	1	ヨコナテ	ナテ	10YR7/2に赤い黄褐色	10YR7/2に赤い黄褐色					中・少	(15.6)				1/8
1337	SR05	F7	上層 土師器	付木	指オ	1	指オ	ナテ	7.5YR6/6褐色	7.5YR5/3に赤い黄褐色					細・少					破片
1338	SR05	F7	上層 土師器	付木	指オ	1	指オ	ナテ	10YR6/1褐色	10YR6/1褐色					細・少					破片
1339	SR05	F7	須恵器	罎	同転ナテ	1	同転ナテ	同転ナテ	N6/灰	N6/灰					中・少	(12.2)				2/8
1340	SR05	F7	須恵器	罎	同転ナテ	1	同転ナテ	同転ナテ	N7/灰白	N7/灰白					中・少	(13.2)	2.7			1/8
1341	SR05	F7	下層 須恵器	罎	同転ナテ	1	同転ナテ	同転ナテ	N7/灰白	N7/灰白					細・少	(10.0)				2/8
1342	SR05	F7	上層 須恵器	罎	同転ナテ	1	同転ナテ	同転ナテ	N5/灰	N5/灰					中・少	(12.7)				1/8
1343	SR05	F7	上層・下層 須恵器	罎	同転ナテ	1	同転ナテ	同転ナテ	N5/灰	N5/灰					中・少	(13.2)	4.8	(7.3)		4/8
1344	SR05	F7	須恵器	罎	同転ナテ	1	同転ナテ	同転ナテ	N6/灰	N6/灰					細・少				(5.8)	1/8

第5表 西木則遺跡V出土器観察表(43)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内面	外面	色調	内部	石炭、灰白、赤色粒	胎土	胎粒	口径	器高	底径	その他	観年	備考	
1345	SR605	F7	上層	土師器	蓋	ナテ		7.5YR6/6 體	外部	7.5YR6/6 體			細・少	—	—	—	つよみ径2.8	8.8		
1346	SR605	F7	茶灰色粘質土	須臾器	蓋	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白		N6/灰			中・少	—	—	—	つよみ径1.7	3.8		
1347	SR605	F7	上層	須臾器	蓋	回転ナテ	回転ナテ	N6/灰		N6/灰			細・少	—	—	—	つよみ径2.1	1.8		
1348	SR605	F7	上層	瓦質土器	蓋	ヨコナテ	ヨコナテ	2.5Y7/4 淺黄		2.5Y7/3 淺黄			中・少	—	—	—	—	—	破片	
1349	SR605	F7	下層	須臾器	蓋	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白		N7/灰白			細・少	—	—	—	—	—	1.8	
1350	SR605	F7	上層	須臾器	蓋	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白		N7/灰白			中・少	—	—	—	—	—	1.8	
1351	SR605	F7	上層	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白		N7/灰白			細・少	—	—	—	—	—	1.8	
1352	SR605	F7	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白		N7/灰白			細・少	—	—	(10.8)	—	—	2.8	
1353	SR605	F7	上層	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	2.5Y7/4 淺黄		2.5Y7/3 淺黄			細・少	—	—	(12.4)	—	—	1.8	
1354	SR605	F7	上層	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	7.5Y5/1 灰		N6/灰			中・少	—	—	(9.6)	—	—	1.8	
1355	SR605	F7	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	N5/灰		N7/灰白			細・少	—	—	(10.0)	—	—	1.8	
1356	SR605	E6	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	N6/灰		N6/灰			中・少	—	—	(6.0)	—	—	1.8	
1357	SR605	F7	上層	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	5P96/1 青灰		5N9/1 靑灰			中・少	—	—	(10.0)	—	—	3.8	
1358	SR605	F7	茶灰色粘質土	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	5Y7/1 灰白		5Y7/1 灰白			中・少	—	—	(9.8)	—	—	1.8	
1359	SR605	F7	上層	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	N6/灰		N6/灰			細・少	—	—	(11.8)	3.8	(7.4)	—	2.8
1360	SR605	F7	上層	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	N6/灰		N6/灰			細・少	—	—	(11.6)	3.8	(7.6)	—	2.8
1361	SR605	F7	上層	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白		N7/灰白			中・少	—	—	(11.5)	3.6	(7.9)	—	2.8
1362	SR605	E6	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	N6/灰		N5/灰			細・少	—	—	(7.8)	—	—	2.8	
1363	SR605	F7	茶灰色粘質土	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白		N7/灰白			中・少	—	—	(6.1)	—	—	1.8	
1364	SR605	E6	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	5Y6/1 灰		5Y7/1 灰白			細・少	—	—	(16.0)	—	—	1.8	
1365	SR605	F7	茶灰色粘質土	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	5Y7/1 灰白		5Y7/1 灰白			中・少	—	—	(14.5)	—	—	1.8	
1366	SR605	E6	須臾器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白		N7/灰白			細・少	—	—	(10.3)	—	—	1.8	
1367	SR605	F7	須臾器	皿	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	N6/灰		N6/灰			中・少	—	—	(15.9)	2.5	(10.4)	—	1.8
1368	SR605	F7	上層	須臾器	皿	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白		N7/灰白			中・少	—	—	(14.7)	1.9	(11.3)	—	1.8
1369	SR605	F7	須臾器	高杯	紋目ヨコナテ	回転ナテ	回転ナテ	N6/灰		N6/灰			細・少	—	—	—	—	—	1.8	
1370	SR605	F7	須臾器	高杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白		N7/灰白			中・少	—	—	(11.4)	—	—	1.8	

第5表 西木則遺跡V出土器観表(44)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量(cm)			備考		
						外周	内周	外部	内部	石灰、雲白	赤色粒、向四石	雲母	砂粒	口径		器高	底径
1371	SR605	F7	須恵器	平風	同胎ナテ	カキ	同胎ナテ	N6/灰	N7/灰白			中・少	—	—	—	2/8	
1372	SR605	F7	須恵器	平風	同胎ナテ後ナテ	ヘウ張り	ヘウ張り	N7/灰白	N7/灰白			細・少	—	—	—	破片	
1373	SR605	F7	須恵器	甕	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	N6/灰	N6/灰			細・少	—	—	—	甕底片 1/8 穿孔1ヶ所 (108)	
1374	SR605	F7	須恵器	甕	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	N6/灰	N7/灰白			中・少	—	—	—	1/8	
1375	SR605	F7	須恵器	甕	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	N6/灰	N7/灰白			細・少	—	—	—	破片	
1376	SR605	E6	須恵器	甕	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	N6/灰	N6/灰			細・少	(158)	—	—	1/8	
1377	SR605	F7	須恵器	甕	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	N7/灰白	N7/灰白			細・少	(140)	—	—	破片	
1378	SR605	F7	須恵器	甕	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	N7/灰白	N7/灰白			中・少	—	—	—	破片	
1379	SR605	F7	須恵器	甕	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	N4/灰	N5/灰			中・少	—	—	—	破片	
1380	SR605	F7	土師器	甕	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR8.4 黄赤	5YR7.8 橙			細・少	(135)	1.5	7.0	—	1/8
1381	SR605	F7	土師器	杯	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	10YR7.3 に近い黄褐色	7.5YR7.4 に近い橙			細・少	—	—	—	1/8	
1382	SR605	F7	土師器	杯	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	2.5YR.3 淡黄	2.5Y3.1 黒濁			細・少	—	—	—	破片	
1383	SR605	F7	土師器	杯	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	5Y7.2 灰白	5Y7.1 灰白			細・少	—	—	—	破片	
1384	SR605	F7	土師器	杯	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	2.5G7/1 明オリーブ	2.5G7/1 明オリーブ			中・少	—	—	—	4/8	
1385	SR605	F7	土師器	杯	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	7.5YR6.4 に近い橙	2.5YR6.6 橙			細・多	—	—	—	破片	
1386	SR605	F7	土師器	杯	同胎ナテ	同胎ナテ	同胎ナテ	7.5YR7.3 に近い橙	7.5YR7.4 に近い橙			細・少	(75)	—	—	1/8	
1390	SR607	E5	土師器	甕	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	5YR5.6 明赤濁	5YR5.6 明赤濁			中・少	(152)	—	—	3/8	
1391	SR607	E5	土師器	甕	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	10YR5.4 に近い黄濁	10YR5.4 に近い黄濁			中・少	(142)	—	—	1/8	
1392	SR607	E5	土師器	甕	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	7.5YR6.6 橙	7.5YR6.6 橙			中・少	(123)	—	—	1/8	
1393	SR607	E5	土師器	甕	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	10YR8.4 に近い黄濁	10YR8.4 に近い黄濁			細・多	—	—	—	2/8	
1394	SR607	E5	土師器	甕	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	7.5YR5.6 明濁	7.5YR5.4 に近い濁			細・多	—	—	—	3/8	
1395	SR608	F6	土師器	甕	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	10YR6.4 に近い黄濁	10YR6.4 に近い黄濁			細・多	—	—	—	破片	
1396	SR608	F6	土師器	甕	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	10YR6.4 に近い黄濁	10YR6.4 に近い黄濁			細・多	(120)	—	—	2/8	
1397	SR608	F6	土師器	甕	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	2.5Y6.4 に近い黄	2.5Y5.1 黄灰			細・少	—	—	—	2/8	
1398	SR608	F6	土師器	甕	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	10YR6.4 に近い黄濁	10YR6.4 に近い黄濁			細・少	(109)	2.5	6.2	—	2/8
1399	SR608	F6	土師器	甕	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	10YR7.4 に近い黄濁	10YR6.4 に近い黄濁			細・多	—	—	—	破片	



第5表 西本則遺跡V出土器観表 (45)

第1分冊

報告 番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量 (cm)		備考
						外国	内国	外部	内部	石炭・ 白土	赤色粒	向四石	砂粒	
1400	SR608	F6	弥生土器 鉢	弥生土器	鉢	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR6.4に赤い黄褐色	10YR6.3に赤い黄褐色	細・少	細・少	32.0	—	破片
1401	SR608	F6	弥生土器 鉢	弥生土器	鉢	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR7.4に赤い黄褐色	10YR7.4に赤い黄褐色	細・少	細・少	—	2.2	3.8
1402	SR608	F6	弥生土器 高杯	弥生土器	高杯	ハケ ナテ	ハケ ナテ	5YR5.6明赤褐色	5YR5.6明赤褐色	細・少	細・少	—	(18.0)	2.8
1403	SR609	F6	縄文土器 深鉢	縄文土器	深鉢	ナテ	ナテ	5Y4.1灰	5Y4.1灰	粗・多	粗・多	—	—	破片
1404	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR7.6明赤褐色	10YR7.6明赤褐色	中・並	細・少	—	—	破片
1405	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR6.4に赤い黄褐色	10YR6.3に赤い黄褐色	粗・多	中・少	32.0	—	2.8
1406	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	2.5Y5.6黄褐色	10YR6.4に赤い黄褐色	中・多	中・多	25.0	—	8.8
1407	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	7.5YR6.6靑	7.5YR6.6靑	中・並	細・少	21.9	—	破片
1408	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR6.4に赤い黄褐色	2.5Y6.3に赤い黄褐色	中・並	中・並	(18.3)	—	3.8
1409	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR6.4に赤い黄褐色	10YR6.3に赤い黄褐色	粗・多	細・少	25.1	—	4.8
1410	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	5YR6.6靑	2.5Y5.6明赤褐色	粗・少	粗・多	24.0	—	—
1411	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR7.4に赤い黄褐色	10YR6.4に赤い黄褐色	粗・少	粗・少	20.0	—	1.8
1412	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR6.4に赤い黄褐色	10YR6.4に赤い黄褐色	粗・少	粗・少	20.8	—	3.8
1413	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	7.5YR7.6靑	7.5YR7.6靑	粗・少	粗・少	(18.7)	—	1.8
1414	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR7.4に赤い黄褐色	10YR7.1褐灰	粗・並	粗・少	—	—	3.8
1415	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR6.4に赤い黄褐色	10YR6.4に赤い黄褐色	粗・多	粗・並	—	—	2.8
1416	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR7.4に赤い黄褐色	10YR7.3に赤い黄褐色	中・並	粗・少	—	—	3.8
1417	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR7.4に赤い黄褐色	10YR7.4に赤い黄褐色	粗・並	粗・少	—	—	2.8
1418	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR6.4に赤い黄褐色	10YR6.4に赤い黄褐色	粗・並	粗・少	—	—	5.8
1419	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	10YR6.6明赤褐色	10YR6.6明赤褐色	中・並	粗・少	—	—	破片
1420	SR609	F6	弥生土器 壺	弥生土器	壺	ヨコナテ ナテ	ヨコナテ ナテ	2.5Y6.4に赤い黄褐色	2.5Y6.4に赤い黄褐色	粗・多	中・少	(16.0)	—	2.8

第5表 西木則遺跡V出土器観察表(46)

第1分冊

報告書番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内面	外面	色調	土質	石炭・ 灰土	赤色粘 土	向四石	雲母	砂粒	口径	器高	底径	その他	備考
1421	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ 後ナギ(マメフ)	タタ ハケ	75YR6.6 6體	ヨコナガ ハケ 後ナギ(マメフ)	タタ ハケ	25Y7.5 2明灰黄	中・並	中・並			繼・少	0.6(3)	—	—	—	—	横井中 1.8
1422	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	マメ	10YR6.6 明灰黄	ヨコナガ 指オ サエナギナテ	マメ	25Y6.4 に近い黄	繼・並・中・少	繼・並・中・少			中・少	0.6(4)	—	—	—	—	5.8
1423	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	10YR6.4 に近い黄	ヨコナガ(マメ フ) マメフ	ハケ	10YR6.4 に近い黄	繼・並	繼・並			繼・少	0.3(4)	—	—	—	—	2.8
1424	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	10YR6.4 に近い黄	ヨコナガ ハケ ハケ後ナギ	ハケ	10YR6.4 に近い黄	中・並	中・並			中・少	0.3(4)	—	—	—	—	1.8
1425	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	10YR6.4 に近い黄	ヨコナガ 指オ サエナギナテ(マ メフ)	ハケ	10YR6.4 に近い黄	中・多	中・多			繼・少	0.4(8)	—	—	—	—	1.8
1426	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	25Y7.4 黄	ハケ後ナギ	ハケ	25Y7.4 黄	中・並	中・並				0.0(7)	—	—	—	—	1.8
1427	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	25Y7.4 黄	ハケ後ナギ	ハケ	25Y7.4 黄	繼・並	繼・並				9.9	—	—	—	—	5.8
1428	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	75Y3.1 オリーブ黒	ハケ後ナギ 指 オ	ハケ	1.0 YR 6/4 に近 い黄	中・多	中・多				—	—	4.9	—	—	3.8
1429	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	25YR6.6 6體	マメフ	マメフ	10YR6.4 に近い黄	繼・多	繼・多				—	—	2.2	—	—	5.8
1430	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	75YR6.6 6體	ハケ後ナギ(マ メフ)	マメフ	10YR6.6 明灰黄	繼・並	繼・並				—	—	6.0	—	—	3.8
1431	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	25Y7.4 黄	マメフ	マメフ	25Y7.4 黄	繼・多	繼・多				—	—	0.9	—	—	8.8
1432	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	1.0 YR 5/4 に近 い黄	ハケ	マメフ	1.0 YR 6/4 に近 い黄	中・多	中・多				—	—	6.8	—	—	3.8
1433	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	75YR7.6 6體	ヨコナガ ハケ 後ナギナテ	ハケ	10YR6.4 に近い黄	中・並	中・並				0.4(8)	—	—	—	—	1.8
1434	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	25Y7.4 黄	ヨコナガ ハケ 後ナギナテ	マメフ	25Y6.2 灰黄	中・多	中・多				0.4(2)	—	—	—	—	3.8
1435	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	10YR6.3 黄	ヨコナガ ハケ 後ナギナテ	マメフ	10YR7.6 明灰黄	繼・多	繼・多				0.7(8)	—	—	—	—	2.8
1436	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	75YR5.6 明灰黄	ヨコナガ 指オ サエナギナテ	タタ	5Y7.1 黒	中・多	中・多				0.8(4)	—	—	—	—	2.8
1437	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	10YR6.4 に近い黄	ヨコナガ 指オ サエナギナテ	タタ	10YR6.4 に近い黄	繼・並	繼・並				0.4(1)	—	—	—	—	1.8
1438	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	10YR6.4 に近い黄	ヨコナガ 指オ サエナギナテ	タタ	10YR6.4 に近い黄	中・並	中・並				0.4(7)	—	—	—	—	1.8
1439	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	75YR6.6 6體	ハケ	ハケ	25Y7.3 黄	中・並	中・並				0.3(2)	—	—	—	—	1.8
1440	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	10YR6.6 明灰黄	ヨコナガ 指オ サエナギナテ	タタ	10YR6.4 に近い黄	中・並	中・並				0.2(4)	—	—	—	—	4.8
1441	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	25Y6.3 黄	ヨコナガ 指オ サエナギナテ	タタ	25Y6.3 黄	中・並	中・並				0.6(2)	—	—	—	—	1.8
1442	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	10YR7.4 に近い黄	ヨコナガ 指オ サエナギナテ	タタ	10YR7.4 に近い黄	中・少	中・少				—	—	—	—	—	破片
1443	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	5YR4.0 赤黒	ヨコナガ 指オ サエナギナテ	タタ	75YR4.4 黄	中・並	中・並				—	—	—	—	—	破片
1444	SR609	F6	弥生土器 壺	ヨコナガ ハケ	ハケ	75YR4.0 赤黒	ヨコナガ 指オ サエナギナテ	タタ	75YR4.4 黄	中・並	中・並				—	—	—	—	—	破片

第1分冊

第5表 西木則遺跡V出土器観表 (47)

第1分冊

観文番号	観者	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量 (cm)		備考	
							外国	内国	外部	内部	石炭・白土・磁石	赤色粒・内四石	砂粒	口径		器高
1445	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	25Y6.3にぶい黄	25Y6.3黄褐色	25Y6.3黄褐色	中・少	中・少	0.50	—	—	1.8
1446	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	中・少	中・少	0.34	—	—	1.8
1447	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR5.4にぶい黄褐色	10YR5.4にぶい黄褐色	10YR5.4にぶい黄褐色	中・多	中・少	0.78	—	—	1.8
1448	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	25Y6.4にぶい黄褐色	25Y6.6明黄褐色	25Y6.6明黄褐色	中・少	中・少	0.30	—	—	1.8
1449	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	中・少	中・少	0.63	—	—	2.8
1450	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	中・多	中・少	0.88	—	—	1.8
1451	SR609		F6	弥生土器	甕	ナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	中・多	中・多	0.58	—	—	1.8
1452	SR609		F6	弥生土器	甕	ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	7.5YR6.6褐色	7.5YR6.6褐色	7.5YR6.6褐色	中・少	中・少	0.48	—	—	1.8
1453	SR609		F6	弥生土器	甕	ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	25Y6.3灰ナリ	25Y6.3灰ナリ	25Y6.3灰ナリ	中・少	中・少	0.50	—	—	3.8
1454	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR7.4にぶい黄褐色	2.5Y7.4黄褐色	2.5Y7.4黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	破片
1455	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR7.4にぶい黄褐色	10YR7.4にぶい黄褐色	10YR7.4にぶい黄褐色	中・少	中・少	0.30	—	—	2.8
1456	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	1.0YR 6 / 4 にぶい黄褐色	1.0YR 6 / 4 にぶい黄褐色	1.0YR 6 / 4 にぶい黄褐色	中・多	中・多	0.30	—	—	1.8
1457	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR6.3にぶい黄褐色	10YR6.3にぶい黄褐色	10YR6.3にぶい黄褐色	中・少	中・少	0.68	—	—	1.8
1458	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	7.5YR6.6褐色	7.5YR6.6褐色	7.5YR6.6褐色	中・多	中・少	1.18	—	—	2.8
1459	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	中・少	中・少	0.28	—	—	2.8
1460	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	2.5Y7.4黄褐色	2.5Y7.4黄褐色	2.5Y7.4黄褐色	中・少	中・少	0.10	—	—	2.8
1461	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	7.5YR6.4にぶい黄褐色	10YR7.6明黄褐色	10YR7.6明黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	破片
1462	SR609		F6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	中・多	中・多	—	—	—	破片
1463	SR609		F6・E6	弥生土器	甕	ヨコナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.6明黄褐色	10YR6.6明黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	1.8
1464	SR609		F6	弥生土器	甕	ナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	2.5Y4(1)黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	中・多	中・多	—	—	—	3.8
1465	SR609		F6	弥生土器	甕	ナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	7.5YR5.4にぶい黄褐色	2.5Y5.2暗灰黄褐色	2.5Y5.2暗灰黄褐色	中・多	中・多	—	—	—	3.8
1466	SR609		F6	弥生土器	甕	ナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	2.5Y7.4黄褐色	2.5Y7.4黄褐色	2.5Y7.4黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	3.8
1467	SR609		F6	弥生土器	甕	ナテ ハケ (Vマヅフ)	ハケ (Vマヅフ)	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	10YR6.4にぶい黄褐色	中・少	中・少	—	—	—	3.8

第5表 西木則達跡V出土土器観察表 (48)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	外周	内周	色調	胎土	口径	器高	底径	その他	備考
1468	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ		指ナア	外部 10YR6/4に赤い黄褐色 内部 10YR6/4に赤い黄褐色	石炭、 白灰	砂粒	—	—	—	—
1469	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	ヘラテスリ	ヘラテスリ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	5.8
1470	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	指ナア後ナア	ナア(マメツ)	10YR6/4に赤い黄褐色	中・少	—	—	—	—	4.3
1471	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	ヘラテスリ後ハケ	ヘラテスリ後ハケ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	7.8
1472	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	指ナア	ナア	2.5Y6/2灰黄	中・少	—	—	—	—	2.8
1473	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	ヘラテスリ後ナア	ヘラテスリ後ナア	5YR5/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	4.0
1474	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	指ナア後ハケ	10YR7/4に赤い黄褐色	中・少	—	—	—	—	4.3
1475	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	ヘラテスリ	10YR6/6黄褐色	中・多	—	—	—	—	3.3
1476	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	ヘラテスリ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	2.8
1477	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	ヘラテスリ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	1.8
1478	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	ヘラテスリ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	5.1
1479	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	ヘラテスリ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	2.6
1480	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	ヘラテスリ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	8.8
1481	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	ヘラテスリ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	1.0
1482	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	ヘラテスリ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	4.0
1483	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	ヘラテスリ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	4.3
1484	SR609	F6	弥生土器	甕	ハケ	タタ後ハケ	ヘラテスリ	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	6.7
1485	SR609	F6	弥生土器	鉢	ハケ	タタ後ハケ	ナア	5YR5/6用赤褐色	中・多	—	—	—	—	1.2
1486	SR609	F6	弥生土器	鉢	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	8.8
1487	SR609	F6	弥生土器	鉢	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	5.8
1488	SR609	F6	弥生土器	鉢	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	2.8
1489	SR609	F6	弥生土器	鉢	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	6.4
1490	SR609	F6	弥生土器	鉢	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	4.0
1491	SR609	F6	弥生土器	付付鉢	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	17.0
1492	SR609	F6	弥生土器	高杯	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	3.4
1493	SR609	F6	弥生土器	器台	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	62.0
1494	SR609	F6	弥生土器	器台	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	60.8
1495	SR609	F6	弥生土器	鉢	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/6	中・多	—	—	—	—	7.7
1496	SR609	F6	弥生土器	付付鉢	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	4.2
1497	SR609	F6	弥生土器	鉢	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	6.8
1498	SR609	F6	弥生土器	高杯	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	4.3
1499	SR609	F6	弥生土器	器台	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	13.2
1500	SR609	F6	弥生土器	器台	ハケ	タタ後ハケ	ナア	10YR6/4に赤い黄褐色	中・多	—	—	—	—	60.0

第5表 西木別遺跡V出土器観表 (49)

第1分冊

器文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内面	外面	色調	内部	胎土	砂粒	口径	器高	法量 (cm)	底径	その他	備考
1494	SR009	F6	弥生土器	ミナエナエ	指オサエ	ナア	指オサエ	ナア	10YR7.6明黄褐	10YR7.6明黄褐	中・並	中・並	5.3	3.8	21	—	—	7.8
1495	SR009	F6	弥生土器	指オサエ	ナア	指オサエ	ナア	2.5Y6.1黄灰	2.5Y6.1黄灰	2.5Y6.1黄灰	中・並	中・並	—	—	—	4.6	—	1.8
1498	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	タタキ後ハケ	ヨコナエ	ハケ	タタキ後ハケ	7.5YR6.4に赤い黄褐	7.5YR6.4に赤い黄褐	中・並	中・並	0.54	—	—	—	—	1.8
1499	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ヨコナエ	ハケ	ヨコナエ	ハケ	5YR4.4に赤い黄褐	5YR4.4に赤い黄褐	中・並	中・並	0.54	—	—	—	—	3.8
1500	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ハケ	指オサエ	ナア	指オサエ	10YR5.4に赤い黄褐	10YR4.2灰黄褐	中・少	中・多	0.12	—	—	—	—	2.8
1501	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ナア	ナア	ナア	ナア	5YR5.4に赤い黄褐	5YR5.4に赤い黄褐	中・少	中・少	—	—	—	—	—	破片
1502	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	タタキ後ハケ	指オサエ	ナア	ナア	2.5Y5.2暗灰黄	2.5Y5.3に赤い黄	中・並	中・並	14.2	14.9	3.0	—	—	6.8
1503	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ハケ	タタキ後ハケ	ハケ	タタキ後ハケ	7.5YR6.6黄	10YR6.4に赤い黄褐	中・並	中・少	0.174	—	—	—	—	1.8
1504	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	2.5Y5.2暗灰黄	7.5YR5.6明褐	中・並	中・少	—	—	—	—	—	2.8
1505	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	指オサエ	ナア	指オサエ	ナア	7.5YR5.4に赤い黄褐	7.5YR5.4に赤い黄褐	中・並	中・多	—	—	—	3.2	—	3.8
1506	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	5YR5.6明赤褐	2.5YR5.6明赤褐	中・並	中・並	—	—	—	3.5	—	2.8
1507	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	タタキ後ハケ	ナア	ナア	ナア	7.5YR6.4に赤い黄	7.5YR5.4に赤い黄	中・小	中・少	—	—	—	2.0	—	8.8
1508	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	タタキ後ハケ	ナア	ナア	ナア	10YR5.6黄褐	10YR5.6黄褐	中・並	中・少	—	—	—	3.4	—	7.8
1509	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	タタキ後ハケ	ナア	ナア	ナア	10YR5.4に赤い黄褐	10YR5.3に赤い黄褐	中・並	中・少	—	—	—	3.7	—	4.8
1510	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ヨコナエ	指オサエ	ナア	ナア	7.5YR5.3に赤い黄	10YR6.4に赤い黄褐	中・並	中・少	14.8	6.75	4.2	—	—	7.8
1511	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	5YR6.6黄	7.5YR5.4に赤い黄	中・並	中・並	0.22	6.7	0.29	—	—	5.8
1512	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ハケ	ナア	ナア	ナア	5YR4.6赤褐	5YR4.6赤褐	中・並	中・多	12.6	8.0	2.0	—	—	—
1513	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ナア	ナア	ナア	ナア	10YR5.4に赤い黄褐	10YR6.4に赤い黄褐	中・並	中・多	12.7	6.0	3.0	—	—	8.8
1514	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	タタキ後ハケ	ナア	ナア	ナア	10YR6.4に赤い黄褐	10YR6.4に赤い黄褐	中・並	中・並	0.2	4.6	4.4	—	—	5.8
1515	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ナア	ナア	ナア	ナア	7.5YR5.4に赤い黄	5YR5.6明赤褐	中・並	中・少	0.25	—	—	—	—	3.8
1516	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	タタキ後ハケ	ナア	ナア	ナア	10YR6.4に赤い黄褐	10YR5.4に赤い黄褐	中・並	中・少	9.4	7.3	2.1	—	—	7.8
1517	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ナア	ナア	ナア	ナア	2.5Y4.2暗灰黄	2.5Y5.3黄褐	中・少	中・少	0.3	4.0	3.2	—	—	7.8
1518	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ナア	ナア	ナア	ナア	7.5YR5.4に赤い黄	7.5YR6.6黄	中・並	中・並	0.68	6.9	6.7	—	—	2.8
1519	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	指オサエ	ナア	ナア	ナア	7.5YR5.4に赤い黄	10YR5.4に赤い黄褐	中・並	中・並	0.0	2.5	—	—	—	4.8
1520	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ナア	ナア	ナア	ナア	10YR5.4に赤い黄	7.5YR6.4に赤い黄	中・並	中・並	0.4	2.6	0.9	—	—	4.8
1521	SR010	B5	弥生土器	弥生土器	ナア	ナア	ナア	ナア	7.5YR6.4に赤い黄	7.5YR6.4に赤い黄	中・並	中・少	—	—	—	—	—	4.8
1523	SK01	F6	弥生土器	弥生土器	ナア	ナア	ナア	ナア	10YR7.3に赤い黄	10YR5.1極灰	中・並	中・並	0.25	—	—	—	—	2.8

第5表 西木則達跡V出土器類表(50)

第1分冊

順文番号	報告・遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土			法量(cm)			備考				
						内面	外面	内面	外面	石炭・灰白	赤色胚	向四石	雲母	砂粒	口径		器高	底径	その他	
1524	SKo4	F6	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	内面					—	5(0)	—	破片		
1525	SDa3	F7	須臾器	蓋	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	N7/灰白	N7/灰白						—	—	—	3/8		
1526	SDa3	F7	須臾器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	N7/灰白	N7/灰白						中・少	(13.4)	—	3/8		
1527	SDa3	F7	須臾器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	N7/灰白	N7/灰白						中・少	(12.8)	3.5	(4.9)	2/8	
1528	SDa3	E6	須臾器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	N7/灰白	N7/灰白						中・少	(11.8)	3.1	(5.6)	3/8	
1529	SDa3	F7	須臾器	杯	同転ナナ 北瀬1 春 同転ヘラ周	同転ナナ	同転ナナ	N7/灰白	N7/灰白						中・少	—	—	—	破片	
1530	SDa3	F7	須臾器	高杯	同転ナナ 土器	同転ナナ	同転ナナ	N3/灰	N3/灰						細・少	—	—	0(6)	1/8	
1531	SDa3	F7	土器器	同転ナナ 土器	同転ナナ タタキ	同転ナナ	同転ナナ	10YR8/2 灰黄褐色	10YR8/2 灰黄褐色						細・多	—	—	—	破片	
1533	SDa3	F7	須臾器	蓋	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	N7/灰白	N7/灰白						細・少	(13.0)	—	—	1/8	
1534	SDa3	F7	須臾器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	N6/灰	N6/灰						細・少	—	—	—	破片	
1535	SDa3	F7	須臾器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	N5/灰	N5/灰						細・少	—	—	7(4)	1/8	
1537	SDa3	D5	土器器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	10YR7/4 L-赤い黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色						細・少	—	—	6(0)	2/8	
1538	SDa3	E5	須臾器	杯	同転ナナ	同転ナナ	同転ナナ	N6/灰	N6/灰						細・少	—	—	0(7)	1/8	
1539	SDa3	D5	須臾器	森林	同転ナナ	同転ナナ	同転ナナ	2.5Y6/1 黄褐色	5Y6/1 灰						細・少	(26.6)	—	—	破片	
1542	SDa3	D5	須臾器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ 火樽	同転ナナ	N7/灰白	N7/灰白						細・少	—	—	8(7)	破片	
1543	SDa3	D5	須臾器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	N6/灰	7.5Y7/1 灰白						細・少	—	—	0(1)	1/8	
1544	SDa2	D5	須臾器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ 配付係同転ナナ	同転ナナ	同転ナナ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白						細・少	—	—	0(8)	1/8	
1545	SDa3	D5	須臾器	壺	同転ナナ ヘラ切り後ナナ	同転ナナ	同転ナナ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白						細・少	—	—	10(4)	1/8	
1546	SDa3	D5	須臾器	壺	同転ナナ	同転ナナ	同転ナナ	3PB7/1 明青灰	3PB7/1 明青灰						細・少	—	—	—	破片	
1547	SDa3	D5	土器器	蓋	ナナ	ナナ	同転ナナ	10YR7/3 L-赤い黄褐色	10YR8/3 に赤い黄褐色						細・少	—	—	—	—	
1548	SDa1	F5	須臾器	杯	同転ナナ	同転ナナ	同転ナナ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白						細・少	—	—	—	破片	
1549	SKo0	D5	須臾器	杯	同転ナナ ヘラ切り後ナナ 配付係同転ナナ	同転ナナ マヌ	同転ナナ	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰						中・少	—	—	0(3)	—	破片
1550	Sh-20SP6	D5	須臾器	瓶	同転ナナ 高 土器	同転ナナ	同転ナナ	N6/灰	5Y7/1 灰白						細・多	—	—	(4.6)	2/8	

第5表 西木剛遺跡V出土器観表(51)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区区	層位	種類	器種	調査	内蔵	外部	色調	内部	胎土	胎土	胎土	口径	器高	底径	その他	備考
1551	SKa22SF03	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6黄	7.5YR7.6黄		細・多	細・多	8(0)	1.8	4(0)	—	2.8	
1552	SKa22SF07	F6・D5		土師器	小皿	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR6.6黄	7.5YR6.6黄		細・少	細・少	7(6)	1.05	6(0)	—	1.8	
1553	SKa22SF02	F6・D5		土師器	足臺	指オサ	ハケ	2.5YR3.3淡黄	2.5YR7.6黄		細・多	細・多	—	—	—	—	破片	
1554	SKa22SF01	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	5YR7.6黄	5YR7.6黄		細・少	細・少	—	—	7(0)	—	1.8	
1555	SKa22SF01	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	2.5YR3.3淡黄	2.5YR3.3淡黄		細・多	細・多	10(4)	1.8	6(0)	—	1.8	
1556	SKa22SF04	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.4に赤い黄	7.5YR8.4淡黄		細・少	細・少	9(0)	1.7	5(1)	—	5.8	
1557	SKa22SF03	F6・D5		土師器	小皿	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6黄	7.5YR7.6黄		細・少	細・少	7(8)	1.4	6(0)	—	1.8	
1558	SKa22SF03	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	5YR7.6黄	5YR7.6黄		細・少	細・少	11(8)	1.7	7(4)	—	1.8	
1561	SKa22SF05	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6黄	7.5YR7.6黄		細・少	細・少	0(1)	2(1)	6(1)	—	8.2	
1562	SKa22SF05	F6・D5		粘輪陶器	皿	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR6.2灰ナリ一筋	7.5YR6.6黄		無	無	11(0)	3.6	5(1)	—	6.8	
1564	SKa22SF06	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.4に赤い黄	10YR7.4に赤い黄		細・少	細・少	0(8)	—	—	—	1.8	
1565	SKa22SF06	F6・D5		土師器	小皿	回転ナナ	回転ナナ	10YR8.3淡黄	10YR8.6赤		細・少	細・少	7(6)	1.0	6(0)	—	1.8	
1566	SKa5	F6・D5		土師器	足臺	—	—	5YR6.8赤	—		細・多	細・多	長さ4.8	—	—	—	—	
1567	SKa6	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8.6淡黄	7.5YR8.6淡黄		細・多	細・多	—	—	—	—	破片	
1568	SKa6	F6・D5		須恵器	甕	回転ナナ	回転ナナ	2.5Y3.1黄灰	2.5Y5.1黄灰		細・多	細・多	—	—	—	—	破片	
1569	SKa6	F6・D5		須恵器	甕	指オサ後板ナナ	指オサ後板ナナ	N5/灰	N5/灰		細・多	細・多	—	—	—	—	破片	
1570	SKa6	F6・D5		瓦質土器	甕	指オサ後板ハケ	指オサ後板ハケ	5Y3.1ナリ一筋	2.5Y8.1灰白		細・多	細・多	—	—	9(4)	—	3.8	
1571	SKa7	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8.4淡黄	10YR8.4淡黄		細・少	細・少	8.9	1.9	4.9	—	8.8	
1572	SKa7	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	5YR6.6黄	5YR6.6黄		細・少	細・少	8(8)	1.6	4(8)	—	4.8	
1573	SKa7	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8.4淡黄	10YR8.3淡黄		細・少	細・少	8(6)	1.4	6(0)	—	4.8	
1574	SKa7	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	5YR7.6黄	5YR7.6黄		中・少	中・少	0(3)	1.4	6(0)	—	2.8	
1575	SKa7	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	10YR8.4淡黄	7.5YR8.4淡黄		細・少	細・少	8.5	1.8	4(0)	—	7.8	
1576	SKa7	F6・D5		土師器	杯	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8.6淡黄	10YR8.3淡黄		細・少	細・少	9(0)	1.7	5(2)	—	7.8	

第5表 西本則遺跡V出土器観察表(52)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査	内面	外面	色調	内部	胎土	胎粒	口径	器高	底径	その他	備考
1577	SKo17	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	10YR8.4 浅黄緑	10YR8.4 浅黄緑	中・少	8.9	1.8	4.8	—	8.8	
1578	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6 橙	7.5YR8.4 浅黄緑	中・少	(8.7)	1.7	(4.0)	—	3.8	
1579	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6 橙	7.5YR7.6 橙	細・多	8.7	1.8	5.2	—	7.8	
1580	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6 橙	10YR8.3 浅黄緑	細・少	8.5	1.3	2.8	—	8.8	
1581	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6 橙	10YR8.4 浅黄緑	細・少	9.0	1.9	5.0	—	8.8	
1582	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6 橙	7.5YR7.6 橙	細・少	9.0	1.3	3.6	—	8.8	
1583	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	10YR8.4 浅黄緑	10YR8.3 浅黄緑	細・少	8.7	1.95	4.1	—	8.8	
1584	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6 橙	7.5YR7.6 橙	中・少	9.0	1.9	5.1	—	8.8	
1585	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8.6 浅黄緑	7.5YR7.6 橙	細・少	8.3	1.2	5.0	—	8.8	
1586	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6 橙	10YR8.3 浅黄緑	細・少	8.9	1.7	4.1	—	4.8	
1587	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8.6 浅黄緑	2.5Y8.3 淡黄	細・多	8.4	1.7	4.4	—	8.6	
1588	SKo18	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR7.6 橙	10YR8.3 浅黄緑	細・少	6.7	1.7	4.9	—	8.8	
1588	SKo19	F6・D5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	5YR8.4 淡黄	7.5YR8.4 浅黄緑	中・少	9.0	1.85	4.9	—	8.8	
1599	SDo40	F6・E5	須恵器	杯	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8.4 浅黄緑	7.5YR8.4 浅黄緑	細・少	(9.0)	—	—	—	2.8	
1603	SDo40	F6・E5	須恵器	要	ヨコナナ 指オ ナナ 駒目 ナナ ハケ	ヨコナナ ハケ	ヨコナナ	ハケ	2.5Y7.1 灰白	2.5Y7.1 灰白	細・少	(17.3)	—	—	—	破片	
1604	SDo40	F6・E5	須恵器	要	ヨコナナ 指オ ナナ 駒目 ナナ ハケ	ヨコナナ 指オ ナナ 駒目 ナナ ハケ	ヨコナナ	指オ	10YR8.6 黄濁	2.5Y6.3 に近い黄	中・並	—	—	—	—	破片	
1606	SDo40	F6・E5	須恵器	要	ヨコナナ 指オ ナナ 駒目 ナナ ハケ	ヨコナナ 指オ ナナ 駒目 ナナ ハケ	ヨコナナ	指オ	5YR6.6 橙	10YR8.3 に近い黄緑	細・少	(17.4)	—	—	—	破片	
1606	SDo40	F6・E5	瓦葺土器	要	ヨコナナ 指オ ナナ 駒目 ナナ ハケ	ヨコナナ 指オ ナナ 駒目 ナナ ハケ	ヨコナナ	指オ	10YR3.1 黒濁	10YR8.4 に近い黄濁	中・並	(2.0)	—	—	—	破片	
1607	SDo40	F6・E5	土師器	足釜	指オナナ ハケ	指オナナ ハケ	指オナナ ハケ	指オナナ ハケ	10YR8.4 浅黄緑	7.5YR7.6 橙	中・多	長さ 3.2	—	—	—	—	
1608	SDo42	F6・E5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	10YR8.3 浅黄緑	10YR8.3 浅黄緑	細・少	10.0	3.0	6.8	—	7.8	
1609	SDo42	F6・E5	土師器	杯	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	10YR8.3 浅黄緑	10YR8.3 浅黄緑	細・少	10.5	2.3	6.6	—	6.8	
1610	SDo42	F6・E5	土師器	小皿	回転ナナ ヘラ切り後ナナ	回転ナナ	回転ナナ	回転ナナ	7.5YR8.4 浅黄緑	7.5YR8.4 浅黄緑	無	(6.0)	1.0	(5.0)	—	破片	



第5表 西木剛遺跡V出土器観表(53)

第1分冊

報告 番号	報告 遺跡名	地区名	層位	種類	器種	数量	内図	外図	色圖	内部	石炭、 灰白	粘土	向四石	漆	鈔粒	口径	器高	底径	その他	備考
1611	SKol1	F6・ F5	土器器	瓶	ヨコナテ 瓶ナ	ハケ	ヨコナテ	10YR5/3に赤い黄褐色	10YR5/3に赤い黄褐色	内部					細・多	φ25.3	—	—	—	破片
1612	SKol2	F6・ F6	土器器	杯	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/4に赤い黄褐色					細・少	—	—	—	—	破片
1613	SKol2	F6・ F6	須臾器	蓋	同転ナテ 同転ナテ後ヘテ ヘテ ナテ	同転ナテ後ヘテ ナテ	同転ナテ	N5/灰	N5/灰	N5/灰					細・少	(14.8)	2.6	—	—	2.8
1614	SKol2	F6・ F6	上層 須臾器	杯	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白					細・少	—	—	(12.4)	—	1.8
1615	SKol2	F6・ F6	下層 須臾器	鉢	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	2.5Y7.1灰白	2.5Y7.1灰白	2.5Y7.1灰白					細・多	—	—	—	—	破片
1616	SKol2	F6・ F6	土器器	瓶	指ナテ	ナテ	ナテ	10YR4/2灰黄褐色	10YR4/2灰黄褐色	10YR4/2灰黄褐色					細・少	—	—	—	—	破片 扉付着
1617	SKol2	F6・ F6	瓦質土器	蓋	指ナテ	ハケ	ハケ	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/1黄灰					細・少	—	—	—	—	破片 亀山焼
1618	SKol2	F6・ F6	陶器	蓋	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N6/灰	N6/灰	N5/灰					中・多	—	—	—	—	破片 備前
1619	SKol2	F6・ F6	弥生土器	蓋	ヨコナテ(マメ ス)	ヨコナテ	ヨコナテ	5YR6/8褐色	5YR6/8褐色	5YR6/8褐色					細・少	(13.0)	—	—	—	1.8
1620	SKol2	F6・ F6	弥生土器	蓋	ヨコナテ	ハケ後ナテ	ハケ後ナテ	7.5YR7/4に赤い黄褐色	7.5YR7/4に赤い黄褐色	7.5YR7/4に赤い黄褐色					中・多	(12.7)	—	—	—	2.8
1621	SKol2	F6・ F6	土器器	足臺	瓶ナテ後指ナテ	—	—	7.5YR7/4に赤い黄褐色	—	—					細・少	長さ 7.0	太さ 2.8	—	—	1.8
1622	SP017	F7	須臾器	蓋	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白					細・少	(16.8)	—	—	—	破片
1624	SP021	F7	須臾器	杯	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白					細・少	—	—	—	—	破片
1625	SP021	F7	土器器	鉢	ナテ 指オサエ ナテ	ナテ	ナテ	2.5Y7/3黄灰	2.5Y7/3黄灰	2.5Y7/3黄灰					中・多	現在 長さ 10.0	幅 2.1	厚さ 1.3	—	破片
1626	SP034	F7	須臾器	杯	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白					細・少	(11.3)	3.1	(7.1)	—	3.8
1627	SP044	F7	土器器	杯	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/4に赤い黄褐色	10YR7/4に赤い黄褐色					細・少	(8.6)	1.7	(4.6)	—	3.8
1628	SP044	F7	陶器	蓋	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N3/暗灰	N3/暗灰	N3/暗灰					中・多	(13.0)	—	—	—	2.8 備前焼
1630	SP071	F7	土器器	小皿	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	7.5YR7/4に赤い黄褐色	7.5YR7/4に赤い黄褐色	7.5YR7/4に赤い黄褐色					細・少	—	—	—	—	破片
1631	SP074	F7	土器器	鉢	ナテ 指オサエ ナテ	同転ナテ	同転ナテ	10YR5/3黄灰	10YR5/3黄灰	10YR5/3黄灰					中・多	—	—	—	—	破片
1632	SP009	E6	須臾器	蓋	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	N5/灰	N5/灰	N5/灰					細・少	—	—	—	—	破片
1633	SP012	E6	土器器	杯	ナテ	ナテ	ナテ	5YR7/8褐色	5YR7/8褐色	5YR7/8褐色					細・少	(9.6)	2.4	(6.0)	—	破片
1634	SP007	E5	土器器	杯	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	5Y7/2灰白					細・少	(6.4)	0.9	(5.6)	—	1.8
1635	SP010	E5	土器器	小皿	同転ナテ	同転ナテ	同転ナテ	7.5YR8/4黄褐色	7.5YR8/4黄褐色	7.5YR8/4黄褐色					細・多	—	—	—	—	破片
1636	SP066	F6・ F6	土器器	鉢	ヨコナテ 指オ サエ	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR6/3に赤い黄褐色	10YR6/3に赤い黄褐色	10YR6/3に赤い黄褐色					中・多	26.8	—	—	—	1.8
1637	SP112	F5	土器器	足臺	ヨコナテ 瓶ナ テ後ナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR8/3黄褐色	10YR8/3黄褐色	10YR8/3黄褐色					中・多	—	—	—	—	1.8

第5表 西木剛遺跡V出土器観察表(54)

第1分冊

報告書番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	内面	外面	色調	石壁、土灰、土石	胎土	口徑	底径	高さ	重量(gm)	備考	
1638	SP115	F6・D5	土師器	杯	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	7.5YR6.6黄			細・少	—	—	—	破片	
1639	SP115	F6・D5	弥生土器	鉢	ヨコナテ	ハケ	ヨコナテ	7.5YR6.4にふい	中・多		(18.0)	—	—	—	1.8	
1640	SP122	F6・D5	弥生土器	鉢	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	5YR5.6明赤褐	細・中・少	細・並	—	—	—	—	破片 下川津B	
1641	SP123	F6・D5	土師器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	5YR7.6黄			細・少	0.4	—	—	1.8	
1643	SP270	F6・D5	土師器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	7.5YR7.6黄			細・多	0.6	1.6	63.2	破片	
1644	SP270	F6・D5	土師器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	7.5YR7.6黄			中・並	1.7	7.3	—	2.8	
1646	SP296	F6・D5	土師器	罐	板ナテ(マタツ)	オロシ目(マヌ)	オロシ目(マヌ)	2.5Y4.2暗灰黄			細・多	—	—	(108)	—	
1647	SP301	F6・D5	土師器	足裏	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	10YR8.3黄褐色			中・多	長さ 10.8	2.9	—	—	破片
1648	SP326	F6・D5	須恵器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	N7/灰白			細・少	—	—	—	破片	
1649	SP329	F6・D5	土師器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	5YR6.6黄			中・並	12.7	—	—	—	内外不入 高付蓋、石 付蓋
1650	SP340	F6・D5	須恵器	壺	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	N6/灰			細・少	—	—	—	—	破片
1651	SP366	F6・D5	瓦葺土器	鉢	ナテ	ナテ	ナテ	2.5Y5.1黄灰			中・少	29.2	—	—	—	1.8
1652	SP376	F6・D5	土師器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	10YR8.2灰白			細・並	—	—	—	—	破片
1655	SP472	F6・D5	土師器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	5YR7.6黄			細・少	6.9	1.5	6.4	—	3.8
1656	SP473	F6・D5	土師器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	7.5YR5.3にふい			細・少	8.6	1.6	6.8	—	2.8
1657	SP499	F6・D5	弥生土器	壺	ヨコナテ	ヨコナテ	ヨコナテ	10YR8.4にふい			(12.0)	—	—	—	—	破片
1658	SP506	F6・D5	土師器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	7.5YR7.6黄			細・少	0.8	—	—	—	1.8
1659	SP511	F6・D5	土師器	足裏	板ナテ	板ナテ	板ナテ	10YR5.3にふい			細・多	長さ 17.2	2.8	—	—	—
1660	SP542	F6・D6	須恵器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	5D6.1青灰			中・少	—	—	8.0	—	1.8
1661	SP565	F6・D5	弥生土器	壺	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	10YR7.3にふい			細・並	—	—	6.0	—	2.8
1662	SP571	F6・D5	土師器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	10YR7.3にふい	中・並		細・並	(11.6)	2.1	6.6	—	2.8
1663	SP582	F6・D5	土師器	杯	回転ナテ	回転ナテ	回転ナテ	7.5YR8.4黄褐色			細・少	(108)	1.2	8.1	—	2.8

第5表 西本則遺跡V出土器観表 (55)

第1分冊

器文番号	遺跡名	地区名	器位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量 (cm)		備考		
						外国	内国	外部	内部	石炭・ 灰白	赤色粒 内四石	窯母	砂粒		口径	器高
1664	SP594	F6	土師器	杯	同転ナデ ヘラ切り後取状 任意	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR8.6浅黄緑	7.5YR8.6浅黄緑			12.2	2.85	(7.7)	—	2.8
1665	SP608	F6・ D5	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	5YR7.6橙	5YR7.6橙					0.1	—	—	3.8
1666	SP608	F6・ D5	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3浅黄緑	10YR8.3浅黄緑					0.2	(5.1)	—	2.8
1667	SP620	F6・ D5	弥生土器	壺	ナデ	ナデ	7.5YR5.6明褐	7.5YR5.6明褐	中・多				—	—	—	破片
1668	SP674	D5	弥生土器	瓮	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6.6橙	10YR6.4に 近い黄緑	中・並 中・少				—	—	—	破片
1669	SP667	F6・ E5	土師器	小皿	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR8.4浅黄緑	10YR8.2灰白				6.6	1.0	4.7	—	8.8
1670	SP753	F6・ D5	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	7.5YR7.6橙	7.5YR6.6橙				8.25	2.05	4.6	—	8.8
1671	包合層	F7・ E6	弥生土器	壺	斜行刷文 ヘ ラミ ナ デ	ヘ ラ ミ ガ キ ・ ナ デ 指 サ エ ・ ナ デ	7.5YR7.4に 近い橙	5YR6.6橙	中・多			63.4	—	—	—	6.8
1672	包合層	F7	弥生土器	壺	ナデ	ハケ後ナ デ	10YR7.3に 近い黄緑	10YR7.2に 近い黄緑	中・並 中・少			12.2	—	—	—	1.8
1673	包合層	F7	弥生土器	羹	ヨコナデ	ハケ ヘラ 刮り	7.5YR5.4に 近い褐	7.5YR6.4に 近い橙	中・並 中・少			16.4	—	—	—	2.8
1674	包合層	F7	弥生土器	羹	ヨコナデ	ハケ 後ナ デ	10YR2.1黒	10YR6.4に 近い黄緑	中・少			14.4	—	—	—	1.8
1675	包合層	F7	弥生土器	鉢	ヨコナデ	指サ エ・ナ デ	10YR7.3に 近い黄緑	10YR7.4に 近い黄緑	中・並 中・少			27.9	23.4	(6.5)	—	3.8
1676	包合層	F7	弥生土器	鉢	ナデ	指サエ ・ナ デ	10YR6.3に 近い黄緑	10YR6.3に 近い黄緑	中・並 中・少			14.0	—	—	—	2.8
1677	包合層	F7	弥生土器	鉢	ナデ	指サエ ・ナ デ	10YR7.3に 近い黄緑	10YR7.3に 近い黄緑	中・並 中・少			—	—	1.8	—	3.8
1678	包合層	F7	弥生土器	鉢	ナデ	指サエ ・ナ デ	7.5YR7.4に 近い橙	7.5YR7.4に 近い橙	中・並 中・少			16.3	5.8	1.2	—	5.8
1679	包合層	F7	弥生土器	高杯	ナデ	ハケ後ナ デ	10YR6.4に 近い黄緑	10YR5.4に 近い黄緑	中・並			—	—	(13.0)	—	1.8
1680	包合層	F7	弥生土器	高杯	刷漉	刷漉	5YR6.6橙	7.5YR6.6橙	中・並			—	—	(18.8)	—	1.8
1681	包合層	F7	弥生土器	高杯	刷漉	刷漉	7.5YR5.3に 近い褐	7.5YR5.4に 近い褐	中・並			—	—	—	接合部 径12.9	1.8
1682	包合層	F7	弥生土器	杯	刷漉	ナデ・マ ノ	7.5YR5.4に 近い褐	7.5YR5.4に 近い褐	中・並 中・少			長さ 4.8	幅5.0	厚さ 1.2	—	8.8
1683	包合層	F7	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白				6.0	—	—	—	1.8
1684	包合層	F7	須恵器	壺	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰	N5/灰				中・少	(15.7)	2.8	—	つよ木 部1.4
1685	包合層	F7	須恵器	壺	同転ナデ	同転ナデ	N7/灰白	N7/灰白				中・少	—	—	—	1.8
1686	包合層	F7	須恵器	壺	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰	N5/灰				中・少	(18.0)	—	—	1.8



第5表 西木別遺跡V出土器観察表(57)

第1分冊

順文番号	報告・遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査	内蔵	外部	色調	内部	石灰・雲白	赤色粘	向四石	胎土	鈔粒	口径	器高	底径	その他	備考
1712	包含層	F7	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.2灰白		7.5YR8.4浅黄橙					中・少	10.1	2.6	5.9	—	7.8
1713	包含層	F7	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	5YR7.6橙		5YR7.6橙					中・少	10.1	2.6	5.9	—	7.8
1714	包含層	F7	土師器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3浅黄橙		7.5YR8.4浅黄橙					細・少	9.9	2.8	6.0	—	7.8
1715	包含層	F7	須恵器	酒杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰		N5/灰					中・少	(18.4)	—	—	—	1.8
1716	包含層	F7	黒色土器	瓶	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR6.6暗黄橙		5Y4.1灰					中・少	—	—	(6.2)	—	2.8
1717	包含層	F7	黒色土器	瓶	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.2灰白		2.5Y3.1黒黒					細・少	—	—	(6.0)	—	2.8
1718	包含層	F7	灰輪陶器	瓶	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	胎: 2.5Y8.1灰白		胎: 2.5Y6.2灰黄					中・少	—	—	—	—	破片
1719	包含層	F7	緑釉陶器	瓶	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	胎: 7.5Y6.2灰オリーブ		胎: N7/灰白					細・少	—	—	(6.2)	—	3.8
1720	包含層	F7	白磁	瓶	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	胎: 2.5Y7.1灰白		胎: N8/灰白					細・少	—	—	—	—	破片
1721	包含層	F7	白磁	瓶	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	胎: 2.5Y7.1灰白		胎: 7.5Y7.2灰白					細・少	—	—	5.8	—	5.8
1722	包含層	F7	須恵器	瓶	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N7/灰白		N7/灰白					中・少	(11.7)	—	—	—	1.8
1723	包含層	F7	土師器	瓶	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	2.5Y3.2黒黒		10YR7.4にふい黄橙					中・少	—	—	—	—	破片
1724	包含層	F7	土師器	足登	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3浅黄橙		10YR8.3浅黄橙					中・並	(21.2)	—	—	—	2.8
1725	包含層	F7	土師器	足登	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	5YR7.6橙		—					細・少	長径 15.2 短径 17.2	—	—	—	8.8
1726	包含層	F7	土師器	足登	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰		10YR7.3にふい黄橙					細・少	(22.4)	—	—	—	—
1727	包含層	F7	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N4/灰		N5/灰					細・少	—	—	(13.2)	—	1.8
1728	包含層	F7	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	ヨコナデ		10YR7.2にふい黄橙					中・中	(18.6)	—	—	—	4.8
1734	包含層	E6	赤生土器	壺	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	ヨコナデ		10YR7.2にふい黄橙					中・並	(13.0)	—	—	—	1.8
1735	包含層	E6	赤生土器	壺	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	ヨコナデ		2.5Y8.3浅黄					中・並	(13.0)	—	—	—	1.8
1736	包含層	E6	赤生土器	壺	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	ヨコナデ		10YR8.3にふい黄橙					中・並	(13.0)	—	—	—	4.8
1737	包含層	E6	赤生土器	壺	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	ヨコナデ		10YR7.3にふい黄橙					細・少	(15.4)	—	—	—	1.8
1738	包含層	E6	赤生土器	壺	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	ヨコナデ		7.5YR6.6橙					細・少	(14.6)	—	—	—	2.8
1739	包含層	E6	赤生土器	壺	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	ヨコナデ		10YR7.4にふい黄橙					細・少	(15.8)	—	—	—	1.8
1740	包含層	E6	赤生土器	高杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	5YR6.4にふい黄橙		7.5YR7.3にふい黄橙					中・中	(11.1)	—	—	—	基部3L
1741	包含層	E6	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	2.5Y8.1灰白		2.5Y8.1灰白					中・少	(11.1)	—	—	—	1.8
1742	包含層	E6	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N6/灰		N6/灰					中・少	—	—	—	—	破片
1743	包含層	E6	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	同転ナデ	N5/灰		N6/灰					細・少	—	—	—	—	つまみ部20

第5表 西木則遺跡V出土土器観察表 (58)

第1分冊

観文番号	観文番号	遺跡名	地区名	層位	種類	器種	調査		色調		胎土		法量 (cm)		備考	
							外国	内国	外部	内部	石灰、 灰白	赤色粒、 向四石	雲母	砂粒		口径
1744	包含層	E6	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N5・灰	N5・灰					1.2	—	尻井部 (13.4)	1/8
1745	包含層	E6	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N5・灰	N5・灰					0.50	—	—	2/8
1746	包含層	E6	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N3・緑灰	N7・灰白					0.74	—	—	1/8
1747	包含層	E6	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N6・灰	N6・灰					—	—	0.79	1/8
1748	包含層	E6	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N7・灰白	N7・灰白					0.37	3.5	0.93	3/8
1749	包含層	E6	須恵器	杯	同転ナデ	同転ナデ	N7・灰白	N7・灰白					0.14	2.3	0.76	1/8
1750	包含層	E6	須恵器	皿	同転ナデ	同転ナデ	N5・灰	N6・灰					0.48	1.8	0.08	1/8
1751	包含層	E6	土器	小皿	同転ナデ	同転ナデ	10YR8.3黄褐色	10YR8.4黄褐色					0.73	0.9	0.59	2/8
1752	包含層	E6	土器	瓶	同転ナデ	同転ナデ	2.5YR6.8橙	10YR7.4に灰黄橙					—	—	0.68	2/8
1753	包含層	E6	黒色土器	瓶	同転ナデ	同転ナデ	2.5YR2.5灰白	N3・緑灰					—	—	0.58	1/8
1754	包含層	E6	黒色土器	瓶	同転ナデ	同転ナデ	10 Y R 8.2 灰白	N 3 緑灰					—	—	0.50	4/8
1755	包含層	E6	白磁	瓶	同転ナデ	同転ナデ	7.5Y7.1灰白	N6・灰					0.19	—	—	1/8
1756	包含層	E6	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N5・灰	N5・灰					0.20	—	—	1/8
1757	包含層	E6	須恵器	蓋	同転ナデ	同転ナデ	N3・緑灰	N4・灰					0.48	—	—	破片
1758	包含層	E6	土器	土鏝	ナデ	ナデ	10 Y R 7.3 に灰 黄橙	—					中・多 4.2	幅1.8	厚さ 1.7	8/8
1759	包含層	E6	土器	土鏝	ナデ	ナデ	10 Y R 7.4 に灰 黄橙	—					中・多 4.4	幅1.1	厚さ 1.3	8/8
1764	包含層	F6	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5.6明褐色	10YR6.4に灰黄橙	中・多	中・少	中・少	中・少	—	—	—	2/8
1765	包含層	F6	弥生土器	蓋	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6.6橙	2.5YR6.6橙	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	8/8
1766	包含層	F6・ D5	弥生土器	甕	ハケ	ハケ	10YR6.6明黄褐色	10YR6.4に灰黄橙	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	6/8
1767	包含層	F6	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR5.6明赤褐色	2.5YR6.6橙	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	破片
1768	包含層	F6・ D5	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7.4黄褐色	2.5Y7.4黄褐色	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	4/8
1769	包含層	F6	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6.4に灰黄褐色	10YR7.4に灰黄褐色	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	1/8
1770	包含層	F6	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5.6明褐色	7.5YR7.3に灰黄褐色	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	1/8
1771	包含層	F6・ D5	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6.4に灰黄褐色	10YR6.4に灰黄褐色	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	1/8
1772	包含層	F6	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6.4に灰黄褐色	10YR6.4に灰黄褐色	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	1/8
1773	包含層	F6	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6.4に灰黄褐色	10YR6.4に灰黄褐色	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	1/8
1774	包含層	F6	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7.6橙	2.5YR7.3に灰黄褐色	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	8/8
1775	包含層	F6・ D5	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR5.4に灰黄褐色	2.5YR5.6明赤褐色	中・多	中・少	中・少	—	—	—	—	4/8



第6表 西木則遺跡V出土石器観察表(1)

第1分冊

順次番号	報告遺跡名	地区名	部位	器種	法量			材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)		
6	SD001	B16	5層	石鏃	27.0	14.0	3.0	1.08	中ヌカイト
7	SD001	B16	4層	楕圓形石器	59.0	41.0	10.5	28.99	中ヌカイト
11	SD001	B16	上層	石鏃	31.0	19.0	4.0	2.05	中ヌカイト
49	SD004	B16		二次加工片心削片	32.0	38.0	10.0	9.21	中ヌカイト
60	SD006	B16	下層	石包丁	80.0	40.0	11.0	36.75	中ヌカイト
61	SD006	B16	下層	削片	61.0	32.0	3.0	9.47	中ヌカイト
62	SD006	B16	下層	削片	70.0	41.0	7.0	17.47	中ヌカイト
63	SD006	B16	下層	石核	80.0	50.0	19.0	72.21	安山岩
71	SD006	B16	上層	石鏃	29.0	25.0	4.0	1.35	中ヌカイト
97	SD067-2	B17	表土	石鏃	46.5	69.5	13.0	44.69	中ヌカイト
98	SD069	B16		石鏃	49.0	63.0	42.0	162.69	砂岩
106	SK001	D15N		石鏃	25.0	16.0	5.0	1.5	中ヌカイト
130	SD029	C17		石鏃	21.0	19.0	35.0	0.76	中ヌカイト
136	SD036	C17		石鏃	13.0	14.0	3.0	0.43	中ヌカイト
137	SD030	C17	下層	楕圓形石器	46.0	71.0	11.0	54.03	中ヌカイト
173	包含層(1)	B17	赤茶	石鏃	20.0	15.0	2.0	0.44	中ヌカイト
174	包含層(1)	B17	赤茶	石鏃	20.5	14.0	3.0	0.53	中ヌカイト
175	包含層(1)	B17	赤茶	石鏃	16.0	19.5	3.0	0.73	中ヌカイト
176	包含層(1)	B17	赤茶	石鏃	17.5	14.5	3.0	0.55	中ヌカイト
177	包含層(1)	B17	赤茶	太型蛤石斧	80.0	79.0	41.0	352.12	砂岩
193	包含層(2)	B17		石鏃	21.0	19.0	4.0	0.93	中ヌカイト
194	包含層(2)	B17		石鏃	21.5	15.0	3.0	0.68	中ヌカイト
195	包含層(2)	B17		石鏃	17.0	14.0	2.0	0.63	中ヌカイト
196	包含層(2)	B17		石鏃	28.0	19.0	3.0	1.54	中ヌカイト
201	包含層	B16		石鏃	27.0	12.0	3.50	1.06	中ヌカイト
202	包含層	B16		石鏃	83.0	38.0	17.0	60.92	中ヌカイト
210	包含層	C17		石鏃	15.0	14.0	2.50	0.38	中ヌカイト
211	包含層	D15N		石鏃	22.0	18.0	2.50	0.56	中ヌカイト
212	包含層	D15N		石鏃	27.0	14.0	3.0	0.56	中ヌカイト
213	包含層	B17		石鏃	25.0	18.0	4.0	1.41	中ヌカイト
214	包含層	C17		石鏃	20.0	9.50	4.0	0.55	中ヌカイト
215	包含層	B16		石鏃	15.0	13.5	2.0	0.34	中ヌカイト
216	包含層	D15N		石鏃	17.0	10.0	2.0	0.48	中ヌカイト
217	包含層	B16		石鏃	32.0	25.0	3.0	3.15	中ヌカイト
218	包含層	B17		石鏃	30.0	18.0	4.0	1.86	中ヌカイト
219	包含層	C17		石鏃	33.0	19.0	5.0	2.83	中ヌカイト
220	包含層	C17		石包丁	58.0	46.0	11.0	25.11	中ヌカイト
221	包含層	D15N		削片	71.0	36.0	12.0	27.87	中ヌカイト
222	包含層	B16		削片	57.0	42.0	8.5	17.96	中ヌカイト
223	包含層	C17		石鏃	69.5	43.0	4.0	13.09	中ヌカイト
224	包含層	D15N		二次加工片心削片	44.0	81.0	12.0	26.32	砂岩片岩
225	包含層	B16		削片	49.0	72.0	9.0	26.55	中ヌカイト



第6表 西木則遺跡V出土石器観察表(2)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	部位	器種	法量			材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)		
243	SD-01	C13		石鏃	260	150	3.0	オヌカイト	
244	SD-01	C13		楕形石石器	1320	270	11.0	オヌカイト	
245	SD-01	C13	下層	石虎丁	1220	450	12.0	オヌカイト	
246	SD-01	C13	下層	楕形石器素材	660	440	16.0	オヌカイト	
247	SD-01	C13		楕形石石器	620	84.0	13.0	オヌカイト	
248	SD-01	C13	上層(黒粘土)	楕形石器	45.0	67.0	8.0	オヌカイト	石鏃断面
249	SD-01	C13	上層(黒粘土)	楕形石器	68.0	35.0	15.0	オヌカイト	石鏃断面
250	SD-01	C13	下層	石鏃	490	54.0	10.0	オヌカイト	
251	SD-01	C13	下層	剥片	1360	680	34.0	242.07	安山岩
253	SD-02	C13	上・下層	石鏃	30.5	15.0	3.0	1.14	オヌカイト
254	SD-02	C13	上・下層	削器	78.0	57.0	13.0	51.68	オヌカイト
255	SD-02	C13	上・下層	二次加工ある剥片	66.0	61.0	17.0	82.92	安山岩
259	SD-04	C13		石鏃	16.0	17.5	3.0	0.47	オヌカイト
260	SD-04	C13		石鏃	22.0	14.0	3.0	0.54	オヌカイト
261	SD-04	C13		石鏃	30.0	15.0	6.0	1.99	オヌカイト
267	SD-06	C13		石鏃	22.0	15.0	4.0	1.05	オヌカイト
268	SD-06	C13		石鏃	20.5	20.5	3.5	0.81	オヌカイト
269	SD-06	C13		剥片	95.0	63.0	22.0	125.66	安山岩
270	SD-06	C13		石鏃	142.0	154.0	94.0	1975.07	安山岩
273	SD-11	C13		石虎丁	80.0	42.0	13.0	40.95	オヌカイト
275	SA-63	C13		石鏃	98.0	63.0	15.0	110.37	安山岩
276	SP-e00	C13		石鏃	80.0	44.0	9.0	22.63	オヌカイト
284	SD-08	C13		石鏃	17.0	15.0	3.0	0.83	オヌカイト
290	SD-e10	C13		石虎丁	104.0	47.0	13.0	72.74	オヌカイト
296	SD-e13	D15e		二次加工ある剥片	51.0	58.0	15.0	39.23	オヌカイト
297	SD-e13	D15e		剥片	89.0	38.0	13.0	51.36	黒山片岩
299	SD-e16	D12		石鏃	26.0	16.0	3.0	0.75	オヌカイト
300	SD-e16	D12		石鏃	23.0	16.0	3.0	0.94	オヌカイト
301	SD-e16	D12		削器	67.0	43.0	8.0	25.70	オヌカイト
305	SA-e01	C13		石虎丁木製品?	59.0	58.0	12.0	50.25	オヌカイト
312	SA-e04	D15e		石鏃	26.0	18.0	3.0	1.05	オヌカイト
314	SA-e04	D15e		石鏃	19.0	17.5	4.0	0.78	オヌカイト
316	SA-e02	C13		楕形石器木製品	56.0	40.0	10.0	22.30	オヌカイト
317	SP-01	D12		削器	42.0	99.0	8.0	32.15	オヌカイト
325	鬼谷溝	C13		石鏃	32.0	19.0	4.0	1.70	オヌカイト
326	鬼谷溝	C13		石鏃	28.0	13.0	4.0	1.07	オヌカイト
327	鬼谷溝	C13		石鏃	16.0	16.0	3.0	0.41	オヌカイト
328	鬼谷溝	C13		石虎丁	79.0	42.0	15.0	62.33	安山岩
332	鬼谷溝	D15e		石鏃	27.0	16.0	2.5	0.84	オヌカイト
333	鬼谷溝	D15e		剥片	139.0	57.0	12.0	140.30	黒山片岩
341	鬼谷溝	D12		石鏃	29.0	18.0	5.0	1.20	オヌカイト

本冊品

第6表 西木別遺跡V出土石器観察表(3)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	器種	法量			材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)		
342	包含層	D12		石鏃	230	14.0	3.0	0.41	中スカイト
343	包含層	D12		石鏃	160	12.0	3.5	0.39	中スカイト
344	包含層	D12		石鏃	220	15.0	3.0	0.45	中スカイト
345	包含層	D12		石鏃	320	18.0	4.0	1.97	中スカイト
346	包含層	D12		石鏃	160	14.0	2.0	0.26	中スカイト
347	包含層	D12		石鏃	135	12.0	4.0	0.53	中スカイト
348	包含層	D12		石鏃半成品	180	11.0	4.0	0.65	中スカイト
349	包含層	D12		石鏃丁	470	60.5	9.0	25.82	中スカイト
350	包含層	D12		石鏃丁半成品	900	49.0	10.0	48.61	中スカイト
351	包含層	D12		彫形石器	440	60.0	16.0	50.31	中スカイト
352	包含層	D12		石核	700	61.0	33.0	161.21	中スカイト
354	SPe19	E14		掻器	760	73.0	16.0	84.18	中スカイト
355	SPe19-20	E14		石鏃	250	19.0	3.0	0.94	中スカイト
356	SPe19-20	E14		削器	220	49.0	7.0	10.74	中スカイト
416	SPa06_SPr12	F12		巖石	1130	102.0	42.0	816.75	砂岩
417	SPa06_SPr9	F12		巖石	900	30.0	21.0	80.70	砂岩
418	SPa06_SPr5	F12		火打石	370	31.0	24.0	28.61	石英
458	SRc09	E13		彫形石器削片	430	12.0	12.0	4.42	中スカイト
537	SRc09	E14	1層	石鏃	170	14.0	3.0	0.40	中スカイト
538	SRc09	E15	3層	石鏃	210	14.5	3.0	0.57	中スカイト
539	SRc09	E14	3層	石鏃	220	14.0	3.0	0.62	中スカイト
540	SRc09	E14	1層	石鏃	250	13.0	3.0	1.08	中スカイト
541	SRc09	E15	3層	石鏃	250	16.0	4.0	1.52	中スカイト
542	SRc09	E14	2層	石鏃	200	12.0	3.0	0.58	中スカイト
543	SRc09	E14	2層	彫形石器	410	40.0	9.0	14.94	中スカイト
544	SRc09	E14	1層	未製品	650	38.0	15.0	45.21	中スカイト
545	SRc09	E14	2層	石核	735	37.0	15.0	47.29	中スカイト
546	SRc09	E15	2層	石核	410	32.0	22.0	24.24	中スカイト
572	SDp35a	E14	2層	彫形石器	400	31.0	5.0	9.62	中スカイト
573	SDp35a	E14	2層	削器	570	68.0	14.0	55.03	中スカイト
574	SDp35a	E14	3層	削器	540	66.0	15.5	44.36	中スカイト
575	SDp35a	E14	3層	石核	600	49.0	13.0	42.44	中スカイト
576	SDp35a	E14	2層	巖石	1330	88.0	25.0	451.06	砂岩
577	SDp35a	E14	2層	巖石	1100	64.0	19.0	192.52	砂岩
602	SDp35b	E13	1層	石鏃丁半成品	560	60.0	4.0	23.69	緑色片岩
604	SDp35b	E13	1層	削器	350	67.0	15.0	37.74	中スカイト
614	SDc27	E13		石核	320	71.0	43.0	167.75	石英
615	SDc27	E13		削器	860	84.0	50.0	513.76	砂岩
645	SPe51	F12	2層	巖石	650	86.0	65.0	538.87	石英
651	SDp42	F12		石鏃	240	14.0	4.0	1.09	中スカイト
701	SDp45	F12	上層	砥石	1130	70.0	70.0	1047.68	砂岩
785	SNc07-08	F12	暗灰色粘土	砥石	2410	1700	900.0	4500.0	砂岩

第6表 西末則遺跡V出土石器観察表(4)

第1分冊

順次番号	報告遺跡名	地区名	層位	器種	法量			材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)		
786	SX407-08	F12	暗灰色粘土	石臼	16.0cm	16.3cm	8.5cm	BSR64	
787	SX407-08	F12	灰色砂質土	石臼	22.2cm	15.8cm	9.8 (cm)	23010	礫底岩
788	SX407-08	F12		石皿	24.0	16.0	3.0	1.14	サヌカイト
813	SX411	F12		北打石	52.0	33.0	31.0	61.0	石英
814	SX411	F12		砥石	39.5	32.0	27.0	32.89	砂岩
841	SX412	F12		砥石	89.0	57.0	30.0	27.99	砂岩
838	13F-SF74	E13		砥石	87.0	44.0	39.0	23.53	花崗岩
864	13F-SF222	E13		石塊丁	89.0	41.0	7.0	30.48	サヌカイト
865	13F-SF222	E13		砥石	72.0	39.0	20.0	106.70	花崗岩
877	13F-SF390	E13		石皿	21.0	17.0	3.0	0.95	サヌカイト
879	13F-SF459	E13		石皿	69.0	29.0	8.0	15.22	サヌカイト
884	13E-SF179	E13		砥石	33.0	22.5	15.0	15.81	花崗岩
905	13F-SF30	F12		石皿	16.0	17.0	3.0	0.66	サヌカイト
907	12F-SF26	F12		打製石塊丁	59.0	46.0	7.0	19.62	サヌカイト
916	12F-SF93	F12		石臼	20.5cm	13.9cm	10.4cm	2524.90	礫底岩
918	12F-SF220	F12		丸石	42.5	37.0	35.0	74.21	花崗岩
919	12F-SF241	F12		凹石	10.00	96.0	45.0	793.62	安山岩
909	12F-SF338	F12		崩石	135.0	35.0	15.0	136.95	砂岩
958	12F-SF712	F12		石皿	22.0	12.0	3.0	0.59	サヌカイト
961	12E-SF51	F12		砥石	73.0	41.0	16.0	80.90	花崗岩
971	12E-SF75	F12		鏡形石器	35.0	14.0	19.0	9.27	長石
993	包含層	E15		石塊丁	107.0	51.0	10.0	76.96	サヌカイト
994	包含層	E15		石塊丁	75.0	40.0	9.0	27.55	サヌカイト
995	包含層	E15		削器	40.0	57.0	13.0	38.92	サヌカイト
996	包含層	E15		石皿	58.0	57.0	19.0	66.49	サヌカイト
997	包含層	E15		大型四方石片	105.0	44.0	31.0	218.31	砂岩
1003	包含層	E14		石皿	17.0	15.0	3.0	0.61	サヌカイト
1004	包含層	E14		石皿	19.0	17.0	3.0	0.52	サヌカイト
1005	包含層	E14		石塊丁	58.0	49.0	11.0	38.31	サヌカイト
1006	包含層	E14		石皿	84.0	68.0	24.0	194.61	サヌカイト
1007	包含層	E14		石皿	78.0	61.0	19.0	88.36	サヌカイト
1008	包含層	E14		二次加工する削片	98.0	62.0	19.0	102.23	安山岩
1010	包含層	E13		石皿	21.0	20.0	4.0	0.84	サヌカイト
1009	包含層	E13		石皿	26.0	15.0	3.0	0.62	サヌカイト
1056	包含層	F12		石皿	25.0	15.0	3.0	0.59	サヌカイト
1057	包含層	F12		石皿	19.0	14.0	2.50	0.35	サヌカイト
1058	包含層	F12		石皿	15.0	12.0	3.0	0.46	サヌカイト
1059	包含層	F12		石皿	30.0	18.0	4.0	2.05	サヌカイト
1060	包含層	F12		石皿	24.0	14.0	4.0	1.00	サヌカイト
1061	包含層	F12		石皿	28.0	20.0	5.0	2.78	サヌカイト
1062	包含層	F12		石皿	25.0	13.0	4.0	1.44	サヌカイト
1063	包含層	F12		削器	46.0	43.0	9.0	20.21	サヌカイト

第6表 西木則遺跡V出土石器観察表(5)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	部位	器種	法量			材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)		
1064	包含層	F12	側器	側器	540	55.0	10.0	25.72	サヌカイト
1065	包含層	F12	側器	側器	75.0	38.0	4.0	18.80	サヌカイト
1066	包含層	F12	側器	側器	80.0	66.0	8.0	45.86	サヌカイト
1067	包含層	F12	石斧	石斧	110.0	65.0	43.0	353.13	安山岩
1068	包含層	F12	楕形石鏃の削片	楕形石鏃の削片	42.0	20.0	10.0	10.63	サヌカイト
1069	包含層	F12	楕形石鏃の削片	楕形石鏃の削片	42.0	19.0	6.0	5.16	サヌカイト
1070	包含層	F12	砥石	砥石	79.5	62.5	8.0	31.19	花崗岩
1071	包含層	F12	貝殻状石製品	貝殻状石製品	80.0	62.0	56.0	350.72	砂岩
1072	包含層	F12	二次加工ある剥片	二次加工ある剥片	22.0	11.0	9.0	1.57	緑色頁岩
1073	包含層	F12	側器	側器	8.6	11.3	1.4	149.03	サヌカイト
1080	SR606	C9	上層	石鏃	26.0	15.0	2.5	1.23	サヌカイト
1081	SD601	C9	下層	棒状剥片	52.0	37.0	3.5	11.91	サヌカイト
1088	SD603	C9	上層	砥石	96.0	35.0	55.0	248.61	安山岩
1120	SR601	C9	下層	石鏃	23.0	18.0	3.0	0.75	サヌカイト
1121	SR601	C9	上層	石鏃	17.0	15.0	2.5	0.66	サヌカイト
1122	SR601	C9	上層	石鏃	15.5	14.0	2.30	0.41	サヌカイト
1123	SR601	C9	上層	石鏃	11.5	12.3	2.0	0.38	サヌカイト
1124	SR601	C9	下層	石鏃	19.0	15.0	4.0	0.87	サヌカイト
1125	SR601	C9	上層	石鏃	22.0	19.0	3.0	0.88	サヌカイト
1126	SR601	C9	下層	石鏃	37.0	20.0	4.0	1.93	サヌカイト
1127	SR601	C9	上層	石鏃	31.0	13.0	4.30	1.15	サヌカイト
1128	SR601	C9	下層	側器	45.0	42.0	6.0	17.71	サヌカイト
1129	SR601	C9	下層	翼状剥片	40.0	22.0	4.0	4.85	サヌカイト
1147	SR603	E9e	最上層	石鏃	2.0	1.4	0.25	0.69	サヌカイト
1148	SR603	E9e	上層	石鏃	2.7	2.0	0.3	0.93	サヌカイト
1149	E9e-SR603	E10	上層	石鏃	4.6	1.9	0.4	3.23	サヌカイト
1150	SR603	E9e	上層	楕形石鏃未製品	4.9	4.5	0.8	18.03	サヌカイト
1151	SR603	E9e	下層	楕形石鏃	6.1	5.0	1.0	35.56	サヌカイト
1152	SR603	E9e	上層	楕形石鏃未製品	6.9	4.1	1.7	56.22	サヌカイト
1153	SR603	E9e	下層	側器	10.3	5.0	0.63	53.09	サヌカイト
1154	E9e-SR603	E10	上層	側器	3.8	5.9	0.7	29.25	サヌカイト
1155	SR603	E9e	下層	側器	9.6	4.35	0.8	59.68	サヌカイト
1156	SR603	E9e	上層	側器	11.0	4.8	1.0	48.19	サヌカイト
1157	SR603	E9e	上層	石鏃丁	11.4	4.7	0.9	58.63	サヌカイト
1158	SR603	E9e	上層	石鏃丁	5.1	6.0	0.75	34.78	サヌカイト
1159	SR603	E9e	下層	石鏃丁	4.36	6.0	0.8	28.42	サヌカイト
1160	SR603	E9e	下層	石鏃	12.5	7.8	1.4	176.33	サヌカイト
1161	SR603	E9e	下層	石鏃	11.3	6.3	1.1	95.01	サヌカイト
1162	SR603	E9e	下層	石鏃	9.3	5.1	1.7	105.46	サヌカイト
1163	SR603	E9e	下層	石鏃	9.7	6.7	1.3	106.66	サヌカイト
1164	SR603	E9e	下層	石鏃	8.1	5.9	1.3	84.69	サヌカイト

第6表 西木別遺跡V出土石器観察表(6)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	器種	法量			材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)		
1165	SR-03	E8e	下層	石核	95	5.65	1.75	115.14	中ヌカイト
1166	SR-03	E8e	下層	石核	69	5.3	1.4	111.82	中ヌカイト
1167	SR-03	E9w		石核	58	5.3	1.7	54.36	中ヌカイト
1172	SR-07, SP-02	E10		石核	19	1.35	0.4	0.9	中ヌカイト
1187	SK-03	C9		石核	220	18.0	3.50	1.25	中ヌカイト
1201	SD-00	C9		石核	220	18.0	3.0	0.83	中ヌカイト
1202	SD-00	C9		石核	220	12.0	2.0	0.60	中ヌカイト
1216	SD-01	C9	前部	前部	57.0	74.0	12.0	65.06	中ヌカイト
1217	SD-01	C9	下部	前部	45.0	46.0	6.0	21.58	中ヌカイト
1220	SD-02	C9		石核	18.0	14.5	2.0	0.37	中ヌカイト
1225	SD-07	E10		石核	6.6	6.0	2.0	110.62	安山岩 石核転用
1250	SD-23	E10	上層	輻形石器	31	2.4	0.7	6.64	中ヌカイト
1251	SD-23	E10	下層	石核	5.0	5.9	1.5	58.63	中ヌカイト
1252	SD-23	E10	下層	威石	6.0	3.3	2.3	62.99	安山岩
1253	SD-23	E10	下層	威石	10.7	3.7	3.3	304.23	砂岩
1262	SD-24	E10		輻形石器	4.7	5.4	0.8	21.51	中ヌカイト
1263	SD-24	E10		威石	9.6	4.7	3.9	249.27	砂岩
1283	SK-07	E9w		石核	27	1.65	0.3	1.46	中ヌカイト
1289	SR-04	E9w	上層	石核	5.35	5.3	1.6	46.22	中ヌカイト
1290	SR-04	E9w	上層	石核	7.9	5.7	1.2	85.60	中ヌカイト
1294	SP-56	E10		輻形石器	38	6.5	1.9	44.85	中ヌカイト
1303	包含層	C9		石核	32.0	24.0	35.0	1.91	中ヌカイト
1304	包含層	C9		石核	21.0	21.0	2.5	0.69	中ヌカイト
1305	包含層	C9		石核	17.0	15.0	3.80	0.41	中ヌカイト
1306	包含層	C9		石核	12.0	11.0	2.50	0.33	中ヌカイト
1307	包含層	C9		前部	37.0	38.0	9.0	10.24	中ヌカイト
1308	包含層	C9		輻形石器の削片	47.0	26.0	7.16		中ヌカイト
1309	包含層	C9		石核	44.5	45.0	25.0	54.27	凝灰岩
1310	包含層	C9		石核	57.0	46.0	18.0	53.93	中ヌカイト
1320	包含層	E8e		石核	2.9	2.1	0.3	1.04	中ヌカイト
1321	包含層	E8e		威石	21.9	4.8	2.3	385.69	安山岩
1387	SR-05	F6		石包丁	38	4.9	0.7	14.77	中ヌカイト
1388	SR-05	F7		輻形石器	5.6	4.6	1.2	31.76	中ヌカイト
1389	SR-05	F7	包含層	輻形石器の削片	8.2	2.3	1.2	27.18	中ヌカイト
1406	SR-09	F6		前部	7.8	5.0	1.3	51.46	中ヌカイト
1407	SR-09	F6		剥片品	7.5	4.8	0.9	69.31	粘土片岩
1522	SD-00	B5		輻形石器	4.0	3.2	1.1	28.31	中ヌカイト
1532	SD-03	F7		石包丁	4.3	3.7	1.1	26.21	中ヌカイト
1536	SD-04	F7		石核	8.3	3.95	1.1	47.15	中ヌカイト
1540	SD-06	F6・D5		剥片品	54	4.55	1.0	28.03	中ヌカイト
1559	SP-29	F6・D6		剥片品	1.8	1.5	0.4	0.95	中ヌカイト
1642	SP-28	F6・E6		調整ある削片	5.0	3.35	0.9	20.04	中ヌカイト

第6表 西木剛遺跡V出土石器観察表 (7)

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	器種	法量			材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)		
1653	SP376	F6・E5		砥石	50	2.7	2.5	91.42	花崗岩
1731	包含層			磨製石錐?	5.3	3.05	0.7	16.00	褐色片岩
1732	包含層	F7		磨製石錐	3.5	4.7	0.9	13.82	中ヌカイト
1733	包含層	F7		砥石	10.2	8.3	6.0	208.40	砂岩
1761	包含層	E6		刷印	3.0	2.9	3.7	20.89	須磨質
1762	包含層	E6		石鏃	1.9	1.8	0.3	0.68	中ヌカイト
1763	包含層	E6		石鏃	8.3	4.7	1.1	35.52	中ヌカイト
1790	包含層	F6		石鏃	2.2	1.5	0.3	0.62	中ヌカイト
1791	包含層	F6・E5		石鏃	1.7	2.0	0.25	0.59	中ヌカイト
1792	包含層	F6・D5		石底丁	4.3	3.9	0.9	18.46	中ヌカイト
1793	包含層	F6		磨石	9.0	7.9	5.7	622.43	安山岩

第7表 西木剛遺跡V出土金属観察表

第1分冊

順文番号	報告遺跡名	地区名	層位	器種	法量			材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)		
405	SK-04	E13	上層	不明	42.0	12.0	2.0	2.97	鉄製品
702	SD-45	F12	褐色粘土	不明	66.0	41.0	15.0	28.45	鉄製品
789	SK-07・08	F12		不明	現存長さ 21.9cm	現存幅 8.5cm	1.0cm	—	不明
849	SD-37	E13		不明	47.0	37.0	3.0	13.42	鉄製品
917	12F-SP116	F12		≠U	59.0	5.0	5.0	14.17	鉄製品
1284	SK-07	E9W		玉	11.0	10.0	10.0	6.25	鉄製品
1541	SD-36	F6区-D5	上層 磨青褐色粘土	鉄鏃	—	—	—	6.26	鉄製品
1560	SP234	F6区-D5		釘	91.0	6.0	5.0	22.01	鉄製品
1645	SP226	F6区-D5		釘	80.0	6.0	6.0	17.17	鉄製品
1654	SP-466	F6区-D5		不明	82.0	51.0	4.0	35.35	鉄製品

第8表 西末則遺跡V出土錢觀察表

第1分冊

簡文 番号	報告遺跡名	地区名	部位	器種	年代	法量			重量 (g)	状態
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)		
436	SKc04	E13		高倉通宝	北末 1078 ~ 1085	24.0	24.0	1.50	260	完整
437	SKc04	E13		高倉元宝	北末 1101	25.0	25.0	1.50	210	完整
438	SKc04	E13		高倉元宝	北末 1101	24.0	24.0	2.0	277	完整
451	SKc06	E13		高倉元宝	北末 1101	24.5	24.5	1.5	293	完整
452	SKc06	E13		高倉元宝・十六	南末 1174 ~ 1189	25.0	25.0	2.0	244	完整
655	SDc36b	E13	2層	天聖元宝	北末 1023 ~ 1032	25.0	24.0	1.0	127	一部欠損
652	SDc42	F12		至大通宝	元 1310 ~ 1311	24.0	24.0	2.0	224	一部欠損
959	12F_SP708	F12		開武通宝	1573 ~ 1688	23.0	23.0	2.0	291	完整
1215	SDc41	C9	下層(底面)	元祐通宝	北末 1086 ~ 1094	22.0	22.0	1.0	179	完整
1231	SDc30	E10		至大通宝	北末 1038 ~ 1040	22.0	22.0	2.0	161	完整
1563	SPc32	P6・D5		至大通宝	元 1310 ~ 1311	24.0	24.0	2.0	302	完整
1589	SKc18	P6・D5		咸亨元宝	北末 998 ~ 1003	25.0	20.0	1.5	135	1/2残存
1590	SKc18	P6・D5		景德元宝	北末 1004 ~ 1007	24.5	24.5	1.0	175	完整
1591	SKc18	P6・D5		祥符元宝	北末 1008 ~ 1016	25.0	25.0	1.5	263	14.1%欠損
1592	SKc18	P6・D5		祥符元宝	北末 1008 ~ 1016	26.0	26.0	1.0	209	完整
1593	SKc18	P6・D5		皇祐通宝	北末 1038 ~ 1040	24.5	24.5	1.0	750	捺数欠付
1594	SKc18	P6・D5		元豊通宝	北末 1078 ~ 1085	23.0	23.0	1.50	197	完整
1595	SKc18	P6・D5		元祐通宝	北末 1078 ~ 1085	26.0	26.0	1.0	170	一部欠損
1596	SKc18	P6・D5		元祐通宝	北末 1078 ~ 1085	25.0	21.0	1.0	063	1/2残存
1597	SKc18	P6・D5		元祐通宝	北末 1068 ~ 1094	25.0	25.0	2.0	180	完整
1600	SKc19	P6・D5		至大通宝	元 1310 ~ 1311	25.0	25.0	2.0	276	完整
1601	SKc19	P6・D5		至大通宝	元 1310 ~ 1311	24.0	25.0	2.0	309	完整
1602	SKc19	P6・D5		至大通宝	元 1310 ~ 1311	23.0	23.0	2.0	266	完整
1629	SP47	F7		至大通宝	元 1310 ~ 1311	22.5	22.5	1.50	273	完整

第9表 西末則遺跡V出土瓦観察表 (1)

第1分冊

簡文 番号	報告遺跡名	地区名	部位	器種	調整		色調		胎土		法量 (mm)		備考
					凸面	凹面	凸面	凹面	白色砂粒	黑色砂粒	灰色砂粒	全長 (残存長)	
303	SKc01	C13	平瓦	横目タタキ	希目正瓦	25X78/1 灰白	25X78/1 灰白	中・少	中・少	8.1	7.0	1.9	破片
304	SKc01	D12	平瓦	横目タタキ	希目正瓦	75X77/1 灰白	75X77/1 灰白	中・多	中・多	7.6	6.3	1.7	破片
340	包木橋	D12	平瓦	横目タタキ	希目正瓦	25X77/1 灰白	25X77/1 灰白	中・少	中・少	8.0	8.4	2.1	破片
525	SDc24	E14	3層	横目タタキ	希目正瓦	N7/ 灰白	N7/ 灰白	中・少	中・少	15.0	15.8	2.3	4・8
526	SDc24	E14	2層	横目タタキ	希目正瓦	75X78/1 灰白	10YR7/2 灰・黄緑	中・少	中・少	8.4	8.4	2.5	3・8
527	SDc24	E14	2層	横目タタキ	希目正瓦	5X78/1 灰白	5X78/1 灰白	中・少	中・少	14.6	5.7	2.2	破片
528	SDc24	E14	3層	横目タタキ	希目正瓦	N4/ 灰	N4/ 灰	中・少	中・少	12.5	8.1	2.0	破片
529	SDc24	E14	2層	横目タタキ	希目正瓦	N4/ 灰	N4/ 灰	中・多	中・多	9.2	7.4	2.0	破片
530	SDc24	E14	1層	横目タタキ	希目正瓦	N4/ 灰	N4/ 灰	中・少	中・少	7.2	6.7	2.5	破片
531	SDc24	E14	3層	横目タタキ	希目正瓦	5X61/ 灰	5X61/ 灰	中・少	中・少	7.5	7.5	2.4	破片
532	SDc24	E14	2層	平瓦	希目正瓦	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	中・多	中・多	7.8	6.5	2.2	破片
533	SDc24	E14	3層	横目タタキ	希目正瓦	N5/ 灰	N5/ 灰	中・少	中・少	6.8	5.8	1.7	破片

第10表 西末則遺跡Y出土瓦観察表(2)

第1分冊

順文番号	編年通稱名	地区名	層位	器種	調整		色調		輸土			法量 (cm) (残存長)	厚之	残存率	備考	
					凸面	凹面	凸面	凹面	白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒					全長 (残存長)
534	SDx24	E14	2層	平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N5/灰	N5/灰	中・少	中・少	5.8	71	22	破片	
535	SDx24	E14	2層	平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N6/灰	N6/灰	中・少	中・少	7.4	62	21	破片	
536	SDx24	E15	4層	丸瓦	横ナテ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	25YR8.2灰白	10YR8.2灰白	中・少	中・少	10.0	66	2.8	2/8	
570	SDx26a	E14	2層	丸瓦	赤目正瓦、 横ナテ	凸面 赤目正瓦	凹面 横ナテ	N4/灰	N4/灰	中・少	中・少	19.3	125	1.9	6/8	
571	SDx26b	E14	1層	平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N5/灰	N5/灰	中・少	中・少	10.0	78	2.0	破片	
665	SDx43	F12	上層	平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N6/灰	5Y6.1灰	中・少	中・少	9.6	62	1.7	破片	
699	SDx45	F12		平瓦	横ナテ	凸面 赤目正瓦	凹面 横ナテ	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白	中・多	中・多	7.9	83	1.9	破片	
700	SDx45	F12	上層	平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	10YR5.4に赤い筋線	7.5YR6.6橙	中・少	中・少	3.7	5.3	1.9	破片	
885	13E_SF188	E13		丸瓦	ナテ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N7/灰白	N7/灰白	中・少	中・少	5.3	4.4	1.4	破片	
904	13F_SF256	F12		平瓦	横ナテ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N7/灰白	N4/灰	中・少	中・少	10.0	6.8	1.9	破片	
1051	包含層	F12		灰色粘質土	横ナテ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N6/灰	5Y6.1灰	中・少	中・少	(3.7)	(4.6)	1.1	破片	
1052	包含層	F12		平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N7/灰白	N7/灰白	中・少	中・少	(3.2)	(3.7)	3.5	破片	
1053	包含層	F12		平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	5YR6.8橙	10YR7.8黄橙	中・少	中・少	(5.2)	(5.0)	2.3	破片	
1054	包含層	F12		平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N7/灰白	N5/灰	中・少	中・少	(8.3)	(7.5)	1.9	破片	
1055	包含層	F12		平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	2.5Y7.2灰黄	2.5Y7.2灰黄	中・少	中・少	(7.1)	(6.9)	2.9	破片	
1249	SDx23	E10	上・下層	軒平瓦	赤目正瓦、 凸面的に横ナテ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N6/灰	N6/灰	中・少	中・少	13.2	124	4.1	破片	
1275	SDx24	E10		軒平瓦	マメツ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N3.6暗灰	N3.6暗灰	中・多	中・多	3.8	3.6	4.6	破片	
1318	包含層	E10		平瓦	ナテ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N6/灰	N6/灰	中・少	中・少	6.7	3.1	1.6	破片	
1622	SX612	F6・F6		平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N6/灰	N6/灰	中・少	中・少	—	—	—	破片	
1729	包含層	F7		平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N7/灰白	N7/灰白	中・少	中・少	6.5	4.5	2.5	破片	
1730	包含層	F7	1層	平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N7/灰白	N7/灰白	中・少	中・少	8.8	5.5	2.3	破片	
1760	包含層	E6		平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	N7/灰白	N7/灰白	中・少	中・少	8.7	8.8	2.6	破片	
1765	包含層	E5		平瓦	横目タタキ	凸面 赤目正瓦	凹面 赤目正瓦	7.5YR6.6橙	7.5YR6.6橙	中・多	中・多	6.2	6.8	2.7	破片	





B16 調査区 調査状況 (西南から)



B17 調査区 東壁断面



SDb01 遺物 (1) 出土状況 (南から)



SDb01 遺物 (2) 出土状況 (南から)



SHb01 調査状況 (南から)



SHb01 かまど断面 (南から)



SHb01 断面 (北から)



SDb02 遺物出土状況 (東から)

図版 2 西末則遺跡V



SHb02 調査状況 (西から)



SHb03 断面 (北から)



SBb01・SBd15 調査状況 (東から)



SBb02 調査状況 (西北から)



SBb01\_SP06、SBd15\_SP 切り合い関係 (南から)



SBd02\_SP11 断面 (西から)



SBb02\_SP01 遺物出土状況 (西から)



SBb04 検出状況 (南から)



SBb05・SBb02 調査状況 (南から)



SBb06 検出状況 (南から)



SXb02 検出状況 (南から)



SXb02 調査状況 (北から)



SDb11 調査状況 (西から)



SDb25等 調査状況 (東から)



SDb30等 調査状況 (東から)



SDb32等 断面 (西から)

図版 4 西末則遺跡V



C13区南半部全景(1) (南から)



C13区南半部全景(2) (南から)



C13区南端部全景(1) (南から)



C13区南端部全景(2) (東から)



C13区 SFe00 全景 (南西から)



C13区 SFe01,02 全景 (南から)



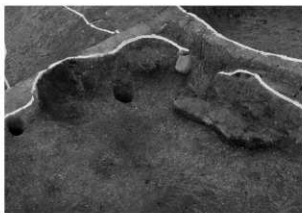
C13区 SFe01 遺物出土状況 (南から)



C13区 SFe01 土層断面(1) (北から)



C13区 SFe01 土層断面(2) (北西から)



C13区 SFe02 窯壁詳細 (南西から)



C13区 SFe02 土層断面 (北から)



C13区 SDe01・02 全景 (北から)



C13区 SDe01 北端部土層断面 (南から)



D12・15区調査区全景 (北から)



D12区南半部全景 (東から)



D15区 SDe13 土層断面 (南から)

図版 6 西末則遺跡V



E14・15区調査区全景（北から）



E14区調査区全景（東から）



E15区 SFe03全景（西から）



E15区 SFe04・05全景（東から）



E15区 SFe04土層断面（北から）



E15区 SFe05全景（東から）



E15区 SFe05煙道部詳細（東から）



E14区 SDe19～23全景 (北東から)



E14区 SDe19・20全景 (南東から)



E14・15区 SDe24・SFe03～05全景 (北から)



E14・15区 SDe24全景 (南から)



E14・15区 SDe24土層断面 (南から)



E14区 SDe25全景 (西から)



E14区 SDe26a全景 (東から)

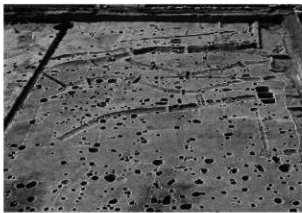


E14区 SDe26a土層断面 (西から)

図版 8 西末則遺跡V



E13区調査区全景 (東から)



E13区西半部全景 (東から)



E13区東半部全景 (東から)



E13区東半部全景 (南から)



F12区調査区全景 (1) (東から)





F12区調査区全景(2) (東から)



F12区西半部全景(1) (東から)



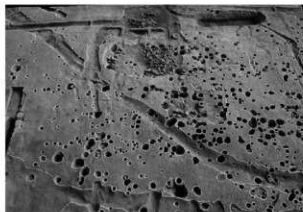
F12区西半部全景(2) (東から)



F12区東半部全景(1) (東から)



F12区東半部全景(2) (東から)



F12区中央部全景（北から）



F12区 SBe06 全景（北から）



F12区 SBe06\_SP19（東から）



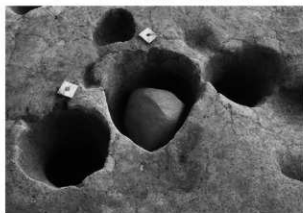
F12区 12FSP71 遺物出土状況（南西から）



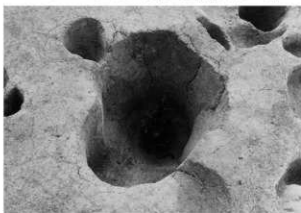
F12区 12ESP170 遺物出土状況（南から）



F12区 12FSP392 遺物出土状況（東から）



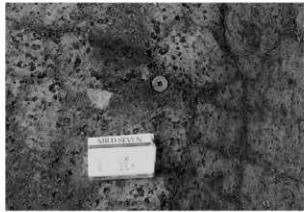
F12区 12FSP557 全景（北から）



F12区 12FSP687 柱材（南から）



F12区 12FSP704 根石 (西から)



F12区 12FSP768 上面銭出土状況 (北から)



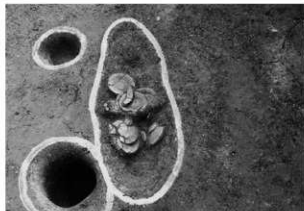
E13区 SKe03 全景 (西から)



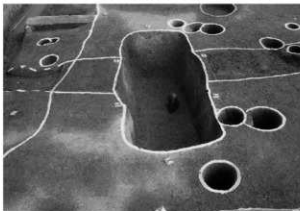
E13区 SKe03 焼土検出土状況 (西から)



E13区 SKe04 遺物出土状況 (東から)



E13区 SKe06 遺物出土状況 (北から)



E13区 STe01 全景 (西から)



F12区 SFe06・07 検出土状況 (東から)



F12区 SFe06・07 全景 (東から)



F12区 SFe06 検出状況 (東から)



F12区 SFe06 遺物出土状況 (北から)



F12区 SFe06 全景 (東から)



F12区 SFe07 全景 (東から)



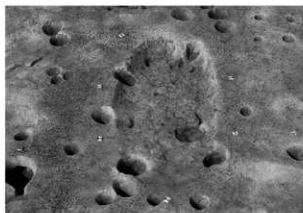
F12区 SFe07 土層断面 (1) (北から)



F12区 SFe07 土層断面 (2) (北から)



F12区 SFe07 土層断面 (3) (北から)



F12区 SFe07 完掘状況 (東から)



E13・F12区 SDe26b・51 全景 (南から)



E14区 SDe26a 土層断面 (西から)



E13区 SDe26b 土層断面 (北から)



E13区 SDe26b 北端土層断面 (南から)



F12区 SDe45～47 周辺全景 (北から)



F12区 SDe45 土層断面 (西から)



F12区 SDe07 土層断面 (西から)

図版 14 西末則遺跡V



F12区 SRe01 土層断面(1) (北西から)



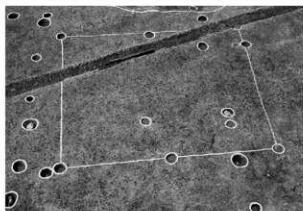
F12区 SRe01 土層断面(2) (北から)



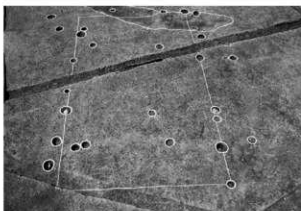
C9区北半部全景 (南から)



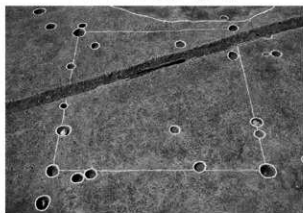
C9区南半部全景 (北から)



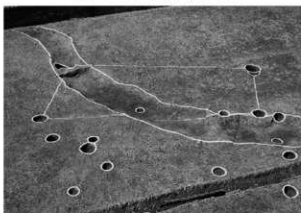
C9区 SBo01 全景 (南から)



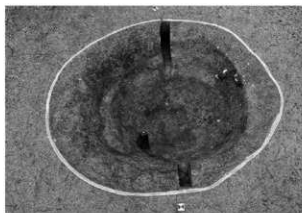
C9区 SBo02 全景 (南から)



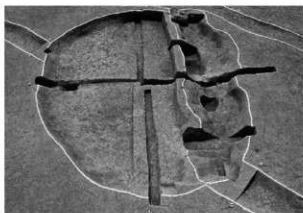
C9区 SBo03 全景 (南から)



C9区 SBo04 全景 (南から)



C9区 SKo01 全景 (南から)



C9区 SKo03 全景 (東から)



C9区 SDo00 全景 (南東から)



C9区 SDo01・02 全景 (南東から)



C9区 SDo02～04 全景 (北西から)



C9区 SDo12 遺物出土状況 (北から)



C9区 SXo02 全景 (南から)



C9区 SRo01 全景 (北東から)



E10区調査区全景（南から）



E10区 SB010・11 全景（南から）



E10区 SB010・11 全景（北から）



E10区 SDo14・23・24 等全景（南から）



E10区 SDo23 全景（南から）





E10 区 SDo24 全景 (東から)



E10 区 SDo24 土層断面 (西から)



E10 区 SDo25 全景 (南から)



E9e 区調査区全景 (1) (南から)



E9e 区調査区全景 (2) (東から)



E9e 区 SKo06 遺物出土状況 (北から)



E9e 区 SKo06 全景 (北から)



E9e 区 SDo29 土層断面 (1) (南東から)



E9e 区 SDo29 土層断面 (2) (南東から)



E9e 区 SRo03 土層断面 (北東から)



E9w 区調査区全景 (南から)



E9w 区 SBo13 全景 (南から)



E9w 区 SEo01 全景 (南から)



E9w 区 SEo01 断面 (東から)



E9w 区 SDo30 ~ 32 全景 (西から)



F7区調査区全景（南から）



F7区SB015周辺（東から）



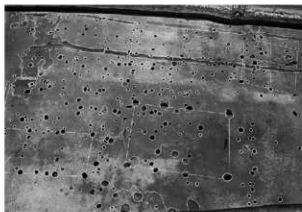
F7区SR005土層断面（北から）



F6区第1面調査区全景（西から）



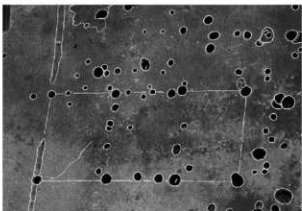
F6区第1面調査区東部全景(1) (北から)



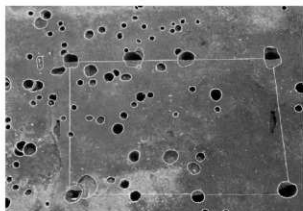
F6区第1面調査区東部全景(2) (北から)



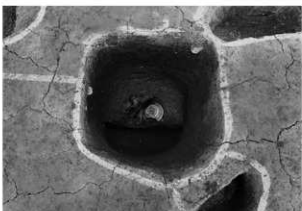
F6区第1面調査区西部全景 (北から)



F6区 SB020 全景 (北から)



F6区 SB022 全景 (北から)



F6区 SB022\_SP05 遺物出土状況 (南から)



F6区 SK016 遺物出土状況 (南から)



F6区 SK016 全景 (南から)



F6区 SP682 遺物出土状況 (南から)



F6区 SP492 遺物出土状況 (東から)



F6区 SKo19 遺物出土状況 (西から)



F6区 SXo13 遺物出土状況 (北から)

図版 22 西末則遺跡 V





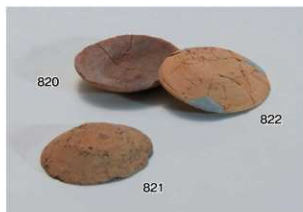
図版 24 西末則遺跡V











図版 28 西末則遺跡 V



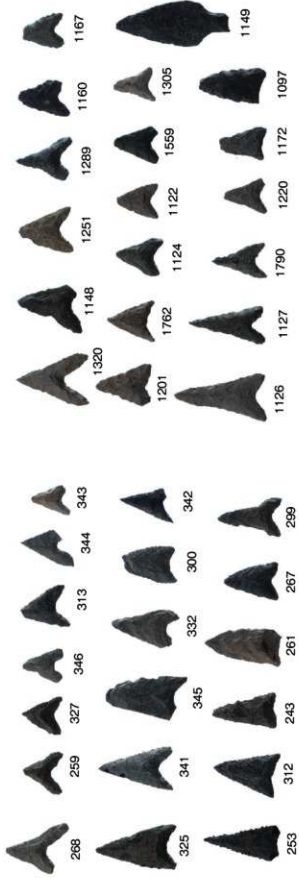
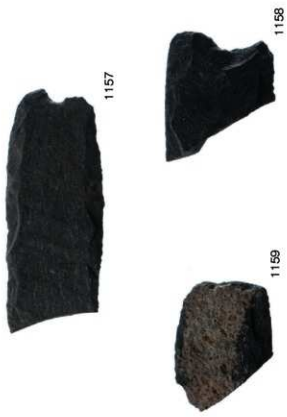
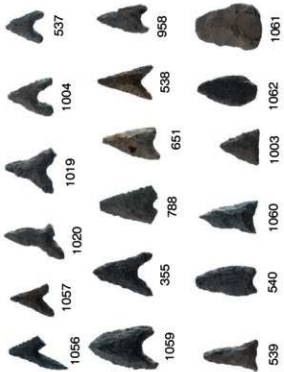














436



437



438



452(表)



452(裏)



451



605



652



959



1215



1231



1563



1589



1590



1591



1592



1593



1594



1595



1596



1597



1600



1601



1602



1629

# 報告書抄録

ふりがな	にしすえのりいせきV だい1ぶんさつ							
書名	西末則遺跡V 第1分冊							
副書名	香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	第5冊							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	西村尋文(編)・木下晴一							
編集機関	香川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249							
発行機関名	香川県教育委員会							
発行年月日	西暦2015年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'"	東経 °'"	発掘期間	発掘面積 (㎡)	調査原因
にしすえのりいせき 西末則遺跡	かがわけんまぎやうたふんあやせりやう 香川県綾歌郡綾川町 きた・やまごしも 北・山田下	37381	遺跡 番号	34° 13' 35"	133° 56' 15"	2002040 ～ 20030331	11,186	香川県農業試験場 移転
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西末則遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古代 中世 近世	掘立柱建物・土坑・ 溝・炭焼窯・自然河 川	縄文土器・弥生土器・土師器・ 須恵器・瓦器・陶磁器・石器				
要 約	西末則遺跡は末則丘陵の西斜面から綾川にかけて広がる段丘面上に展開する、縄文時代から近世に至る集落跡である。調査範囲は広く、今回報告する調査成果の中で注目できるのは、弥生時代後期、古代～中世にいたる当地の灌漑水路網の変遷がたどれる溝群を確認した点である。また、この遺跡では古墳時代後期末・古代・中世～近世にいたる集落跡を数地点で確認することができた点にある。主に古墳時代末～古代の集落、中世後半～近世前半の複数の屋敷地の変遷がたどれ、集落の全容が明らかとなった点が重要な成果である。							

香川県農業試験場移転事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告  
第5冊  
西末則遺跡Ⅴ  
第1分冊

2015年3月20日

編集 香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

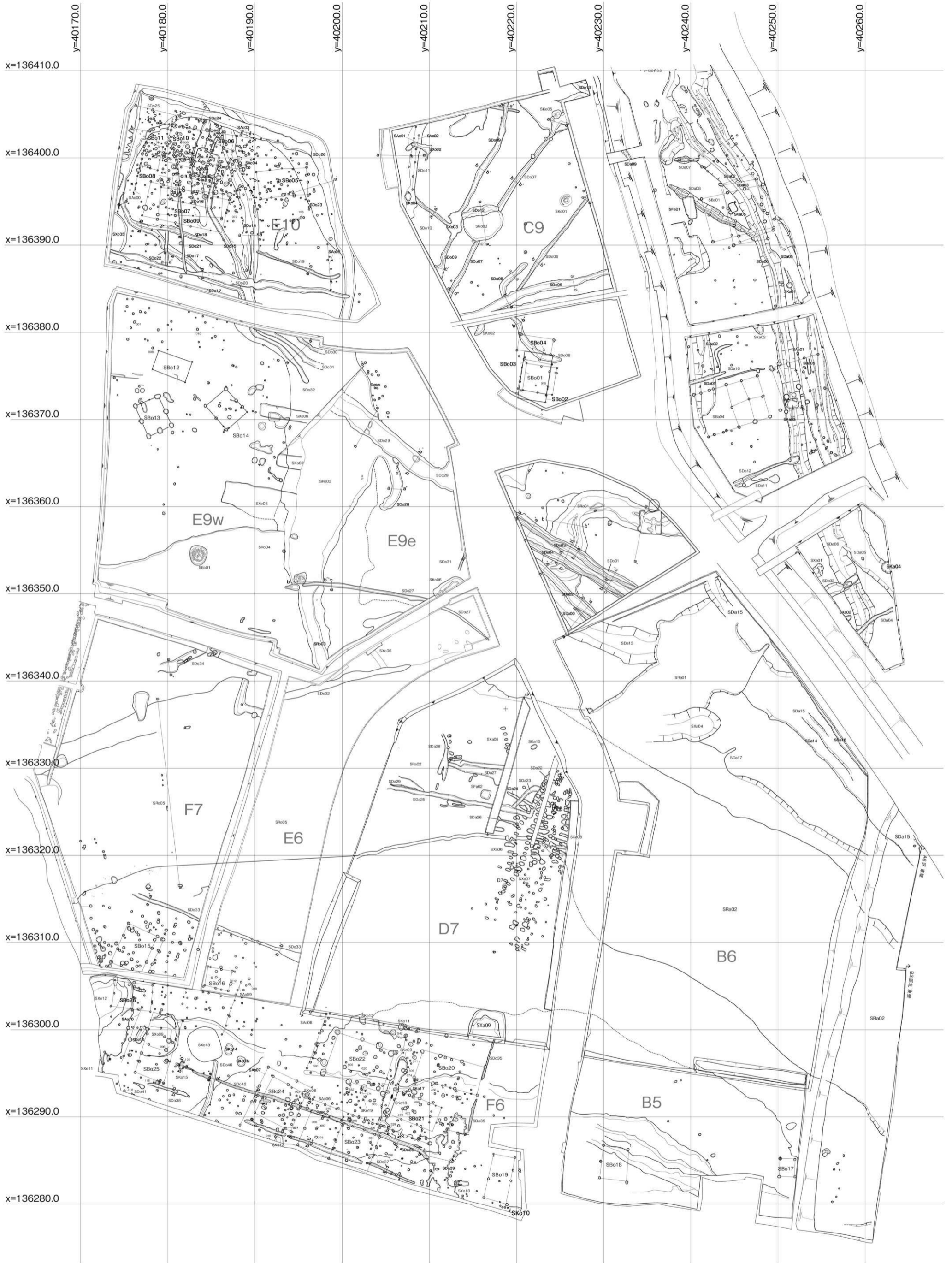
Tel 0877-48-2192 Fax 0877-48-3249

発行 香川県教育委員会

印刷 株式会社 中央印刷所



付図1 西末則遺跡V遺構配置図



付図2 西末則遺跡V遺構配置図

0 10m  
(1/200)